

# 高坂分署庁舎新築工事（建築）

## 設計図

令和6年12月



株式会社 第一建築設計事務所

図番	図面名称	図番	図面名称	図番	図面名称	図番	図面名称
	■意匠図						■構造図
D-00	図面リスト	D-36	家具図(5)			SG-01	特記仕様書(構造関係・その1)
D-01	工事区分リスト	D-37	キッチンまわり家具図			SG-02	特記仕様書(構造関係・その2)
D-02	特記仕様書(その1)	D-38	サインキープラン			SG-03	構造関係共通図(配筋標準図・その1)
D-03	特記仕様書(その2)	D-39	サイン図			SG-04	構造関係共通図(配筋標準図・その2)
D-04	特記仕様書(その3)	D-40	部分詳細図(1)			SG-05	構造関係共通図(配筋標準図・その3)
D-05	特記仕様書(その4)	D-41	部分詳細図(2)			SG-06	構造関係共通図(配筋標準図・その4)
D-06	特記仕様書(その5)	D-42	法チェック表			SG-07	ポーリング柱状図
D-07	特記仕様書(その6)	D-43	外構平面図			S-01	基礎・1階 伏図
D-08	案内図、敷地求積図	D-44	緑地求積図			S-02	2階・R階 伏図
D-09	配置図	D-45	ごみ集積所			S-03	軸組図(1)
D-10	面積表	D-46	自転車駐車場			S-04	軸組図(2)
D-11	仕上表	D-47	少量危険物倉庫			S-05	基礎梁リスト
D-12	平面図	D-48	水防倉庫			S-06	柱・大梁リスト
D-13	立面図、断面図	D-49	ホースリフター組立図・詳細図			S-07	壁・小梁リスト
D-14	矩計図	D-50	ホースリフター鉄骨穴あけ図			S-08	スラブリスト・階段配筋図
D-15	階段詳細図	D-51	雨水流出抑制施設図			S-09	架構配筋詳細図
D-16	平面詳細図1階	D-52	整地地盤レベル図			S-10	ホースリフター・発電機 基礎 配筋図
D-17	平面詳細図2階	D-53	外構 部分詳細図(1)				
D-18	1階展開図(1)	D-54	外構 部分詳細図(2)				
D-19	1階展開図(2)	D-55	外構 部分詳細図(3)				
D-20	1階展開図(3)	D-56	浄化槽基礎				
D-21	1階展開図(4)	D-57	総合プロット図1階				
D-22	2階展開図(1)	D-58	総合プロット図2階				
D-23	2階展開図(2)	D-59	仮設計画図(参考)				
D-24	天井伏図	D-60	山留計画図(参考)				
D-25	断熱伏図	D-61	車両軌跡図(参考)				
D-26	建具キープラン						
D-27	建具表(1)						
D-28	建具表(2)						
D-29	大型電動折戸詳細図						
D-30	オーバースライダー詳細図						
D-31	家具キープラン						
D-32	家具図(1)						
D-33	家具図(2)						
D-34	家具図(3)						
D-35	家具図(4)						

工事区分リスト																									
項目		建築	電気	機械	備考	項目		建築	電気	機械	備考	項目		建築	電気	機械	備考	項目		建築	電気	機械	備考		
躯体関係					仕上げ関係					屋外排水設備・外構					電気配線配管										
1、RC造(梁・壁・床)の貫通孔・開口部	貫通スリーブ材及び取付け	○	○	○		1、軽鉄天井・壁下地	補強を要するボードの切り込み及び下地の補強	○				1、雨水	屋外雨水排水設備			○				機器付属の制御盤以降の配管配線(接地線共)	○			2次側	
	補強を要する型枠材及び取付け	○					補強を要しないボードの切り込み		○	○				屋外雨水排水設備 U字側溝	○						機器付属の制御盤への電源供給配管配線	○			1次側
	補強を要しない型枠材及び取付け	○	○	○			開口部の墨出し			○	○				樹及び樹蓋			○			自動制御と動力盤との電源供給の渡り配管	○			
	貫通孔・開口部の墨出し	○	○	○		2、既製間仕切り	切り込み及び補強	○					雨水再利用設備							機器と付属操作スイッチの渡り配管配線		○		図面参照のこと	
	貫通孔・開口部の補強	○					位置ボックス	○						雨水貯留槽施設	○					煙感知器から連動制御盤を経て防煙ダンパに至る配管配線					
	スリーブ・型枠の穴埋め	○	○	○																小便器用節水装置の制御盤以降の配管配線					
2、S・SRC造・梁貫通口	S・SRC造貫通鋼管スリーブ・補強					3、吊りボルト及びインサート	設備機器・器具・配管・配線・ダクト用		○	○		2、雑排水・汚水	屋外雑排水及び屋外汚水排水設備			○				注油口内アース端子よりのアース用配管配線					
	使用されたスリーブの穴埋め						4、外壁廻り	外壁ガラリ			○				樹及び樹蓋			○			遠方操作制御用配管配線				
	予備スリーブの穴埋め							ウェザーカバー・ベンドキャップ					○			化粧マンホール上蓋の表面仕上げ	○								
3、設備機器の基礎	建築設計図に記入のあるもの	○				5、キッチン廻り	換気扇			○		3、植栽	植栽及び客土	○											
	室内の基礎(建築設計図に記入のないもの)	○	○				上記機器まわりシーリング	○																	
	室外・屋上の基礎	○					流し台・吊戸棚・水切り棚・コンロ台	○						4、ユニット形浄化槽の躯体	ビット形の躯体及び砂充てん	○									
	屋上の基礎で押さえコンにアンカーしない軽微なもの(配管架台類)		○	○		フード(標準詳細図のもの)	○						上記以外のユニット形浄化槽本体配管及び振付等				○								
	機器取付け用アンカー・架台		○	○	建築設計図にあるものは建築								ビット形以外				○								
	屋外機の据付架台		○	○		6、浴室廻り	ユニットバス・シャワーユニット	○				5、その他	外構附属建築物	○											
給湯設備の転倒防止措置			○	国交省告示第1447号	既製浴室(蓋を含む)		○						駐輪場	○											
					浴室及び便所の床排水金物					○				ホース塔	○										
4、昇降機関連	昇降路・機械室の躯体					7、便所廻り	家具組み込みの洗面器			○	切り込みは建築														
	機械室の床開口						洗面カウンター	○				洗面器は機械													
	機械室の床配管ビット・蓋						鏡(規格寸法のみ)				○	図示による													
	機械室の上げ床コンクリート打設・仕上					大型鏡(規格寸法外)	○																		
	巻上機周囲のチェッカープレート敷					ユニット形衛生器具				○															
	昇降路内ビット防水・集水溝・点検用タラップ					身障用手すり	○					下地共													
	各階出入口穴あけ・同補強					8、事務室廻り	ファンコイルカバー	○																	
	出入口扉・三方枠						9、フリーアクセスフロア	コンセント			○														
	三方枠取付け・枠廻り埋戻し・同補強					10、その他		床パネルの切り込み加工	○																
	昇降機がRC造の時、軌条・中間ビーム・ブラケット他昇降路内の鉄製部材一式						2重ビット及びトレンチのマンホール蓋	○																	
	機械室天井フック取付け						機器搬入用フック・ビーム	○																	
	ホール押船・インジケータ・鋼索などの壁開口						チェンブロック				○	○													
	機械室換気設備						化粧マンホール上蓋の表面仕上げ	○																	
	昇降路がS造の時中層ビームブラケット受ピース						点検口(天井・床下)	○																	
EV機械室からインターホンまでの配線工事					排煙口等の天井仕上材の取付け	○																			
EV機械室からインターホンまでの配管工事					自動閉鎖装置を取付ける防火戸の切り込み補強及びドアチェック、フロアヒンジ	○																			
5、その他	トラフ・ビット類(蓋を含む)	○				消火器BOX設置工事	○																		
	湧水・汚水ビット・RC造各種水槽	○				消火器				○															
	同上用防水・マンホール・タラップ一式	○				自動扉・電動シャッターへの電源供給	○																		
	避雷設備・同接地工事		○			自動扉・電動シャッターから付属のスイッチセンサーへの配管工事	○																		
	ALC板の壁開口・補強					衛生器具廻りシーリング	○																		
	厨房排水溝					多機能トイレ	○																		
	厨房グリース阻集器					所管消防への設備設置届	○	○	○																
	オイルサービスタンの防油堤																								
地下タンク清掃撤去処分																									
地下オイルタンクの根伐埋戻し躯体解体処分																									





Table with 3 main sections: 6 接合具等, 7 接着剤, 8 防虫・防蟻・防虫処理. It details construction methods and materials for joints, adhesives, and pest control, including references to JAS and JIS standards.

Table with 3 main sections: 14 金属工, 15 左官工, 16 建具工. It covers metal work, plastering, and carpentry, detailing surface treatments, wall finishes, and door/window specifications.

Table with 3 main sections: 13 屋根及びとい工事, 17 壁及天井, 18 床. It details roof and waterproofing work, wall and ceiling treatments, and floor construction methods.

Table with 3 main sections: 9 ステンレス製建具, 10 木製建具, 11 建具用金物. It details stainless steel and wood joinery, and hardware specifications, including material grades and performance standards.

14 自閉式上吊り引戸装置
15 重量シャッター
16 軽量シャッター
17 オーバーヘッドドア
18 ガラス

17 カーテンウォール工事
18 塗装工事
取付け形態による分類
性能の確認方法及び判定方法
材料
ガラスの取付け材料

19 内装工事
20 床
21 天井
22 壁
23 窓
24 扉
25 照明
26 設備

27 タイルカーペット
28 フローリング張り
29 畳敷き
30 セッコウボード、その他のボード及び合板張り
31 木質系セメント板
32 木片セメント板
33 繊維強化セメント板
34 火山性ガラス質複層板
35 繊維板
36 テンパードボード (処理)
37 パーティクルボード

19 ガラスブロック積み
呼び寸法 (mm)
厚さ (mm)
色調
目地幅 (mm)
伸縮調整目地位置 (mm)
防火性能

18 ① 材料
18 ② 素地ごしらえ
屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
下地面等
木部
鉄鋼面 (DP以外)
鉄鋼面 (DPのみ)
亜鉛めっき鋼面
モルタル面及びせっこうブラスター面
コンクリート面 (DP以外) 及び ALCパネル面
押出成形セメント板面
コンクリート面 (DPのみ)
せっこうボード面及びその他ボード面

20 ① 床
20 ② 天井
20 ③ 壁
20 ④ 窓
20 ⑤ 扉
20 ⑥ 照明
20 ⑦ 設備

28 フローリング張り
29 畳敷き
30 セッコウボード、その他のボード及び合板張り
31 木質系セメント板
32 木片セメント板
33 繊維強化セメント板
34 火山性ガラス質複層板
35 繊維板
36 テンパードボード (処理)
37 パーティクルボード

13 壁紙張り
14 断熱材
20 ユニット及びその他工事
2 可動間仕切

3 移動間仕切
4 トイレブース
5 手すり
6 階段滑り止め
7 黒板及びホワイトボード
8 鏡
9 表示
10 タラップ
11 煙突ライニング
12 ブラインド
13 ロールスクリーン
14 カーテン
15 カーテンレール
16 ブラインドボックス

17 天井点検口
18 床点検口
19 耐震スリット
20 止水版
21 エキスパンション・ジョイント金物
22 くつきマット
23 流し台ユニット
24 取手
25 取手受金物
26 車止めさく
27 フェンス
28 ブレキャストコンクリート
29 間知石及びコンクリート間知ブロック
30 網製書架及び物品棚
31 屋内掲示板
32 洗面カウンター
33 防煙垂れ壁

34 屋外掲示板
35 収納家具
21 排水工事
2 鋼鉄製ふた
3 グレーチング
4 街きよ、緑石、側溝
5 舗装し
22 舗装工事



・路床安定処理  
安定処理の方法 ・安定処理工法 ・置き換え工法  
添加材料による安定処理  
種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種  
・フライアッシュセメントB種  
・生石灰（・特号 ・1号） ・消石灰（・特号 ・1号）  
添加量 kg/m<sup>3</sup>（目標OBR ・3以上）

・不織布（ジオテキスタイル）  
単位面積質量 ・60g/m<sup>2</sup>以上  
厚さ(mm) ・0.5~1.0  
引張強さ ・98N/5cm(10kgf/5cm)以上  
透水係数 ・1.5×10<sup>-1</sup>cm/sec以上

試験  
砂の粒度試験 ・行う ・行わない  
路床土の支持力比（CBR）試験 ・行う（箇所） ・行わない  
現場CBR試験 ・行う（3箇所） ・行わない  
安定処理土のCBR試験 ・行う ・行わない  
路床締固めの試験 ・行う（箇所） ・行わない  
六価クロム溶出試験 ・行う ・行わない

路盤及び厚さ ・図示 (22.3.2、3) (表22.3.1)  
路盤材料（標準仕様書表22.3.11による種類）  
種類  
砕石 ・クラッシュヤラン  
・粒度調整砕石  
再生材 ・再生クラッシュヤラン  
・再生粒度調整砕石  
・クラッシュヤラン鉄鋼スラグ  
・粒度調整鉄鋼スラグ  
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ

③ アスファルト舗装  
アスファルト舗装の構成及び厚さ ※図示 (22.4.2~4、6) (表22.4.1、4)  
材料及び種類  
アスファルト ●再生アスファルト  
再生仕様書表22.4.11による種類： ・60~80 ・80~100  
・ストレートアスファルト  
骨材  
・道路用砕石  
・アスファルトコンクリート再生骨材

加熱アスファルト混合物等の種類  
・高密度アスファルト混合物（13）  
・細粒度アスファルト混合物（13F）  
・密粒度アスファルト混合物（13F）

試験  
アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない  
舗装の平坦性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度

④ コンクリート舗装  
構成及び厚さ (22.5.2~4) (表22.5.1~3)  
舗装の種類 部位 構成 厚さ(mm)  
コンクリート舗装 ・車路、駐車場 ※図示 ・図示  
・歩行者用通路 ※図示 ※70  
・外構 ※図示 ※図示

材料  
コンクリート  
※普通コンクリート 標準仕様書表22.5.1による  
・以下による  
コンクリートの種類  
設計基準強度(N/mm<sup>2</sup>)  
所定のスランプ(cm) ※8  
粗骨材の最大寸法(mm)  
早強ポルトランドセメント ・使用する ・使用しない  
注入目地材料 ※低弾性タイプ ・高弾性タイプ

目地  
種類 ※標準仕様書表22.5.3による  
間隔 ※標準仕様書表22.5.3による m程度ごと  
構造 ※標準仕様書表22.5.1による 図示

舗装の平坦性  
※通行の支障となる水たまりを生じない程度

5 カラー舗装  
・加熱系カラー舗装 (22.6.2~4)  
構成及び厚さ ※図示  
加熱系混合物の結合材  
・アスファルト混合物  
・石油樹脂系混合物 顔料の添加量(%)

添加材  
着色骨材 ( )  
自然石 ( )  
・常温系カラー舗装  
工法 ・ノート工法（配合その他）  
・塗布工法（配合その他）  
着色部の下部 アスファルト舗装 ・コンクリート舗装  
舗装の平坦性  
※通行の支障となる水たまりを生じない程度

⑥ 透水性舗装  
●透水性アスファルト舗装 (22.7.2、3、6)  
舗装の構成及び厚さ ※図示  
材料  
骨材 ・道路用砕石  
・アスファルトコンクリート再生骨材  
（標準仕様書表22.4.11による種類： ・60~80 ・80~100）  
舗装の平坦性 ※著しい不陸がないもの  
試験  
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない  
透水性コンクリート舗装 (22.5.2~4、6)  
コンクリート舗装に対する基準値

項目	基準値
最大粒径(mm)	13
空隙率(%)	20以上
透水係数(cm/s)	1×10 <sup>-2</sup> 以上
目地の間隔	版厚の20倍程度

出典：構内舗装・排水設計基準の資料(H27)、舗装施工便覧(H18)

構成、厚さはコンクリート舗装による  
・不織布（ジオテキスタイル）  
敷設位置 ※フィルター層と路床の間の敷設 図示

透水性コンクリート平板舗装 (22.8.2、3)  
透水性コンクリート平板舗装は、ブロック系舗装による

透水性インターロッキングブロック舗装 (22.8.2、3)  
透水性インターロッキングブロック舗装は、ブロック系舗装による

7 半たわみ性舗装

区分	種類	厚さ(mm)
表層	半たわみ性舗装用アスファルト混合物I型(13)	40
基層	再生粗粒度アスファルト混合物(20)	40

試験  
半たわみ性舗装用アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない

材料  
浸透用セメントミルクの標準的な性状

項目	性状	試験方法
フロー値(フロー)砂	10~14	舗装調査・試験法便覧(C041)
圧縮強度(7日養生) MPa	9.8~29.4	JIS K 5701
曲げ強度(7日養生) MPa	2.0以上	舗装調査・試験法便覧(C042)

配合  
半たわみ性舗装用アスファルト混合物の標準配合

ふるいの呼び名	ふるい通過量百分率(%)
19.0 mm	100
13.2 mm	95~100
4.75 mm	10~35
2.36 mm	5~22
600 μm	4~15
300 μm	3~12
75 μm	1~6
アスファルト量(%)	3~4.5

半たわみ性舗装用アスファルト混合物のマーシャル安定度試験に対する基準値

項目	基準値
密度(g/cm <sup>3</sup> )	1.9以上
安定度(kN)	2.94以上
フロー値(1/100cm)	20~40
空隙率(%)	20~28
突固め回数(回)	50

施工  
半たわみ性舗装用アスファルト混合物等の施工は、標準仕様書22.4.5による。  
浸透用セメントミルクの施工は、(1)から(5)による。  
(1) 浸透用セメントミルクの製造は、一般に移動式ミキサによって行うが、工事規模が大き場合には専用の移動式や固定式の混合プラントを用いることもある。  
(2) 浸透用セメントミルクの施工は、一般に舗装体表面の温度が50℃程度以下になつてから行う。その場合、舗装体にこみ、泥、水などが残っていないことを確認する。浸透作業は、一般に振動ローラ等により行う。  
(3) セメントミルクが舗装表面に染まっていると、路面のすべり抵抗値を低下させることがあるので、舗装表面の骨材の凹凸が現れる程度にセメントミルクをゴムレキ等で除去する。特にすべり止め対策を必要とするところは、粒砂の使用及び余剰セメントミルクのよりいっその除去等、材料及び施工法等で対処するか、場合によっては施工後ショットブラスト等で表面を粗くすることが必要である。  
(4) 交通開放までの一般的な養生期間は、下表に示すとおりである。

セメントミルクの種類	養生期間
普通タイプ	約3日
早強タイプ	約1日
超速硬タイプ	約3時間

(5) 浸透用セメントミルクを注入する前に交通開放すると、骨材の剥奪や飛散、またはこみ、泥等による汚れが生じることがあるので、基本的には注入前に交通開放を行わないようにする。

締固め度 標準仕様書22.4.2(2)による  
舗装厚さの許容差 ※標準仕様書 22.4.2(3)による  
舗装の平坦性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度

弾性舗装（歩行者用通路）の構成及び厚さ ※図示

区分	種類	厚さ(mm)
表層	弾性舗装材	15~20
基層	再生密粒度アスファルト混合物(13)	30

加熱アスファルト混合物は、アスファルト舗装による

・コンクリート平板舗装 (22.8.2、3)  
※図示

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考
※普通平板(N) ・透水性平板(P) ・保水性平板(M)	※300角	※60	※砂 ・モルタル	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し

敷砂層  
・砂  
・空練りモルタル

クッション材 ※砂 ・空練りモルタル  
普通平板は(再生材料を用いた舗装用ブロック)、透水性平板は(透水性コンクリート)とする。  
仕上り面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする。

・インターロッキングブロック舗装 (22.8.2、3)  
※図示

種類	部位	形状寸法	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm <sup>2</sup> )	横断面勾配	目地材	備考
※普通ブロック(N) ・透水性ブロック(P) ・保水性ブロック(M)	車路、駐車場	・図示	80	※5.0	2%	・砂 ・標準品	・標準品
※普通ブロック(N) ・透水性ブロック(P) ・保水性ブロック(M)	歩行者用通路	・図示	60	※3.0	1.5~2%		

クッション材 ※砂 ・空練りモルタル  
歩行者用通路に使用する普通ブロックは(再生材料を用いた舗装用ブロック)、透水性ブロックは(透水性コンクリート)とする。  
仕上り面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm以内とする。

区分	部位	厚さ(mm)	種類
敷砂層	・車路、駐車場	20	砂
	・歩行者用通路	30	
フィルター層		100	川砂、海砂又は良質な山砂 (75μmふるい通過量6%以下)

・不織布（ジオテキスタイル）  
敷設位置 ※図示  
敷砂層と路盤の間に敷設 ・フィルター層と路床の間に敷設  
単位面積質量 ・60g/m<sup>2</sup>以上  
厚さ(mm) ・0.5~1.0  
引張強さ ・98N/5cm(10kgf/5cm)以上  
透水係数 ・1.5×10<sup>-1</sup>cm/sec以上  
舗装の割付(車路、駐車場)  
・ヘリンボンボンド(45°) ・ヘリンボンボンド(90°)  
仕上り面の平坦性 ※走行、歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm以内とする。

・鋪石舗装

種類	形状・寸法(mm)	厚さ(mm)	張り方	基層	基層の厚さ(mm)
・花こう岩 ・御影石	・割石 ・図示	●40	・うるこ張り	・コンクリート版 ・7A7B混合物	※70 ※70

クッション材 ※砂 ・空練りモルタル  
仕上り面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、鋪石間の段差は3mm以内とする。

⑩ 砂利敷き  
⑪ 路面標示用塗料

⑬ 植栽及び屋上緑化工事

1 植栽地の確認等  
2 植栽基盤の整備  
3 植込み用土  
4 土壌改良材  
5 樹木  
6 支柱  
7 幹巻き用材料  
8 芝  
9 吹付けは種  
10 地被類  
11 新植、移植樹木、芝等の枯損償  
12 屋上緑化

種別  
・A種(施工範囲：・図示 ・通路 ) (22.9.2) (表22.9.1)  
・B種(施工範囲：○図示 ○建物周囲地 )

路面標示用塗料は、JIS K 5665 による。  
路面標示用塗料は、色 幅(mm) 塗布厚さ(mm)  
・1種 常温 液状 白 150 0  
・2種 加熱 黒 100 0  
※3種1号 溶融 粉体状

●低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

土壌の水素イオン濃度(pH)試験 ・行う ・行わない (23.1.3)  
電気伝導度(EC)の試験 ・行う ・行わない

植栽	工法	有効土層の厚さ(cm)	整備範囲	土壌改良材
●樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種	樹高12m以上 (※100・120・150) 樹高7m以上~12m未満 (※80・100) 樹高3m以上~7m未満 (※60・80) 樹高3m未満 (※50・60)	●葉張り部分 ・植栽帯部分 ・図示	・適用する ○適用しない
●芝、地被類	※B種	※20	・植栽部分 ・図示	・適用する ○適用しない

植栽基盤の排水設備 ・設ける(※図示) ・設けない (23.2.2)  
・現場発生土の良質土 ●客土 (23.2.3)

種類及び指定量等 (23.2.3)  
・バーク堆肥  
施工箇所 ※植栽範囲 ・図示  
使用量 植栽基盤面積1m<sup>2</sup>あたり(・50L)  
・汚泥発酵肥料(下水汚泥コンポスト) ●  
施工箇所 ※植栽範囲 ・図示  
使用量 植栽基盤面積1m<sup>2</sup>あたり(・10L)  
材料  
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、種曹試験の調査の結果、音が認められないものとする。

樹種、寸法、株立数等 ※図示 (23.3.2)  
支柱材 ※丸太(間伐材) ●真竹 (23.3.2、3)  
防腐処理方法 ※加圧式防腐処理丸太材  
形式 図示

材料 ※幹巻き用テープ ・わら及びこも (23.3.2)  
種類 ※コウライシバ ・ノシバ (23.4.2、3)  
芝張りの工法  
平地 ※目地張り ・べた張り  
法面 ・目地張り ※べた張り法面 (23.4.2)

種子の種類	発芽率	種子の量(g/m <sup>2</sup> )	備考
※洋芝類(採取後2年以内)	※発芽率80%以上		

樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数
●図示			

新植樹木(芝張り、吹付けは種及び地被類を含む)の枯損償の期間 (23.3.4、6) (23.4.7) (23.5.5)  
※移植の日から1年 ・無し  
移植樹木の枯損償を行う期間  
※移植の日から1年 ・無し

植栽基盤及び材料 (23.5.2~4)  
・屋上緑化システム  
土壌層の厚さ ・図示  
排水層 ・軽量骨材(層の厚さ) ・板状成型品  
植込み用土 ※改良土 ・人工軽量土  
樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立数等 ※図示  
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※図示  
支柱 ・設置する(形式・図示)  
かん水装置 ・設置する(種類)

工法  
「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」(平成12年5月31日 建設省告示第1458号)に基づく風圧力に対応した工法  
・図示による

※本工事に係る法令、条例及び規則等は遵守し必要がある申請、届出、手続等はすべて受注者がおこない、これに要する費用は受注者の負担とする。別発注の工事に含むものは除く。

以下の申請、届出、手続等は本工事に含むものとする  
・道路法第24条施工承認および完了検査  
・消防用設備(消火器・誘導標識)の設置前位置確認の協議  
・消防用設備等設置届出書(誘導標識)  
・少量危険物・指定可燃物貯蔵取扱届出書  
・確認完了検査

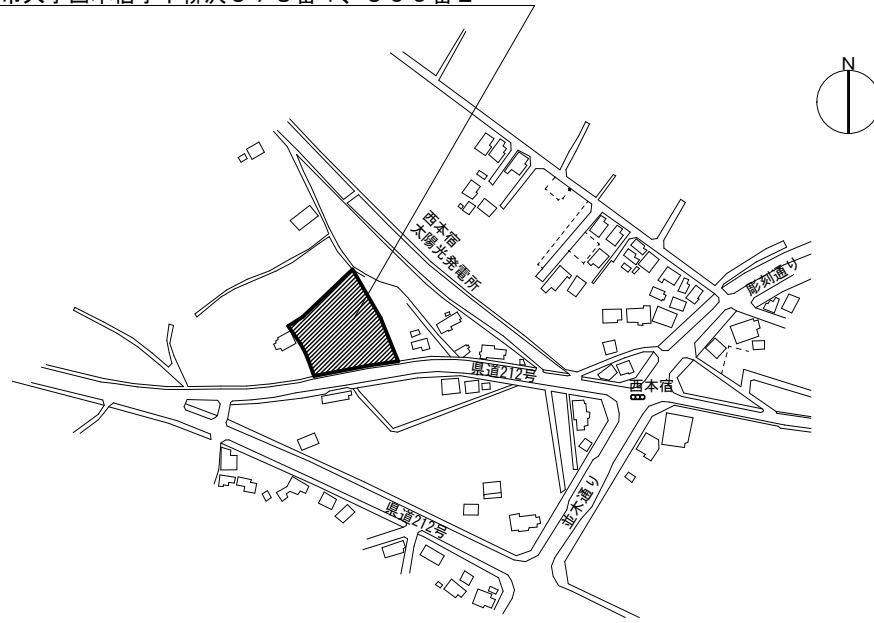
工事理由による変更が生じた場合の申請、届出、手続等については、すべて受注者がおこない、これに要する費用は受注者負担とする

参考品番リスト(参考品番同等品以上とする)  
アルミ製(木調)スバンドレル：RAP-100VMF(ラップ仕様)/理研経金属工業株式会社  
アルミ庇：AD-2T/7A7B  
大型電動折戸：シュモン/菊川工業  
太陽光パネル基礎：ソーラーベースVT/田島ルーフィング  
埋込消火器ボックス(白)：UFB-1F-2220-PWH/ユニオン  
消火器表示：ST-172/ユニオン  
ホースリフター：ホースリフター-FH118型/流通産業株式会社  
駐輪場屋根：9A7B-SSR 3000N/四国化成  
ごみ集積所：FS-2618S/イハ物産  
少量危険物倉庫：20MSL/三協ロジック  
水防倉庫：FB-5235H/イハ物産

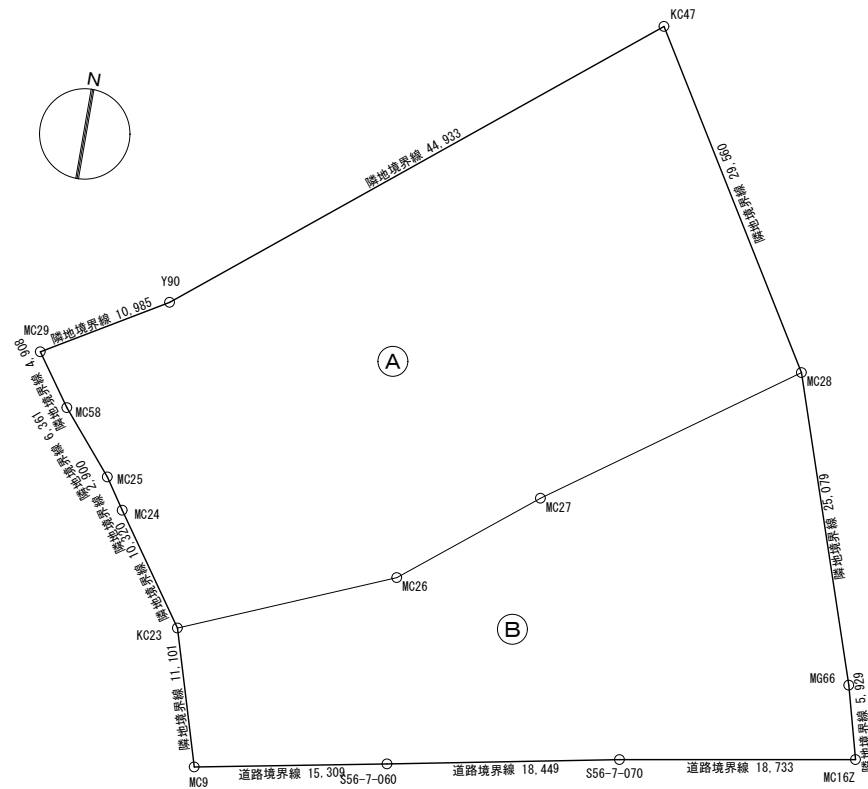
承認者 責任者 担当  
杉原 倉田

JOB CODE	工事名称	図面番号
202403002	高坂分署庁舎新築工事(建築)	
年/月/日	図面名称	縮尺
2024/12/10 改訂	特記仕様書(その6)	A1 Nonscale A3 Nonscale

D - 07



案内図 Nonscale



敷地求積図 S 1:300

敷地面積 A

NO	Xn	Yn	Yn+1-Yn-1	Xn · (Yn+1-Yn-1)	辺長
KC47	376.476	-40561.830	50.354	18957.072504	44.933
MC28	351.296	-40546.345	-3.192	-1121.336832	29.560
MC27	337.908	-40565.022	-28.815	-9736.819020	22.979
MC26	329.725	-40575.160	-26.606	-8772.663350	13.028
KC23	322.782	-40591.628	-22.388	-7226.443416	17.871
MC24	331.235	-40597.548	-7.550	-2500.824250	10.319
MC25	333.633	-40599.178	-5.737	-1914.052521	2.899
MC58	338.490	-40603.285	-6.946	-2351.151540	6.360
MC29	342.494	-40606.124	6.586	2255.665484	4.908
Y90	348.136	-40596.699	44.294	15420.335984	10.984
合計				3009.783043	
合計面積				1504.8915215	

敷地面積 B

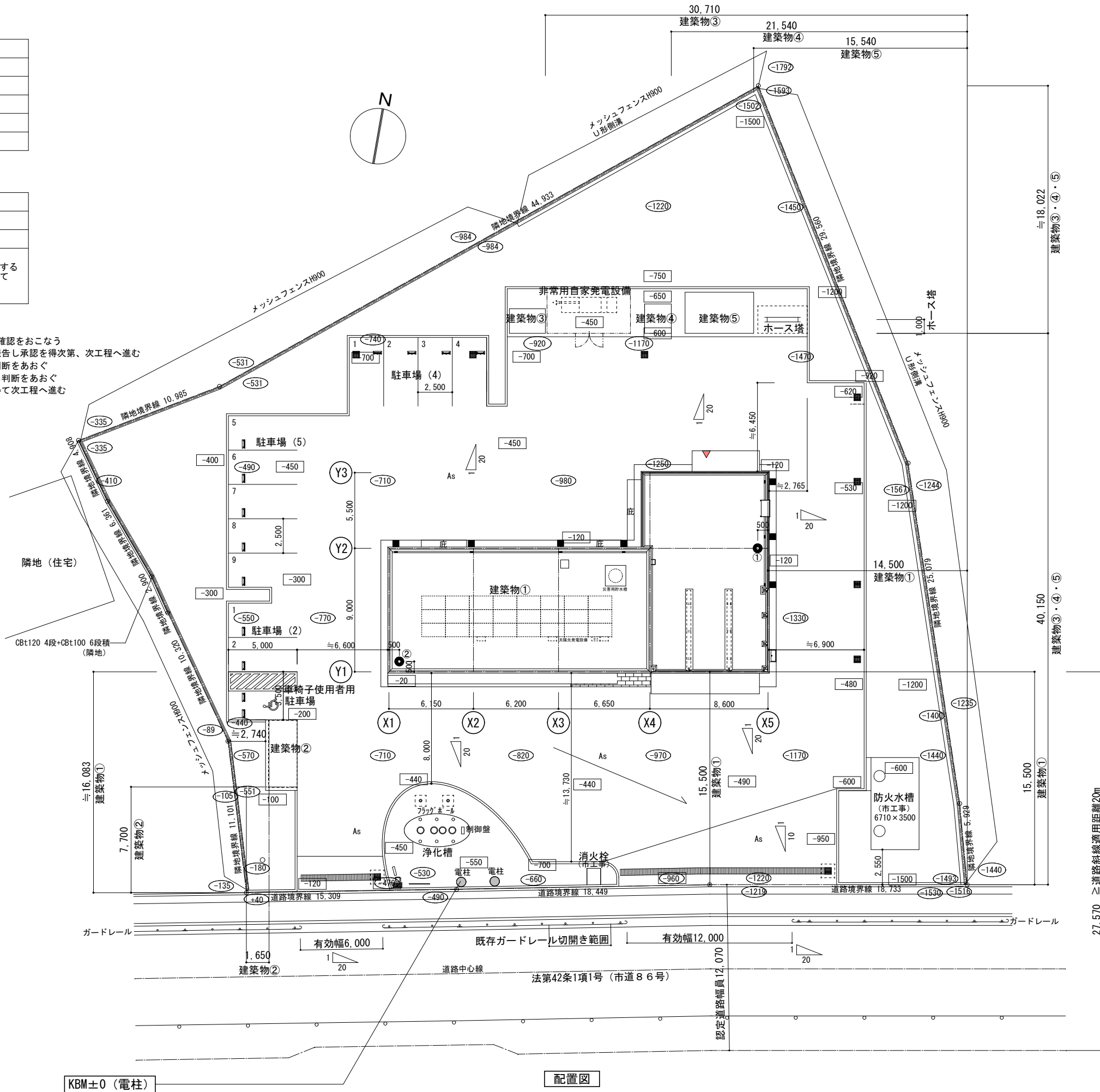
NO	Xn	Yn	Yn+1-Yn-1	Xn · (Yn+1-Yn-1)	辺長
MC28	351.296	-40546.345	26.668	9368.361728	22.979
MG66	327.524	-40538.354	9.537	3123.596388	25.079
MC16Z	321.800	-40536.808	-16.905	-5440.029000	5.929
S56-7-070	318.564	-40555.259	-36.559	-11646.381276	18.732
S56-7-060	315.033	-40573.367	-33.145	-10441.768785	18.449
MC9	312.159	-40588.404	-18.261	-5700.335499	15.309
KC23	322.782	-40591.628	13.244	4274.924808	11.101
MC26	329.725	-40575.160	26.606	8772.663350	17.871
MC27	337.908	-40565.022	28.815	9736.819020	13.028
合計				2047.850734	
合計面積				1023.9253670	

敷地面積 A+B = 1,504.8915215 + 1,023.9253670 = 2,528.8168885  
= 2,528.81 m<sup>2</sup>

番号	用途
建築物①	消防署分署 (庁舎)
建築物②	自転車駐車場
建築物③	倉庫 (ごみ集積所)
建築物④	倉庫 (少量危険物倉庫)
建築物⑤	倉庫 (水防倉庫)

記号	
⊙	現況地盤レベル (KBMからの高さ)
⊞	計画地盤レベル (KBMからの高さ)
●	平板載荷試験 調査地点①の砕石厚t150接地地盤にて確認する 上記地耐力が確認できない場合は試験場にて 砕石厚t300接地地盤レベルにて確認 調査地点②も同様おこなう

**平板載荷試験**  
 調査地点①②にて、深さ設計GL-1950~2250にて地耐力の確認をおこなう  
 長期地耐力100kN/m<sup>2</sup>以上を確認→監督員および監理者へ報告し承認を得次第、次工程へ進む  
 長期地耐力100kN/m<sup>2</sup>未満→監督員および監理者へ報告し判断をおこなう  
 また必要に応じ設計者へ相談し判断をおこなう  
 監督員および監理者の承認を得て次工程へ進む

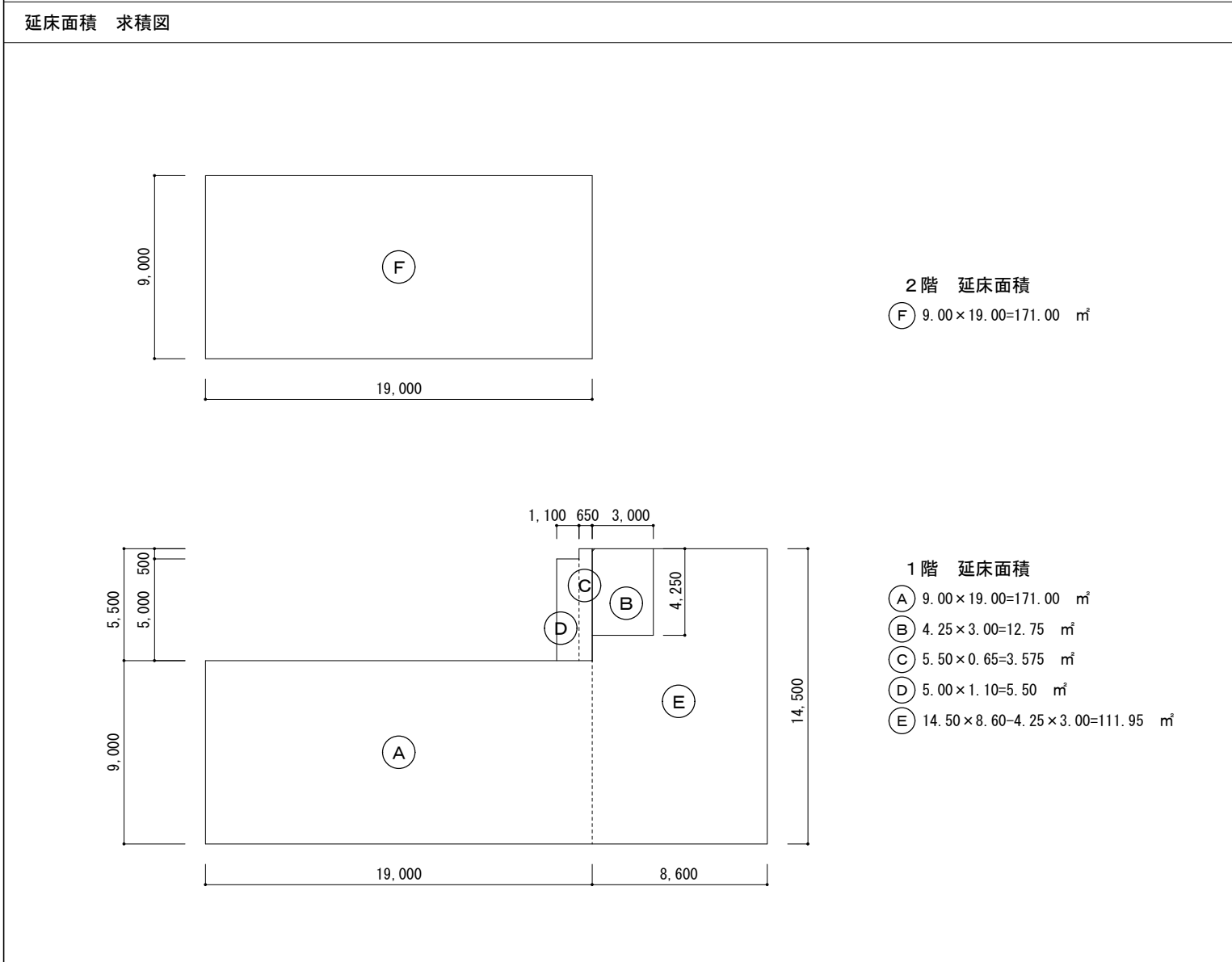
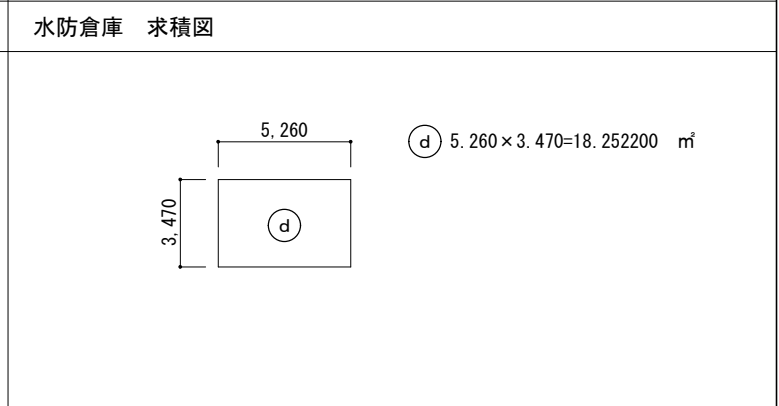
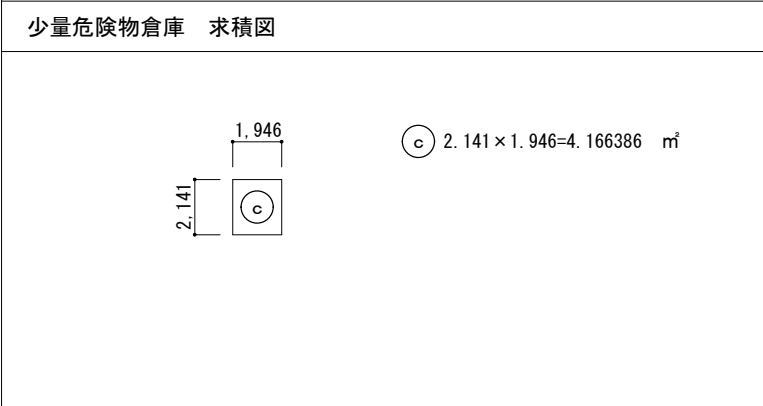
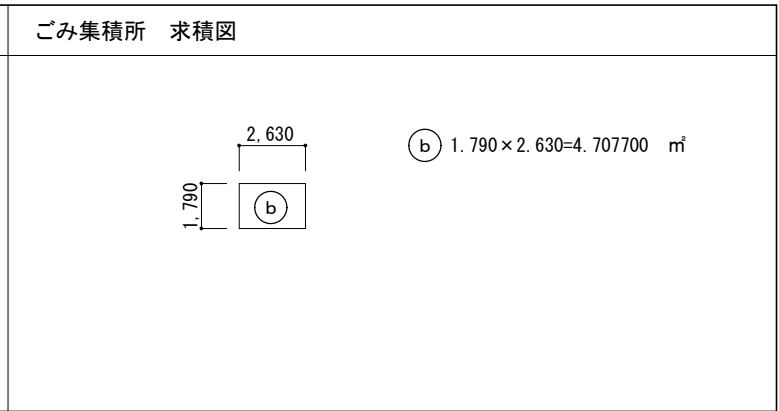
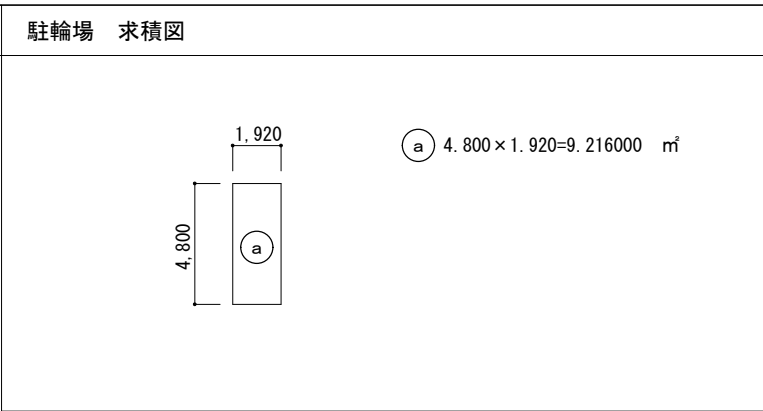
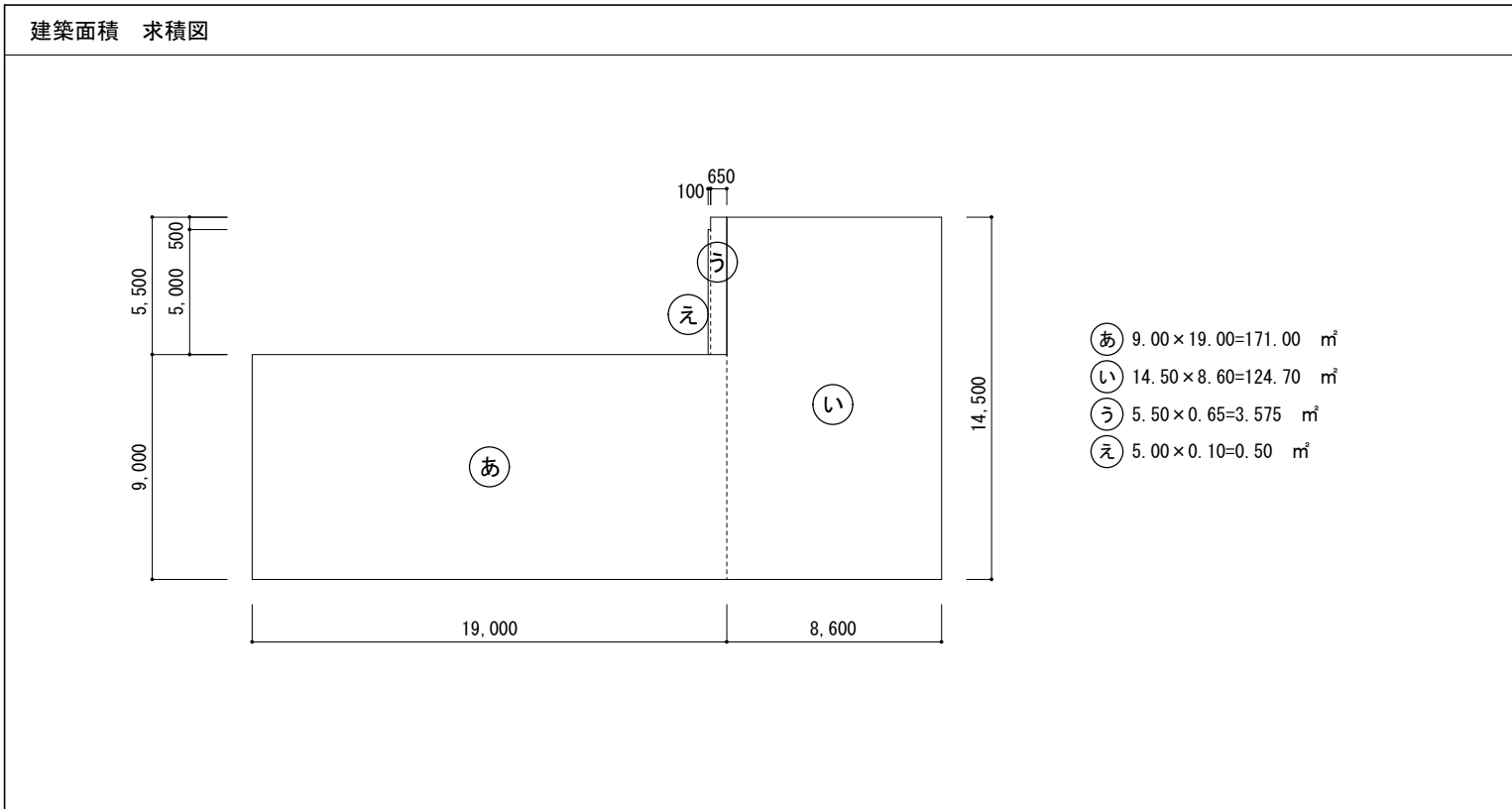


KBM±0 (電柱) 配置図

承認者	責任者	担当
杉原	倉田	

JOB CODE	工事名称
202403002	高坂分署庁舎新築工事 (建築)
年/月/日	図面名称
2024/12/10 改訂	配置図

図面番号	縮尺
D - 09	A1 1 : 150 A3 1 : 300



**面積算定表**

**建築面積**

(あ) ~ (え)  $171.00 + 124.70 + 3.575 + 0.50 = 299.775 \text{ m}^2$

(a) ~ (d)  $9.216000 + 4.707700 + 4.166386 + 18.252200 = 36.342286 \text{ m}^2$

合計  $\therefore 299.77 + 36.34 = 336.11 \text{ m}^2$

**延床面積**

(A) ~ (D), (F)  $171.00 + 12.75 + 3.575 + 5.50 + 171.00 = 363.82 \text{ m}^2$

(E) (自動車庫部分)  $111.95 \text{ m}^2$

(a) ~ (d)  $9.216000 + 4.707700 + 4.166386 + 18.252200 = 36.342286 \text{ m}^2$

合計  $\therefore 475.77 + 36.34 = 512.11 \text{ m}^2$

外部仕上表

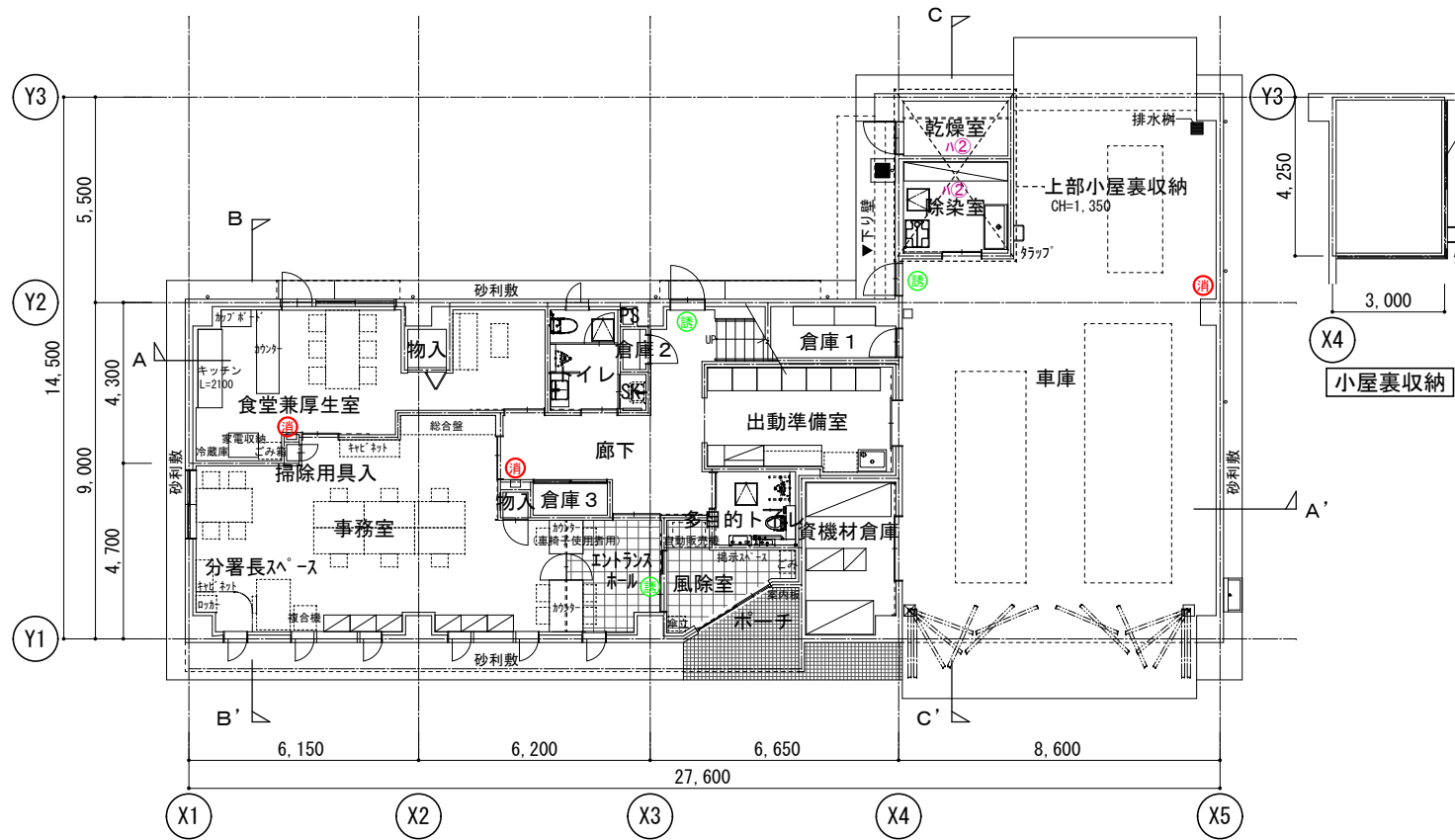
屋根	屋上	平場：コンクリート金ゴテ押えの上、断熱塩化ビニル樹脂系ルーフィングシート防水機械的固定工法断熱仕様 （断熱材：硬質ウレタンフォームt30敷込） 立上：コンクリート立上り下地処理の上、平場同仕上、排水溝：平場同仕上 ドレン：横引ドレンφ100×3箇所、ステンレス製枯葉除け金網付 太陽光発電設備架台設置用軽量乾式基礎：鋼材SS400溶融亜鉛メッキ仕上（塩ビシート防水仕様） ※太陽光発電設備・架台は電気設備工事 パラベット・災害用貯水槽用基礎・ハト小屋天端：高靱性ウレタン塗膜防水X-2工法 ハト小屋：ステンレス製点検口	外壁	外壁	打放ファンデーションローラー工法下地調整共（フッ素クリア3分艶） 超低汚染・超耐久弱溶型ふっ素樹脂塗料仕上（指定色：赤）、下地調整A種共（壁：DP1級平滑、軒裏：複層塗材E小粒凸部処理共） 打継目地、誘発目地、シーリング パラベット周り：水切金物 打放ファンデーションローラー工法（フッ素クリア3分艶）	附属建築物	駐輪場	床：コンクリート コテ押え 屋根・框材：アルミ押出形材（陽極酸化・塗装複合被膜）	
				巾木	床：半ピンコロ90×90×45 巾木：磁器質タイル張 H100 天井：アルミ製（木目調）スパンドレル 外壁：防水形複層塗材E（指定色）/打放ファンデーションローラー工法（フッ素クリア3分艶） カラーアルミ製堅種 パンドレスタイプ ステンカラーφ114				ごみ集積所 溶融亜鉛メッキ鋼板
			ポーチ						少量危険物倉庫 外壁：溶融亜鉛メッキ鋼板 屋根：ガルバリウム鋼板葺き 防爆型LED灯器具、FD付自然換気式ベンチレータ、FD付給気口 ステンレス製消火器ボックス（赤・白文字、土間固定共）
	樋	庇	1階南面 1階北・西面	コンクリート打放の上、ウレタン塗膜防水 アルミ形材製庇：アルミ押出形材 アームレス式 基部流しタイプ L=5,000/4,300/3,300 D=1,000	水防倉庫 溶融亜鉛メッキ鋼板				
	外流し			モルタル金ゴテ下地磁器質タイル100角張 ステンレングレーチング	ホース塔 鉄骨支柱 ホースハンガー 滑車ボックス				
	郵便受け			ステンレス製自立型	自家発電設備 まわり メッシュフェンス（外構図による）、ステンレス製消火器ボックス（赤・白文字、土間固定共）				

内部仕上表

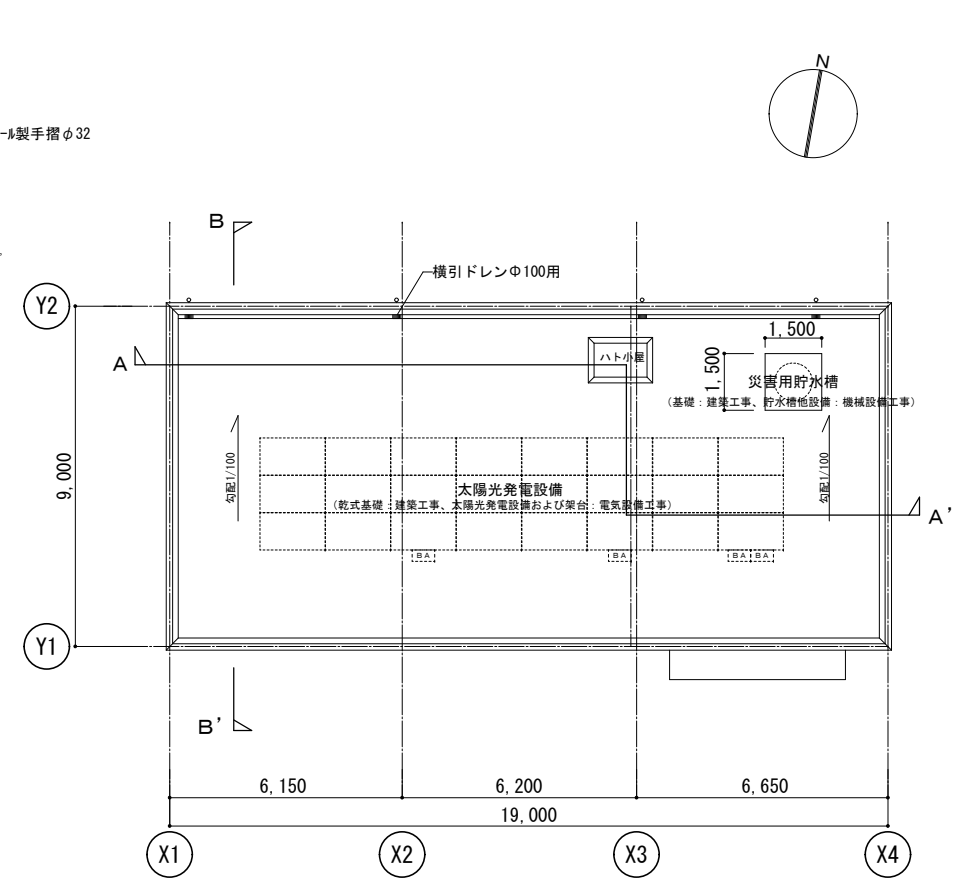
階数	室名	床		巾木		壁		天井		天井高	備考		略語凡例	防火等認定材料表							
		下地	仕上	仕上	高さ	下地	仕上	下地	仕上		廻縁	サイ		窓周り	略語	仕上材等	略語	材料名	厚さ	認定番号	
1	風除室 (エントランス側)	モルタル金ゴテ押え	300角磁器質タイル張	磁器質タイル張	100	GB-F t12.5 合板 t10	超低VOC多機能型屋内水性塗料 とぎわ産t/k t12 羽目板張UC		7mm製(木調)スパンドレル張 ランダム仕様	7mm	3,000			掲示板 木製照明ボックス（t/tt30節あり）	GB-R	石膏ボード	GB-R	石膏ボード	9.5	QM-9823	
	エントランスホール	モルタル金ゴテ押え	300角磁器質タイル張	磁器質タイル張	100	GB-F t12.5 合板 t10	超低VOC多機能型屋内水性塗料 柱型：とぎわ産t/k t12 羽目板張UC	GB-R t9.5	DR t12.0	塩ビ	2,700			カクテル	GB-D	化粧石膏ボード	GB-R (不)	石膏ボード (不)	9.5	NM-8613	
	事務室 (エントランス側)	OA707 H100	帯電防止ビニル床シート t5張	木製 (t/k) UC	100	GB-F t12.5	超低VOC多機能型屋内水性塗料 一部合板下地の上掲示加	GB-R t9.5	DR t12.0	塩ビ	2,700	T	B	カンター、掃除用具入れ、掲示板 分署長スペース：天井付カーテン（約付）/カーテン	GB-S	耐水石膏ボード	GB-D (不)	化粧石膏ボード	9.5	QM-9824	
	食堂兼厚生室	コンクリート金ゴテ押え	防滑性ビニル床シート t2.5張	木製 (t/k) UC	100	GB-F t12.5 X1通り壁：GB-S t12.5	超低VOC多機能型屋内水性塗料 X1通り壁：メラミン化粧合板 t3.0		GB-P (化粧) t9.5	塩ビ	2,700	T	B	カクテル、システムキッチン、家電収納、 カップボード、埋込消火器ボックス（表示共） ビューヤール、壁掛けテレビ用アーム（AN-130AG1）	GB-P	吸音用あなあき石膏ボード	GB-D (不)	化粧石膏ボード	9.5	NM-1864	
	出勤準備室	コンクリート金ゴテ押え	厚膜型珪矽樹脂系塗床 (防滑工法)	薄膜型珪矽樹脂系塗床 (防滑工法)	100	GB-F t12.5	超低VOC多機能型屋内水性塗料		GB-P (化粧) t9.5	塩ビ	2,400	T		防火衣ロッカー（2交代制）7基 カクテル、下足入	GB-R-H	普通硬質石膏ボード	GB-S	耐水石膏ボード	9.5/12.5	QM-9826	
	多目的トイレ	コンクリート金ゴテ押え	防滑性ビニル床シート t2.5張（抗菌・防汚） (便器周り) 光触媒汚垂れ張	ビニル巾木	300	GB-S t12.5	メラミン化粧合板 t3.0		GB-P (化粧) t9.5	塩ビ	2,700	P		SUS枠製床下点検口 多機能トイレ（簡易トイレ付）	DR	岩綿吸音板（フラットタイプ）	GB-S (不)	耐水石膏ボード	12.5	NM-9639	
	トイレ	コンクリート金ゴテ押え	防滑性ビニル床シート t2.5張（抗菌・防汚） (便器周り) 光触媒汚垂れ張	ビニル巾木	100	GB-S t12.5	メラミン化粧合板 t3.0		GB-P (化粧) t9.5	塩ビ	2,700	P		ライニングカクテル、モップハンガー-3本掛 SUS枠製床下点検口	DR (凸)	岩綿吸音板（リップ付タイプ）	GB-F	強化石膏ボード	12.5	NM-8615	
	資機材倉庫	コンクリート金ゴテ押え	厚膜型高耐久性変性珪矽樹脂系塗床+ 速硬化・高耐候メリッド型防塵塗床	薄膜型珪矽樹脂系塗床 (防滑工法)	300		複層塗材E		FK (化粧) t6.0	塩ビ	2,700	S		タイヤ・ホス収納棚、収納棚、ポンペ 棚	FK	ケイ酸カルシウム板	GB-R-H	普通硬質石膏ボード	12.5	NM-8612	
	車庫	コンクリート金ゴテ押え	厚膜型高耐久性変性珪矽樹脂系塗床+ 速硬化・高耐候メリッド型防塵塗床	薄膜型珪矽樹脂系塗床 (防滑工法)	200 ~ 300		複層塗材E		複層塗材E		4,350 ~ 4,450	T		大型電動折戸、7mm製オーバーサイズドア SUS製床置消火器スタンド（固定フック・表示共） ライン引き（専用塗装）、コーナーガード L2000 ステール製手摺	PF板	押出法ポリスチレンフォーム保温板	GB-R	石膏ボード	12.5	NM-8578	
	小屋裏収納	コンクリート金ゴテ押え	厚膜型高耐久性変性珪矽樹脂系塗床+ 速硬化・高耐候メリッド型防塵塗床				複層塗材E		複層塗材E		1,350				メラミン化粧板	メラミン不燃化粧板					
	除染室	コンクリート金ゴテ押え	厚膜型高耐久性変性珪矽樹脂系塗床+ 速硬化・高耐候メリッド型防塵塗床	薄膜型珪矽樹脂系塗床 (防滑工法)	300		複層塗材E		FK (化粧) t6.0	塩ビ	2,400	T		ステンレス製流し台、洗濯機ハン、薬品棚 吊戸棚（薬品収納）、SUS枠製床下点検口 外部軒天：7mm製スパンドレル張	SOP	合成樹脂調合ペイント塗	DR	岩綿吸音板	9/12	NM-8585	
	乾燥室	コンクリート金ゴテ押え	厚膜型高耐久性変性珪矽樹脂系塗床+ 速硬化・高耐候メリッド型防塵塗床	薄膜型珪矽樹脂系塗床 (防滑工法)	300		複層塗材E		FK (化粧) t6.0	塩ビ	2,400	T		ステンレス製物干ハンガータイプ L2600 外部軒天：7mm製スパンドレル張	EP	合成樹脂エマルジョンペイント塗	EP				NM-8585
	倉庫1	コンクリート金ゴテ押え	厚膜型高耐久性変性珪矽樹脂系塗床+ 速硬化・高耐候メリッド型防塵塗床	薄膜型珪矽樹脂系塗床 (防滑工法)	100		複層塗材E	内部側：ALCt50	複層塗材E				S	物品棚	EP-G	耐候性塗料塗1級	EP-G				NM-8585
	倉庫2・3	コンクリート金ゴテ押え	防滑性ビニル床シート t2.5張	ビニル巾木	100	GB-F t12.5	超低VOC多機能型屋内水性塗料		FK (化粧) t6.0	塩ビ	2,700	S			UC	水性1液ウレタン塗装（半艶）	NAD				NM-8585

- 特記事項**
- ・ビニル床シート仕上範囲は、セルフレビング材t20塗を施す（書庫はt35）
  - ・書庫、会議室、仮眠室の界壁部はグラスウール充填（24kg/m3）とし、仕上材（両面）を達せしめること
  - ・外部に面する居室内壁は、断熱発泡ウレタン吹付t25とする
  - ・書庫内部は、強化石膏ボードt12.5mm二重張とし、グラスウール24kg/m3充填とする
  - ・風除室および事務室の掲示板は、マグネットクロス（画鋲兼マグネット仕様）とする
  - ・OAフロアは耐荷重3000N仕様とする
  - ・脱衣室の床下地は、低床型二重床下地の上パーティクルボードt20+構造用合板 特類t12 とする
  - ・車庫、ビット床は打増コンクリートにて勾配を確保する

 <b>株式会社 第一建築設計事務所</b> 〒350-1126 埼玉県川越市旭町3-19-3 TEL 049-243-0357 FAX 049-244-5372	一級建築士 大臣登録 第317080号 倉田 委美	承認者	責任者	担当	JOB CODE	工事名称	高坂分署庁舎新築工事（建築）	図面番号	
		杉原	倉田		202403002	仕上表		縮尺 A1 Nonscale A3 Nonscale	D - 11
					年/月/日 2024/12/10 改訂				



1階平面図



屋上平面図

- 凡例
- ① 防火設備 (法2条9号の2口)
  - ② 防火設備 (法2条9号の2口)
  - ③ 常時閉鎖式防火設備 (令112条14項二号)
  - ④ 随時閉鎖式防火設備 (令112条14項二号)
  - ▲ 無窓階判定有効窓 (有効開口φ1,000以上または750×1200≧2箇所以上)
  - △2 平12建告1436号第4ハ(2) 100㎡以下室、排煙設備免除
  - ⑤ 消火器
  - ⑥ 誘導標識
- ※設置位置は所管消防(比企広域消防予防課)と協議によること
- ※火気使用室無し

■耐火構造 (認定番号)

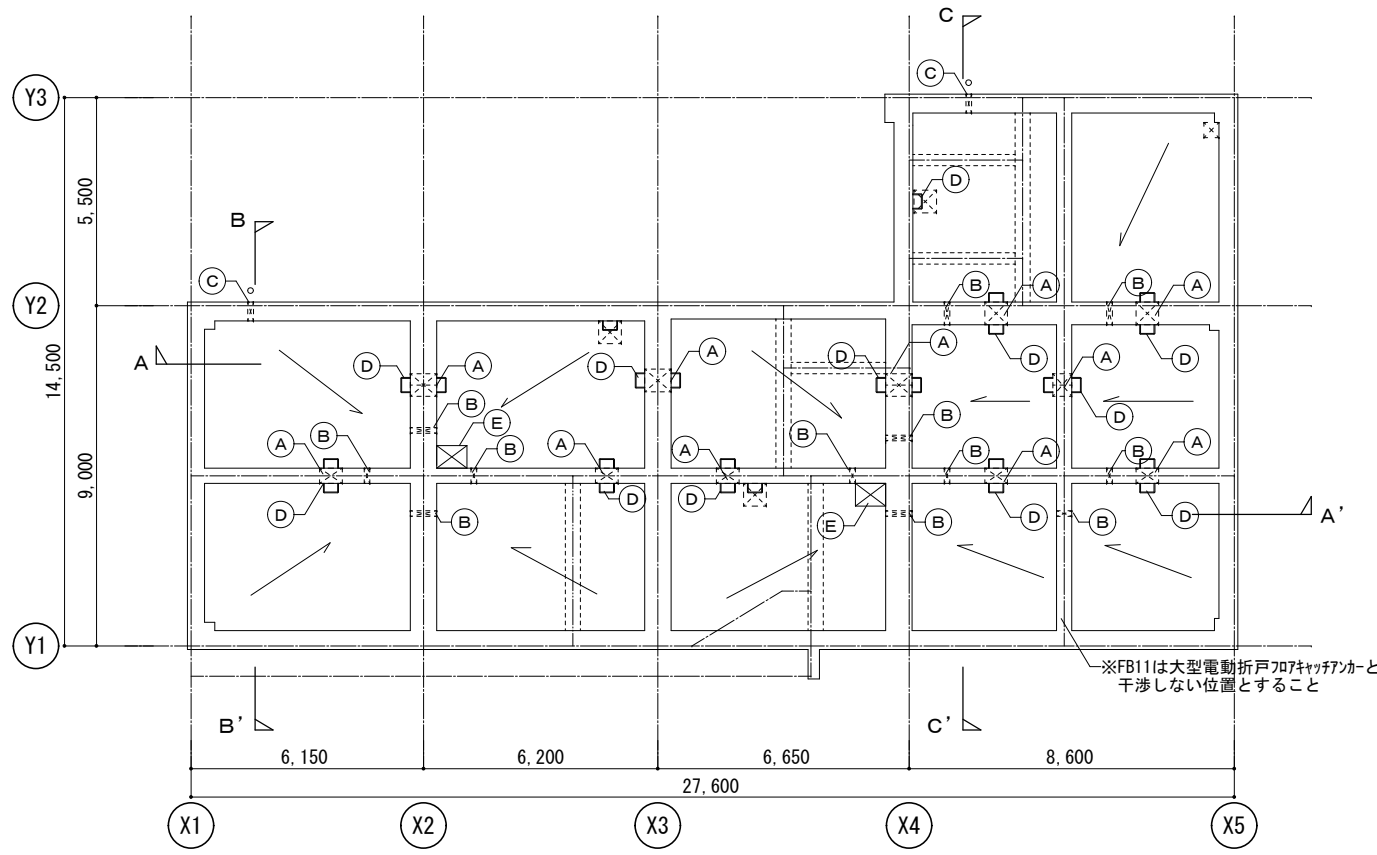
外壁	鉄筋コンクリート造 コンクリート厚み150・180	建告第1399号第1第一号イ
床	鉄筋コンクリート造 コンクリート厚み150・180	建告第1399号第3第一号イ
梁	鉄筋コンクリート造	建告第1399号第4第一号イ
屋根	鉄筋コンクリート造	建告第1399号第5第一号
階段	鉄筋コンクリート造	建告第1399号第6第一号

■屋内階段寸法表 (その他の階段)

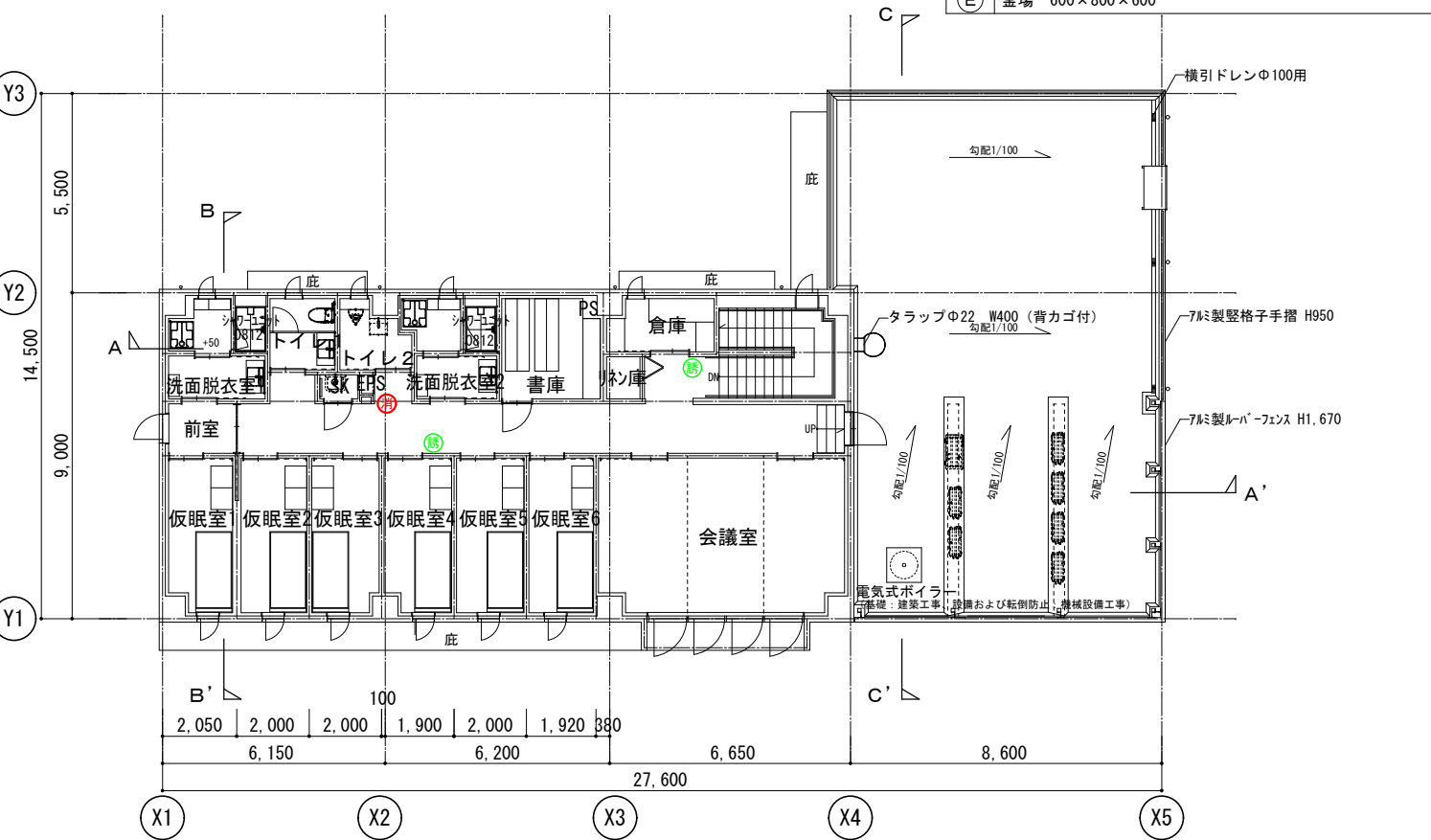
蹴上げ	1-2F	195.6
踏面		250.0
幅員		1,200.0

■ピット平面図 凡例

(A)	人通り孔 φ600
(B)	通気口 (上部): 塩化ビニルパイプ φ100 連通孔 (半割): 塩化ビニルパイプ φ150
(C)	通気管: 塩化ビニルパイプ φ150 ※外部換気筒GL+300立上り
(D)	ステンレス製タラップ φ19 L400
(E)	釜場 600×800×600



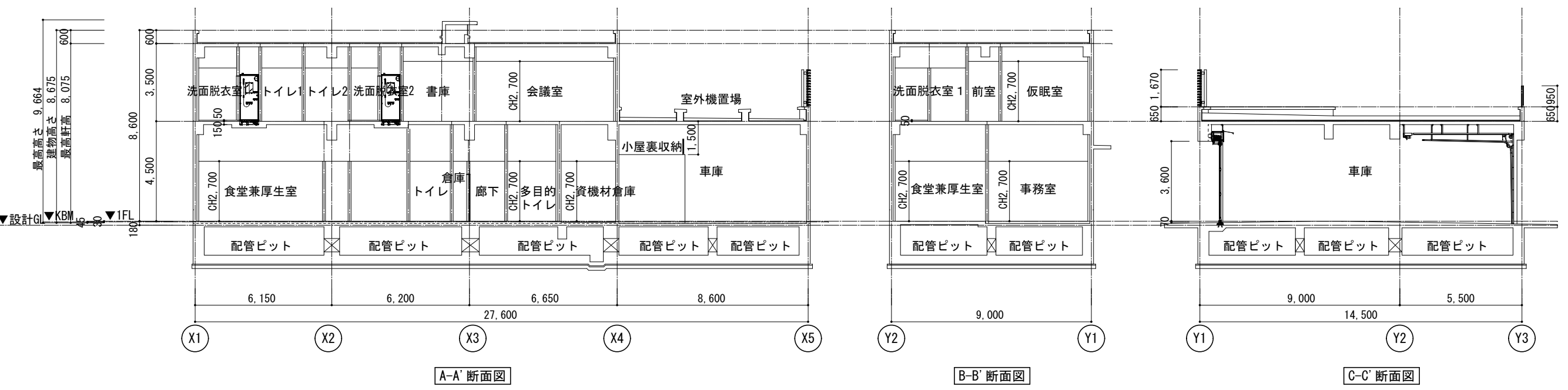
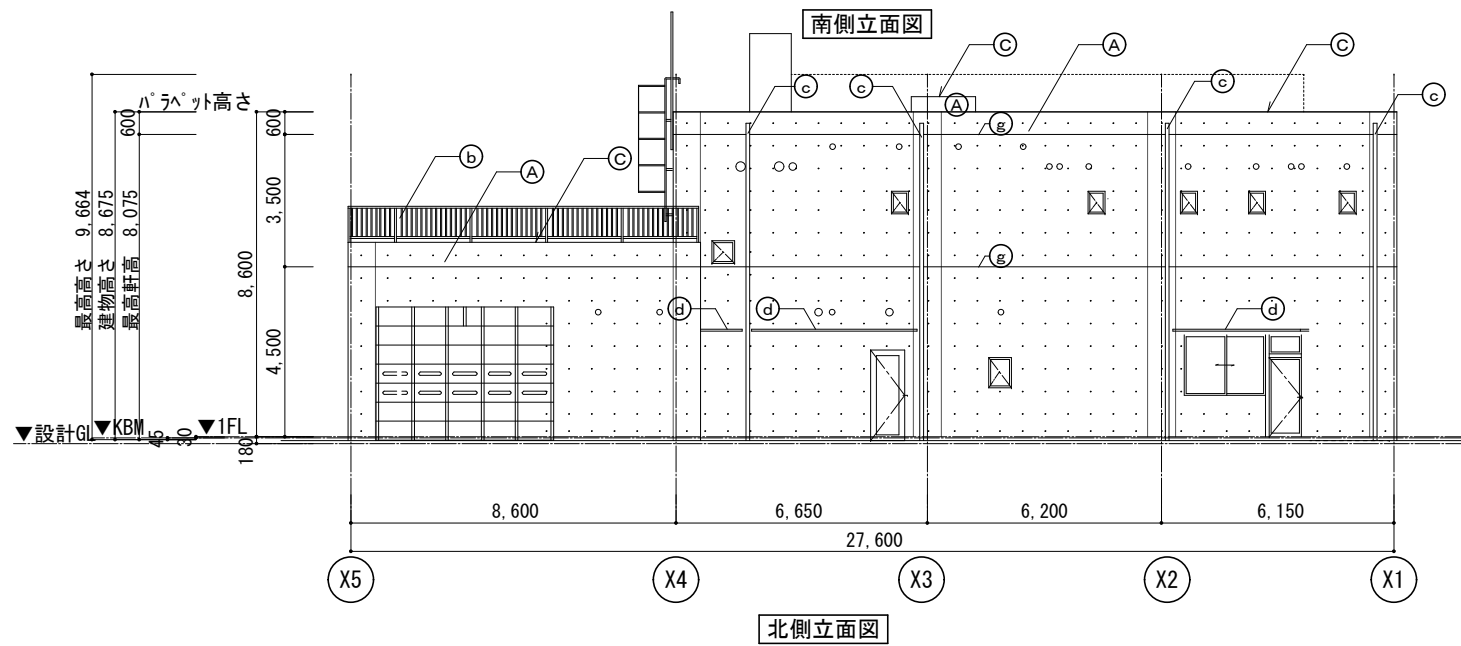
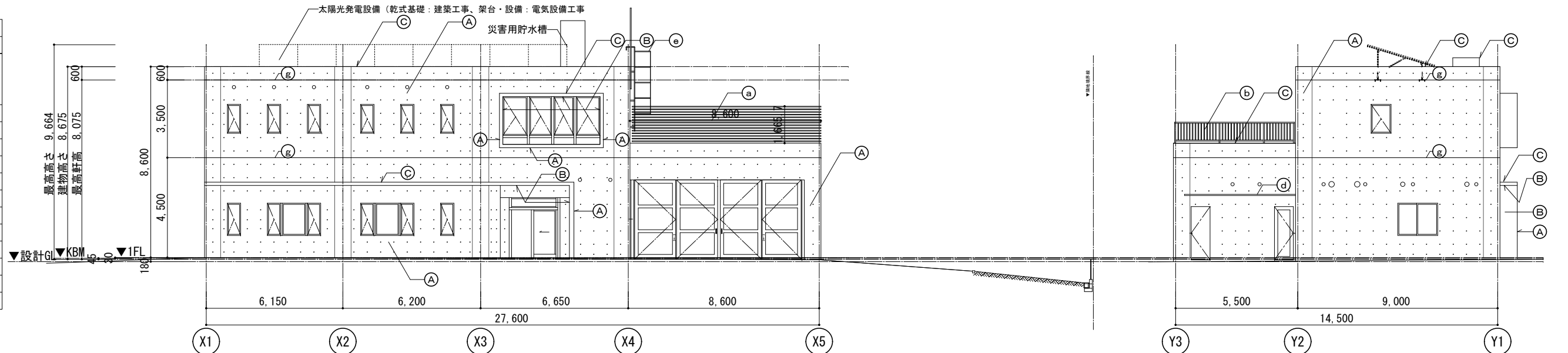
ピット平面図

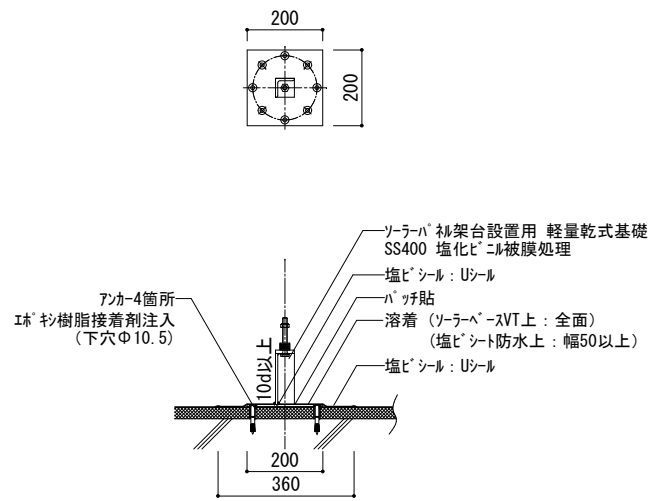


2階平面図

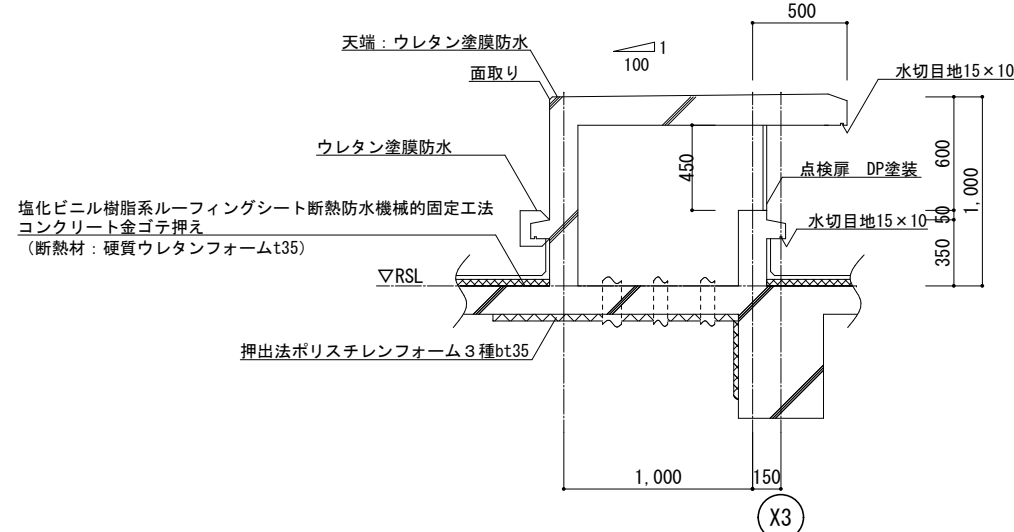
凡例	記号	仕上・仕様
	(A)	打放ファンデーションロー工法 (7ヶ月73分艶)
	(B)	超低汚染・超耐久弱溶型ふっ素樹脂塗装、下地調整A種 壁：DP1級 (平滑)、軒裏：複層塗材E小粒凸部処理共 指定色 (赤 ※色調は監督員承認を得て決定)
	(C)	ウレタン塗膜防水
	(a)	ルーバーフェンス
	(b)	アルミ製縦格子手摺
	(c)	堅樋：カマ7φ100
	(d)	底：7φ形材製
	(e)	背カゴ付タラップ
	(f)	訓練用施設
	(g)	打継目地
	(h)	構造スリット目地

設計GL=KBM-150=1FL-180

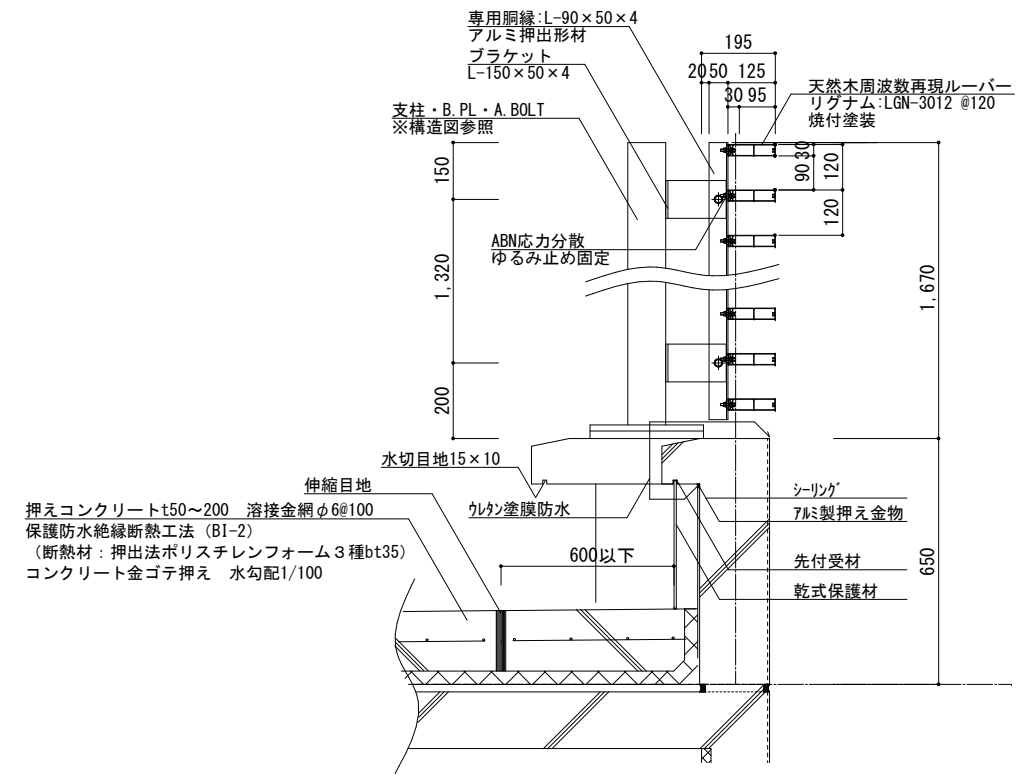




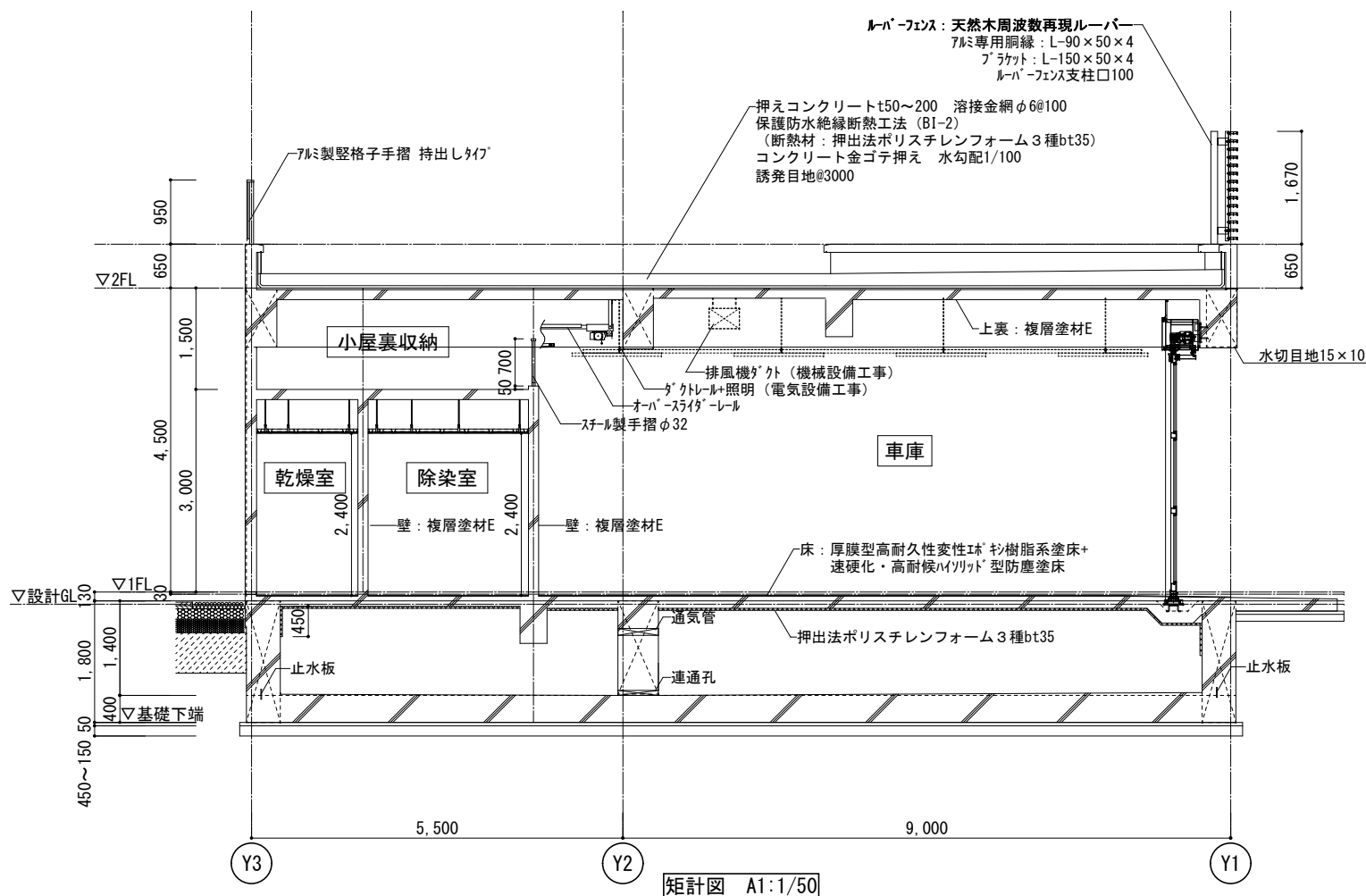
太陽光発電パネル架台用乾式基礎 A1:1/10



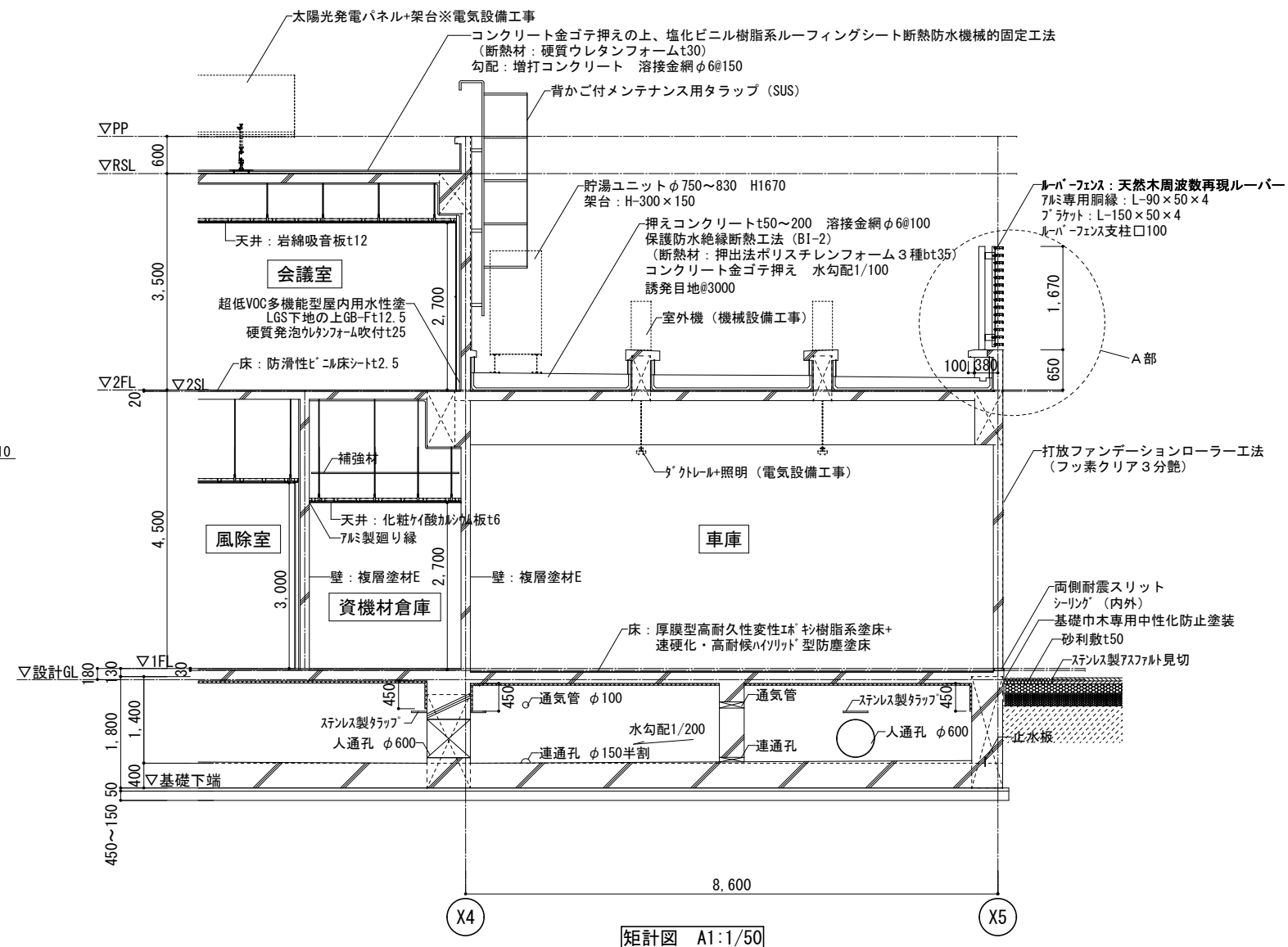
ハト小屋詳細図 A1:1/20



A部断面詳細図 A1:1/10

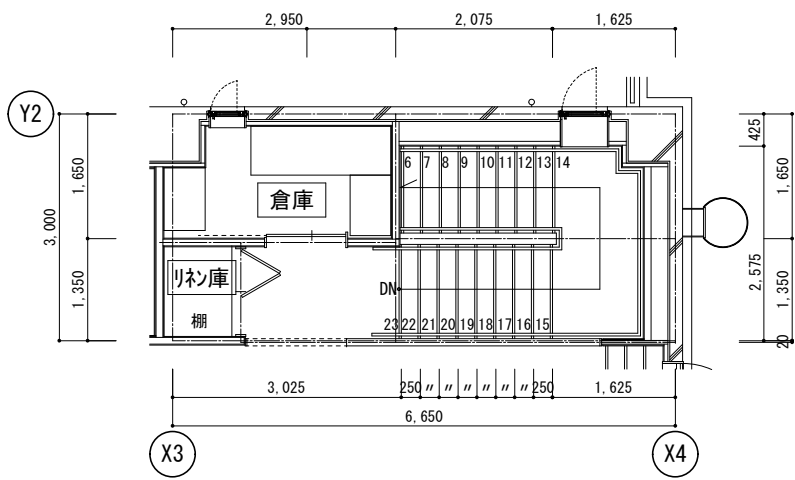


矩計図 A1:1/50

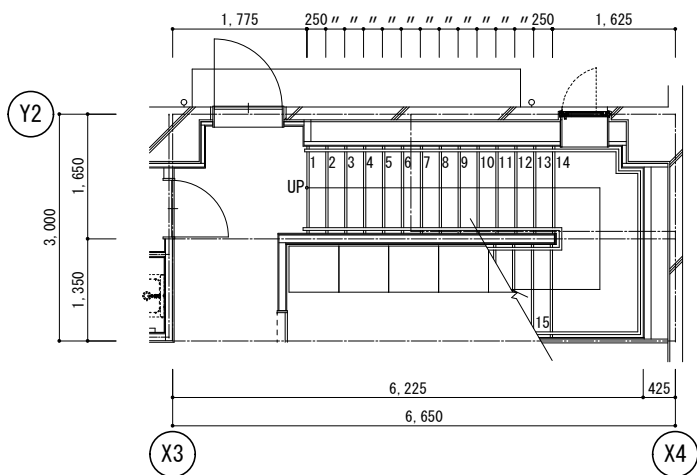


矩計図 A1:1/50

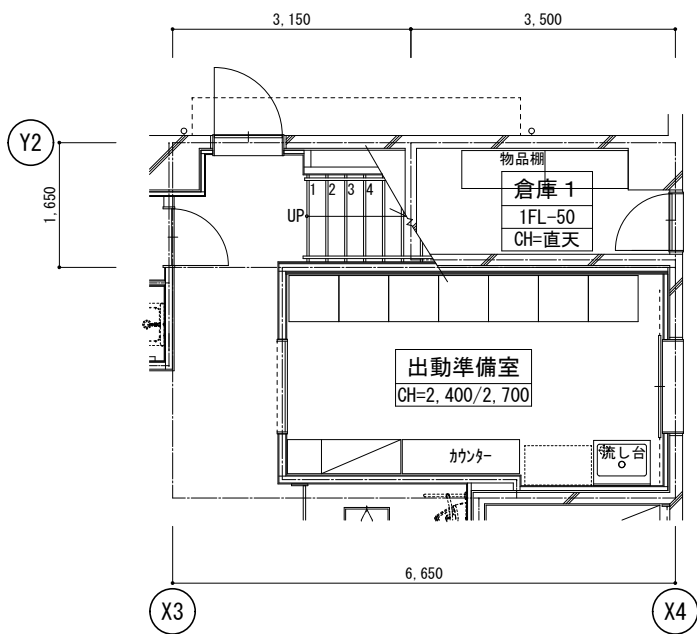




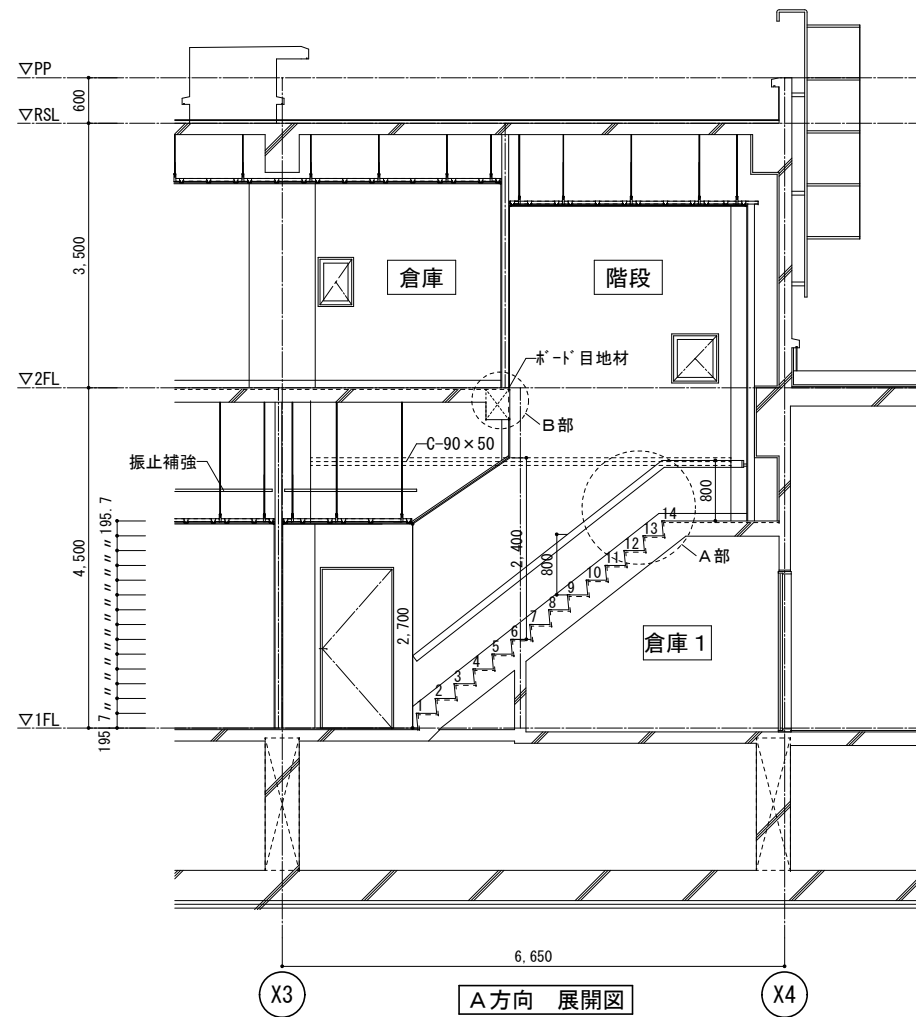
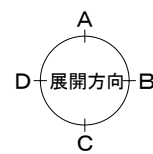
2階 階段平面詳細図



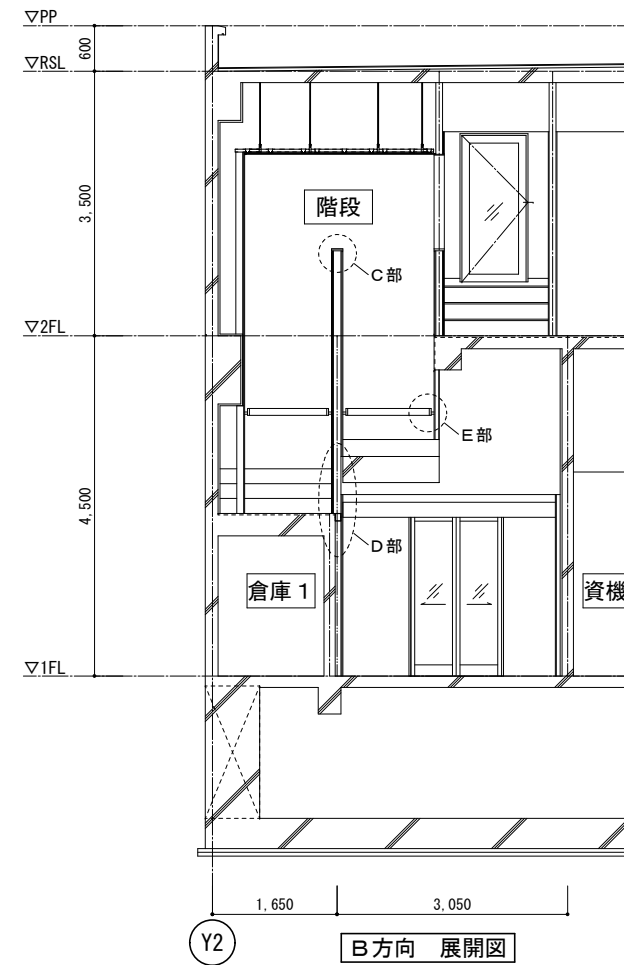
1階中間部 階段平面詳細図



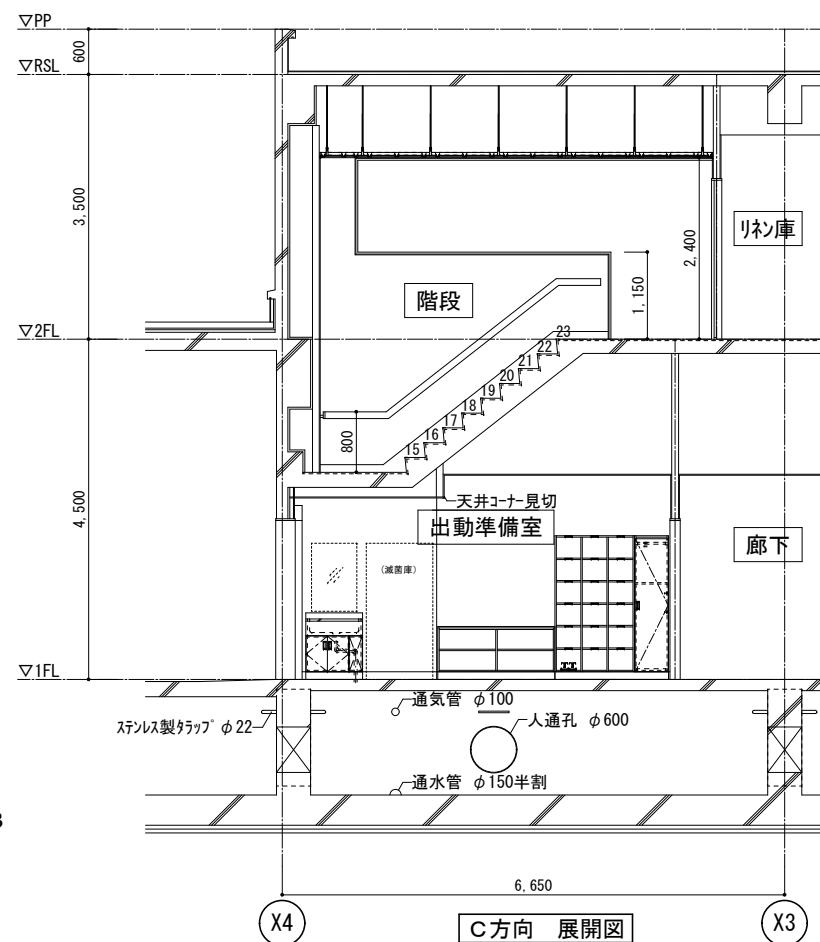
1階 階段平面詳細図



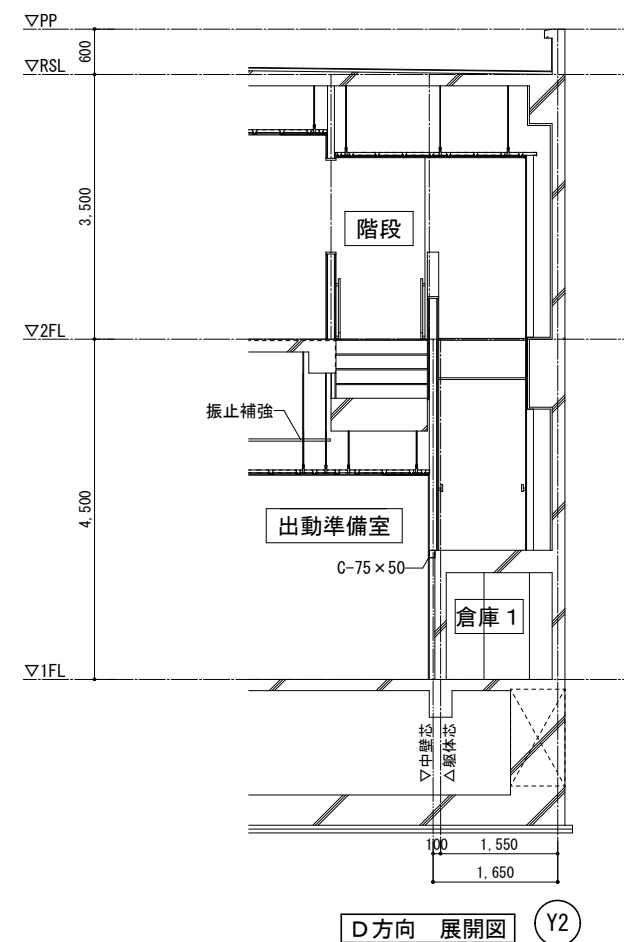
A方向 展開図



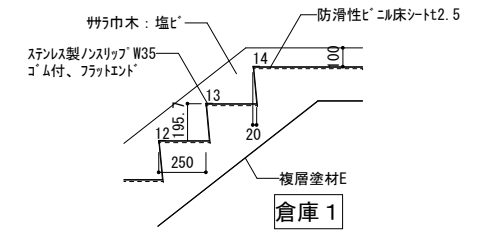
B方向 展開図



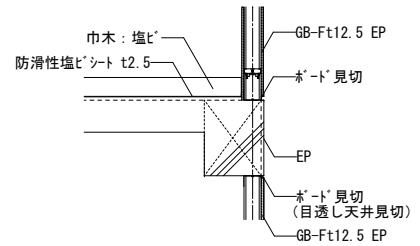
C方向 展開図



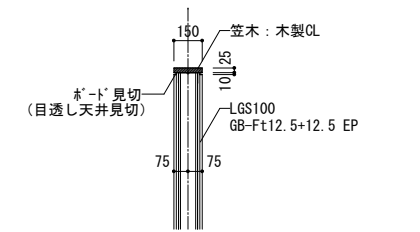
D方向 展開図



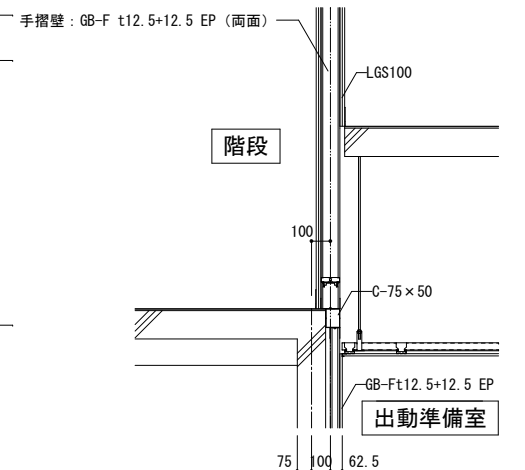
A部 詳細図 A1:1/20



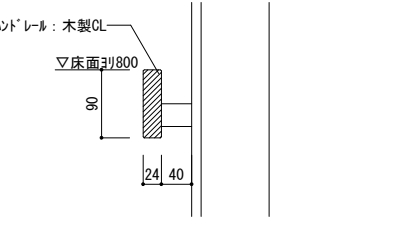
B部 詳細図 A1:1/20



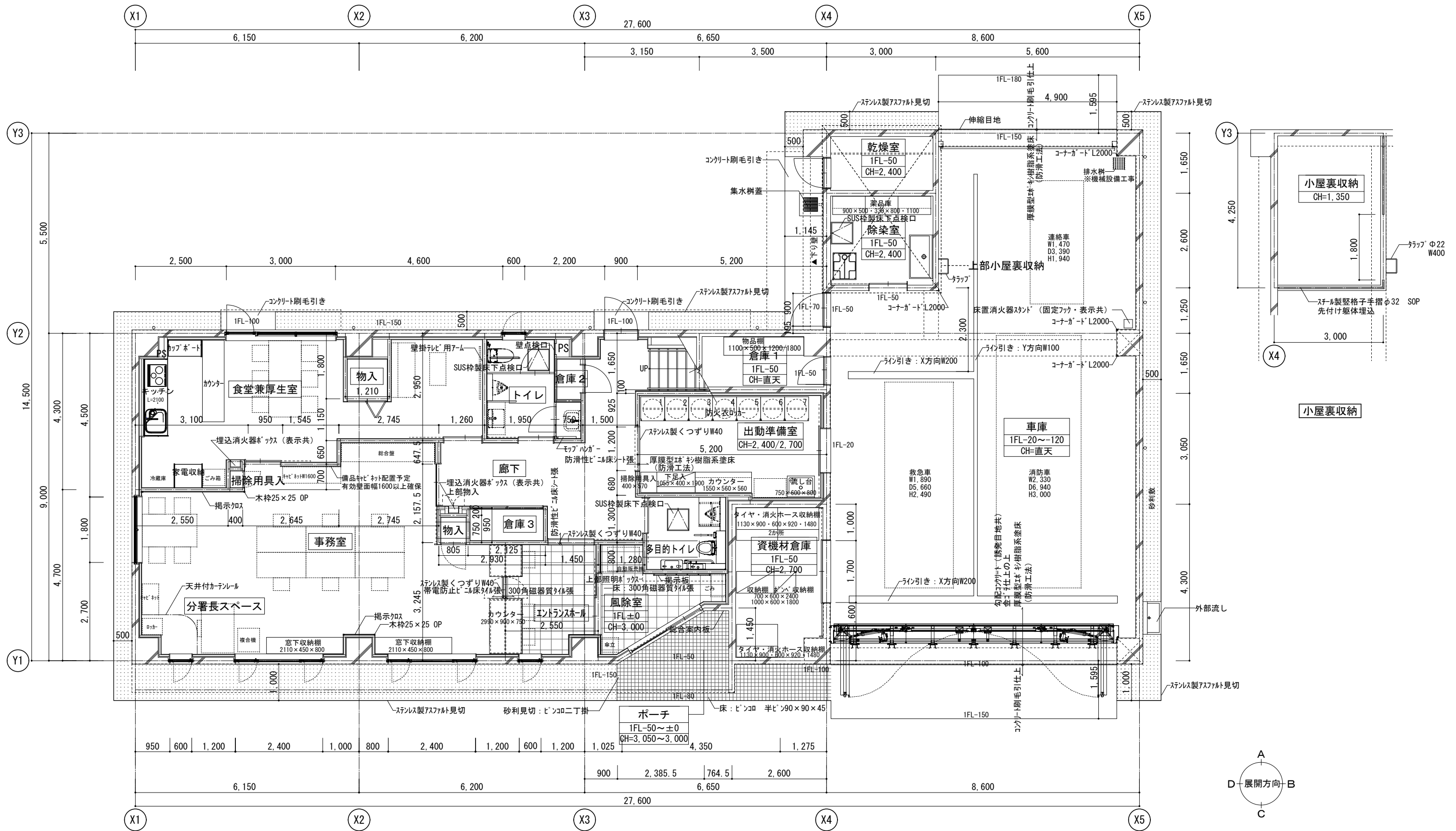
C部 詳細図 A1:1/20

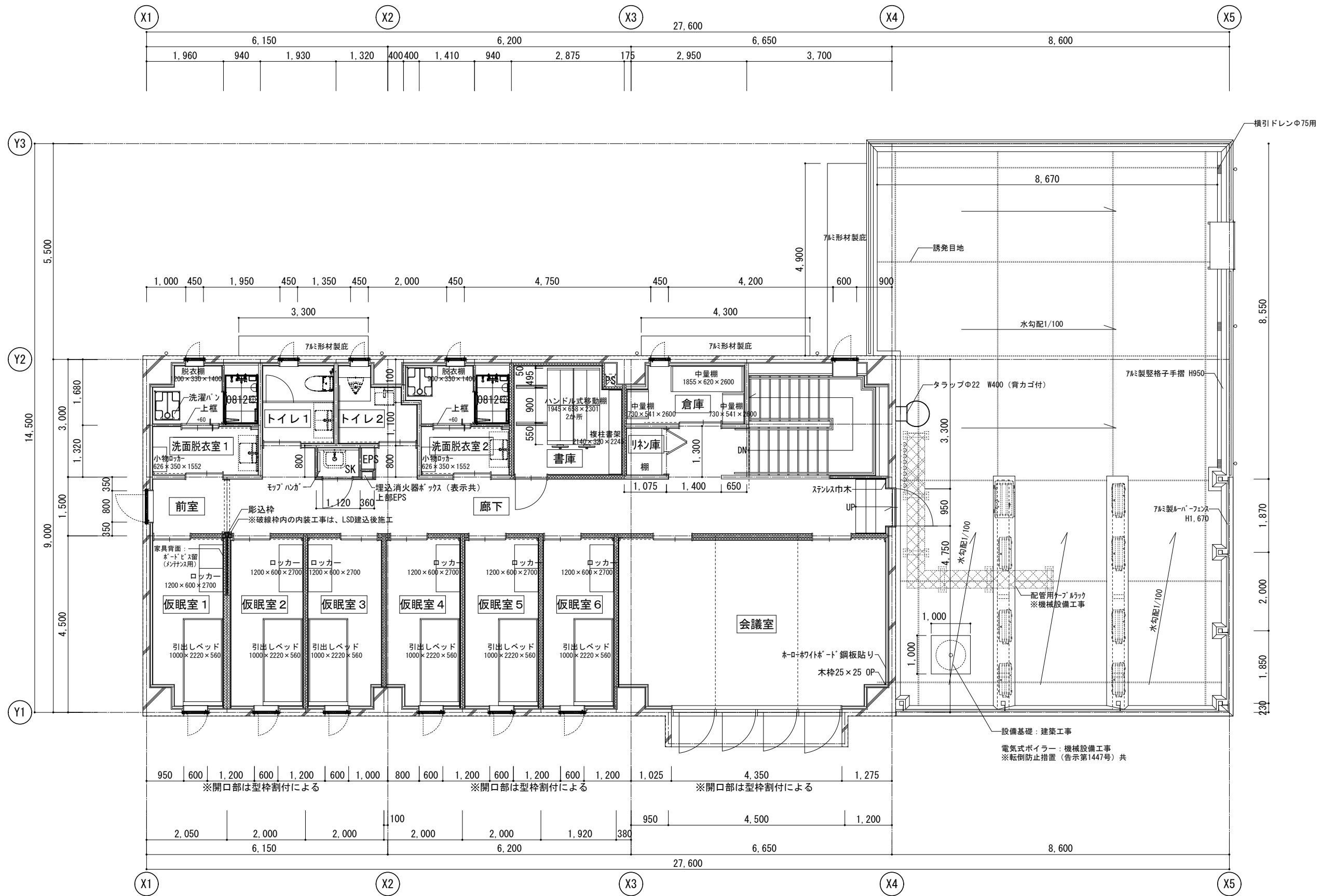


D部 詳細図 A1:1/20



E部 詳細図 A1:1/5





設備基礎：建築工事  
 電気式ボイラー：機械設備工事  
 ※転倒防止措置（告示第1447号）共

凡例  
 [Pattern] : ガラスウール充填 24kg/m3

ポーチ		OH=3,000
床	下地	モルタル下地
	仕上	300角磁器質タイル張
巾木	磁器質タイル張 H100	
壁	仕上	防水型複層塗材E (指定色)
		打放フッパ・ジョーローラ工法 フック付3分龍
廻縁	7&#246;ニ	
天井	下地	LGS19型
	仕上	7&#246;ニ製 (木目調) スパンドレル張
備考	総合案内板	

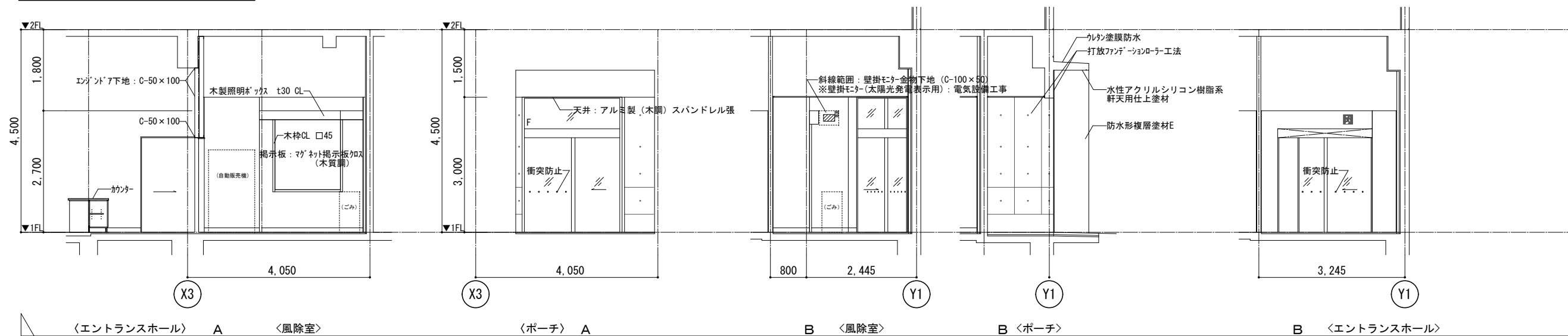
風除室		OH=3,000
床	下地	モルタル下地
	仕上	300角磁器質タイル張
巾木	磁器質タイル張 H100	
壁	外壁面	硬質発泡ウレタンt25
	下地 (外壁面)	LGS50型+強化石膏ボード t12.5
	下地 (間仕切)	LGS90型+強化石膏ボード t12.5
	仕上A	サトウシロップ調装飾仕上仕上塗材
	下地B	木製鋼線+合板t10
	仕上B	ときがわ産ヒノキ材 t12 羽目板張 UC
廻縁	7&#246;ニ	
天井	下地	LGS19型
	仕上	7&#246;ニ製 (木目調) スパンドレル張
備考	揭示板: マグネット揭示板 (画鋲兼マグネット仕様) 木製照明ボックス (ヒノキt30 節あり)	

エントランスホール		OH=2,700
床	下地	モルタル下地
	仕上	300角磁器質タイル張
巾木	磁器質タイル張 H100	
壁	外壁面	硬質発泡ウレタンt25
	下地 (外壁面)	LGS50型+強化石膏ボード t12.5
	下地 (間仕切)	LGS90型+強化石膏ボード t12.5
	仕上A	超低VOC多機能型屋内水性塗料
	下地B (柱型)	木製鋼線+合板t10
	仕上B (柱型)	ときがわ産ヒノキ材 t12 羽目板張 UC
廻縁	塩ビ	
天井	下地	LGS19型 振止め補強共
	仕上	石膏ボード t9.5+岩綿吸音板t12 (フック)
備考	カウンター、誘導標識	

事務室		OH=2,700
床	下地	OA707 H100
	仕上	帯電防止ビニル床t15張
巾木	木製 (ヒノキ) H100	
壁	外壁面	硬質発泡ウレタンt25
	下地 (外壁面)	LGS50型+強化石膏ボード t12.5
	下地 (間仕切)	LGS90型+強化石膏ボード t12.5
仕上	超低VOC多機能型屋内水性塗料	
廻縁	塩ビ	
天井	下地	LGS19型 振止め補強共
	仕上	石膏ボード t9.5+岩綿吸音板t12 (フック)
備考	カウンター、ブラインドボックス/ブラインド、掃除用具入れ 吊カテナール (ホワイト) /カーテン 揭示加貼: 合板下地の上、マグネット (画鋲兼マグネット仕様)	

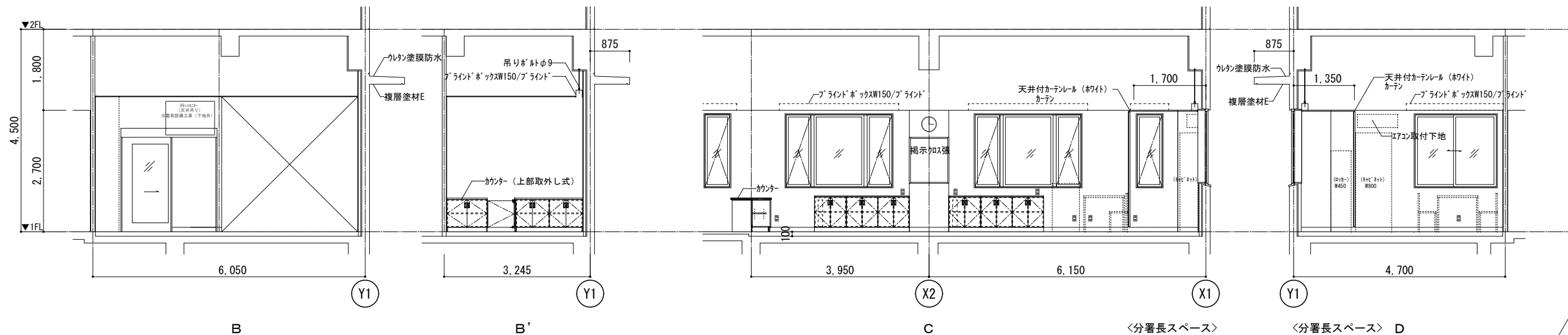
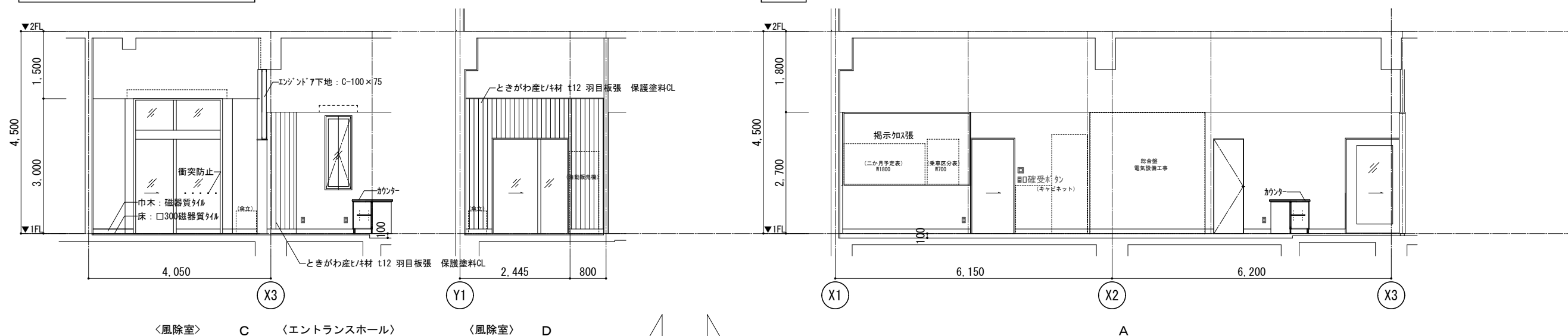
※特記なき限り、仕上表による

ポーチ・風除室・エントランスホール



ポーチ・風除室・エントランスホール

事務室

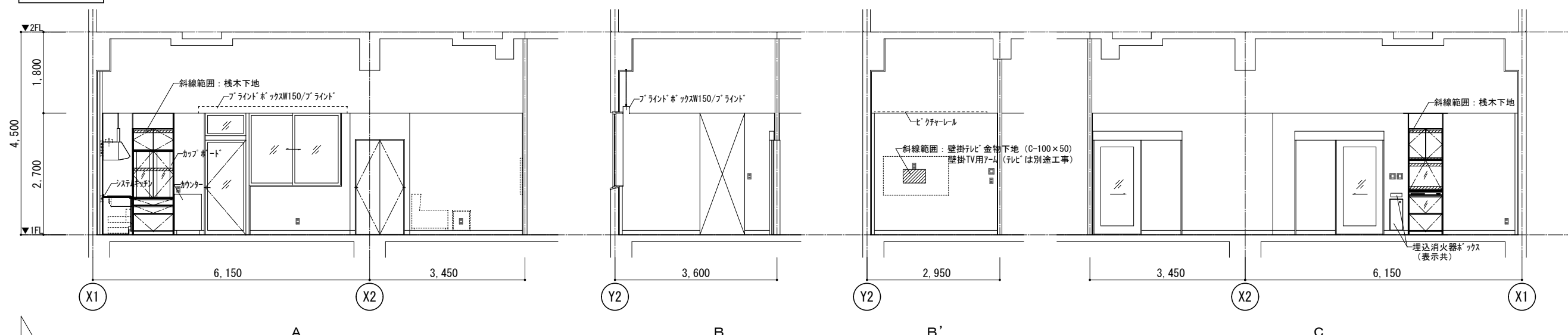


食堂兼厚生室 CH=2,700		
床	下地	コンクリート金ゴテ押え
	仕上	防滑性ビニル床シート2.5張
巾木	木製 (ヒノキ)	
壁	外壁面	硬質発泡ウレタン25
	下地 (外壁面)	LGS50型+強化石膏ボード t12.5
	下地 (X1通り)	LGS50型+耐水石膏ボード t12.5
	下地 (間仕切)	LGS90型+強化石膏ボード t12.5
	仕上	超低VOC多機能型屋内水性塗料
仕上 (X1通り)	珪藻土化粧板 t3.0	
廻縁	塩ビ	
天井	下地	LGS19型 振止め補強共
	仕上	化粧吸音石膏ボード t9.5張
備考	カウンター、システムキッチン (IH)、家電収納、カッポボード 埋込消火器ボックス (表示共)、ビクチャーレール ブラインドボックス/ブラインド、壁掛けテレビ用7-M	

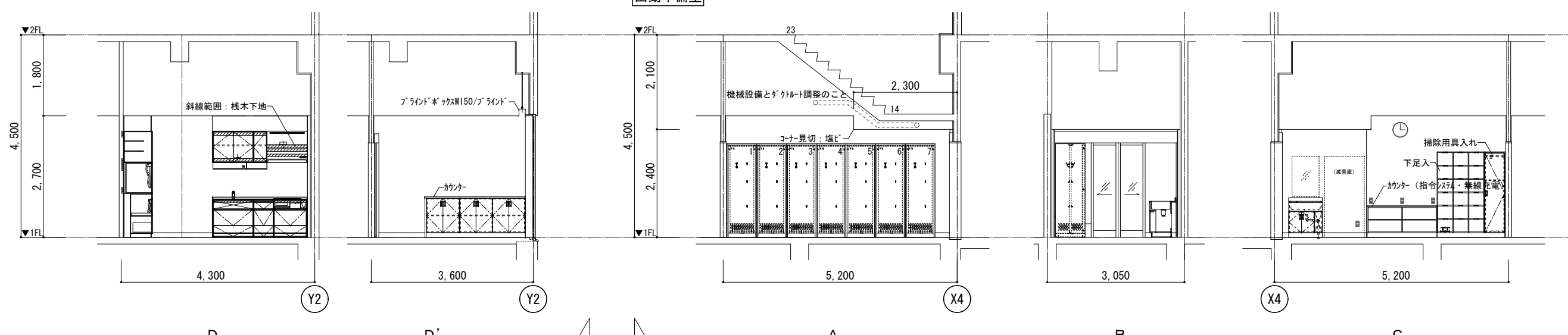
出勤準備室 CH=2,400/2,700		
床	下地	コンクリート金ゴテ押え
	仕上	厚膜型珪藻土樹脂系塗床 (防滑工法)
巾木	厚膜型珪藻土樹脂系塗床立上 H100	
壁	車庫側	硬質発泡ウレタン25
	下地 (車庫側)	LGS50型+強化石膏ボード t12.5
	下地 (間仕切)	LGS90型+強化石膏ボード t12.5
	仕上	超低VOC多機能型屋内水性塗料
廻縁	塩ビ	
天井	下地	LGS19型 振止め補強共
	仕上	化粧吸音石膏ボード t9.5張
備考	防火衣ロッカー (2交代制) 7基 カウンター、下足入 手洗い、鏡 ※機械設備工事	

多目的トイレ CH=2,700		
床	下地	コンクリート金ゴテ押え
	仕上	防滑性ビニル床シート2.5張 (防臭・防汚)
	仕上 (便器周り)	光触媒汚垂防止膜
巾木	ビニル巾木 H300	
壁	資機材倉庫側	硬質発泡ウレタン25
	下地 (資機材倉庫側)	LGS50型+耐水石膏ボード t12.5
	下地 (間仕切)	LGS50型+耐水石膏ボード t12.5
	仕上	珪藻土化粧板 t3.0
	廻縁	塩ビ
天井	下地	LGS19型 振止め補強共
	仕上	化粧吸音石膏ボード t9.5張
備考	ラインングカウンター 多機能トイレ (洋風便器・簡易オスト・手洗い 踏上手摺・大型鏡) 小便器※機械設備工事、受口FL+350以下	

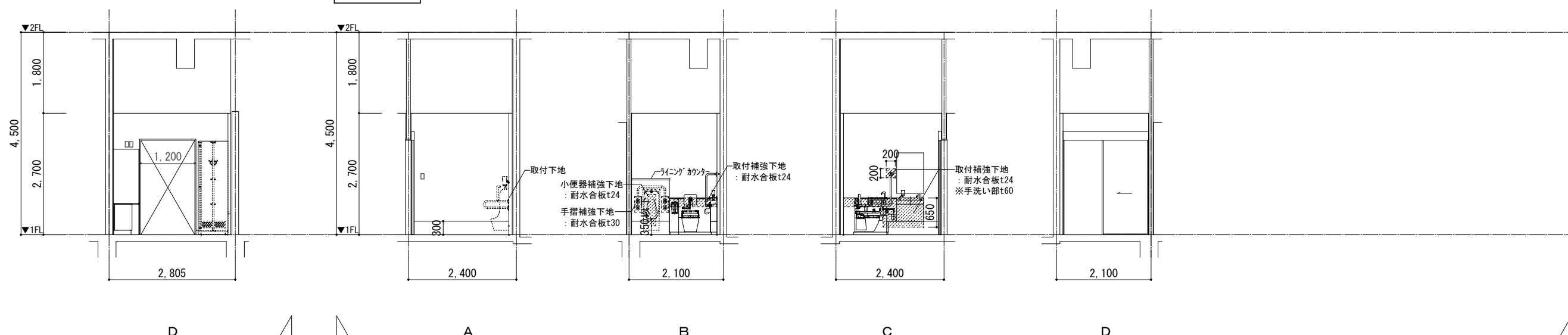
食堂兼厚生室



出勤準備室



多目的トイレ



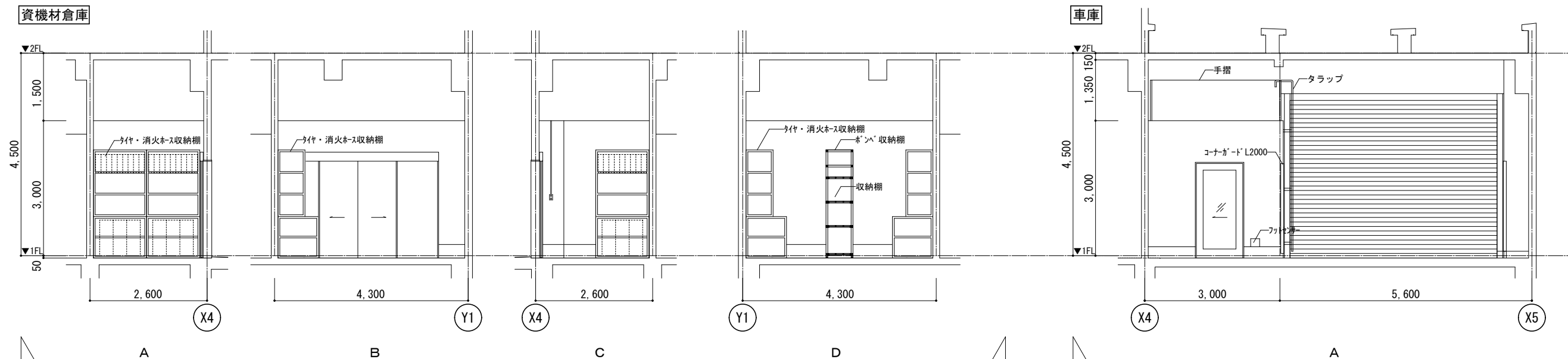
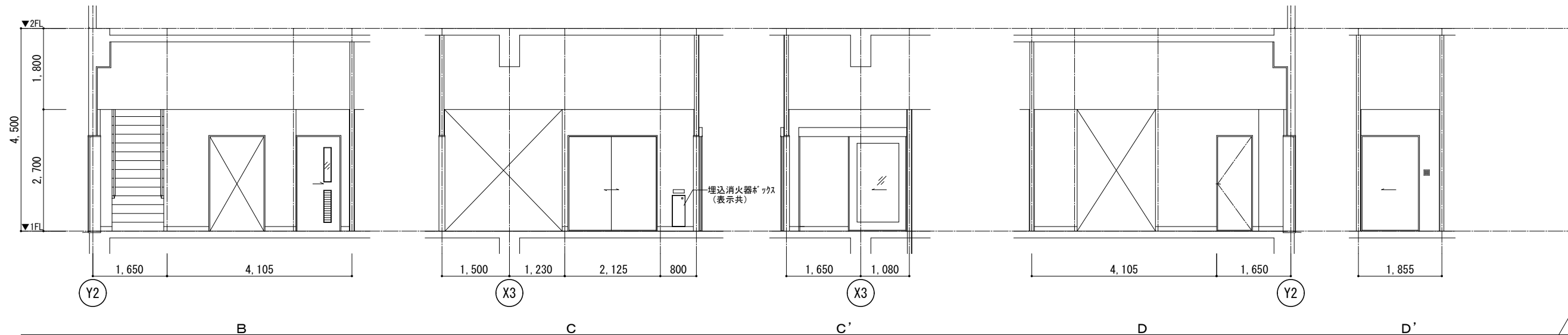
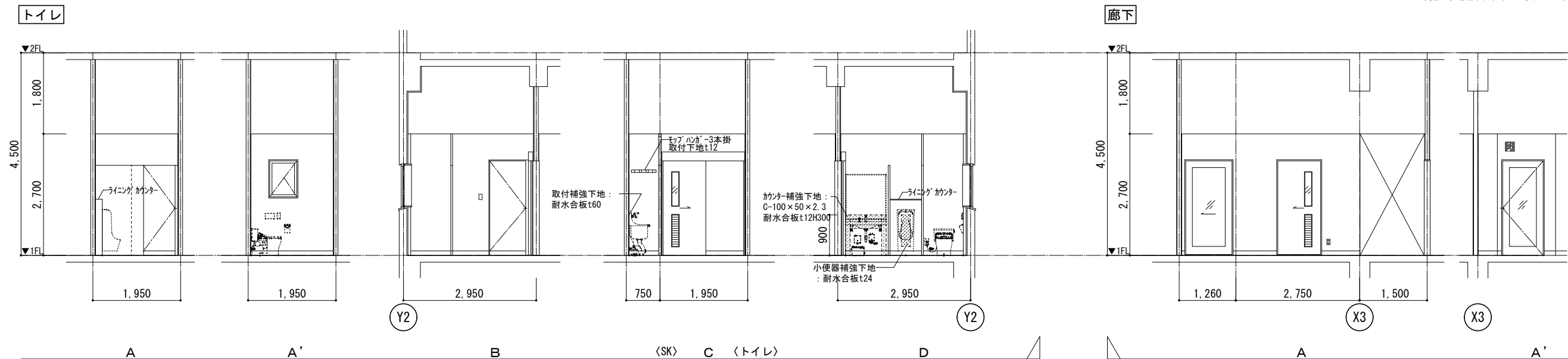
トイレ		CH=2,700
床	下地	コンクリート金ゴテ押え
	仕上	防滑性ビニル床シート2.5張 (防臭・防汚)
巾木		ビニル巾木 H100
壁	外壁面	硬質発泡ウレタンt25
	下地	LGS50型+耐水石膏ボードt12.5 (耐水石膏ボードは天井裏まで)
	下地	LGS50型+耐水石膏ボードt12.5 (間仕切)
	仕上	耐水石膏ボードは天井裏まで
廻縁	塩ビ	
天井	下地	LGS19型 振止め補強共
	仕上	化粧吸音石膏ボードt9.5張
備考	ライニングカウンター、モップ・ハグ-3本掛 小便器・洋風便器・手洗い・SK・壁点検口 鏡 ※機械設備工事	

廊下		CH=2,700
床	下地	コンクリート金ゴテ押え
	仕上	防滑性ビニル床シート2.5張
巾木		ビニル巾木 H100
壁	外壁面	硬質発泡ウレタンt25
	下地	LGS50型+強化石膏ボードt12.5 (外壁面)
	下地	LGS90型+強化石膏ボードt12.5 (間仕切)
	仕上	超低VOC多機能型屋内水性塗料
廻縁	塩ビ	
天井	下地	LGS19型 振止め補強共
	仕上	化粧吸音石膏ボードt9.5張
備考	埋込消火器ボックス (表示共)、誘導標識	

資機材倉庫		CH=2,700
床	下地	コンクリート金ゴテ押え
	仕上	厚膜型高耐久性変性エポキシ樹脂系塗床+速硬化・高耐候ハイブリッド型防滑塗床
巾木		厚膜型エポキシ樹脂系塗床 H300
壁	下地	コンクリート打放補修
	仕上	複層仕上塗材E
廻縁	塩ビ	
天井	下地	LGS19型 振止め補強共
	仕上	化粧石膏ボードt6張
備考	パイプ・ホース収納棚、収納棚、ホッパ棚	

車庫		CH=4,350~4,450
床	下地	コンクリート金ゴテ押え
	仕上	厚膜型高耐久性変性エポキシ樹脂系塗床+速硬化・高耐候ハイブリッド型防滑塗床
巾木		厚膜型高耐久性変性エポキシ樹脂系塗床立上 H200~300
壁	下地	コンクリート打放補修
	仕上	複層塗材E
廻縁	-	
天井	下地	コンクリート打放補修
	仕上	複層塗材E (梁型共)
備考	大型電動折戸、7/8型オートバースライドドア SUS製床置消火器スタンド (固定フック表示共) コーナーボードL2000 車庫床ライン引き (W200, W100)、誘導標識 排水溝※機械設備工事	

※特記なき限り、仕上表による



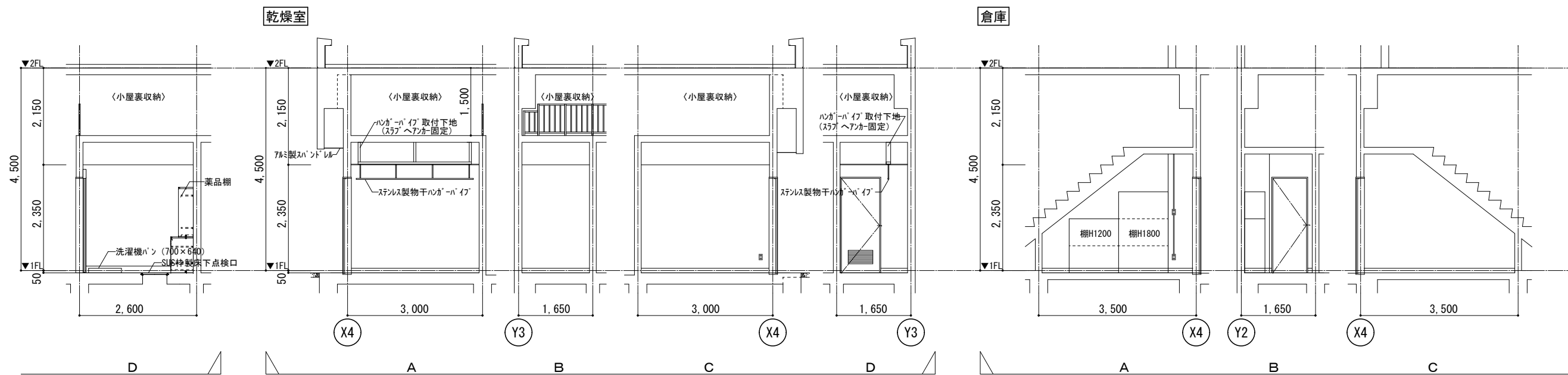
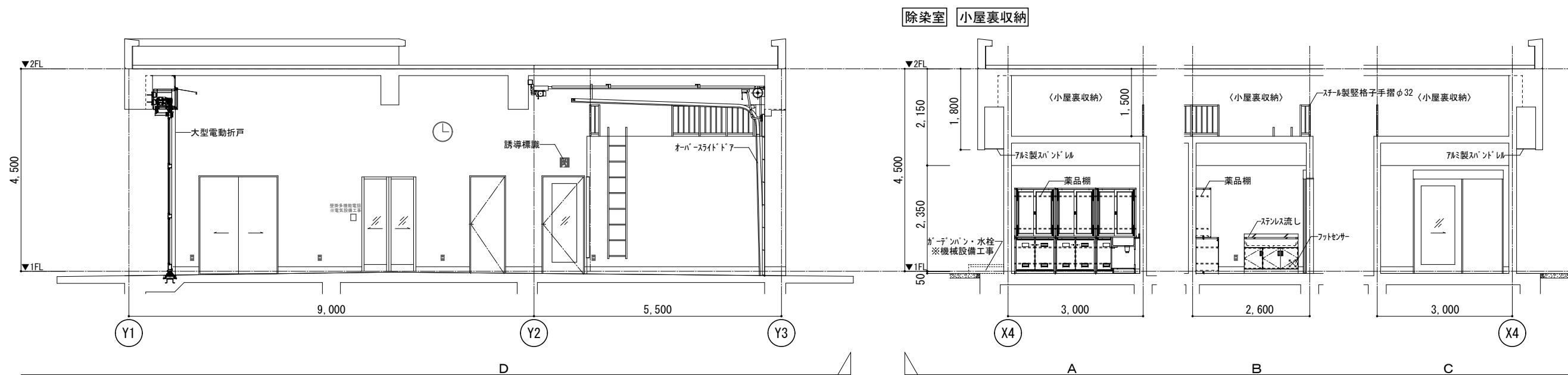
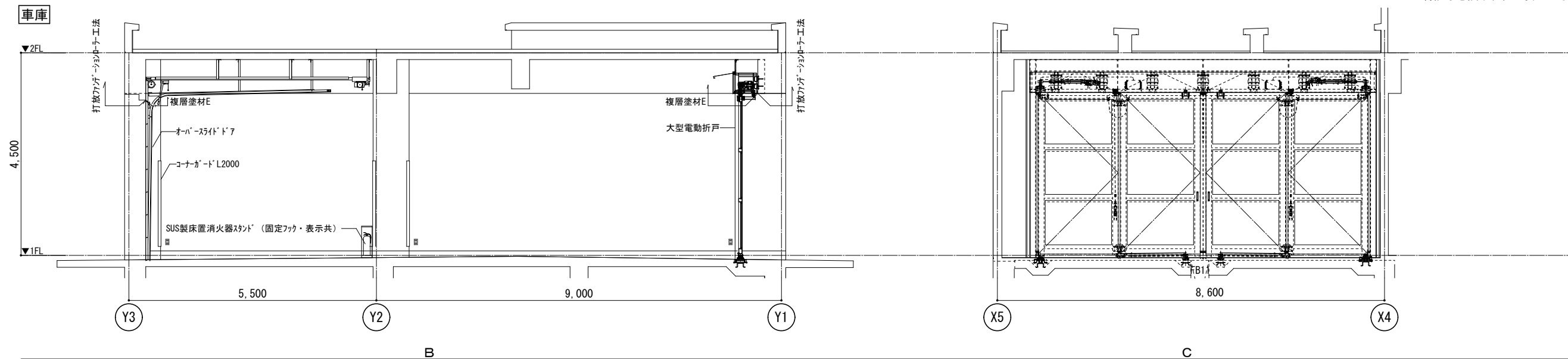
小屋裏収納 OH=1.350		
床	下地	コンクリート金ゴテ
	仕上	厚膜型高耐久性変性Eポキシ樹脂系塗床+ 速硬化・高耐候ハイブリッド型防滑塗床
巾木	—	
壁	下地	コンクリート打放補修
	仕上	複層塗材E
廻縁	—	
天井	下地	コンクリート打放補修
	仕上	複層塗材E
備考	SUS製フック、スチール製縦格子手摺	

除染室 OH=2.400		
床	下地	コンクリート金ゴテ押え
	仕上	厚膜型高耐久性変性Eポキシ樹脂系塗床+ 速硬化・高耐候ハイブリッド型防滑塗床
巾木	厚膜型高耐久性変性Eポキシ樹脂系塗床立上 H300	
壁	下地	コンクリート打放補修
	仕上	複層仕上塗材E
廻縁	—	
天井	下地	コンクリート打放補修
	仕上	化粧珪藻土板t6張
備考	ステンレス製流し台、洗濯機ハン(700×640) 吊り戸棚(薬品収納)、薬品棚 軒天:7mm製スチール張 SUS枠製床下点検口 600×600	

乾燥室 OH=2.400		
床	下地	コンクリート金ゴテ押え
	仕上	厚膜型高耐久性変性Eポキシ樹脂系塗床+ 速硬化・高耐候ハイブリッド型防滑塗床
巾木	厚膜型高耐久性変性Eポキシ樹脂系塗床立上 H300	
壁	下地	コンクリート打放補修
	仕上	複層仕上塗材E
廻縁	—	
天井	下地	コンクリート打放補修
	仕上	化粧珪藻土板t6張
備考	ステンレス製物干ハンガーL2600 軒天:7mm製スチール張	

倉庫		
床	下地	コンクリート金ゴテ押え
	仕上	厚膜型高耐久性変性Eポキシ樹脂系塗床+ 速硬化・高耐候ハイブリッド型防滑塗床
巾木	厚膜型高耐久性変性Eポキシ樹脂系塗床立上 H300	
壁	下地	コンクリート打放補修
	仕上	複層塗材E
廻縁	—	
上裏	下地	コンクリート打放補修
	仕上	複層塗材E
備考	—	

※特記なき限り、仕上表による



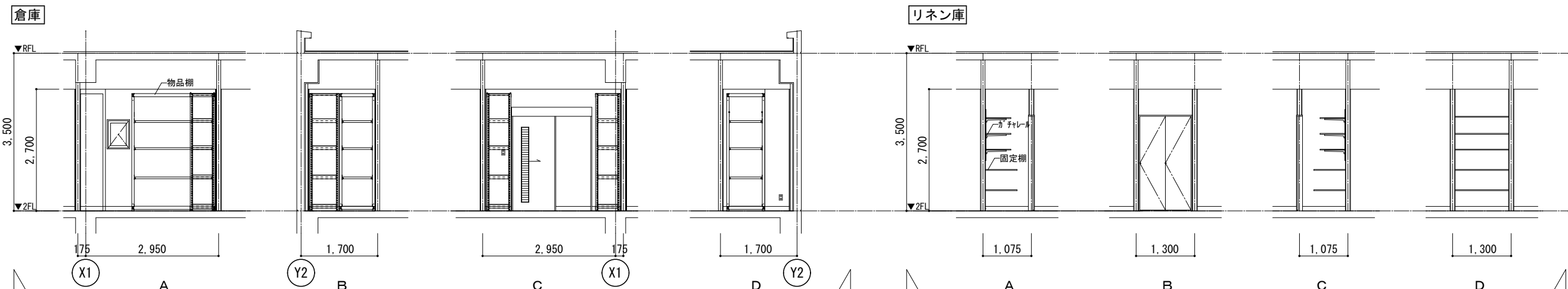
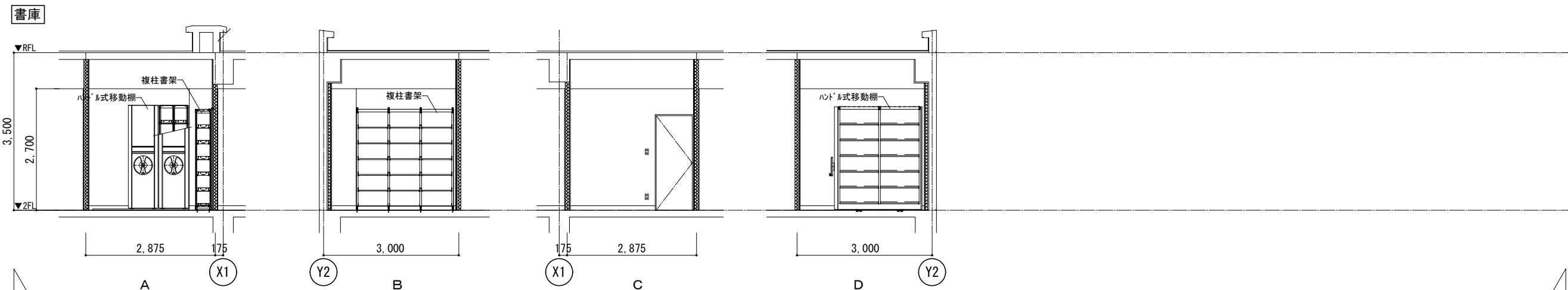
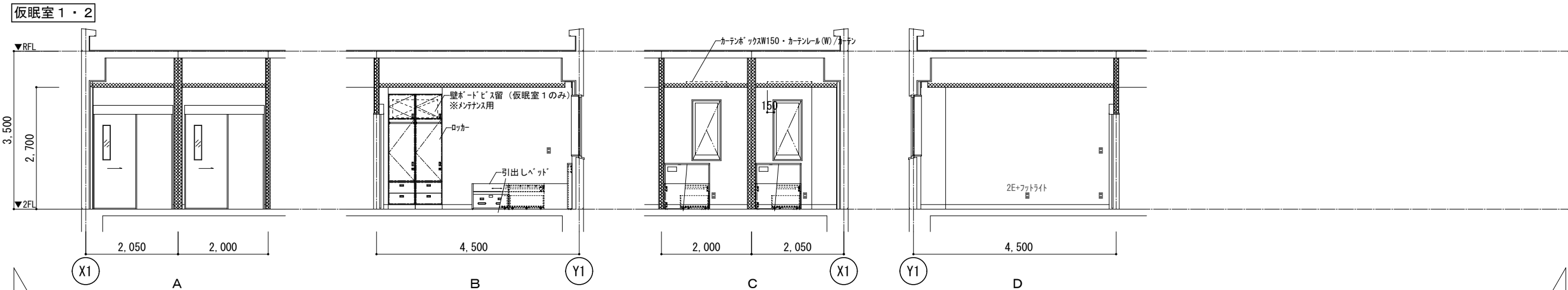
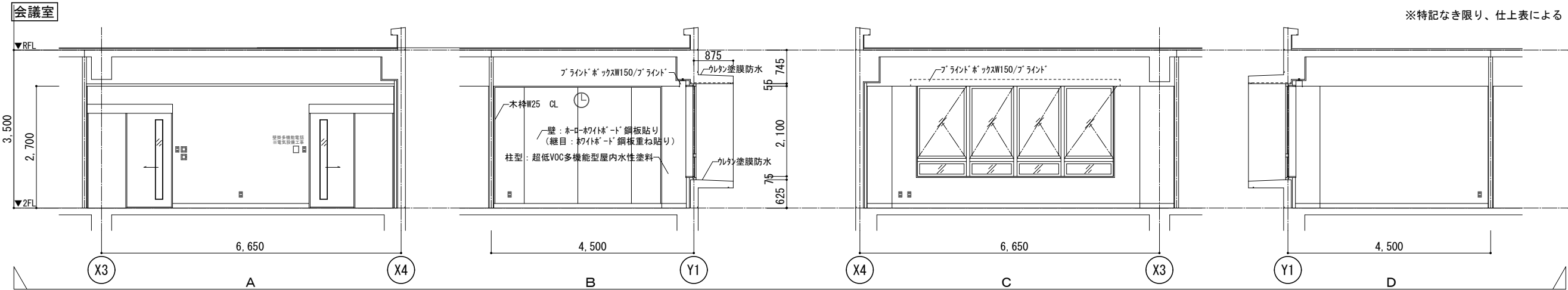
会議室 CH=2,700		
床	下地	コンクリート金ゴテ押え
	仕上	防滑性ビニル床シート2.5張
巾木	木製 (ヒノキ)	
壁	外壁面	硬質発泡ウレタン25
	下地 (外壁面)	LGS50型+強化石膏ボード t12.5
	下地 (間仕切)	LGS90型+強化石膏ボード t12.5
	仕上 (X4通り)	超低VOC多機能型屋内水性塗料
	仕上 (上記以外)	ホーローイトボード 鋼板貼り
廻縁	塩ビ	
天井	下地	LGS19型 振止め補強共
	仕上	化粧吸音石膏ボード t9.5張
備考	ブラインドボックス/ブラインド ホーロー放設備 ※電気設備工事	

仮眠室 CH=2,700		
床	下地	コンクリート金ゴテ押え
	仕上	防滑性ビニル床シート2.5張
巾木	木製 (ヒノキ)	
壁	外壁面	硬質発泡ウレタン25
	下地 (外壁面)	LGS50型+強化石膏ボード t12.5
	下地 (間仕切)	LGS90型+強化石膏ボード t12.5 ガラス-24kg/m3 t50充填 ※ボードは躯体まで
	仕上	超低VOC多機能型屋内水性塗料
廻縁	塩ビ	
天井	下地	LGS19型 振止め補強共
	仕上	化粧吸音石膏ボード t9.5張 ガラス-24kg/m3充填
備考	カーテンボックス/カーテンレール(W)/カーテン (防災・遮光) ロッカー2基、下部収納付ベッド	

書庫 CH=2,700		
床	下地	コンクリート金ゴテ押え
	仕上	防滑性ビニル床シート2.5張
巾木	ビニル巾木 H100	
壁	外壁面	硬質発泡ウレタン25
	下地 (外壁面)	LGS50型+強化石膏ボード t12.5+t12.5 GW (強化石膏ボードは天井裏まで)
	下地 (間仕切)	LGS90型+強化石膏ボード t12.5+t12.5 GW (強化石膏ボードは天井裏まで)
	仕上	超低VOC多機能型屋内水性塗料
廻縁	塩ビ	
天井	下地	LGS19型 振止め補強共
	仕上	化粧吸音石膏ボード t9.5張
備考	移動書架、高書架、防火設備	

倉庫 CH=2,700		
床	下地	コンクリート金ゴテ押え
	仕上	防滑性ビニル床シート2.5張 (耐水)
巾木	ビニル巾木 H100	
壁	下地	LGS90型+耐水石膏ボード t12.5
	仕上	超低VOC多機能型屋内水性塗料
廻縁	塩ビ	
天井	下地	LGS19型 振止め補強共
	仕上	化粧吸音石膏ボード t9.5張
備考	物品棚	

リネン庫 CH=2,700		
床	下地	コンクリート金ゴテ押え
	仕上	防滑性ビニル床シート2.5張 (耐水)
巾木	ビニル巾木 H100	
壁	下地	LGS90型+耐水石膏ボード t12.5
	仕上	超低VOC多機能型屋内水性塗料
廻縁	塩ビ	
天井	下地	LGS19型 振止め補強共
	仕上	化粧吸音石膏ボード t9.5張
備考	ガチャレール・ブラケット、可動棚3段、固定棚	



※特記なき限り、仕上表による



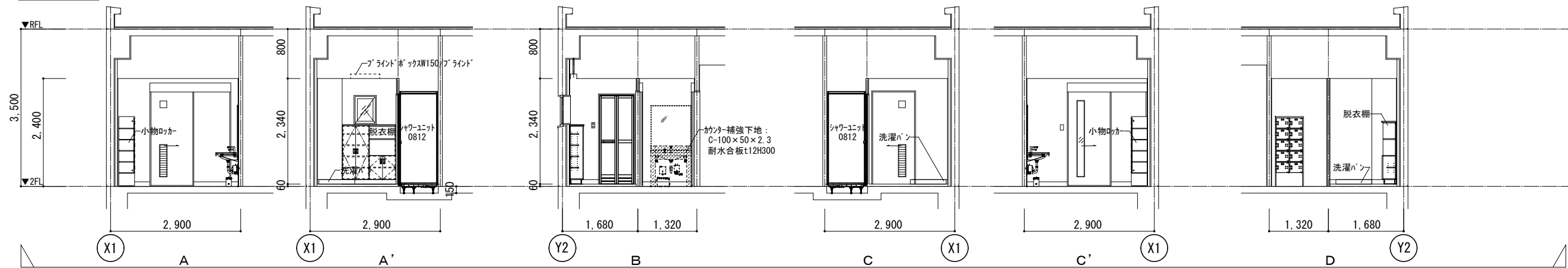
洗面脱衣室 CH=2,400/2,350		
床	下地	コンクリート金ゴテ押え
	仕上	防滑性ビニル床シート2.5張
巾木	ビニル巾木	
壁	外壁面	硬質発泡ウレタン25
	下地(外壁面)	LGS50型+耐水石膏ボード t12.5
	下地(間仕切)	LGS90型+耐水石膏ボード t12.5
	仕上	超低VOC多機能型屋内水性塗料
廻縁	塩ビ	
天井	下地	LGS19型 振止め補強共
	仕上	化粧吸音石膏ボード t9.5張
備考	ブラインドボックス/ブラインド	

トイレ1 CH=2,400		
床	下地	コンクリート金ゴテ押え
	仕上	防滑性ビニル床シート2.5張 (防臭・防汚)
巾木	ビニル巾木 H100	
壁	外壁面	硬質発泡ウレタン25
	下地	LGS50型+耐水石膏ボード t12.5 (耐水石膏ボードは天井裏まで)
	下地(間仕切)	LGS50型+耐水石膏ボード t12.5 (耐水石膏ボードは天井裏まで)
	仕上	珪藻土化粧合板 t3.0
廻縁	塩ビ	
天井	下地	LGS19型 振止め補強共
	仕上	化粧吸音石膏ボード t9.5張
備考	手洗い 鏡 ※機械設備工事	

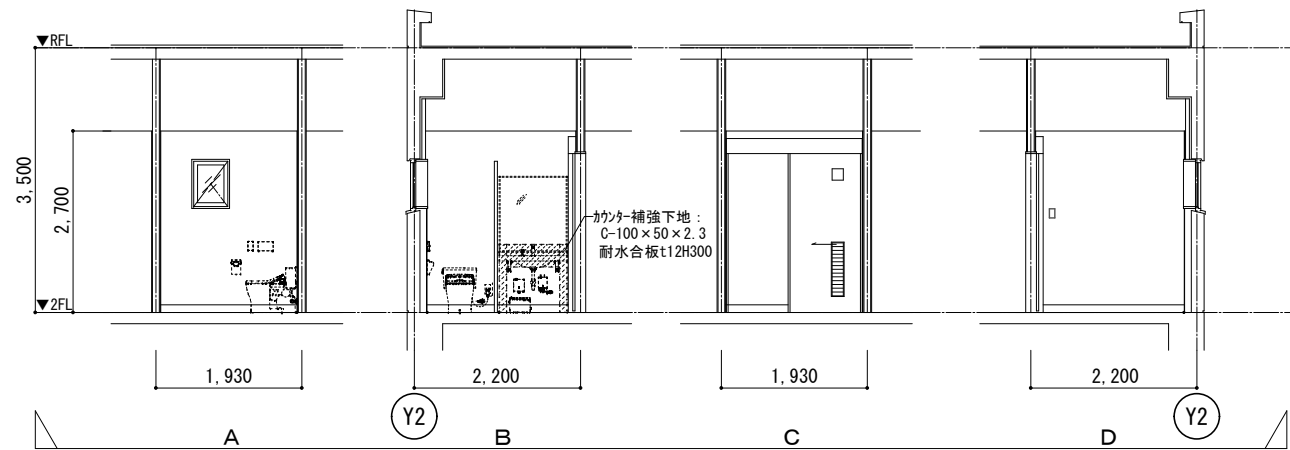
トイレ2 CH=2,400		
床	下地	コンクリート金ゴテ押え
	仕上	防滑性ビニル床シート2.5張 (防臭・防汚)
	仕上(小便器周り)	光触媒汚垂防止膜
巾木	ビニル巾木 H100	
壁	外壁面	硬質発泡ウレタン25
	下地	LGS50型+耐水石膏ボード t12.5 (耐水石膏ボードは天井裏まで)
	下地(間仕切)	LGS50型+耐水石膏ボード t12.5 (耐水石膏ボードは天井裏まで)
	仕上	珪藻土化粧合板 t3.0
廻縁	塩ビ	
天井	下地	LGS19型 振止め補強共
	仕上	化粧吸音石膏ボード t9.5張
備考	ライニングカウンター 小便器・手洗い 鏡 ※機械設備工事	

廊下 CH=2,700		
床	下地	コンクリート金ゴテ押え
	仕上	防滑性ビニル床シート2.5張
巾木	ビニル巾木 H100	
壁	外壁面	硬質発泡ウレタン25
	下地(外壁面)	LGS50型+強化石膏ボード t12.5
	下地(間仕切)	LGS90型+強化石膏ボード t12.5
	仕上	超低VOC多機能型屋内水性塗料
廻縁	塩ビ	
天井	下地	LGS19型 振止め補強共
	仕上	化粧吸音石膏ボード t9.5張
備考	埋込消火器ボックス(表示共)、誘導標識	

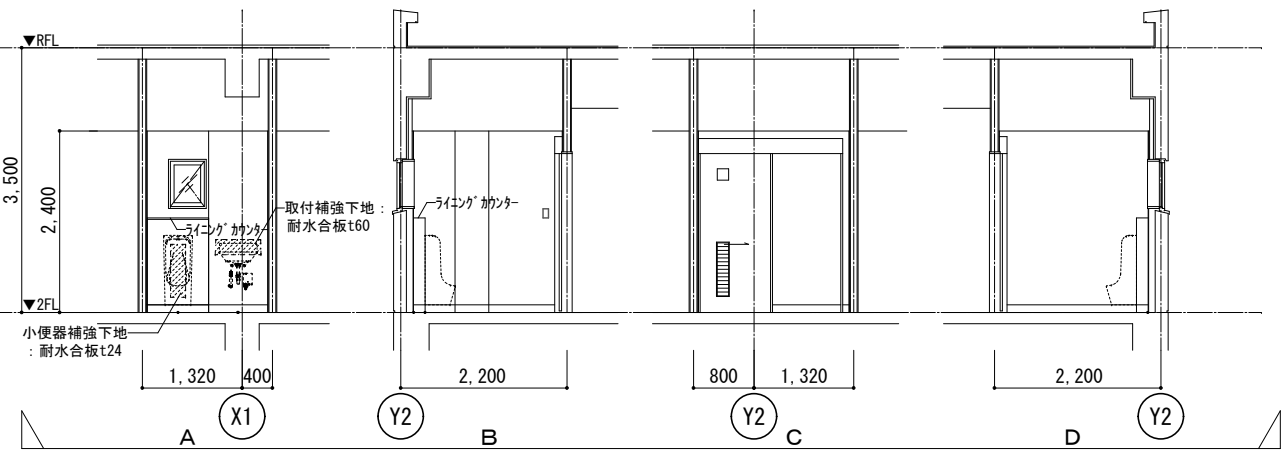
洗面脱衣室1



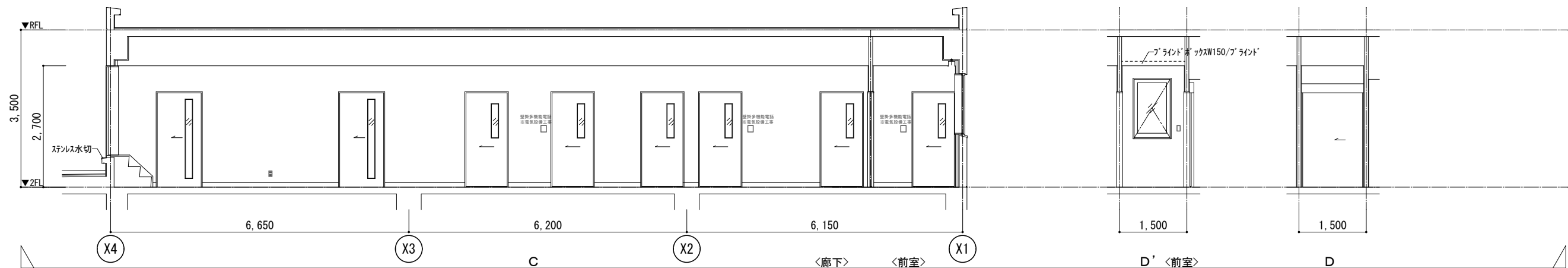
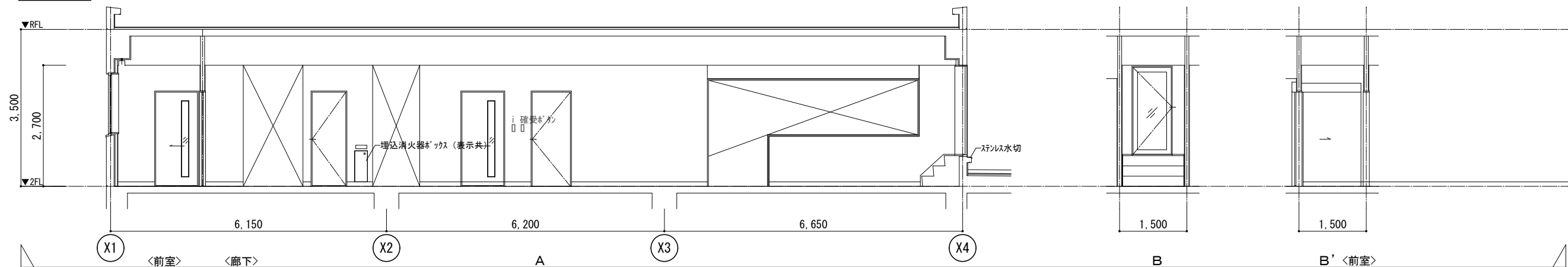
トイレ1



トイレ2

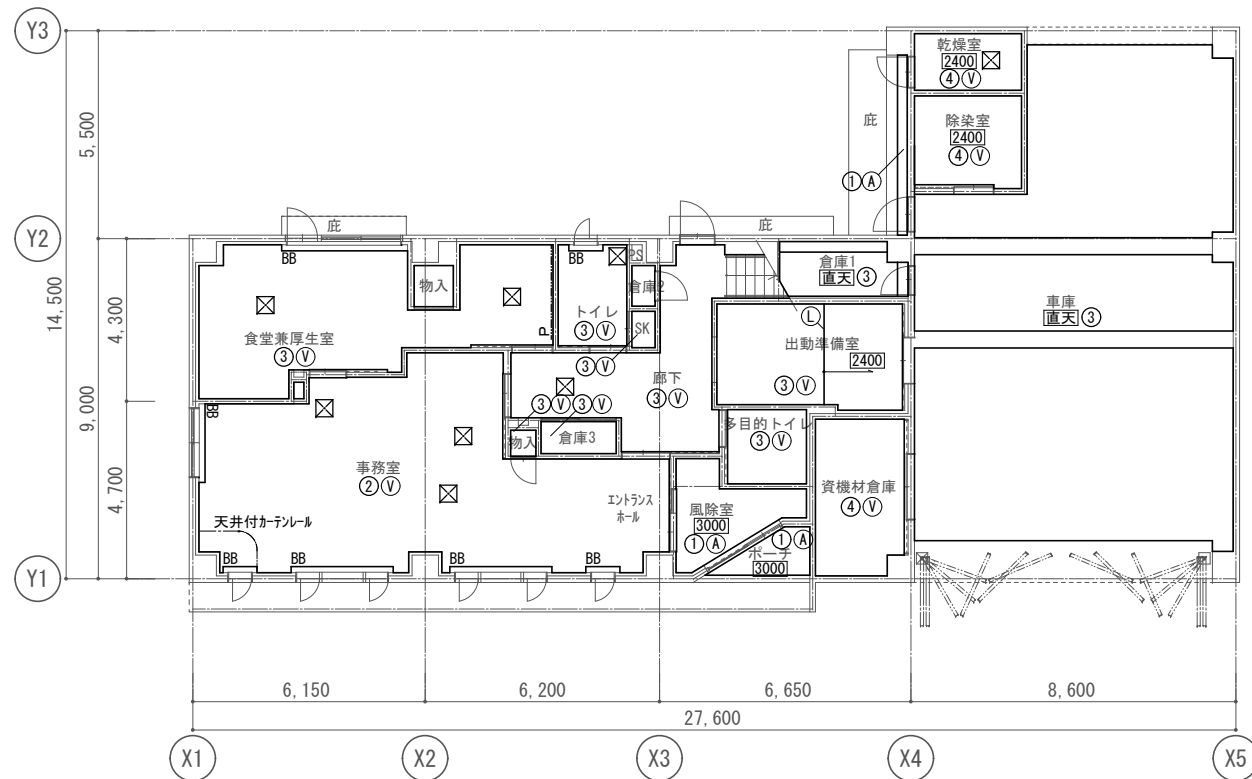
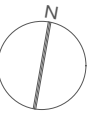


廊下・前室

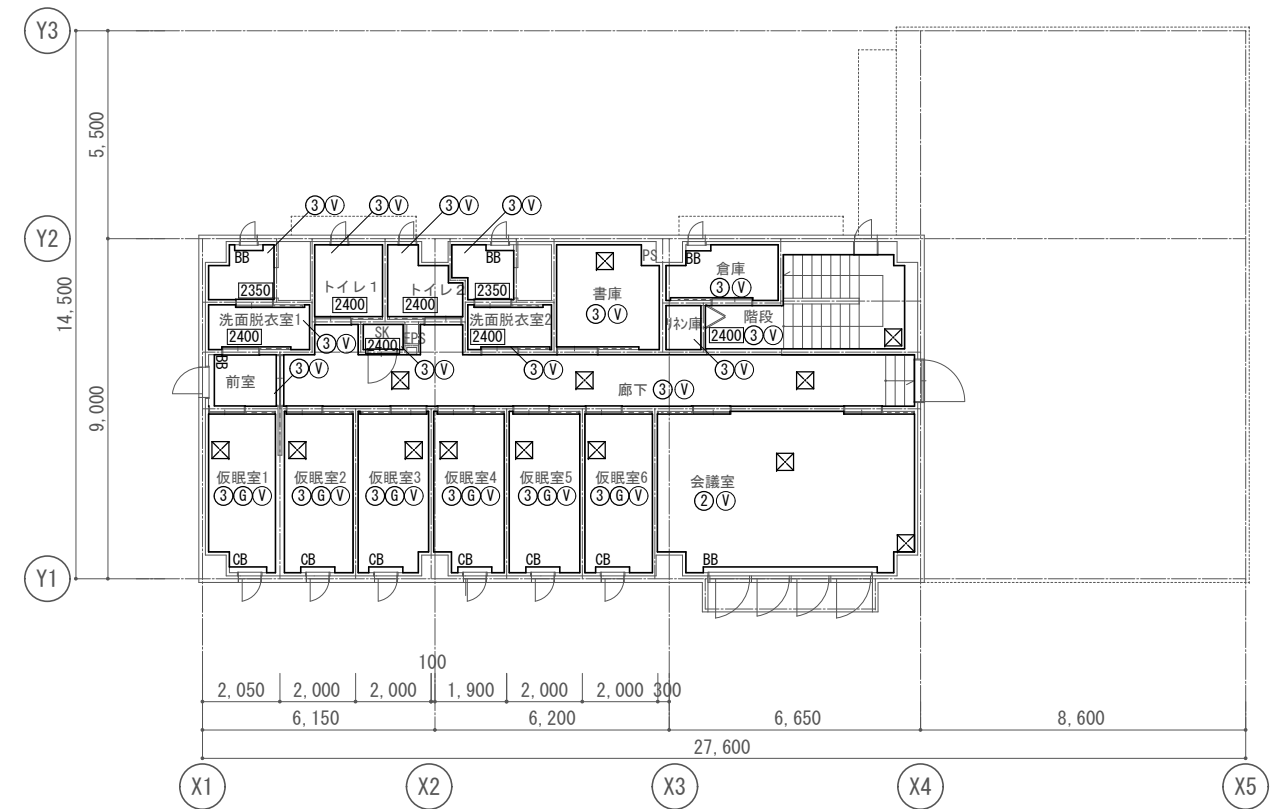


※特記なき限り、仕上表による

記号	仕様	記号	天井仕上
****	天井高さ (記載なき室は全てCH=2700)	①	アルミ製スパンドレル張
BB	ブラインドボックス/ブラインド	②	岩綿吸音板 (フラットタイプ) t12
CB	カーテンボックス・カーテンレール(W)/カーテン	③	化粧吸音用あなき石膏ボード
P	ピクチャーレール	④	ケイ酸カルシウム板 t6
☒	天井点検口 (目地タイプ) □450	⑤	複層塗材E
Ⓥ	塩ビ廻り縁	⑥	グラスウール24kg/m3
Ⓐ	アルミ廻り縁		
Ⓛ	アルミ見切 (ホワイト)		

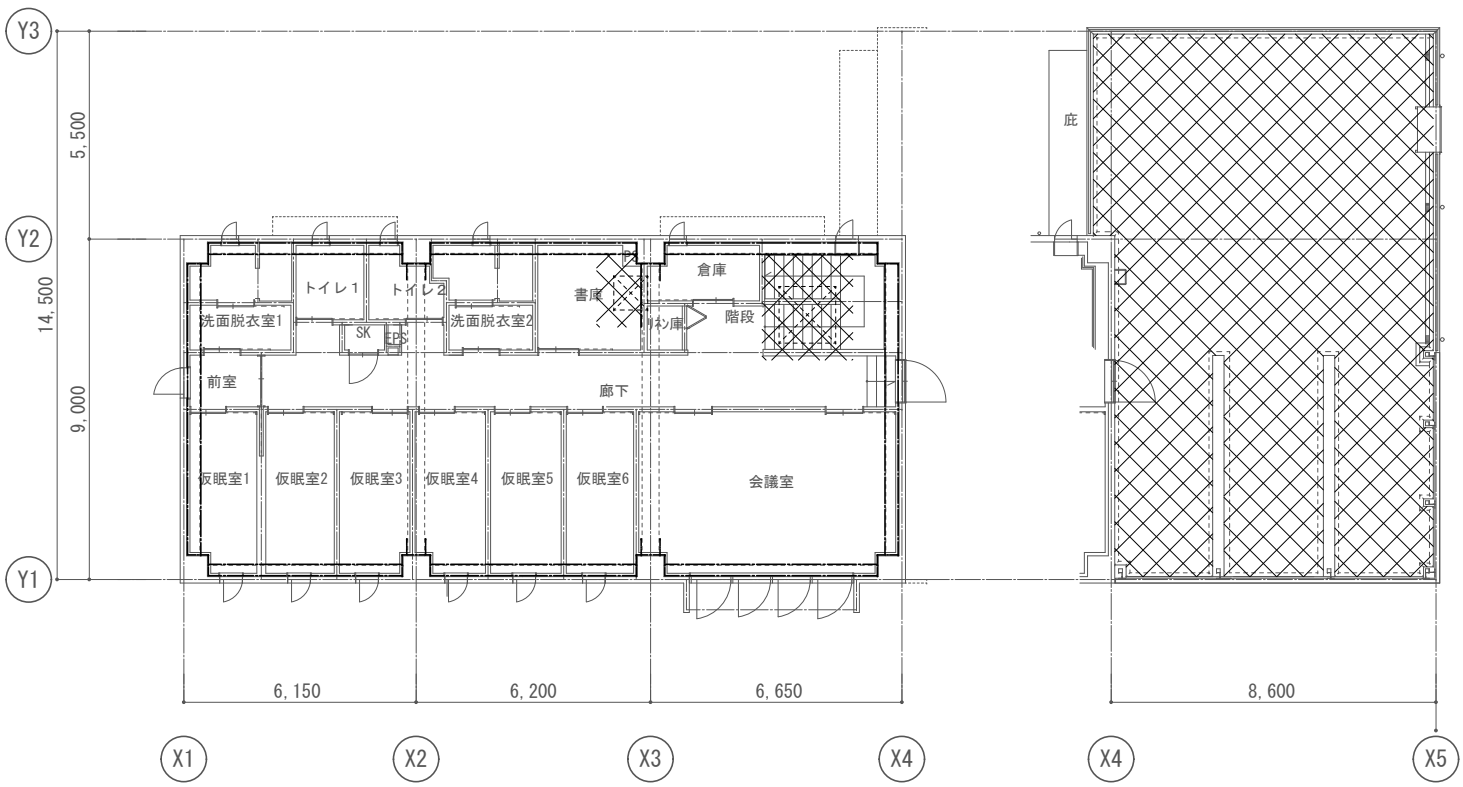


1階天井伏図



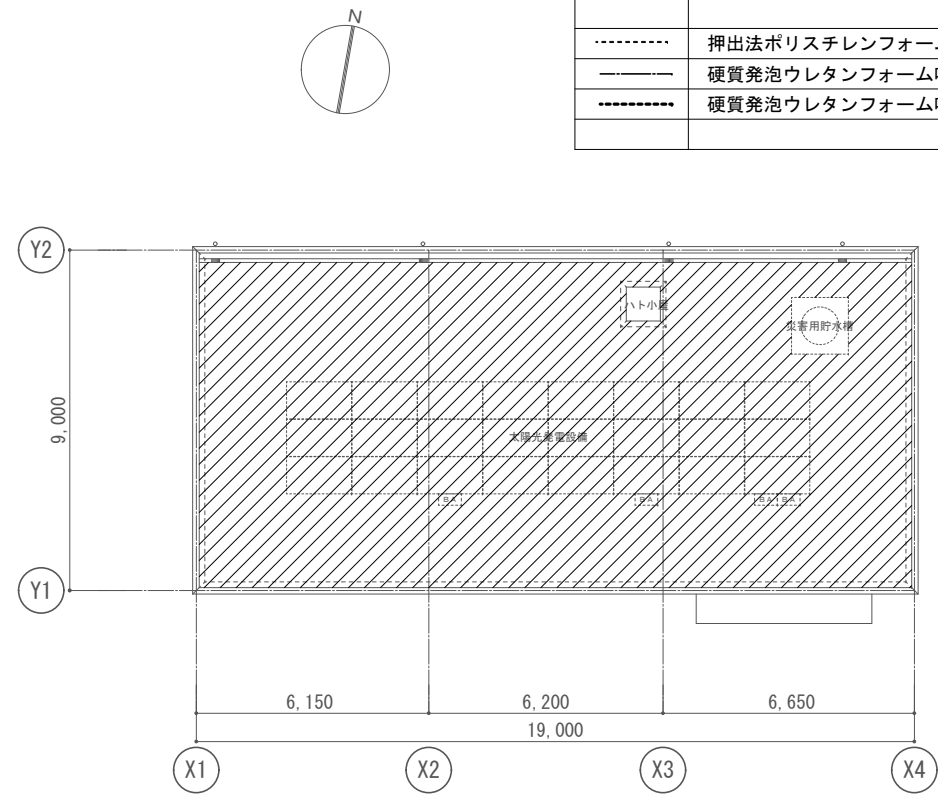
2階天井伏図

記号	断熱仕様
	硬質ウレタンフォームt30
	押出法ポリスチレンフォーム保温板3種 b t35
	押出法ポリスチレンフォーム保温板3種 b t35 (ｽﾌﾟﾝﾀﾞｰ 下端より450)
	硬質発泡ウレタンフォーム吹付t25
	硬質発泡ウレタンフォーム吹付t25 (ｽﾌﾟﾝﾀﾞｰ 下端より450)

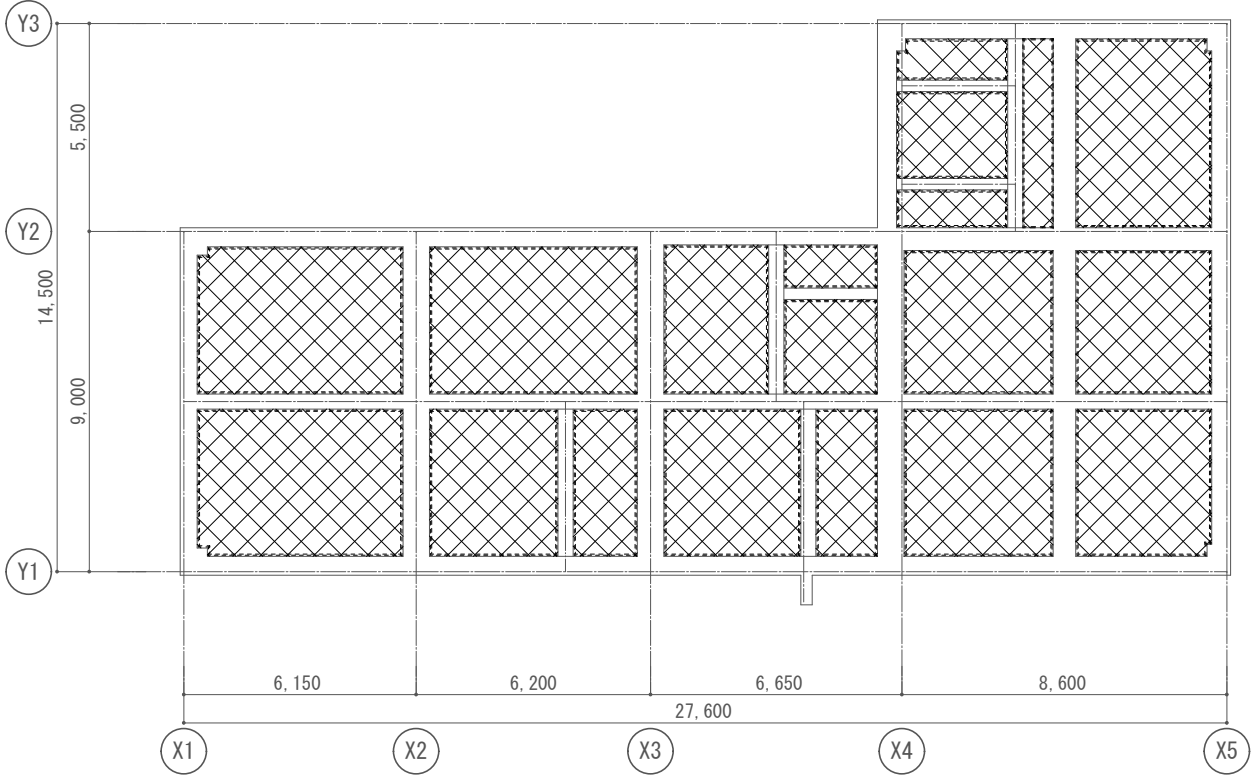


2階断熱見上

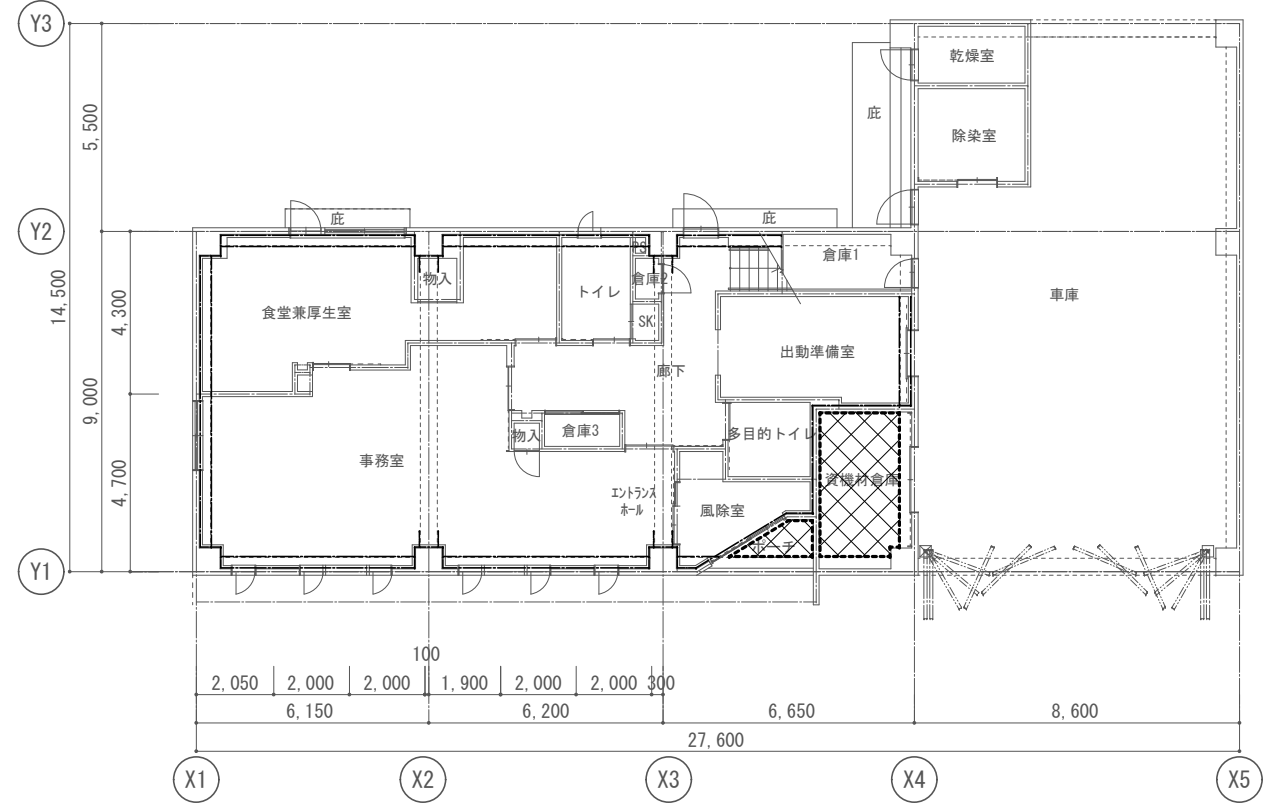
2階断熱伏図



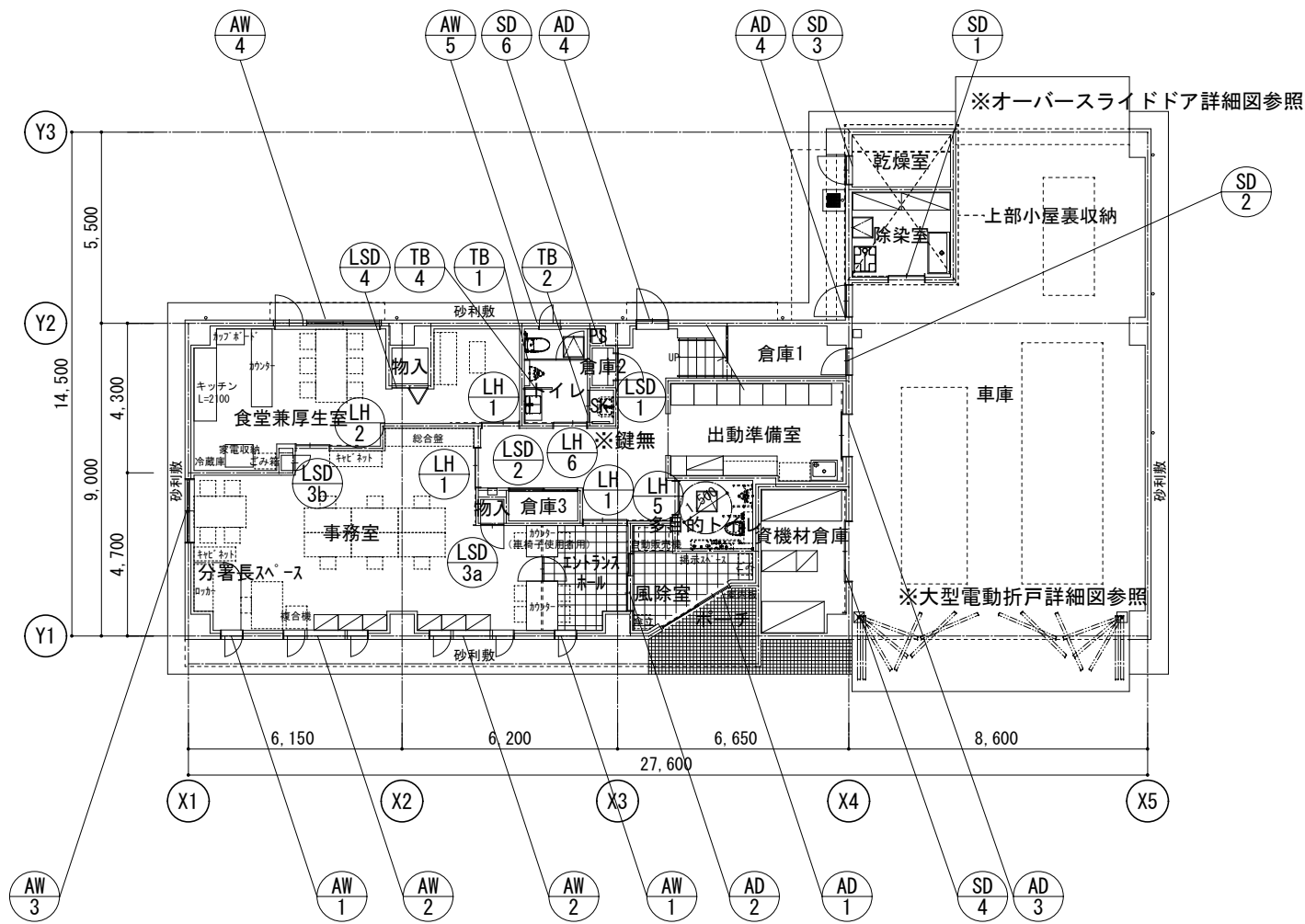
屋上断熱伏図



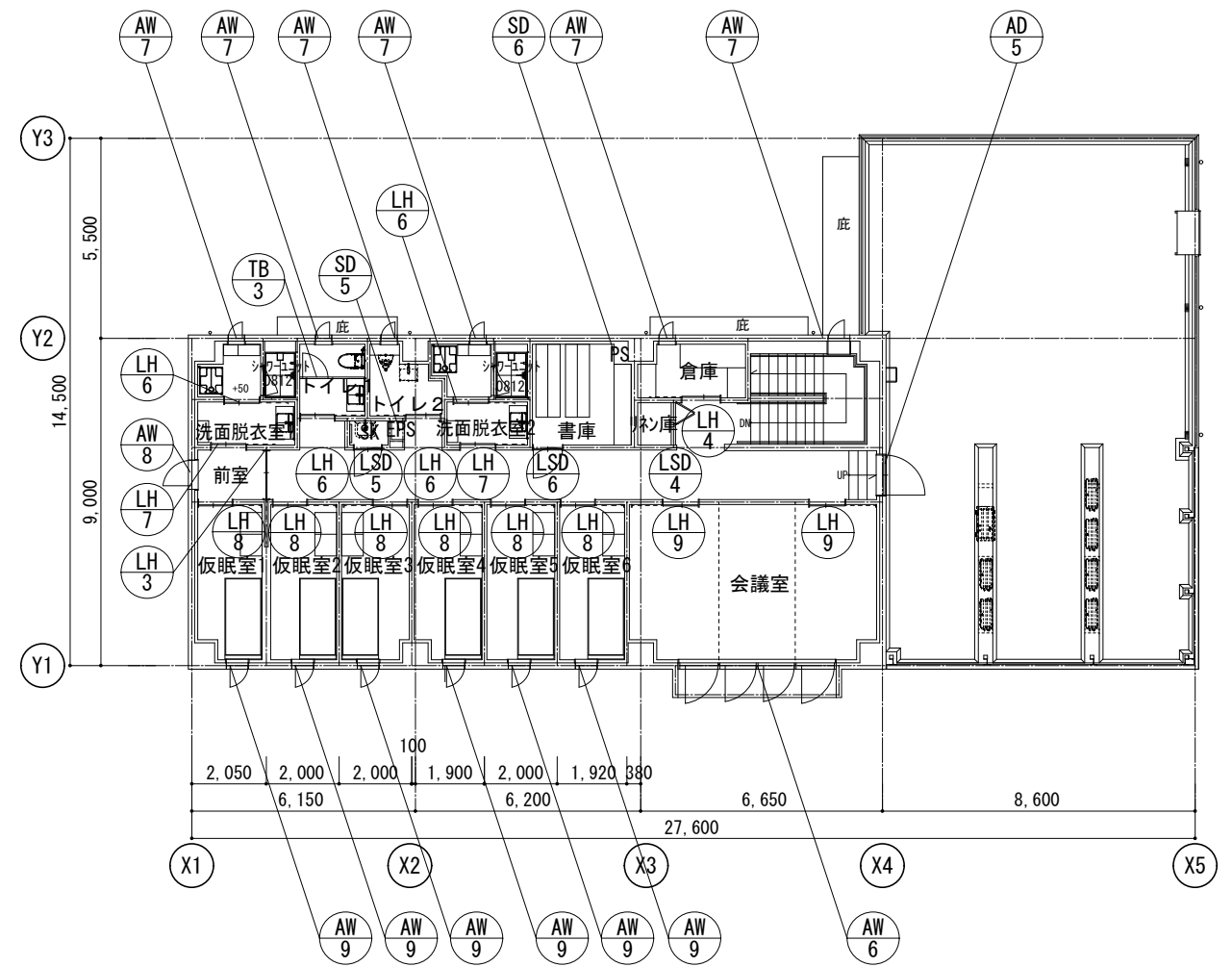
ピット断熱見上



1階断熱見上



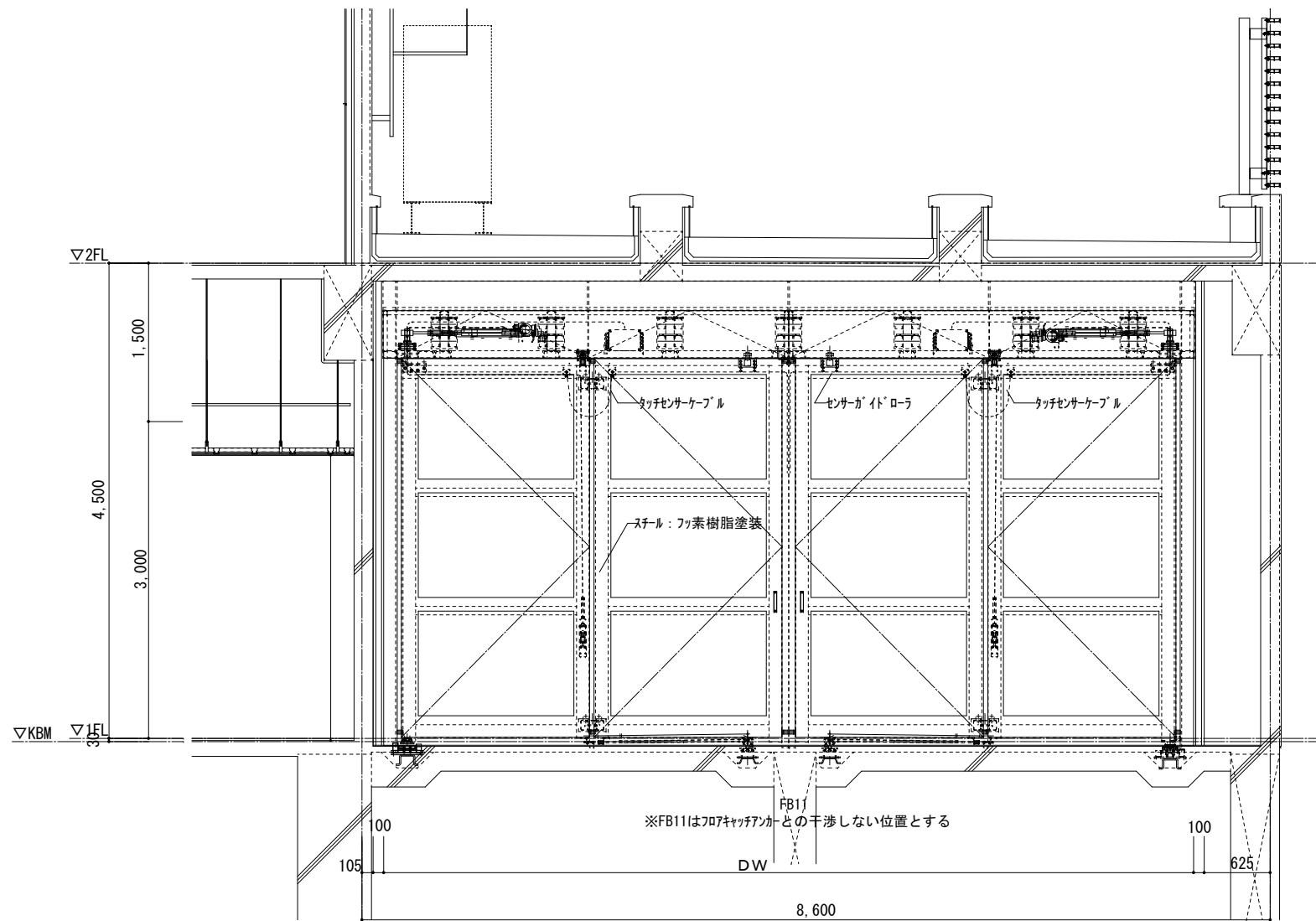
1階キープラン



2階キープラン

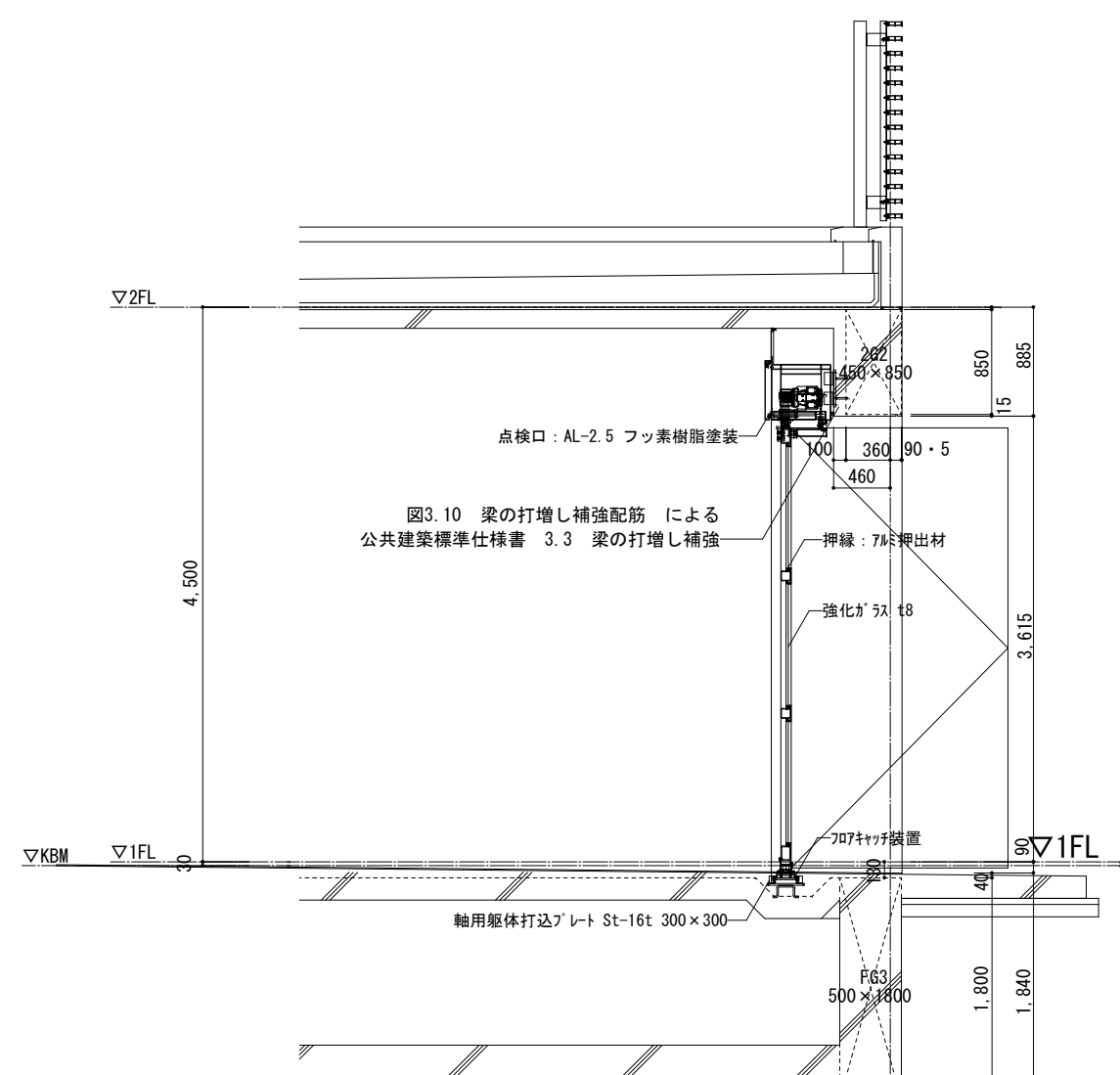
符号・型式	AD1 アルミ製片引き自動ドア ドアエンジンアルミサッシ内蔵	AD2 アルミ製片引き自動ドア ドアエンジンアルミサッシ内蔵	AD3 アルミ製両引き自動ドア	AD4 アルミ製片引きドア+FIX	AD5 アルミ製片引きドア+FIX	共通事項 ・アルミ製建具の額縁は木製とし、 見付25 SOP仕上とする
姿 図						
室 名	1階 風除室	1階 エントランスホール	1階 出動準備室	1階 廊下、車庫	2階 廊下	
材 質	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	
見 込						
硝 子	TP8 欄間部：FL5+A+FL5	TP8 欄間部：FL5+A+FL5	TP8 斜線部：7&M&A	FL5+A6+FW6.8	FL5+A6+FW6.8	
備 考	電気錠(非常開錠装置)/感知センサー/床ガードレール/衝突防止Φ20 飛散防止フィルム、電源遠隔管理装置、安全センサー、付属金物一式	自動ドア開錠装置/感知センサー/床ガードレール/衝突防止Φ20 飛散防止フィルム、電源遠隔管理装置、安全センサー、付属金物一式	自動ドア開錠装置、感知センサー、補助センサー 飛散防止フィルム、床ガードレール、付属金物一式	丁番、レバーハンドル、ドアローザ、電気錠(非常開錠装置付) 戸当り、他付属金物一式	丁番、レバーハンドル、シングル-掘込箱錠(外部鍵+内部鍵付) ドアローザ、戸当り、他付属金物一式	
符号・型式	SD1 スチール製片引き自動ドア	SD2 スチール製片引きフラッシュドア	SD3 スチール製片引きフラッシュドア	SD4 スチール製両引きフラッシュドア	SD5 スチール製片引きフラッシュドア	SD6 スチール製片引きフラッシュドア
姿 図						
室 名	1階 除染室	1階 倉庫1	1階 乾燥室	1階 資機材倉庫	2階 EPS	1・2階 PS
材 質	スチール製t1.6 亜鉛メッキ鋼板 2-ASE	スチール製t1.6 亜鉛メッキ鋼板 2-ASE	スチール製t1.6 亜鉛メッキ鋼板 2-ASE	スチール製t1.6 亜鉛メッキ鋼板 2-ASE	スチール製t0.8 亜鉛メッキ鋼板 2-ASE	スチール製t0.8 亜鉛メッキ鋼板 2-ASE
見 込						
硝 子	t8 フライライト			三方枠・沓摺(ステンレス t1.5 W42) 一体形		
備 考	シングル-本締錠、自動ドア開閉装置、感知センサー フラッシュセンサー、床ガードレール	丁番、レバーハンドル、ドアローザ 戸当り、他付属金物一式	丁番、レバーハンドル、ドアローザ 戸当り、他付属金物一式	引棒、ハンガーレール、引戸用錠(鍵/サムターン) 戸当り、他付属金物一式	ヒールピン、掘込引手(点検錠) 戸当り、他付属金物一式	スプリングヒンジ、掘込引手(点検錠) 戸当り、他付属金物一式
符号・型式	AW1 堅すべりだし窓	AW2 堅すべりだし窓+嵌め殺し窓	AW3 引違窓	AW4 アルミ製片引きドア+引違窓	AW5 堅すべりだし窓	
姿 図						
室 名	1階 事務室	1階 事務室	1階 事務室	1階 食堂	1階 トイレ	
材 質	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	
見 込						
硝 子	FL5+A6+FL5	FL5+A6+FL5	FL5+A6+FL5	FL5+A6+FW6.8(開き扉)、FL5+A6+FL5(腰窓)	FL5+A6+型ガラスt4	
備 考	丁番、レバーハンドル、網戸(ガラス繊維入合成樹脂製) 開き位置調整器、7-メッキ、戸当り、他付属金物一式	丁番、レバーハンドル、網戸(ガラス繊維入合成樹脂製) 開き位置調整器、7-メッキ、戸当り、他付属金物一式	丁番、レバーハンドル、網戸(ガラス繊維入合成樹脂製) 戸当り、他付属金物一式	丁番、レバーハンドル、クレット、ドアローザ 電気錠(非常開錠装置付)、戸当り、他付属金物一式、網戸	丁番、レバーハンドル、網戸(ガラス繊維入合成樹脂製) 開き位置調整器、7-メッキ、戸当り、他付属金物一式	
符号・型式	AW6 堅すべりだし窓連窓	AW7 堅すべりだし窓	AW8 堅すべりだし窓	AW9 堅すべりだし窓		
姿 図						
室 名	2階 会議室	2階 トイレ・洗面脱衣室・倉庫・階段	2階 廊下	2階 仮眠室		
材 質	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ		
見 込						
硝 子	FL5+A6+FL5	FL5+A6+型ガラスt4	FL5+A6+型ガラスt4	FL5+A6+型ガラスt4		
備 考	丁番、レバーハンドル、網戸(ガラス繊維入合成樹脂製) 開き位置調整器、7-メッキ、戸当り、他付属金物一式	丁番、レバーハンドル、網戸(ガラス繊維入合成樹脂製) 開き位置調整器、7-メッキ、戸当り、他付属金物一式	丁番、レバーハンドル、網戸(ガラス繊維入合成樹脂製) 開き位置調整器、7-メッキ、戸当り、他付属金物一式	丁番、レバーハンドル、網戸(ガラス繊維入合成樹脂製) 開き位置調整器、7-メッキ、戸当り、他付属金物一式		

符号・型式	<b>LH1</b> 軽量スチール自閉式上吊片引ドア 3	<b>LH2</b> 軽量スチール自閉式上吊片引ドア 1	<b>LH3</b> 軽量スチール自閉式上吊引込ドア（常開・引残無し納め） 1	<b>LH4</b> 軽量スチール片引ドア（ガラリ付） 1	<b>LH5</b> 軽量スチール自閉式上吊片引ドア（ガラリ付） 1	共通事項 ・特記なき限り、扉面材は木調焼付鋼板とする ・居室はアンダーカットとする ・書庫は特定防火設備とする（任意区画） ・キーブランは監督員と協議し決定する
姿 図						
室 名	1階 エントランスホール・事務室・食堂	1階 食堂	2階 前室	2階 倉庫	1階 多目的トイレ	
材 質	枠：t1.6 亜鉛メッキ鋼板、扉：t0.6 木調焼付鋼板	枠：t1.6 亜鉛メッキ鋼板、扉：t0.6 木調焼付鋼板	枠：t1.6 亜鉛メッキ鋼板、扉：t0.6 木調焼付鋼板	枠：t1.6 亜鉛メッキ鋼板、扉：t0.6 木調焼付鋼板	枠：t1.6 亜鉛メッキ鋼板、扉：t0.6 木調焼付鋼板	
見 込						
備 考	t5 学校用強化ガラス 飛散防止フィルム、引棒、ハンガーレール、引戸用錠 他付属金物一式、番摺：ステンレスt1.5W42	t4 学校用強化ガラス 飛散防止フィルム、引棒、ハンガーレール、引戸用錠 他付属金物一式、番摺：ステンレスt1.5W42	握込取手、ハンガーレール、表示錠 他付属金物一式、番摺t1.5W42	引棒、ハンガーレール、引戸用錠 他付属金物一式、番摺t1.5W42	t4 学校用強化ガラス（型板） 引棒、ハンガーレール、表示錠 他付属金物一式、番摺t1.5W42	
符号・型式	<b>LH6</b> 軽量スチール自閉式上吊片引ドア（ガラリ付） 5	<b>LH7</b> 軽量スチール自閉式上吊片引ドア 2	<b>LH8</b> 軽量スチール自閉式上吊片引ドア 6	<b>LH9</b> 軽量スチール自閉式上吊片引ドア 2		
姿 図						
室 名	1階 トイレ、2階 トイレ1・2、洗面脱衣室	2階 洗面脱衣室	2階 仮眠室	2階 会議室		
材 質	枠：t1.6 亜鉛メッキ鋼板、扉：t0.6 木調焼付鋼板	枠：t1.6 亜鉛メッキ鋼板、扉：t0.6 木調焼付鋼板	枠：t1.6 亜鉛メッキ鋼板、扉：t0.6 木調焼付鋼板	枠：t1.6 亜鉛メッキ鋼板、扉：t0.6 木調焼付鋼板		
見 込						
備 考	t4 学校用強化ガラス（型板） 飛散防止フィルム、引棒、ハンガーレール、表示錠（1階トイレは鍵無） 他付属金物一式、番摺t1.5W42	t4 学校用強化ガラス（型板） 飛散防止フィルム、引棒、ハンガーレール、引戸用錠 他付属金物一式、番摺：ステンレスt1.5W42	t4 学校用強化ガラス（型板） 飛散防止フィルム、引棒、ハンガーレール、引戸用錠 他付属金物一式、番摺t1.5W42	t4 学校用強化ガラス 飛散防止フィルム、引棒、ハンガーレール、引戸用錠（鍵/サムターン） 他付属金物一式、番摺：ステンレスt1.5W42		
符号・型式	<b>LSD1</b> 軽量スチール片開きドア 1	<b>LSD2</b> 軽量スチール引違いドア 1	<b>LSD3</b> 軽量スチール片開きドア 2	<b>LSD4</b> 軽量スチール折れ戸 2	<b>LSD5</b> 軽量スチール片開きドア 1	<b>LSD6</b> 片開きスチールフラッシュドア 1
姿 図						
室 名	1階 倉庫2	1階 倉庫3	1階 物入	2階 リネン庫、1階 食堂兼厚生室	2階 SK	2階 書庫
材 質	枠：t1.6 亜鉛メッキ鋼板、扉：t0.6 木調焼付鋼板	枠：t1.6 亜鉛メッキ鋼板、扉：t0.6 木調焼付鋼板	枠：t1.6 亜鉛メッキ鋼板、扉：t0.6 木調焼付鋼板	枠：t1.6 亜鉛メッキ鋼板、扉：t0.6 木調焼付鋼板	枠：t1.6 亜鉛メッキ鋼板、扉：t0.6 木調焼付鋼板	t1.6 亜鉛メッキ鋼板 SOP 下枠：ステンレスt1.5
見 込						
備 考	レバーハンドル、引戸用錠（鍵/サムターン） 他付属金物一式、番摺：ステンレスt1.5W42	引手、引戸用錠（鍵/サムターン） 他付属金物一式、番摺：ステンレスt1.5W42	レバーハンドル、引戸用錠（鍵/サムターン） 他付属金物一式、番摺：ステンレスt1.5W42	レバーハンドル、引戸用錠（鍵/サムターン） 他付属金物一式、番摺：ステンレスt1.5W42	レバーハンドル、引戸用錠（鍵/サムターン） 他付属金物一式、番摺：ステンレスt1.5W42	丁番、レバーハンドル、ドアローザ、シリング-握込箱錠（鍵/サムターン） メンテナンス、戸当り、他付属金物一式
符号・型式	<b>TB1</b> トイレブース 1	<b>TB2</b> トイレブース 1	<b>TB3</b> トイレブース 1	<b>TB4</b> トイレブース 1		
姿 図						
室 名	1階 トイレ	1階 トイレSK	2階 トイレ	1階 トイレ		
材 質	高圧メラミン樹脂化粧板 エッジ：7&ミニウム押出形材 カラー	高圧メラミン樹脂化粧板 エッジ：7&ミニウム押出形材 カラー	高圧メラミン樹脂化粧板 エッジ：7&ミニウム押出形材 カラー	高圧メラミン樹脂化粧板 エッジ：7&ミニウム押出形材 カラー		
見 込	40	40	40	40		
備 考	ステンレス製巾木仕上げ、戸当り金具、上部笠木・笠木ワ 他付属金物一式、表示錠	ステンレス製巾木仕上げ、戸当り金具、上部笠木・笠木ワ 他付属金物一式	ステンレス製巾木仕上げ、戸当り金具、上部笠木・笠木ワ 他付属金物一式、表示錠	ステンレス製巾木仕上げ、上部笠木・笠木ワ 他付属金物一式		

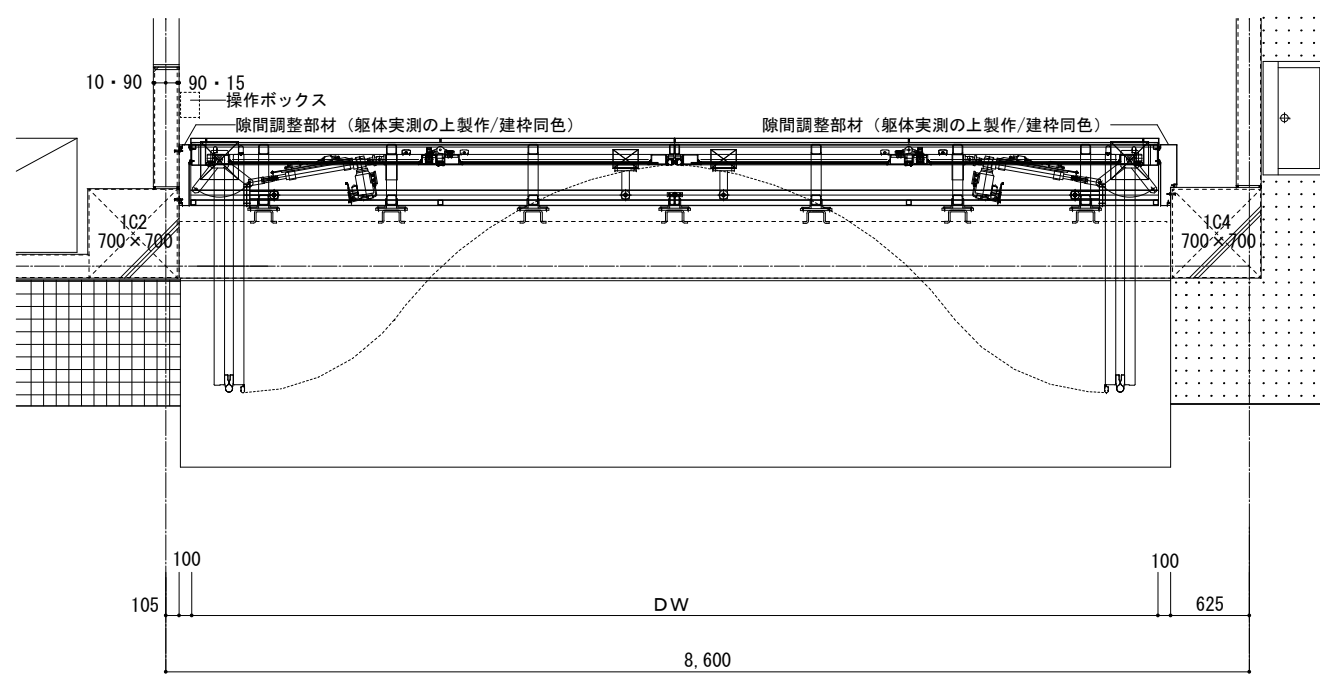


X4

X5



Y1



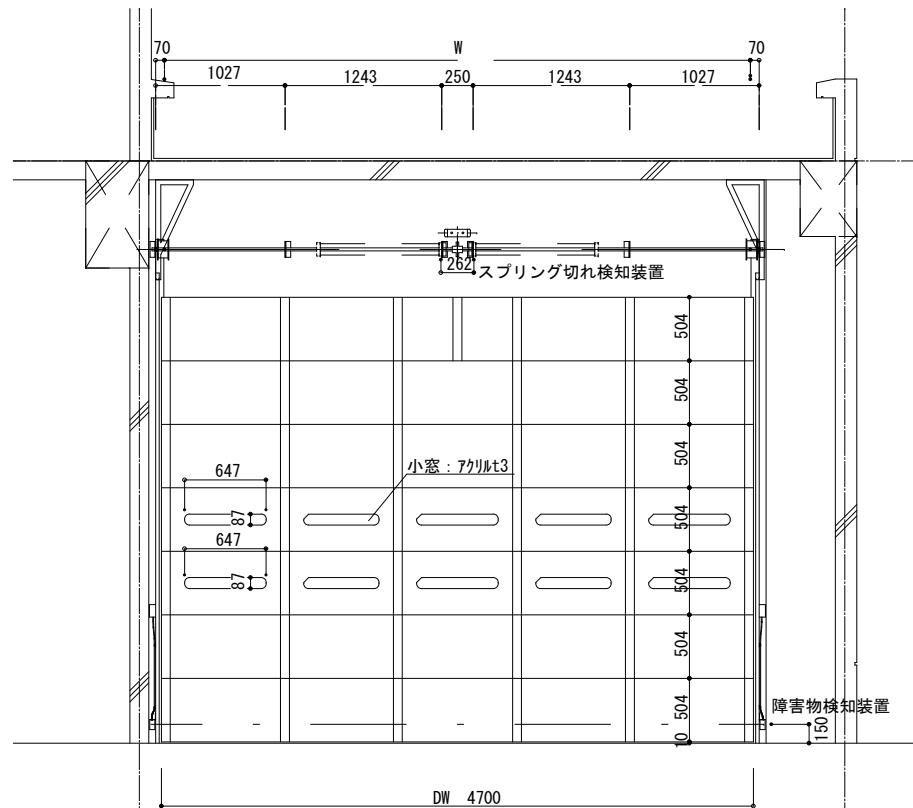
X4

X5

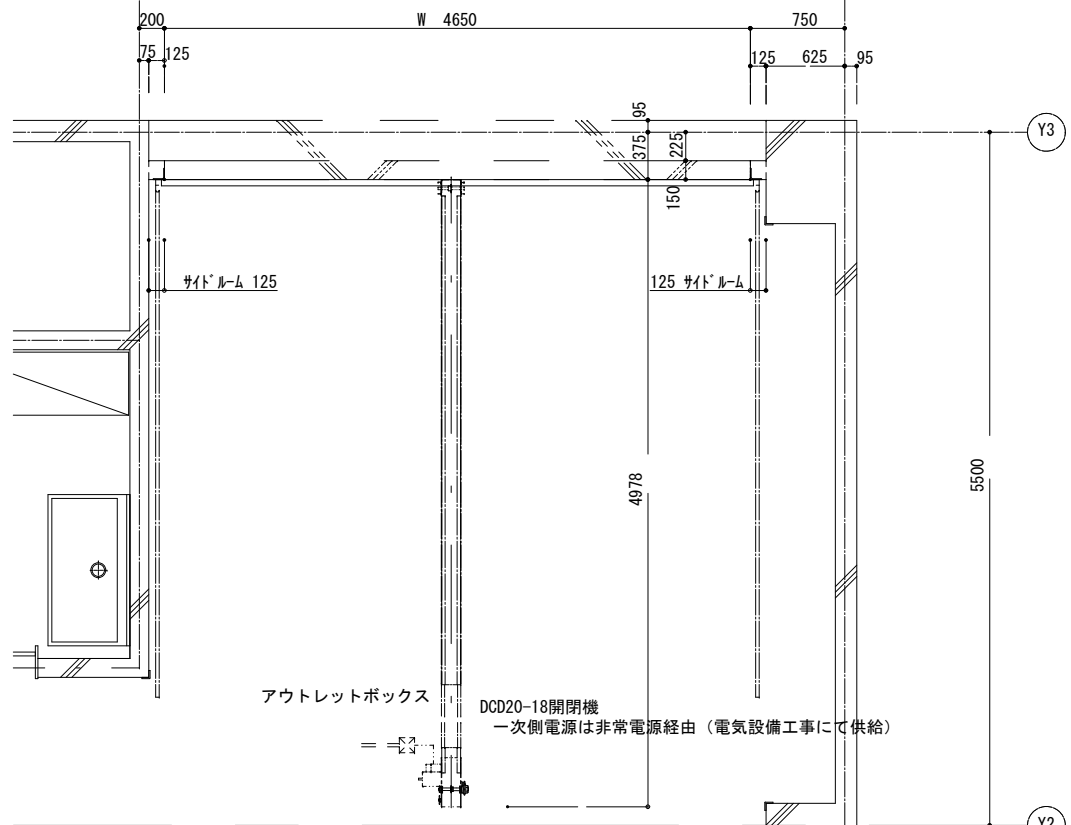
超大型折れ戸・SLFドア『しゅもん』/菊川工業株式会社 同等品以上

項目	条件	留意点・対策・特記
1 輸入範囲	ドイツからの輸入は、扉本体と付属する部材、部品一式。電動の場合は、駆動装置、安全装置を含む GARTNER社製品同等以上とする	電動・制御盤は国産
2 納期	発注後、ドイツの製作4.5ヶ月、輸送約2.5ヶ月、日本側での入荷後の仕上げ調整約1ヶ月、入荷後調整約2ヶ月	輸送工程に十分注意した工程管理が必要
3 構成部材	扉本体は、St.角パイプ 80x80、80x160 (ドイツ製DIN EN 10210高張力鋼) で構成	
4 仕上げ	ポリウレタン塗装とし常温乾燥、下塗りはエポキシ、指定色にて仕上げ塗装	
5 開き勝手・速度	外開き、開閉速度は約8秒。	床仕上げとの調整を要す
6 中間停止	手動の場合は開閉途中での半開き状態の停止機能はない、完全「開」で完全「閉」でのみロック可	電動の場合は、途中停止が可能
7 有効開口巾	2枚の扉を片側に折りたたんだ時の厚さが約360mmから480mm程度 (構成部材サイズによる)	
8 耐風圧	ドイツの設計基準により、耐風圧は1176N/m <sup>2</sup> (120kgf/m <sup>2</sup> ) 風速43m/sec DIN EN13241 note C Clf. 3	(S-2相当)
9 気密	扉周囲がガスケットであり、完全エアータイトではない DIN EN12426 Clf. 3 (気圧50N/m <sup>2</sup> で 6m <sup>3</sup> /m <sup>2</sup> ・h) (1時間で1m <sup>2</sup> 当り6m <sup>3</sup> )	(A-4相当)
10 水密	扉の周囲がガスケットであり、完全水密仕様ではない、DIN EN12425 Clf. 3 (100N/m <sup>2</sup> 30分)	(W-1相当)
11 遮音性能	ガラス厚8mmの実測値で約20dbである	
12 防火対応	扉の周囲がガスケットであり防火仕様ではない	
13 施錠	手動・レバーハンドルにシリンダー錠組込み、電動・ギアモータークラッチで施錠	床プッシュロックで固定
14 付属金物	ハンドル・ガイドローラー・ヒンジ・軸等はドイツ規格によるメーカー標準品、国産品とのマスターキーは不可	
15 ガラス工事	ガラスは単板強化ガラスt8とし周囲はシーリング	
16 上枠点検口	トップヒンジ・リミットスイッチの微調整用として手動H=300mm程度、電動400mm以上が必要	
17 電動駆動装置	ドイツ製ギアモーター3相交流200V、最大出力1200kg、制御電圧24V 50Hz、ドア開閉パワー500~600kg	コントロールボックスまでの一次配線は電気設備工事
18 開閉時騒音	実施現場の実測値で約30~40db	
19 制御盤	制御ボックスのサイズはW600xH650xD350 (2系統時)	リモートコントロール3本
20 開閉操作	開・閉・停止・非常停止の4ボタン、ワンタッチ・手動操作切り替え可	
21 安全装置	タッチセンサーによる、感知範囲FL+300より高さ2mの範囲、「閉」時に異物がはさまったら直ちに開放する	
22 停電・故障時	切り替えレバーによりワンタッチで手動に変更して開放	モーターのクラッチをニュートラルにする
23 異常警告	制御盤のブザーにて警告音発生	ディスプレイに異常原因を表示
24 通線用配管	天井配管とし、電気設備工事と経路を調整すること	経路については電気設備と調整のこと
25 メンテナンス	年1~2回	注油とハンドル・リミットスイッチ調整等
26 オーバーホール	開閉20万回 (または10年)	電動・ギアモーター交換等

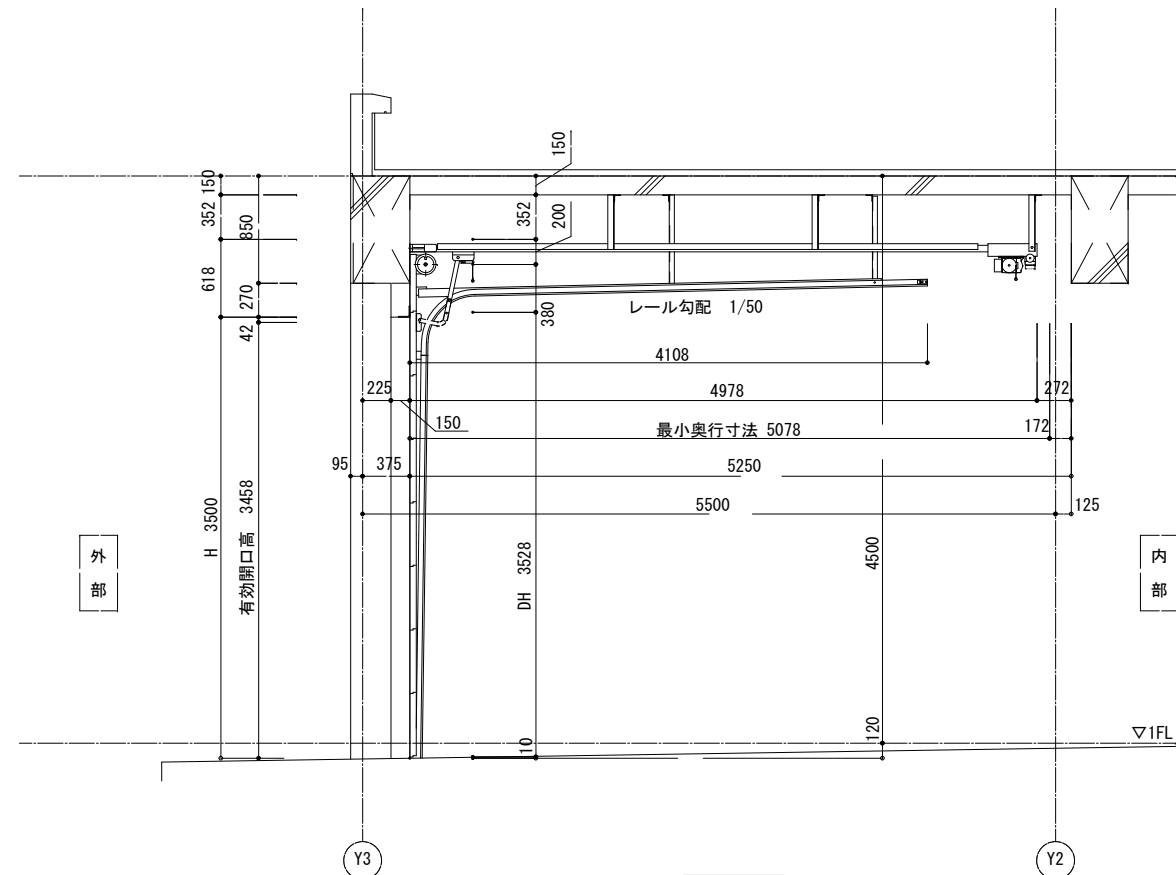
特記事項  
 ・リモコンは3個  
 ・塗装色は、監督員と協議の上決定とする  
 ・大型電動折戸製作寸法に合わせた躯体形状とする。躯体と大型電動折戸の間のクリアランスは、隙間調整部材 (本体扉同塗装仕上) にて施工をおこなう。  
 隙間調整部材は躯体実測の上、製作・施工すること。



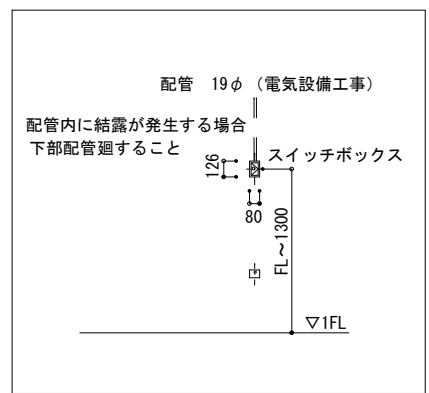
姿図



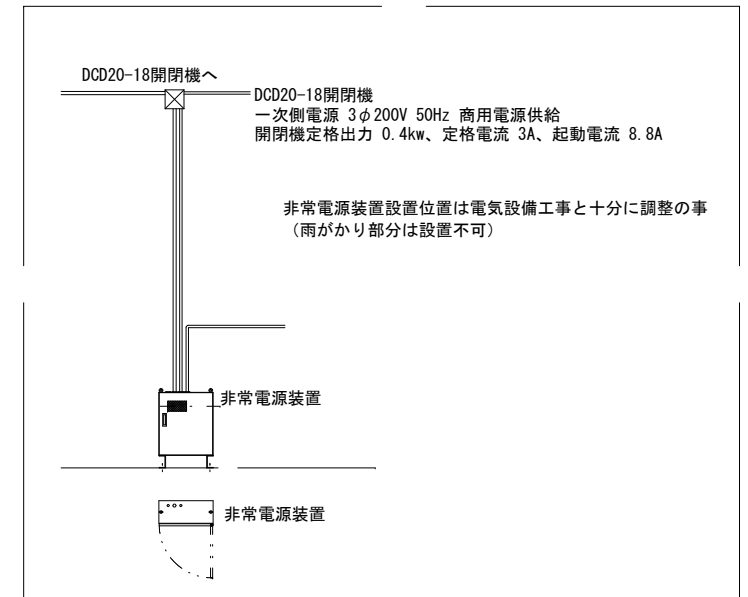
見上げ図



断面図



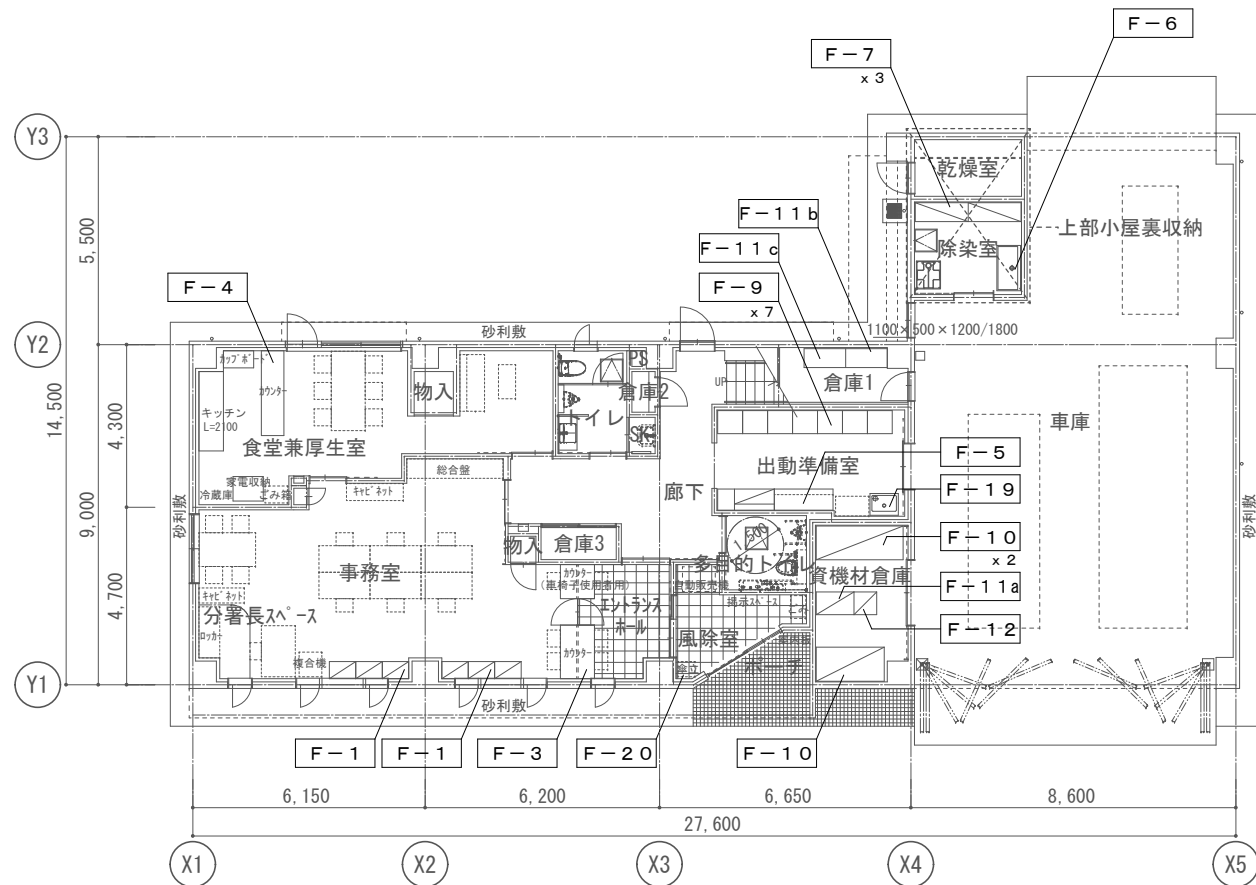
<特記事項>  
 ※スイッチボックス：内外ともに設置  
 設置位置については監督員と協議の上決定とする  
 ※鍵：5本



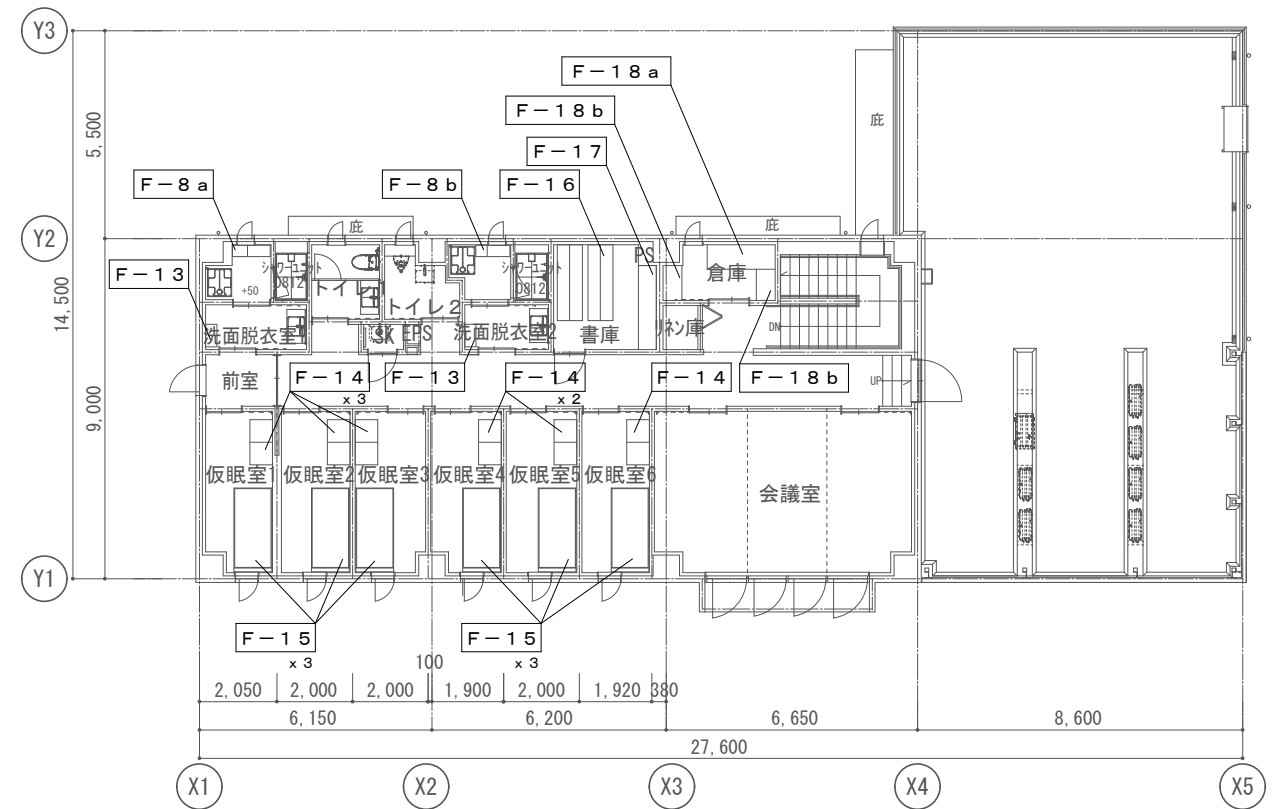
停電時手動操作切替付き

重量スライダー	耐風圧性能 1250 Pa	備考 「SP耐久回数：2万回」
パネル アルミ (AL)	色 アークチックホワイト	明窓：t3 アクリル
納まり スタンダード形 (STD-A)	ウェザー 標準 (WS=10mm)	サイドシール 標準
操作方法 電動式 (DCD20)	レール・アングル オールスチール	



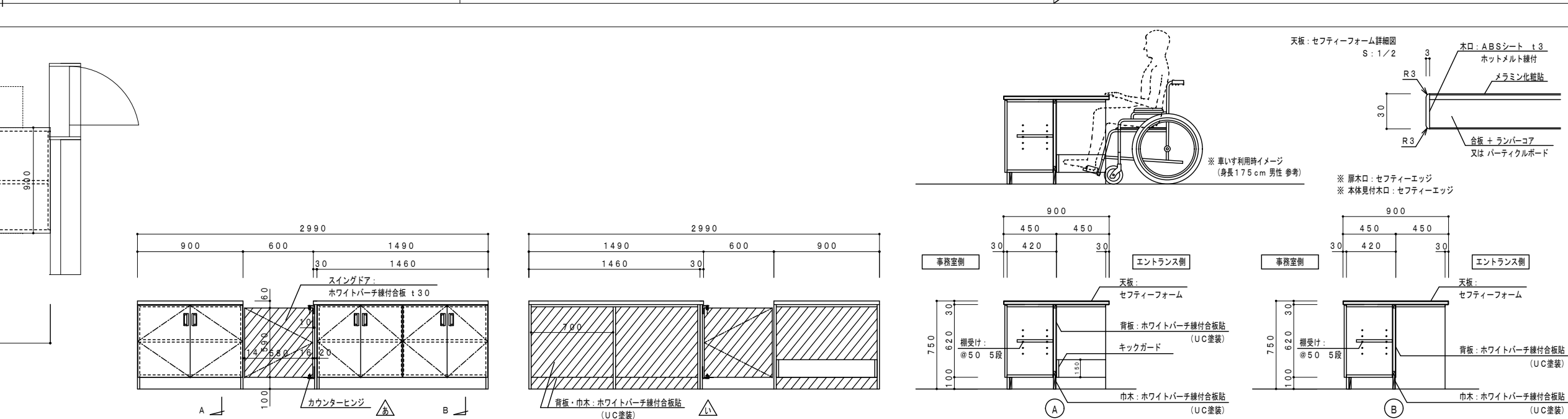
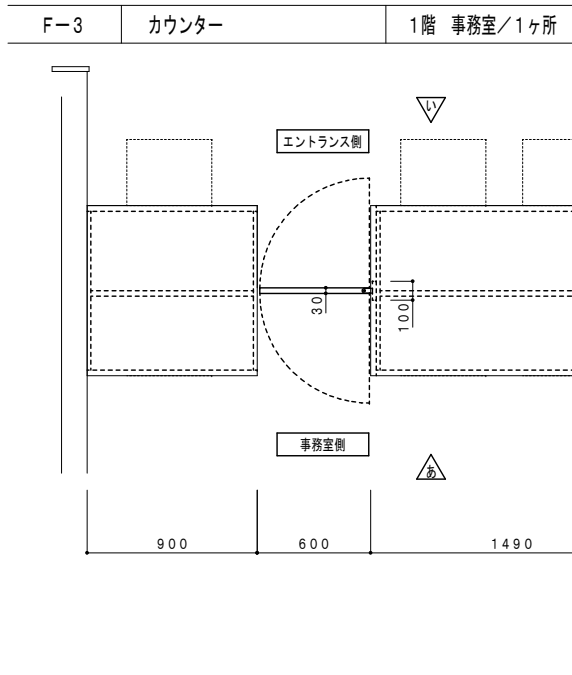
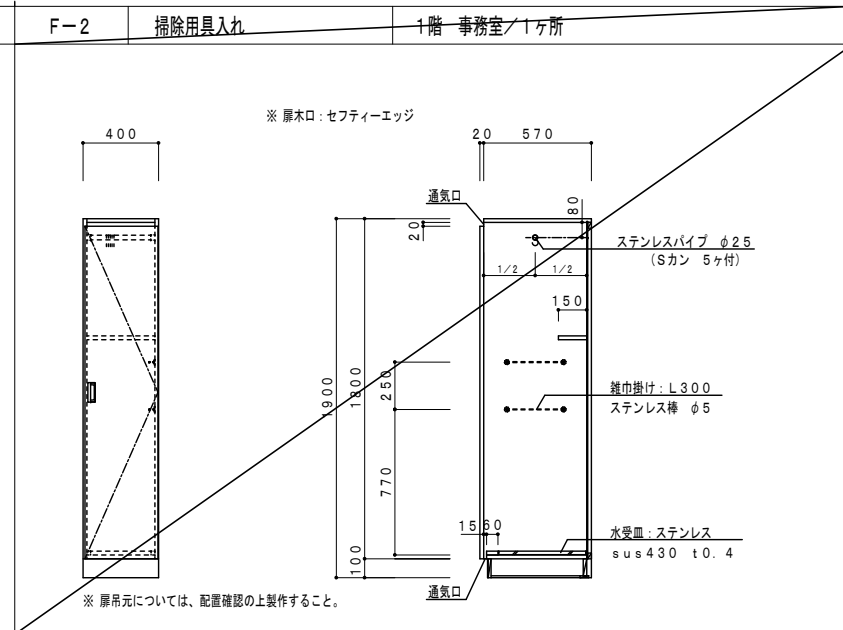
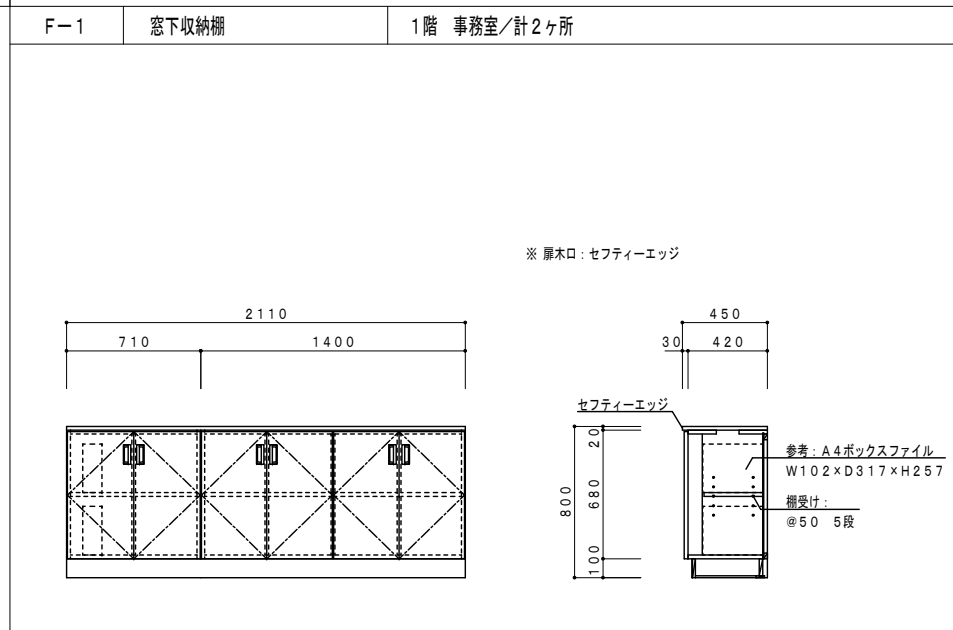
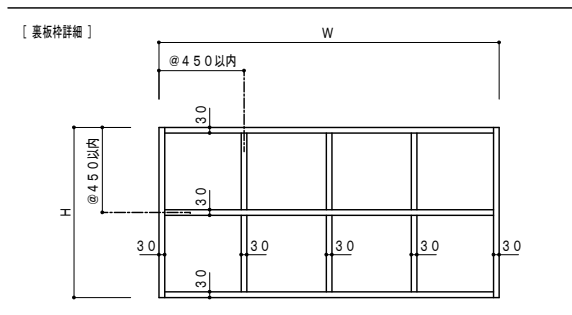
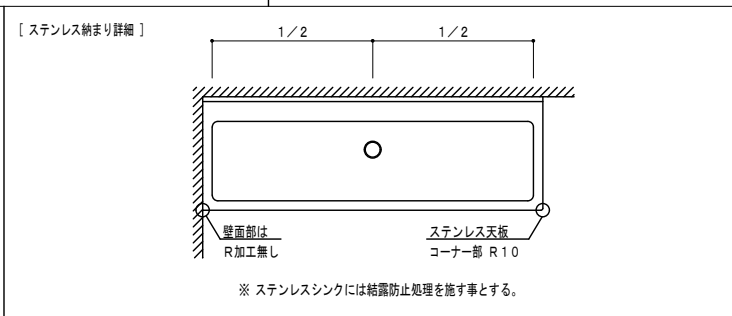
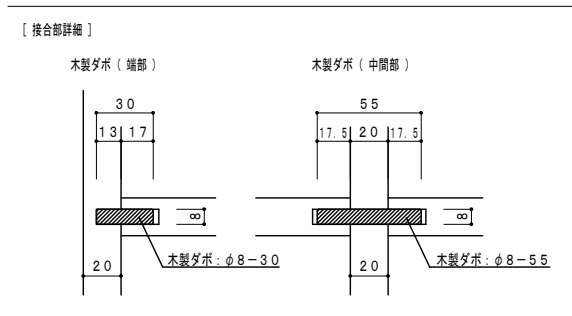


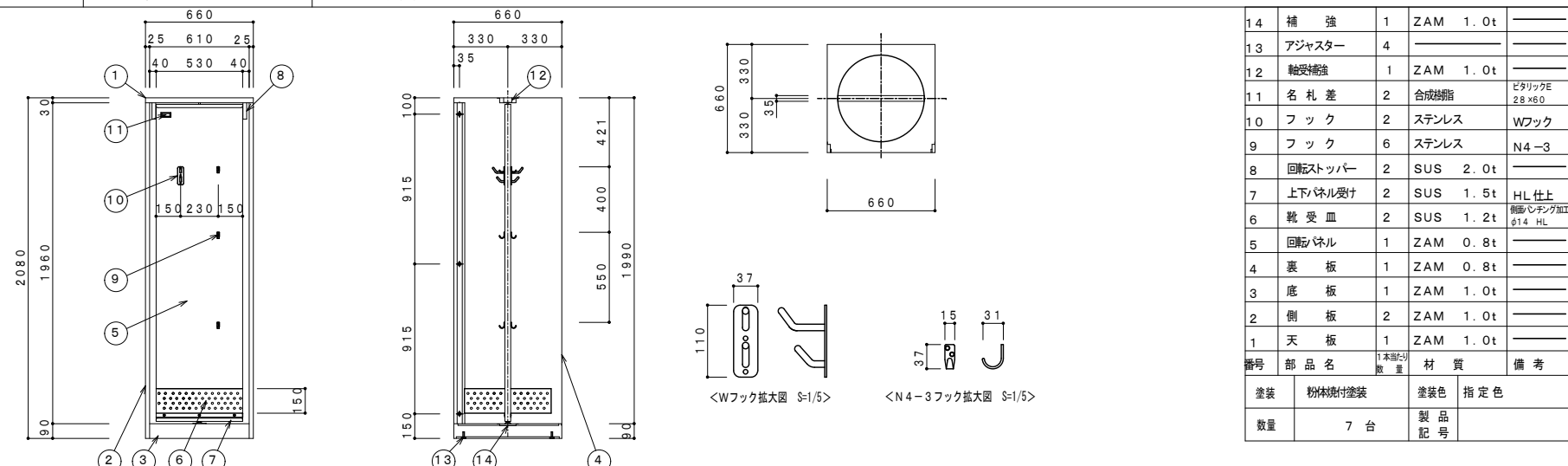
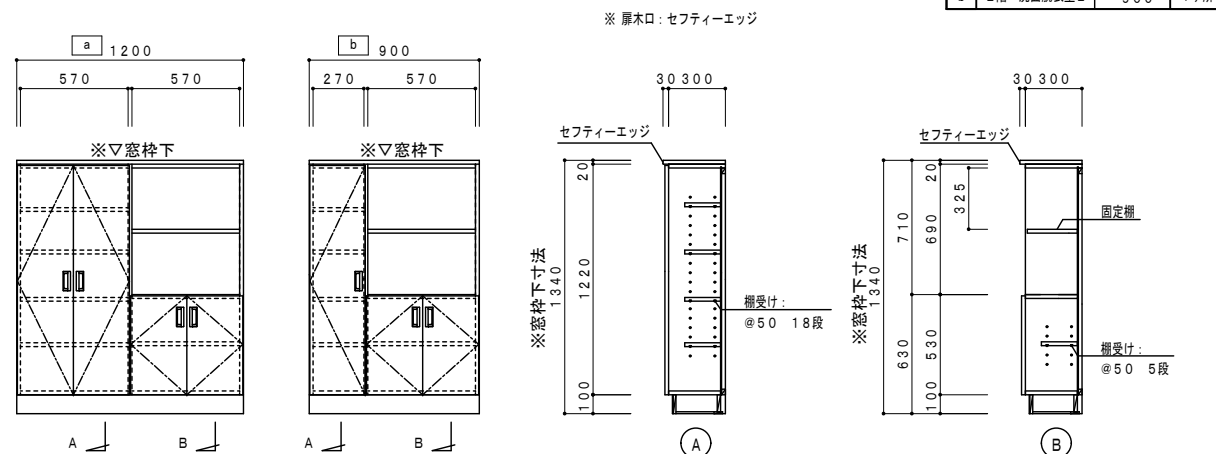
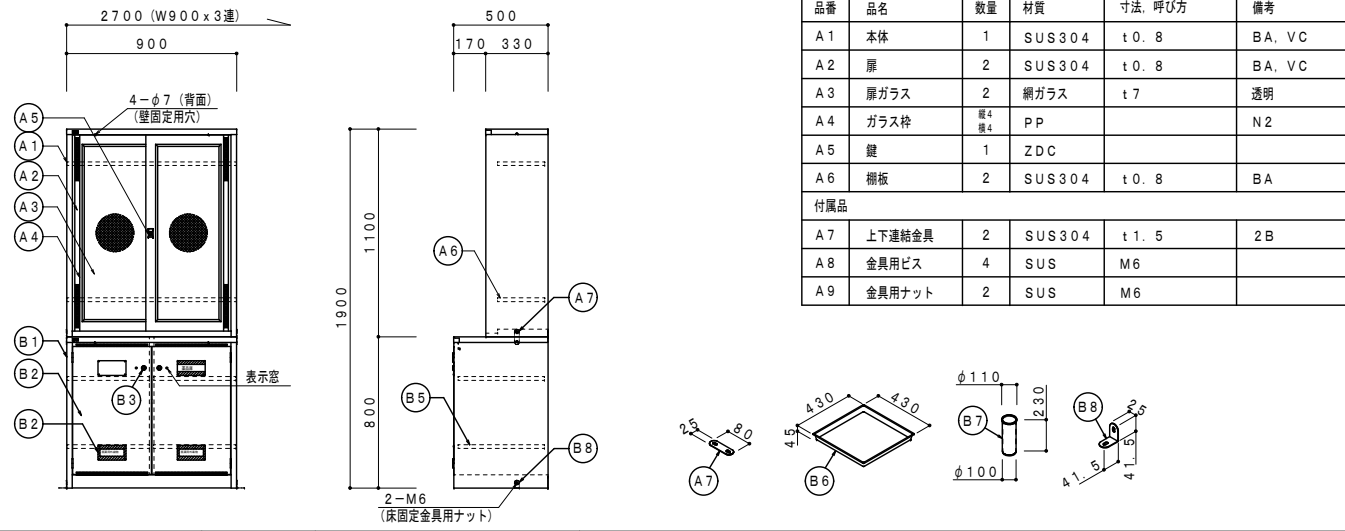
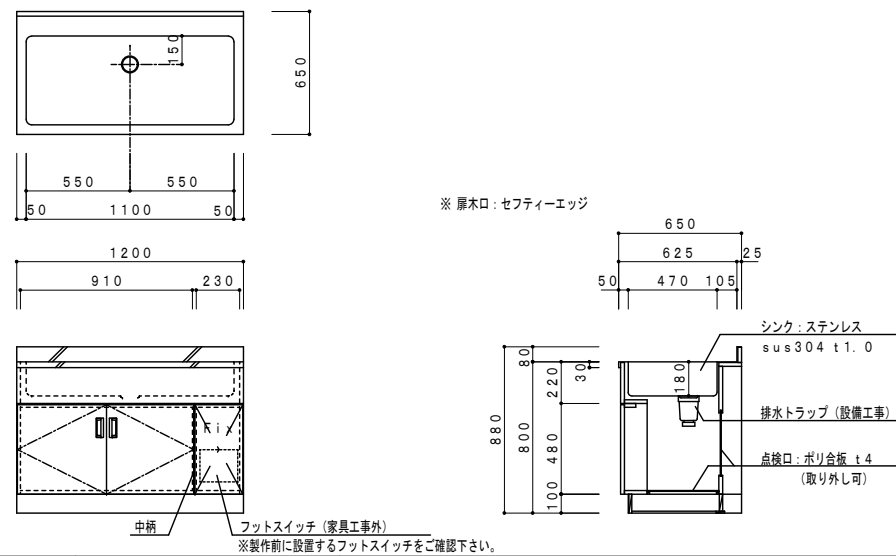
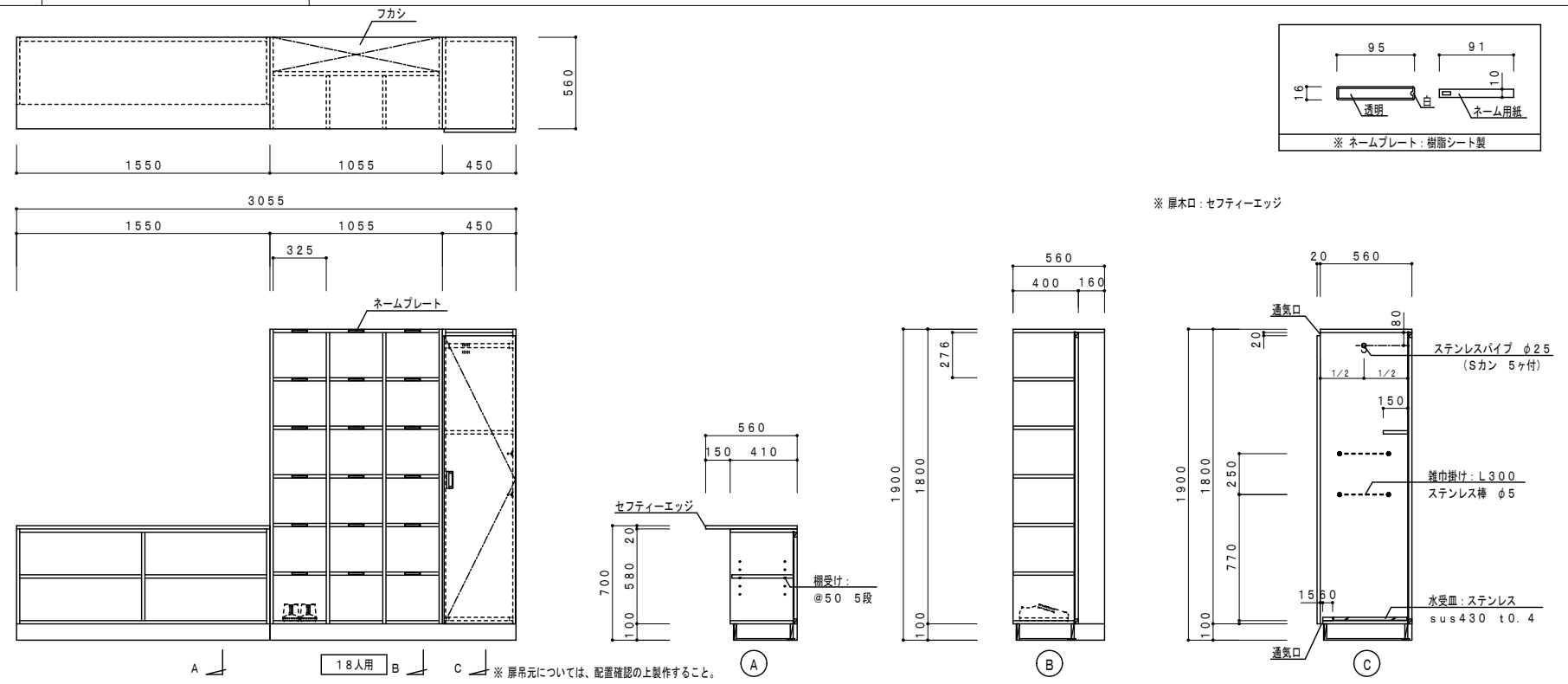
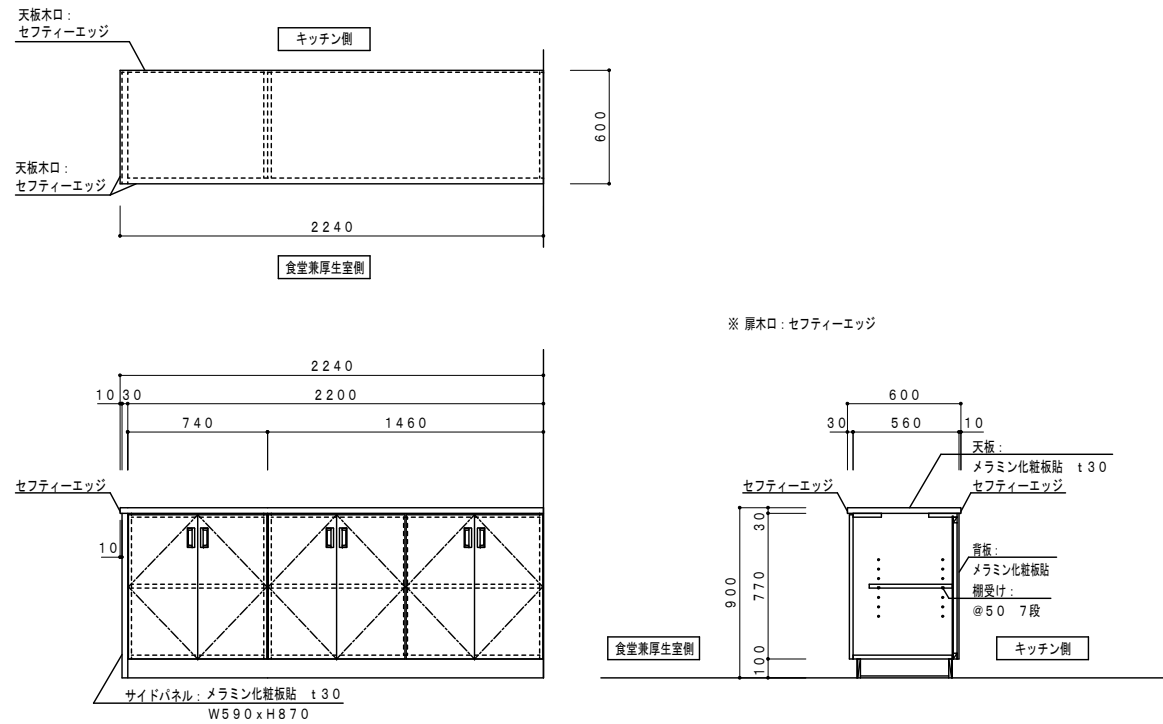
1階キープラン

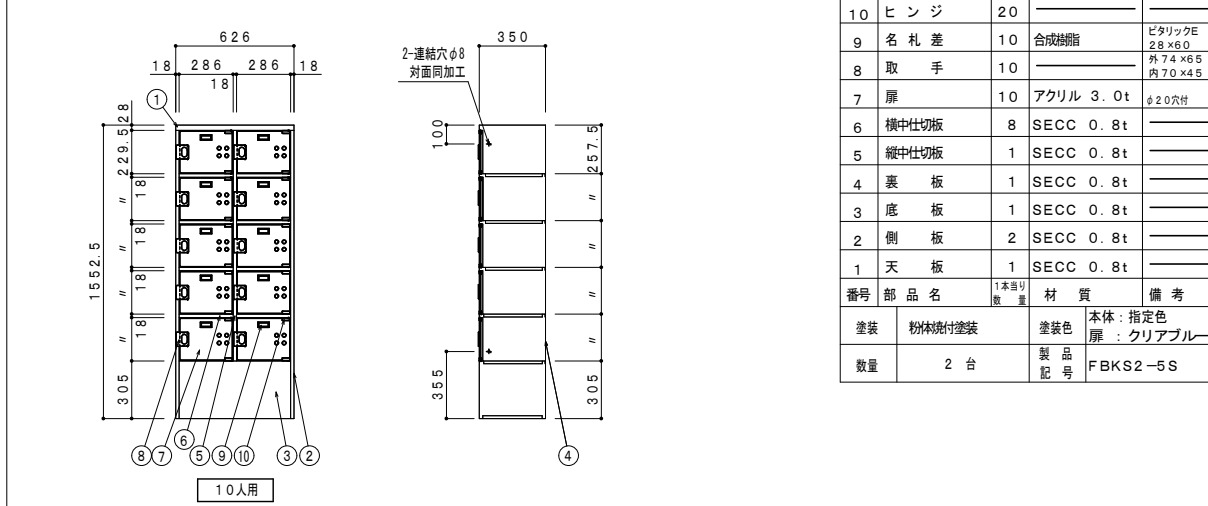
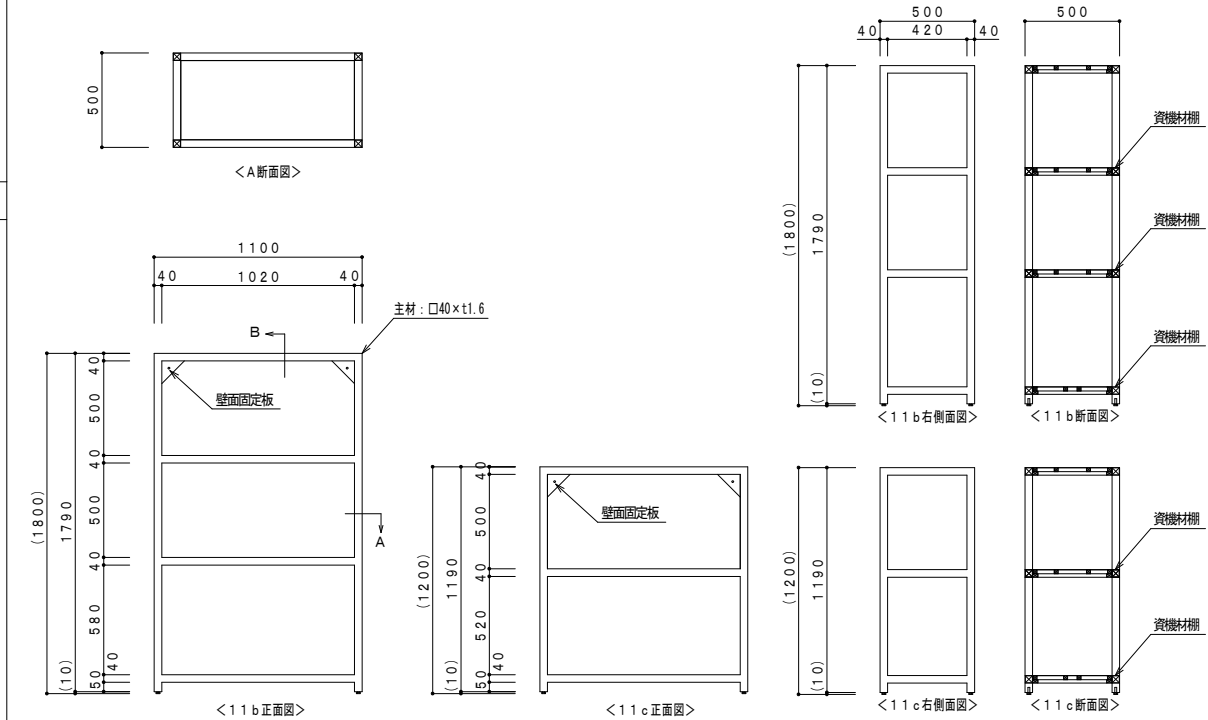
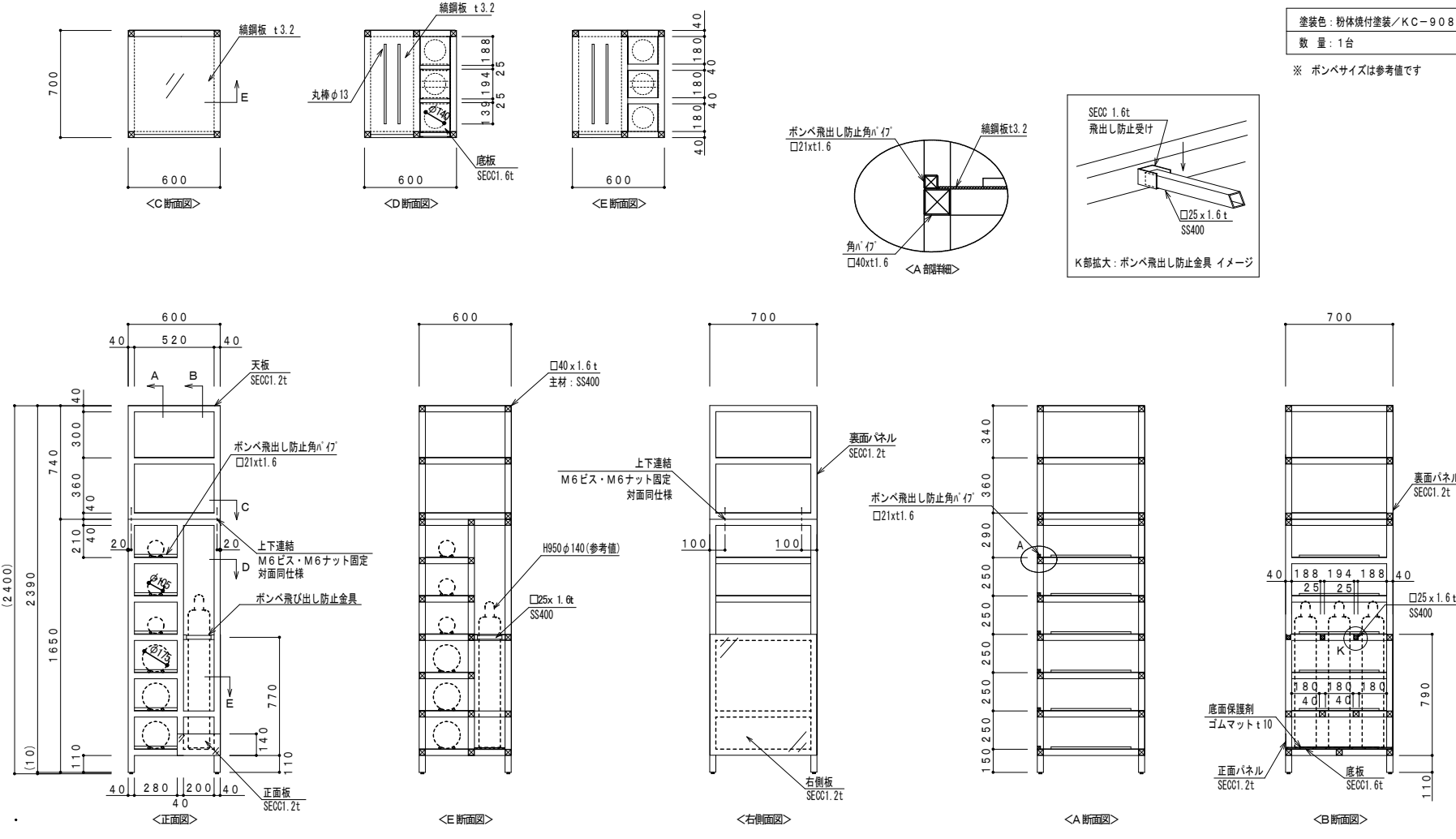
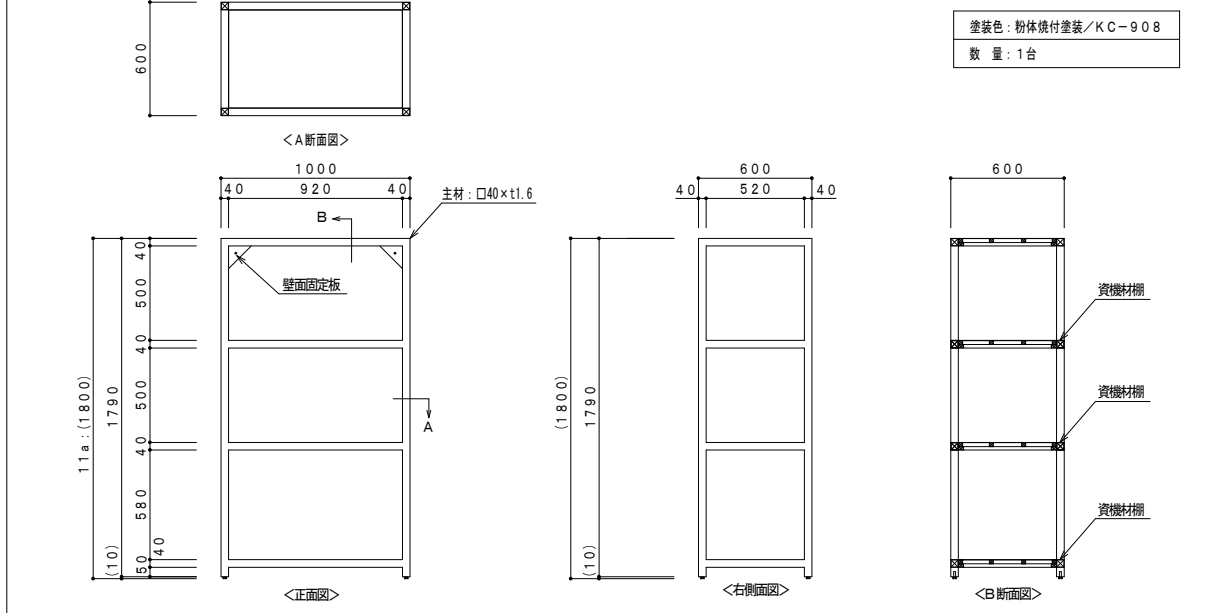
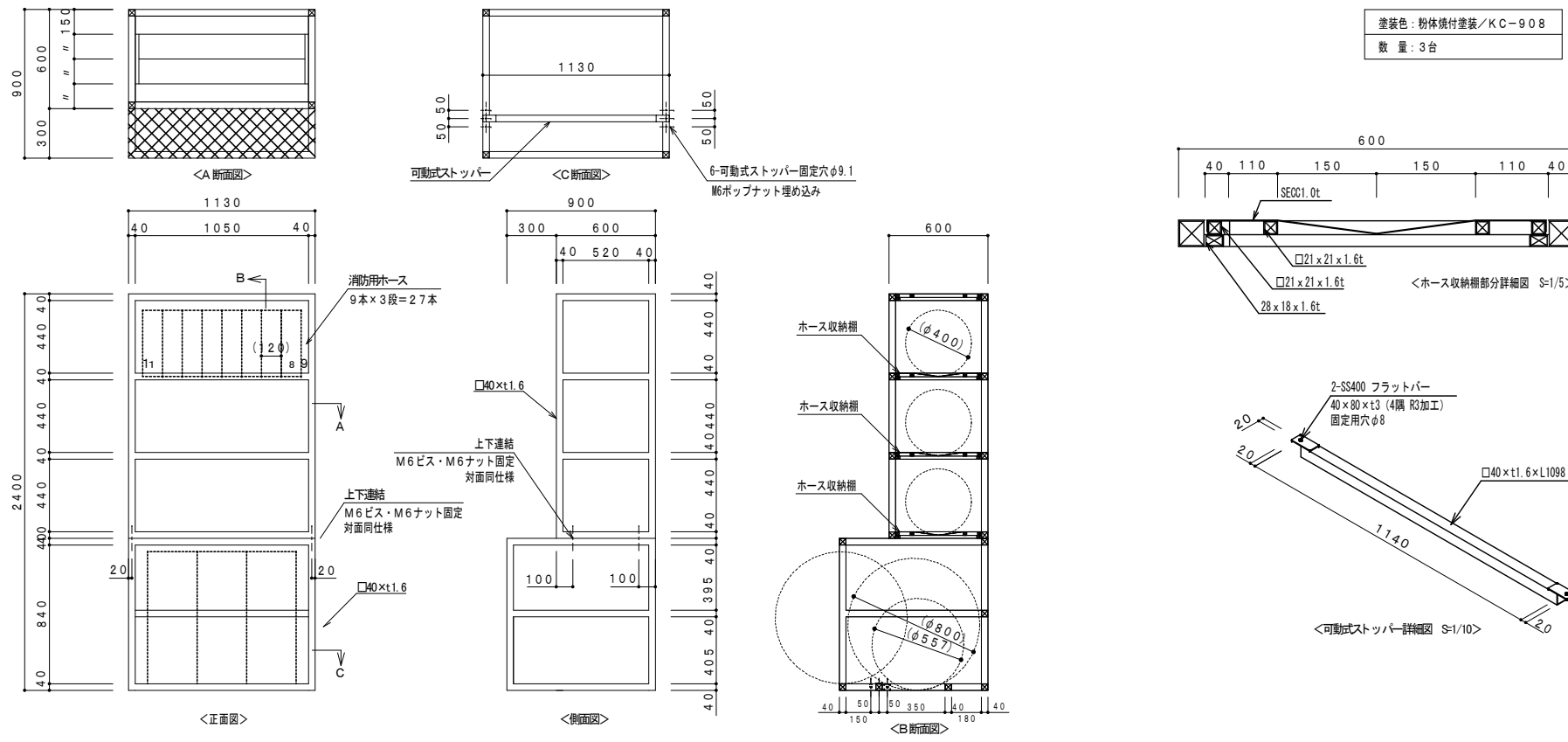


2階キープラン

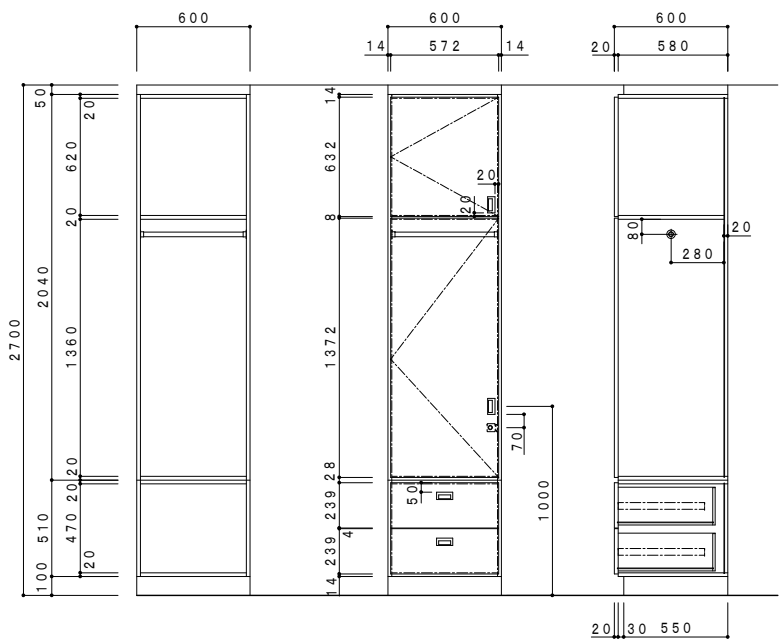
家具共通仕様		「図面に特記なき場合は下記の仕様とする。」	
1 本体・棚板	室内VOC（ホルムアルデヒド等）の低減効果と抗菌機能を持った可視光増感型触媒を工業的に配合した両面メラミン化樹脂パーティクルボード 厚さ20mm、F☆☆☆☆を使用する。 上記材料は、JIS-A5908適合、18タイプ（曲げ強さ18N/平方ミリメートル以上）とし、JISマーク認定の国内工場での生産品、且つグリーン購入法適合品とする。	〔木口詳細〕 フラットエッジ 木口：ABSシート t0.45 ホットメルト練付 セフティーエッジ 木口：ABSシート t3 ホットメルト練付 面メラミン化樹脂パーティクルボード t2.0	〔開き扉詳細〕 扉木口 詳細図 キャッチ機構付ゼンシスヒンジ110°開き用蝶番（ソフトクローズ機構付） 調整ネジ タッピングネジ 側板 側板取り付け 仕切板 中仕切取り付け 扉木口：セフティーエッジ ※ 扉木口：セフティーエッジ 把手（樹脂成型品）詳細図
2 木口処理	躯体からの水分浸入を防ぐために、本体は背面も含めてフラットエッジ（ABS樹脂をホットメルト練付）加工とする。開き扉はセフティーエッジ（ABS製 厚さ3mm ホットメルト練付）加工とする。		
3 表面処理	本体・棚板・建具等は使用時の擦り傷の発生を抑制するために鉛筆硬度 9H以上の表面材を使用する。本体色については色見本帳（45色以上）を提出の上決定する。		
4 裏板	ポリエステル化粧合板 F☆☆☆☆ 厚さ4mmを使用し、片面フラッシュ（450mm ピッチ以内に格子状繊維構造）とする。		
5 本体組立て	組立ては、製作工場での木製ダボ接着とし、接合部のノックダウン金物は使用不可とする。		
6 巾木・台輪	ポリエステル化粧合板仕上げ F☆☆☆☆（塗装不要）とする。		
7 建具	扉戸は、くらいやホソ抜け防止のため、かまち組み等は不可とし1枚物とする。		
8 把手・蝶番	樹脂成型品（ABS製）の把手を使用する。 蝶番は、メンテナンスが容易なキャッチ機構付110°開きゼンシスヒンジ（ソフトクローズ機構付）を使用する。 〔掃除用具入れの吊元側板への蝶番固定は、5点吊中3ヶ所のみ貫通ボルト止めとする。〕		
9 棚板受け	安全で外れにくいネジ込み式で、錆びにくいステンレス製ダボ φ8-M6を使用する。棚板は外れ止めシャクリ加工を施す。		
10 特記事項	環境配慮及び品質確保のため、取り扱いにはISO14001、製作にはISO9001取得企業とする。製作にあたり、事前に製品の品質証明書及び材料及ば接着剤の安全データシートを提出し、素材・金物の承認を受ける。		
11 施工	家具取付は、安全のため壁や床に耐震固定を施す。		





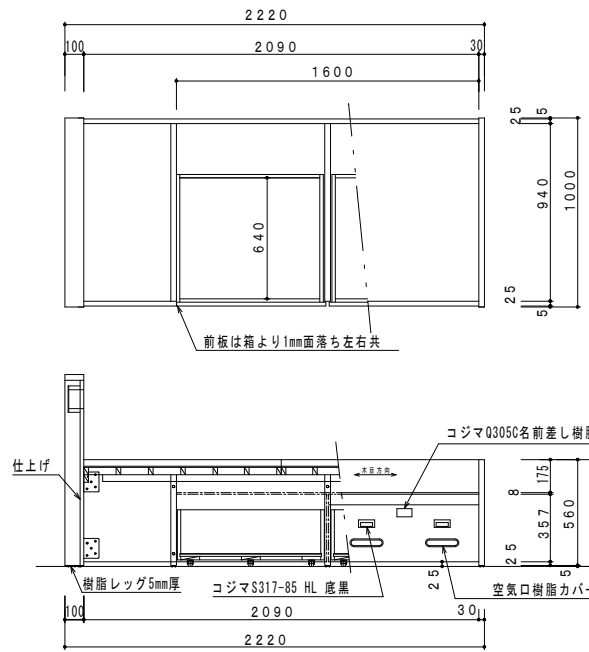
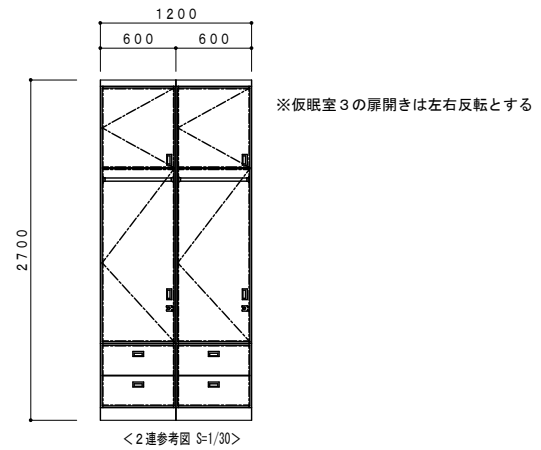


10	ヒンジ	20		
9	名札差	10	合成樹脂	ピタリックE 28x60
8	取手	10		外74x65 内70x45
7	扉	10	アクリル 3.0t	φ20穴付
6	横中仕切板	8	SECC 0.8t	
5	縦中仕切板	1	SECC 0.8t	
4	裏板	1	SECC 0.8t	
3	底板	1	SECC 0.8t	
2	側板	2	SECC 0.8t	
1	天板	1	SECC 0.8t	
番号	部品名	1本数	材質	備考
塗装	粉体焼付塗装		塗装色	本体：指定色 扉：クリアブルー
数量	2台		製品番号	FBKS2-5S



扉、箱：加「ザ」着色ウレタン塗装
扉裏：加「ザ」着色ウレタン塗装、箱内部「ツツ」
金物：スライドヒンジ、ハンガー25φSUS巻
引き手 コジマ S317-85
鍵 コジマ H012-22 別番
スライドレール：3段引き
上下ジョイント：キャップ付ビス止め
上扉：耐震ラッチ付

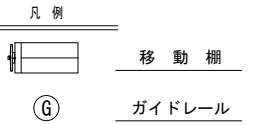
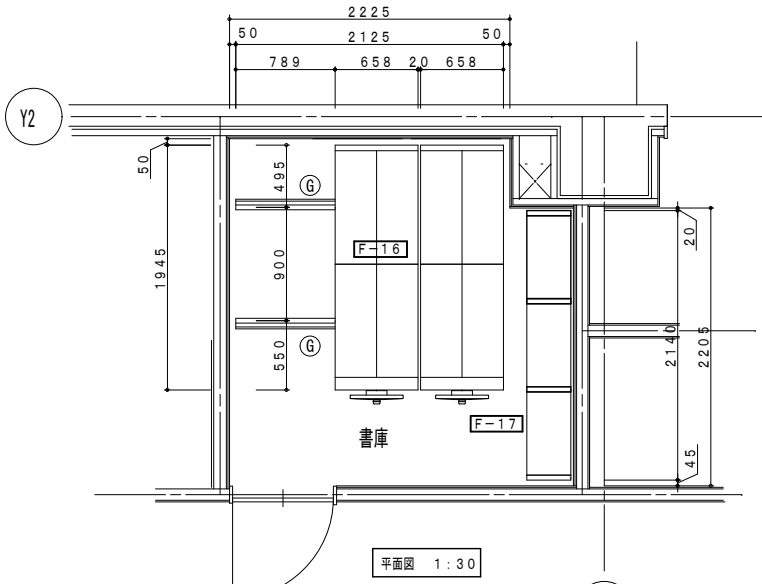
室名	連数	ヶ所数
2階 仮眠室1	2連	1ヶ所
2階 仮眠室2	2連	1ヶ所
2階 仮眠室3	2連	1ヶ所
2階 仮眠室4	2連	1ヶ所
2階 仮眠室5	2連	1ヶ所
2階 仮眠室6	2連	1ヶ所



1. ヘッド&フットボード：加「ザ」着色ウレタン塗装
2. 小口：無垢材 3mm厚同色塗装
3. フレーム：加「ザ」着色ウレタン塗装小口無垢材3mm同色塗装
4. 畳受け板：ハードボード5.5mm
5. 畳：厚み30mm ヘリ付き
6. 畳芯：スタイロフォーム
7. 引き出し：前板 加「ザ」着色ウレタン塗装
8. 引出箱：低圧M3ミネ、底板ベニヤ下地白アリ合板4x3x5個
9. 左右勝手：左右共通
10. 組立：キャップ付ボルトにてジョイント

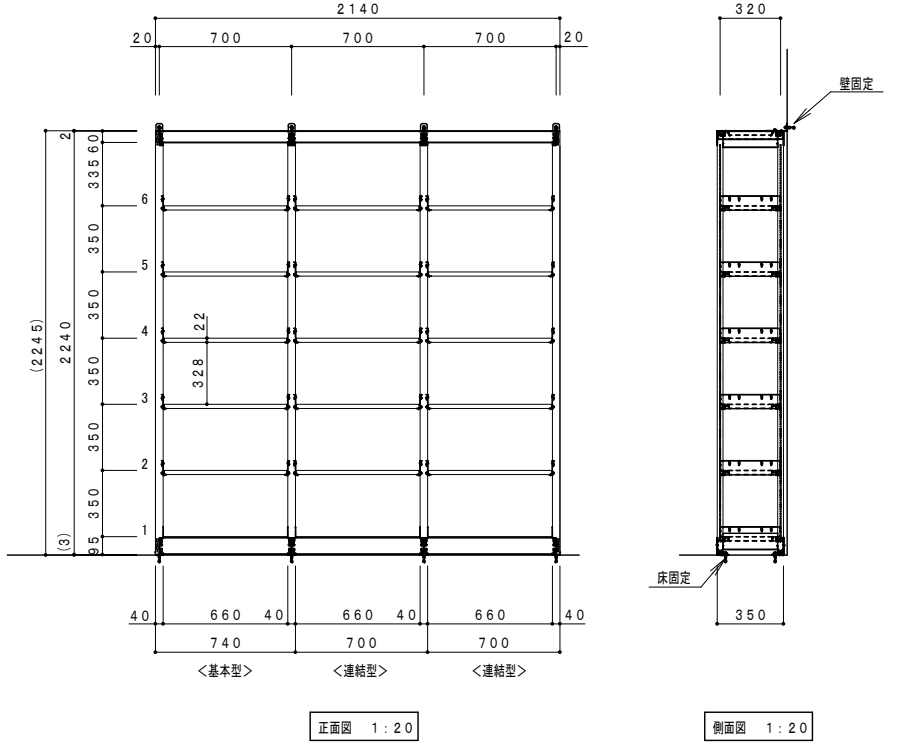
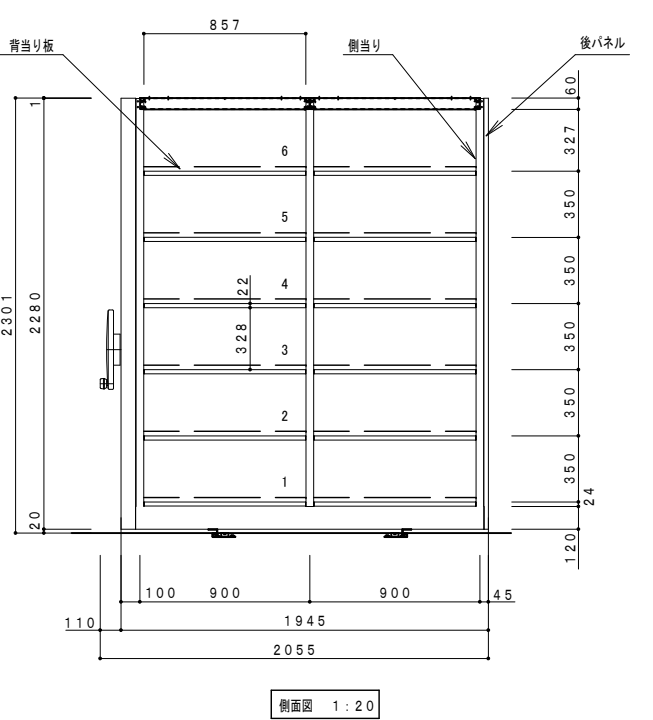
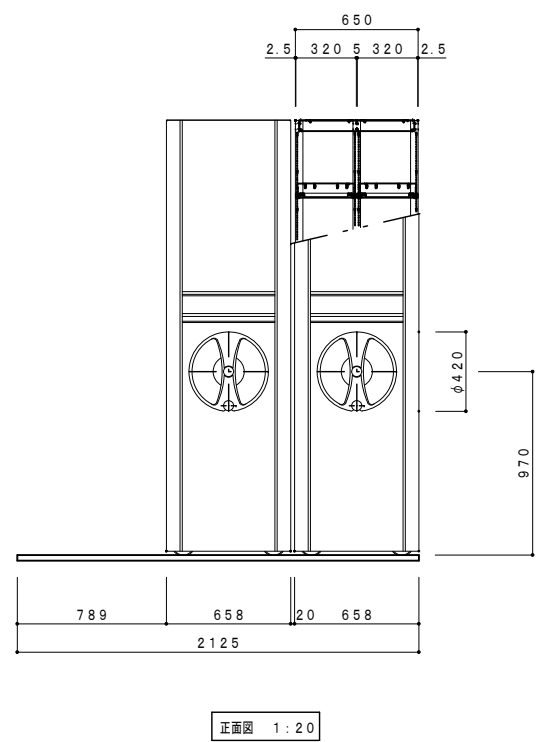
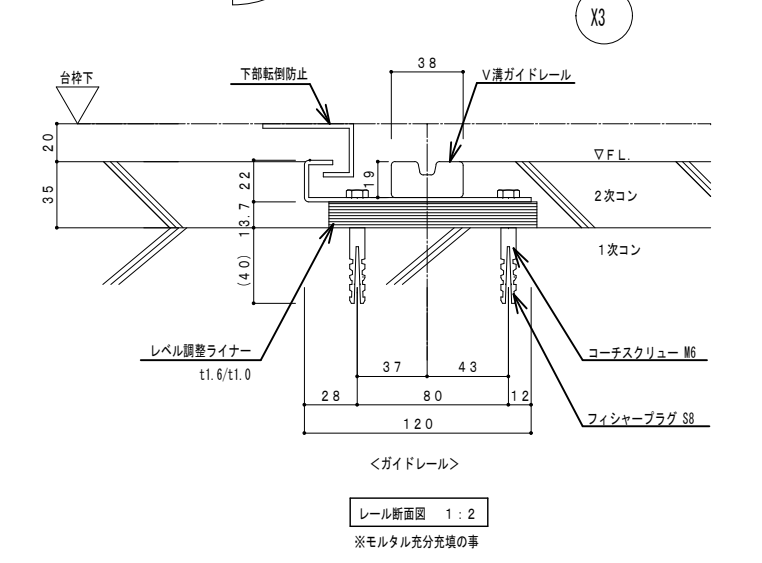
室名	ヶ所数
2階 仮眠室1	1ヶ所
2階 仮眠室2	1ヶ所
2階 仮眠室3	1ヶ所
2階 仮眠室4	1ヶ所
2階 仮眠室5	1ヶ所
2階 仮眠室6	1ヶ所

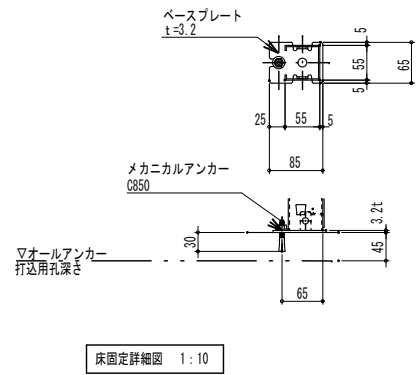
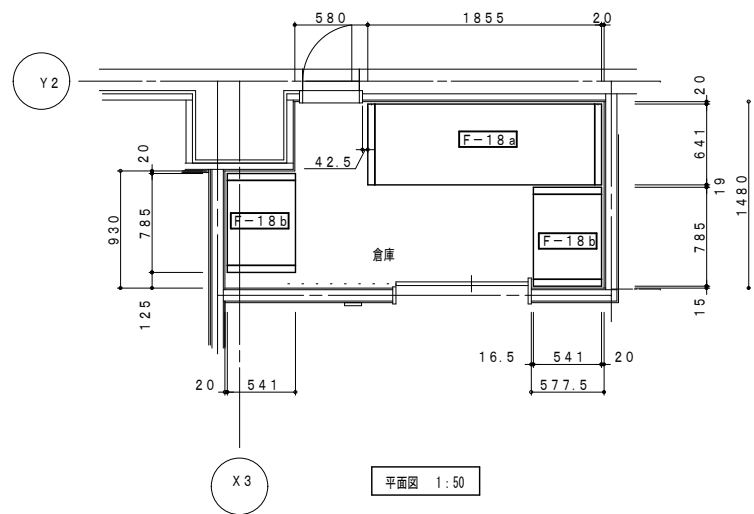
数量：6台



ラック種類	ハンドル式移動棚 GM書架型	7(材)約1
寸法・台数	3連様式移動棚 H2301×W2055×D658(d320)	2台
	ラック本体：H2240×W900×D650(棚板320)	
段組	有効6段	
耐荷重	60kg/段、560kg/連(様式)、280kg/連(単式)	
レール	2125mm×2本 埋込方式	
レール耐荷重	約1010 kg/m	
オプション	後パネル、側当り、背当り板	

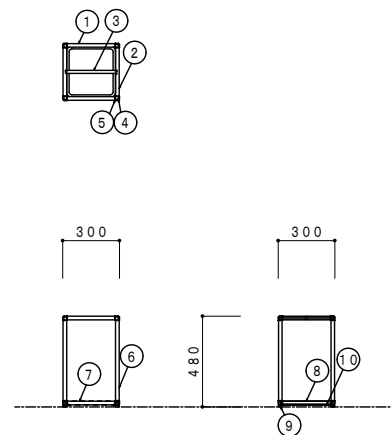
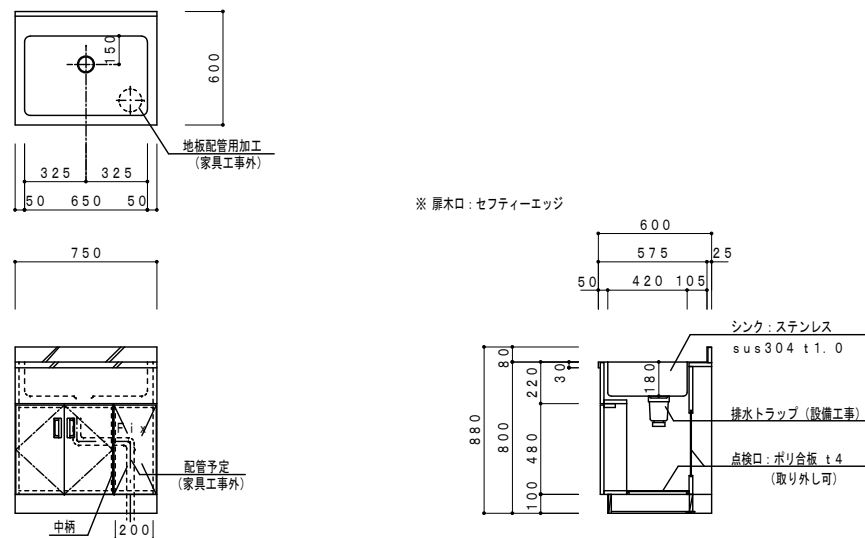
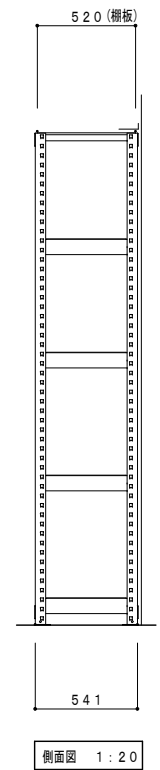
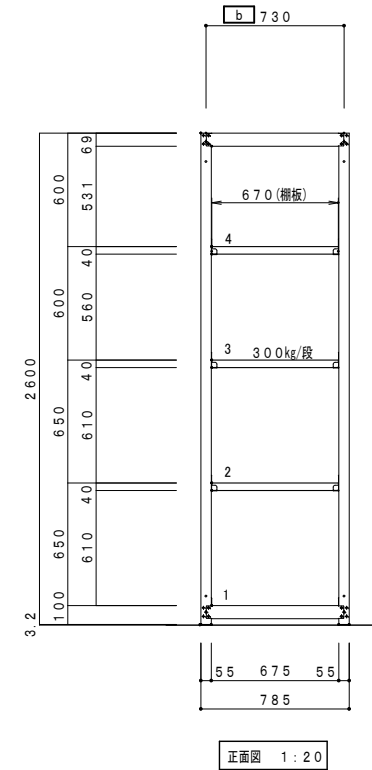
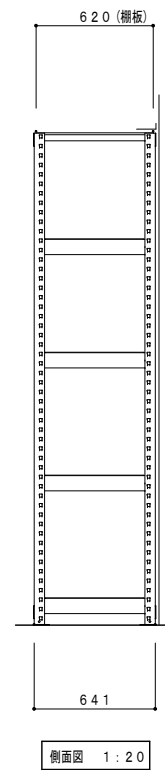
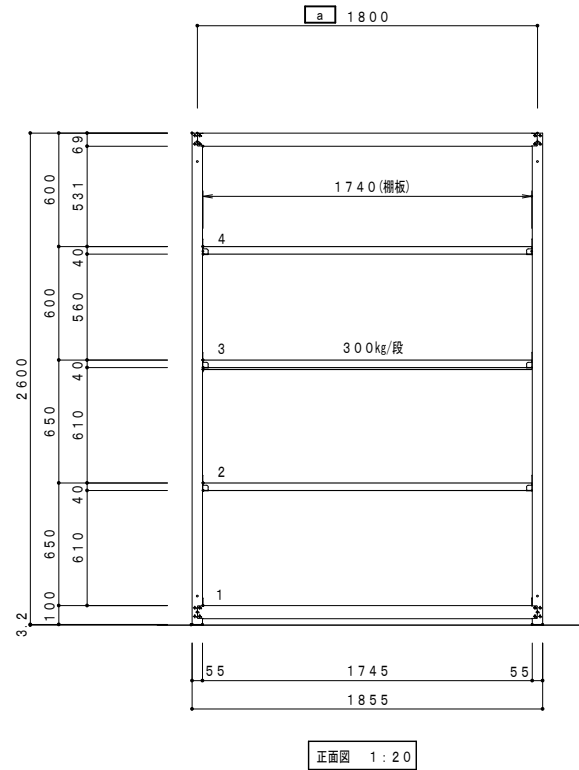
ラック種類	複柱書架	7(材)約1
寸法・台数	H2240×W700(別寸)×D350(棚板d320)	1台 (K-1, R=2)
段組	有効6段	
耐荷重	最大積載質量(等分布載荷) 60kg/段	
オプション	-	
その他	床・壁固定	
	段ピッチ 25mm	



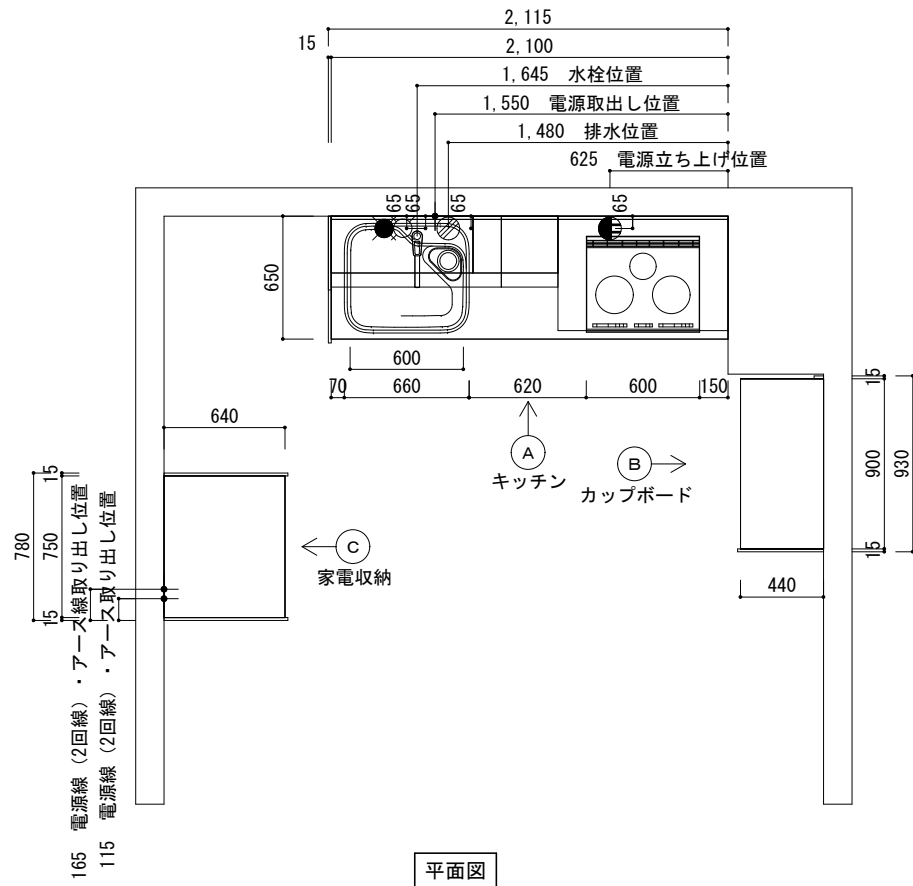


寸法・台数	中置ボルトレスラック (M300)		標準色 (SG)
	①: H2600×W1800×D641	1台 (K=1, R=0)	1台 (K=1, R=0)
②: H2600×W730×D541	2台 (K=2, R=0)	2台 (K=2, R=0)	
段 組	天地5段 (有効4段)		
段 荷 重	300kg/段		
オプション	金具ベース・壁面固定金具		
そ の 他	段ピッチ 50mm ボルト式ビーム		

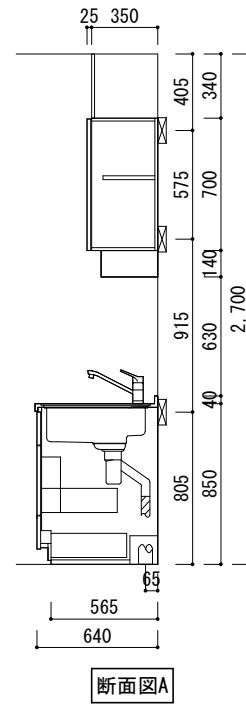
	W	D	ヶ所数
a	1800	641	1ヶ所
b	740	541	2ヶ所



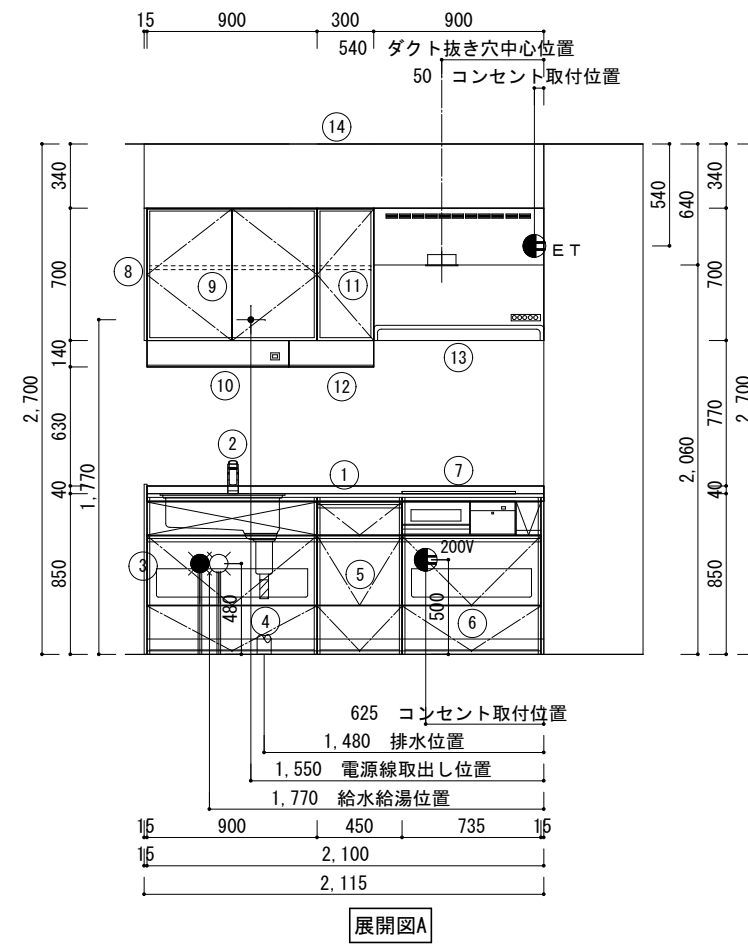
かさ立て S-10型 (1-357-3110)					
品番	品名	数量	材質	寸法、呼び方	備考
1	上枠ステー-A	2	SUS304	t1x19	
2	上枠ステー-B	2	SUS304	t1x19	
3	上枠仕切り	1	SUS304	t1x16	
4	コーナージョイント	8	ZDC	成形品	クロームメッキ
5	スリーブ	8	PP	成形品	黒
6	支柱	4	SUS304	t1x19	
7	下枠ステー-A	2	SUS304	t1x19	
8	下枠ステー-B	2	SUS304	t1x19	
9	アジャスター	4	PP	M6	黒
10	受け皿	1	SUS430	t0.5	付



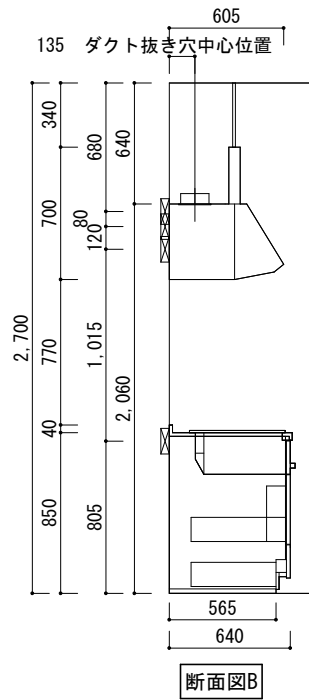
平面図



断面図A



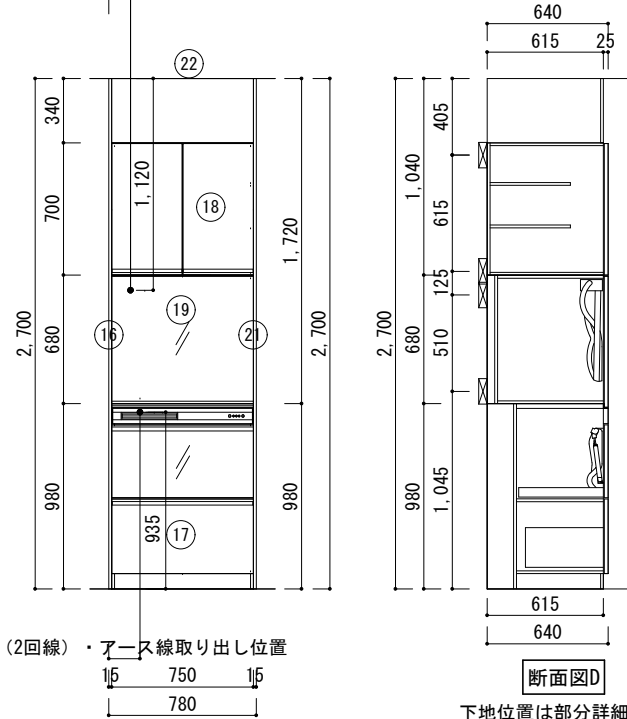
展開図A



断面図B

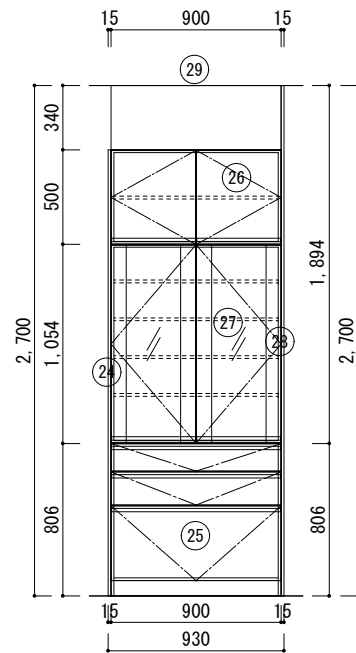
下地位置は部分詳細図参照

115 電源線 (1回線)・アース線取り出し位置



断面図D

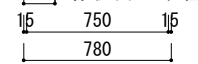
下地位置は部分詳細図参照



展開図B

下地位置は部分詳細図参照

165 電源線 (2回線)・アース線取り出し位置



展開図C

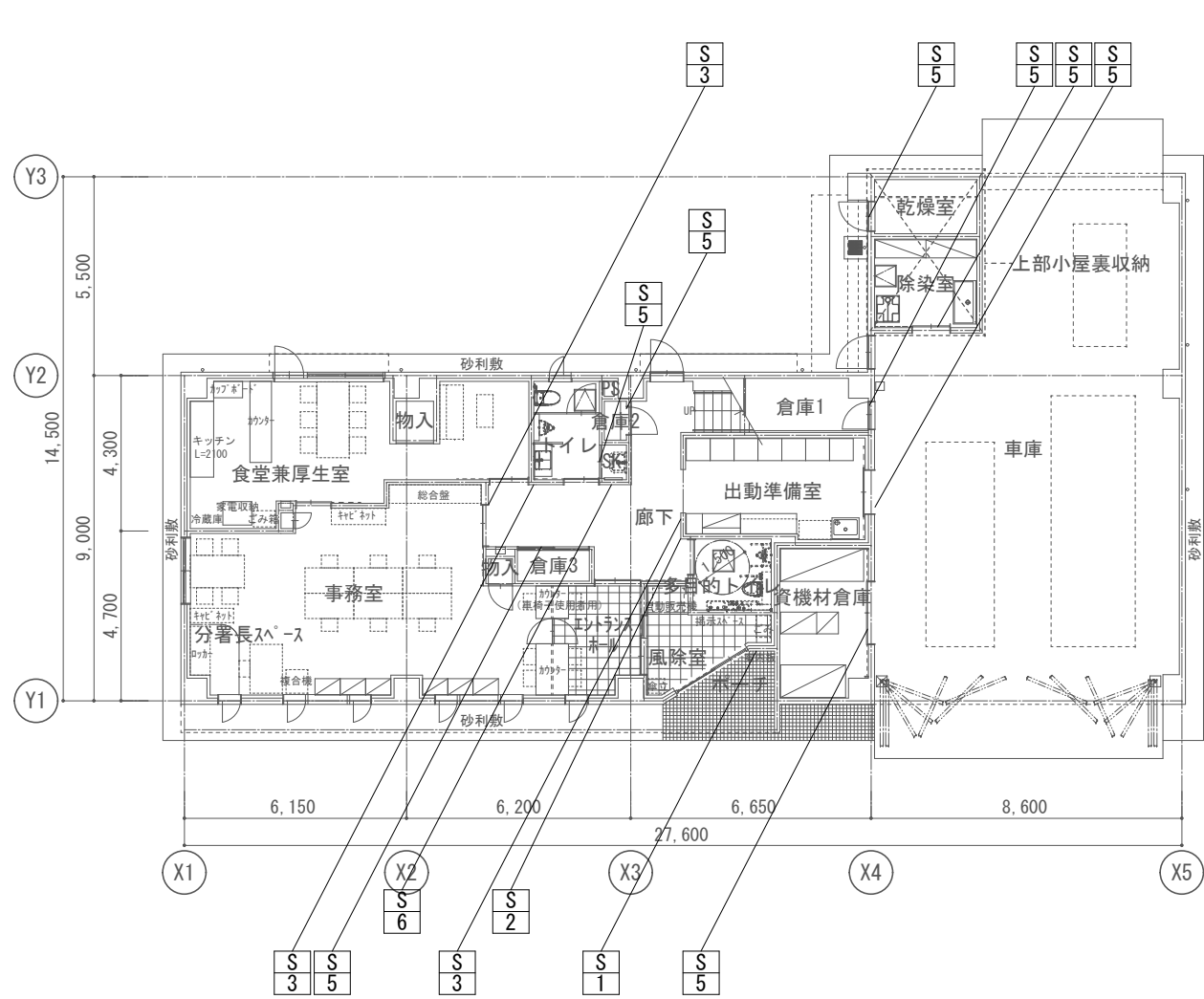
■設備記号・展開図表示記号

記号	記号の意味	記号	記号の意味
○	給水位置	●	コンセント取付位置
●	給湯位置	●2	コンセント取付位置/2口
○	排水位置	●200V	コンセント取付位置/200V
▲	ガス配管位置	●E T	アース付コンセント取付位置
+	電源取出し位置	●E	2極接地極付コンセント取付位置
Ⓜ	マグネット対応有り	★	サボ対応キャビネット(電源ユニット付き)
○	部番:サボ対応キャビネット	□	部番:扉開放防止部品付き

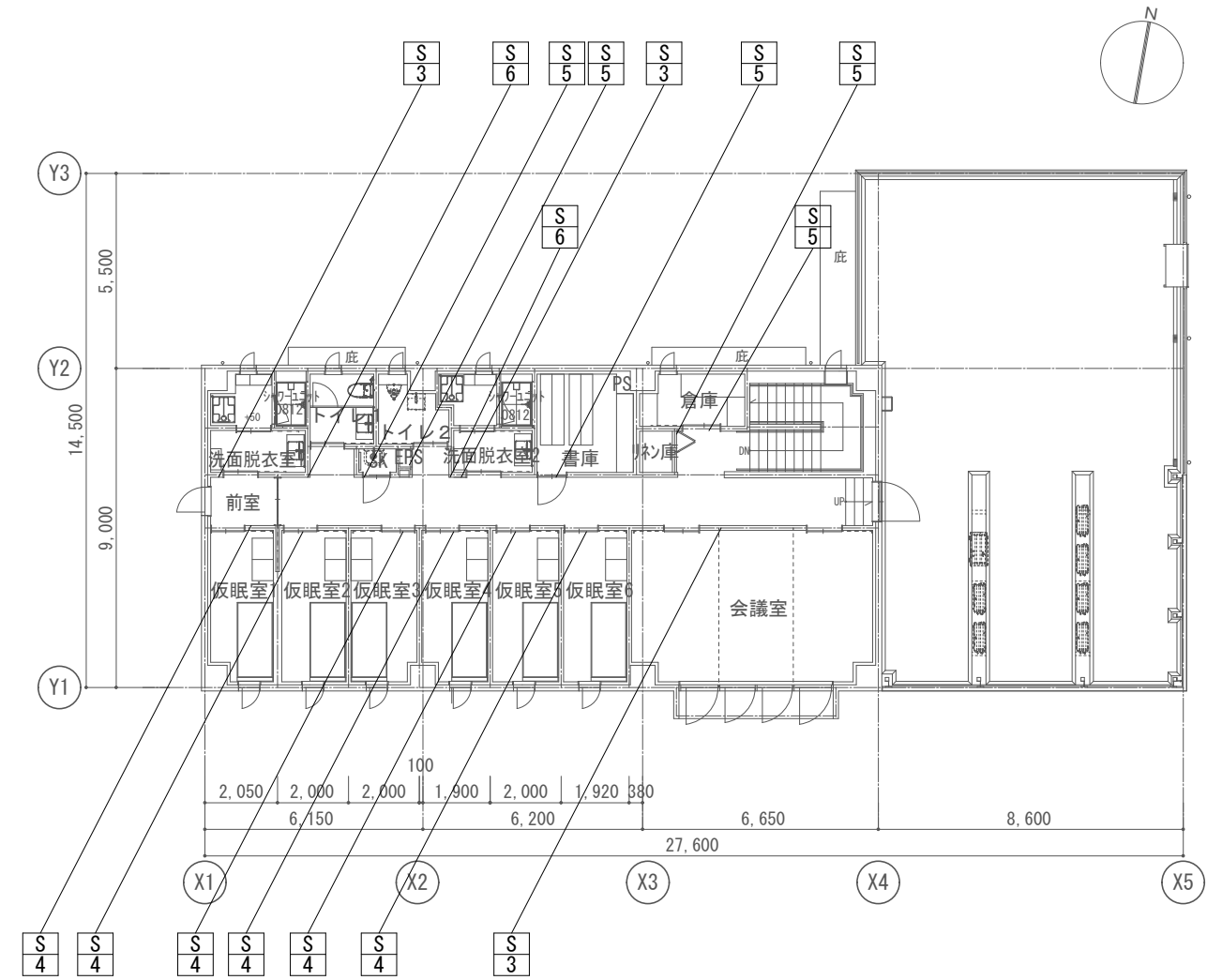
■商品概要

商品シリーズ	STEDIA	
扉シリーズ	class4	
扉カラー	メイン色	ベアウッドアッシュ
	サブ色	
キャビネットカラー		
取手種類	ライン取手(シルバー)	
W・D・H	210cm / 65cm / 85cm	
トップカラー	ステンレス/ドット柄コイニング加工	
シンク種類	流レールシンク(小)SYシンク/ステン	
天井高さ	未確定(2700mm)	
壁パネル		
壁パネル部材		
アストラックタイプ		
開放防止部材	なし	
水栓金具	シングルレバー水栓	
引出し仕様	サイレントレール(底板ステンレスあり)	
食器洗浄乾燥器	なし	
調理器	3口IHヒーター グリル:水無両面焼き	
レンジフード	W=90cm/深型レンジフード シルバー シロココファン	
吊戸	H=700mm	
カウンタートップ		
ガラスタイプ	シースルー	

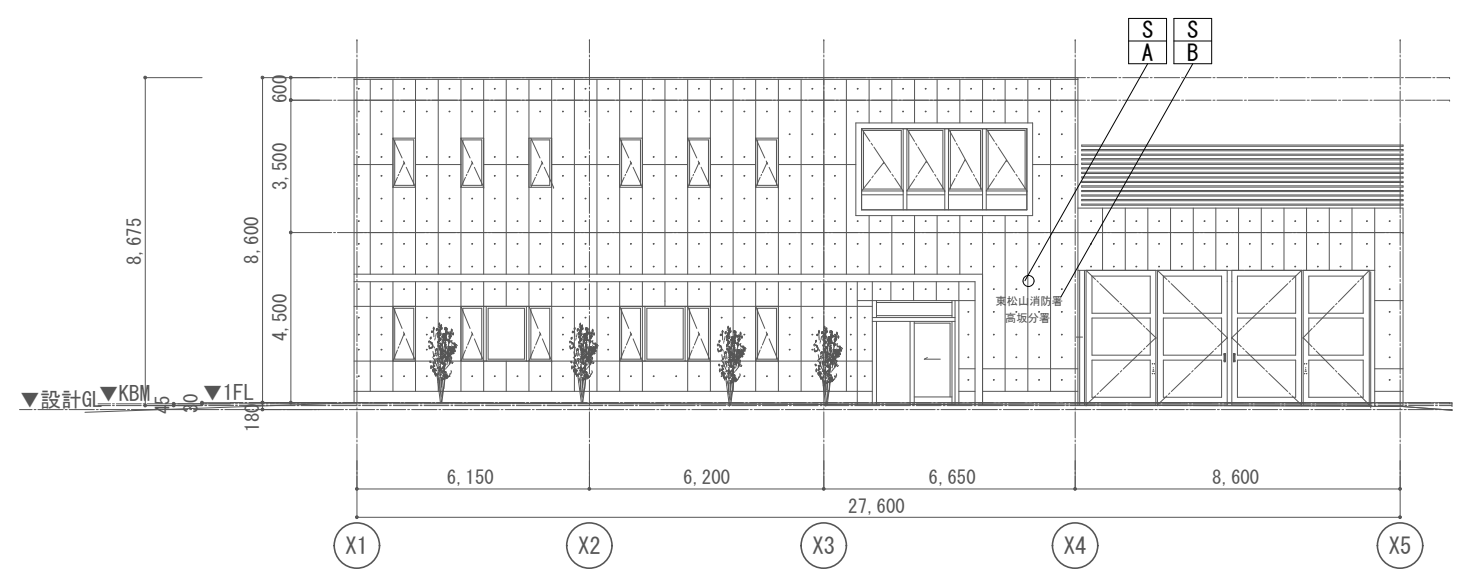
1	D650/標準/I型	ステンレス/コイニング(SYシンク)
2	水栓金具	シングルレバー水栓(一般地)
3	サイド化粧板	ベークサイトネット用/D650用
4	シンクキャビネット/配管SP無・底板ステン有	ツールネット付/化粧幕板タイプ
5	ベークサイトネット/配管SP無・底板ステン有	2段引出し
6	コンロキャビネット/配管SP無・底板ステン有	見切り板付/コンロ横(シルバー)/グリルネット付
7	調理器具(1Hクッキングヒーター3口)	水無両面焼(シルバーフェイス、シルバートップ)
8	サイド化粧板	ミドル吊戸棚用
9	ミドル吊戸棚	取手レス仕様
10	アイリアボックス	
11	ミドル吊戸棚	不燃仕様(片側板)/取手レス仕様
12	アイリアボックス・不燃仕様(片側)	
13	レンジフード	深型レンジフード(H70cm用)シロココファン
14	天井幕板	
15	天井幕板取付設置キット	
16	不陸対応クッション	I型用
17	排水トラップ回し	排水トラップ回し
18	サイド化粧板	片面キャビネット・トール家電収納庫用
19	D650扉付トール家電収納庫/下台/家電収納庫	引出(蒸気排出付)/前板シルバー/乳白シルバー扉
20	D650扉付トール家電収納庫/上台	開き扉タイプ(取手付)
21	D650扉付トール家電収納庫/中台	スイングアップ扉(乳白シルバー)
22	蒸気排出ユニット	温度センサー付
23	サイド化粧板	片面キャビネット・トール家電収納庫用
24	天井幕板	
25	天井幕板取付設置キット	
26	見切り板	片面キャビネット用
27	D450片面キャビネット	下台/3段引出し
28	D450片面キャビネット	上台/棚板タイプ(扉面材)
29	D450片面キャビネット	中台/棚板タイプ(2方框シルバー扉)



1階キープラン

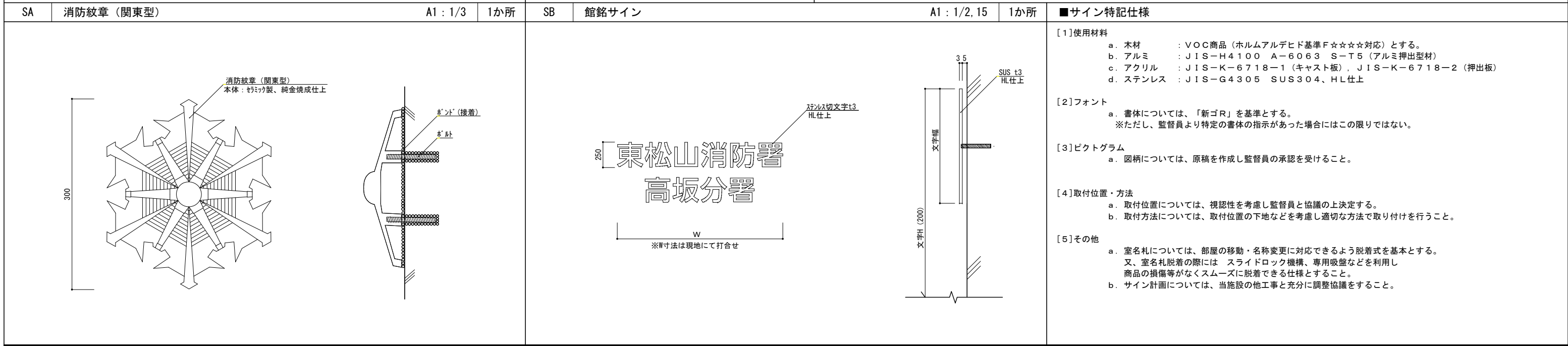
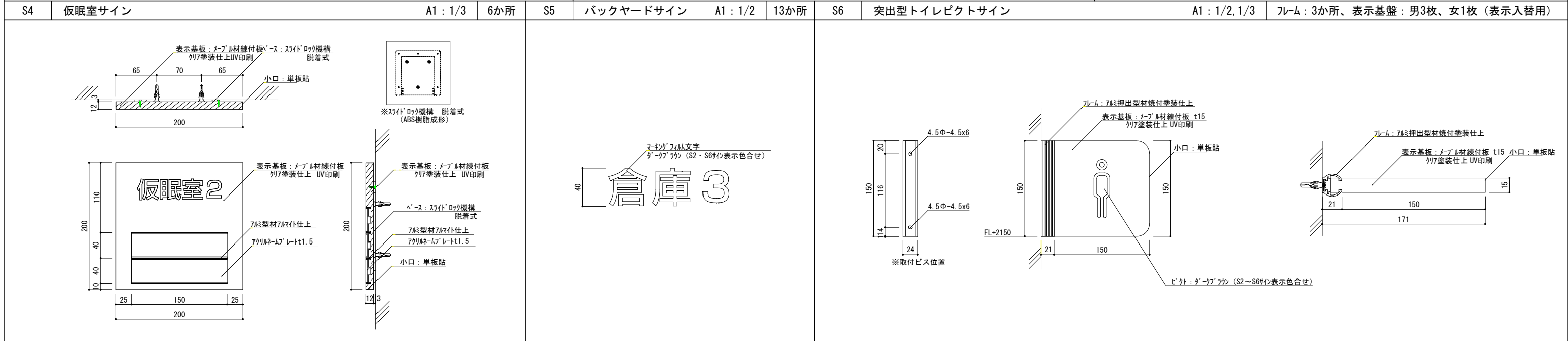
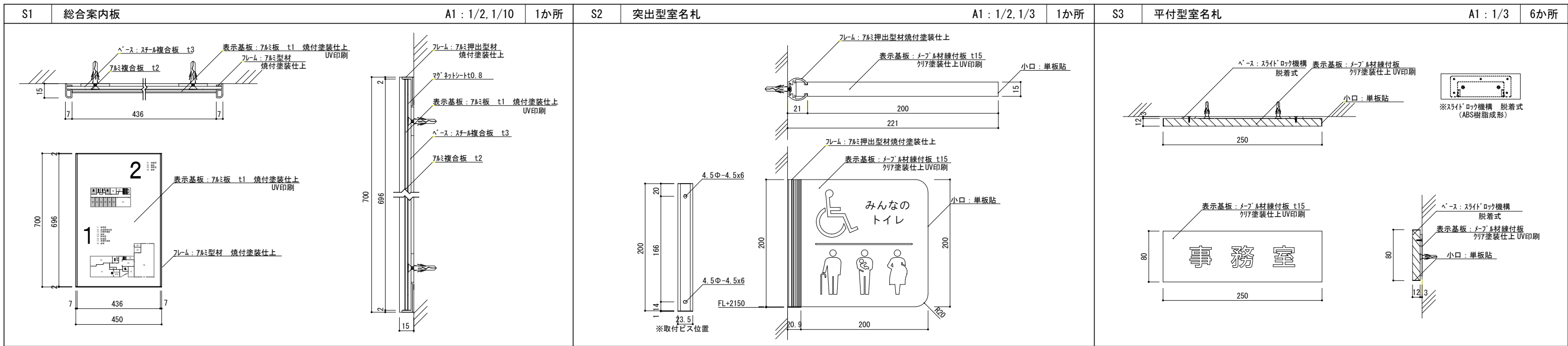


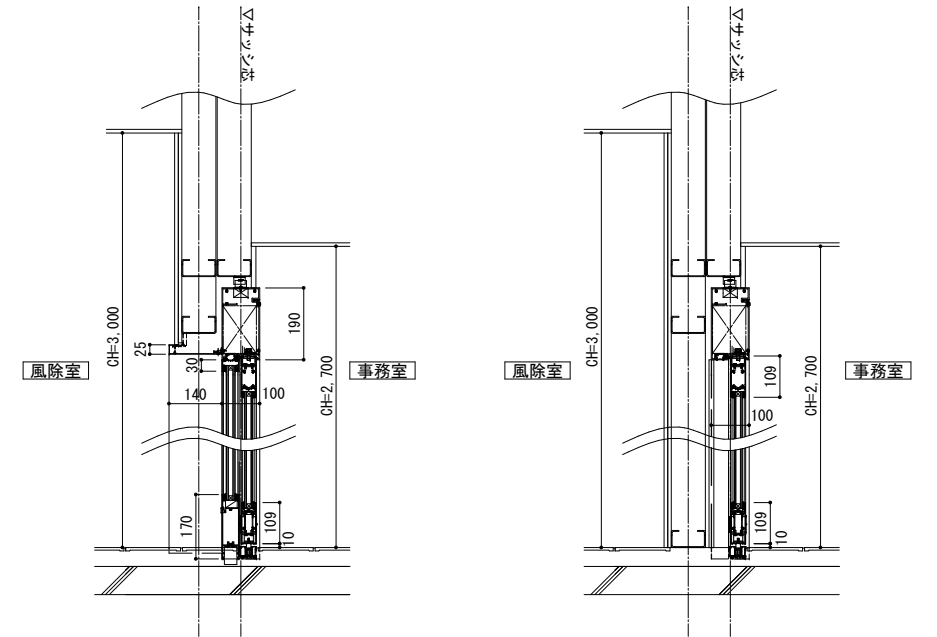
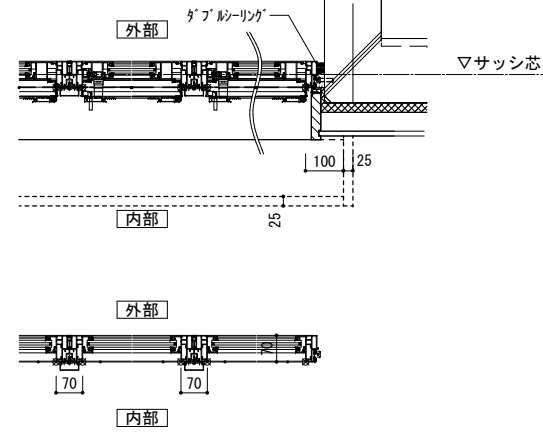
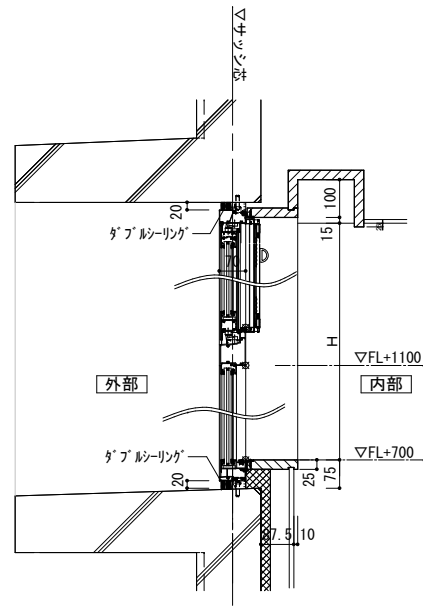
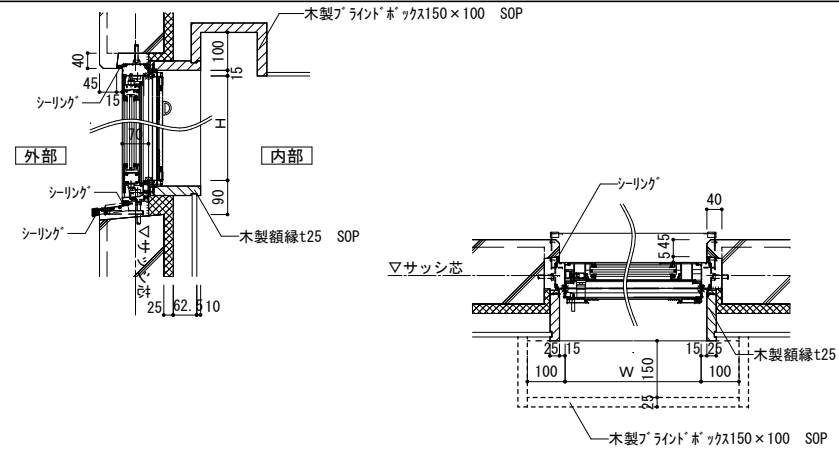
2階キープラン



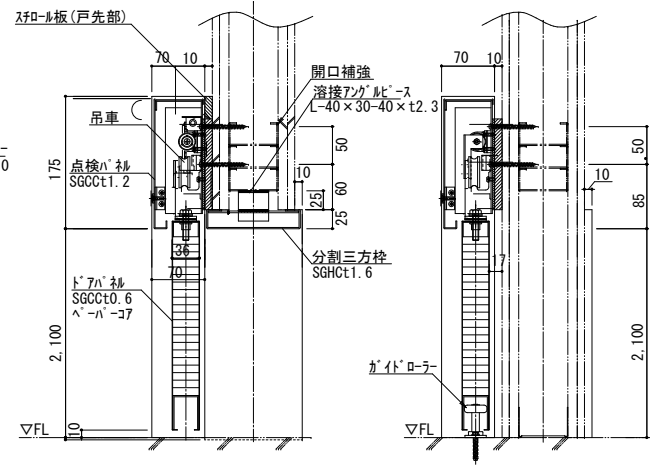
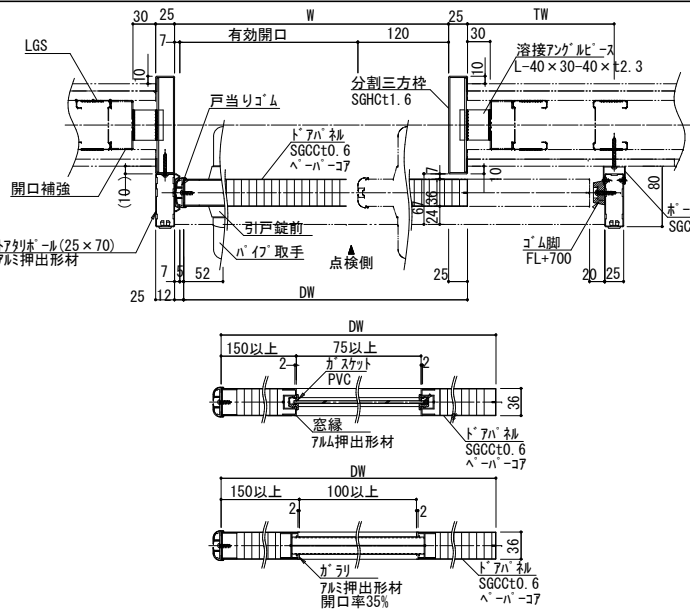
南側立面図



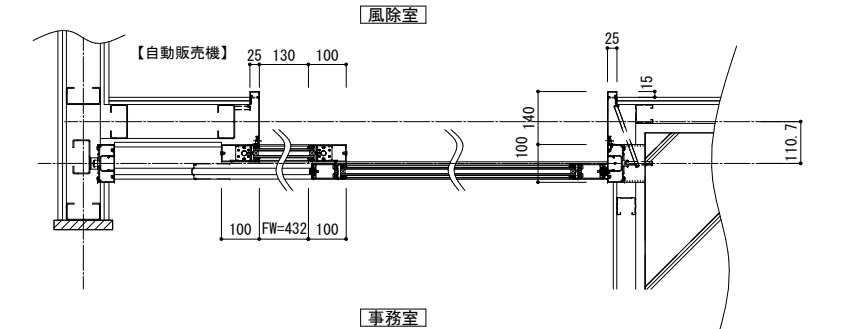




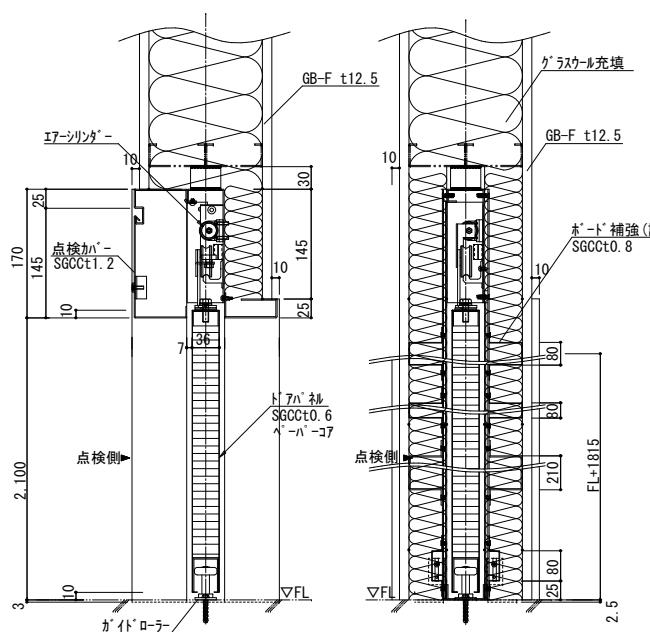
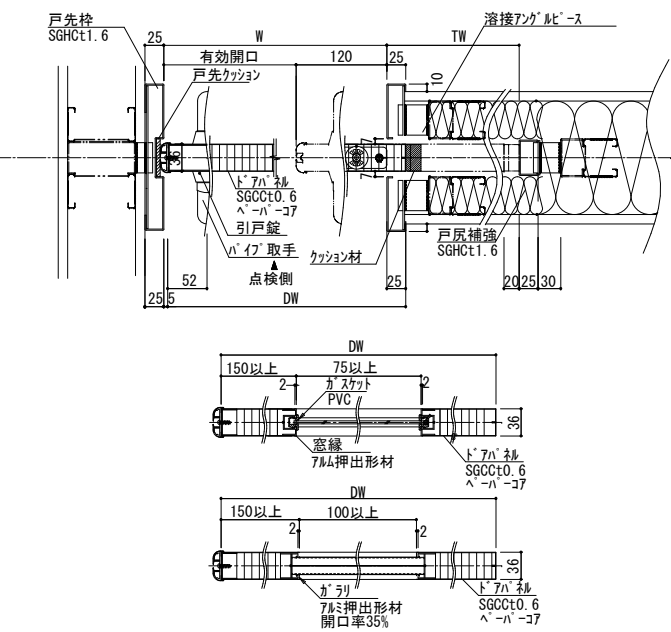
軽量スチールドア 片引き 外付け



開口部三方枠	表面材	溶融亜鉛めっき鋼板 (SGCC) t1.6mm (焼付塗装仕上)
	分割方式	
ドアパネル	表面材	溶融亜鉛めっき鋼板 (SGCC) t0.6mm (焼付塗装仕上)
	枠材	溶融亜鉛めっき鋼板 (SGCC) t1.0mm/t1.6mm
	芯材	アルミニウム合金押出形材 (A6063S-T5)
	窓縁	アルミニウム合金押出形材 (A6063S-T5)
	戸当りゴム	塩化ビニル (グレー)
点検パネル	表面材	溶融亜鉛めっき鋼板 (SGCC) t1.2mm
レール	表面材	アルミニウム合金押出形材 (A6063S-T5) (アルマイトクリア仕上)
吊車	表面材	ポリアセタール樹脂 (ラジアルベアリング内蔵)
金物	ロック	ステンレス製
	振止ローラー	ウレタン樹脂 (ローラー式)
備考	自閉制動装置内蔵	

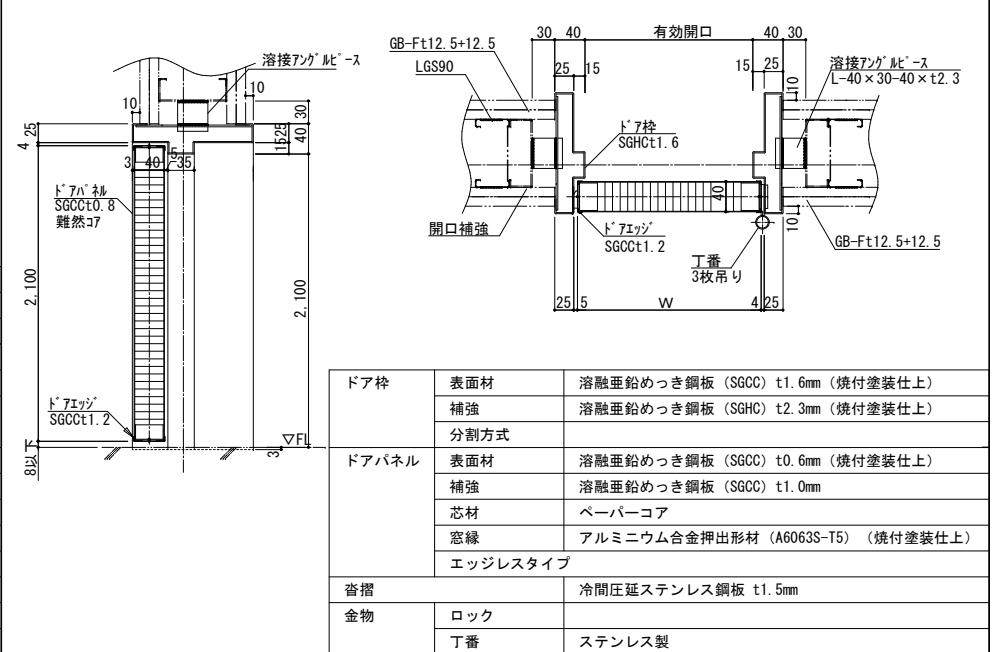


軽量スチールドア 片引き LGS内

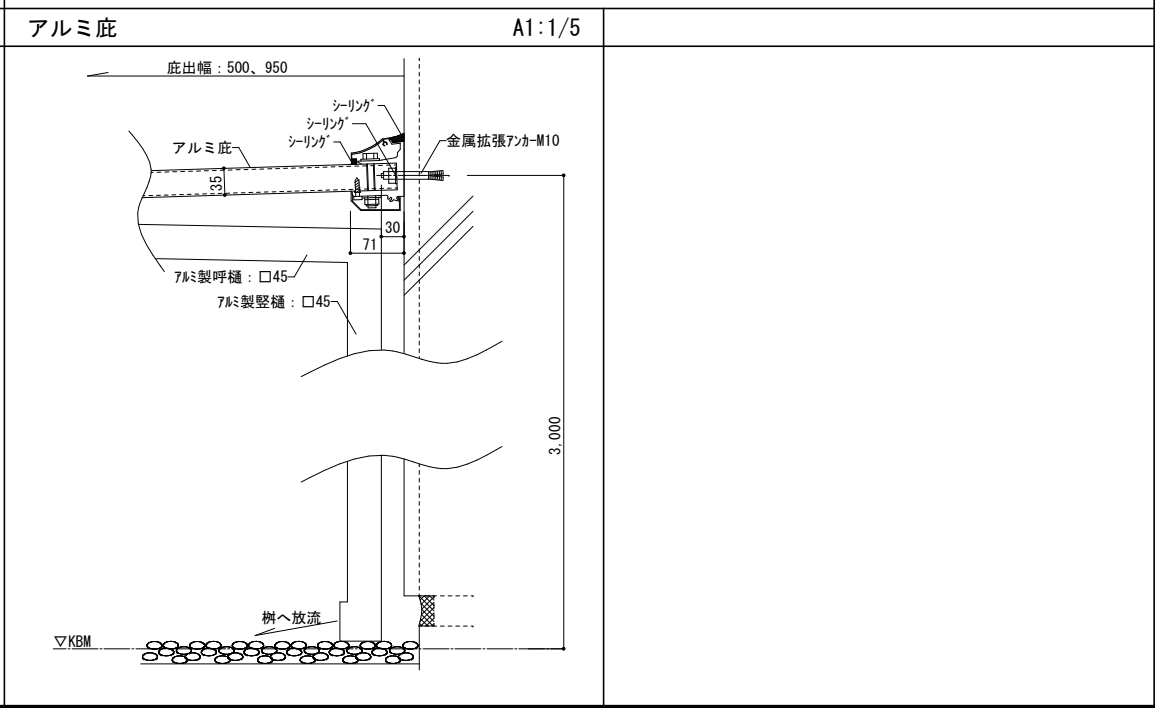
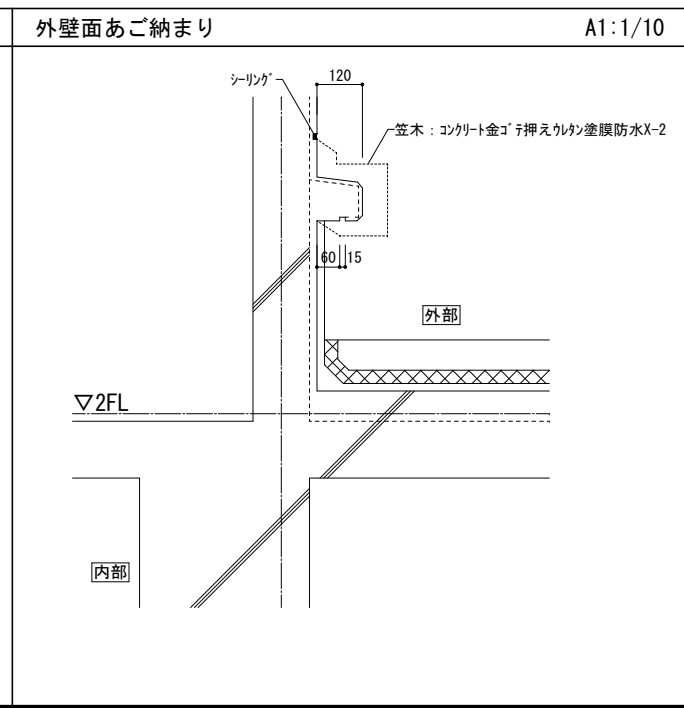
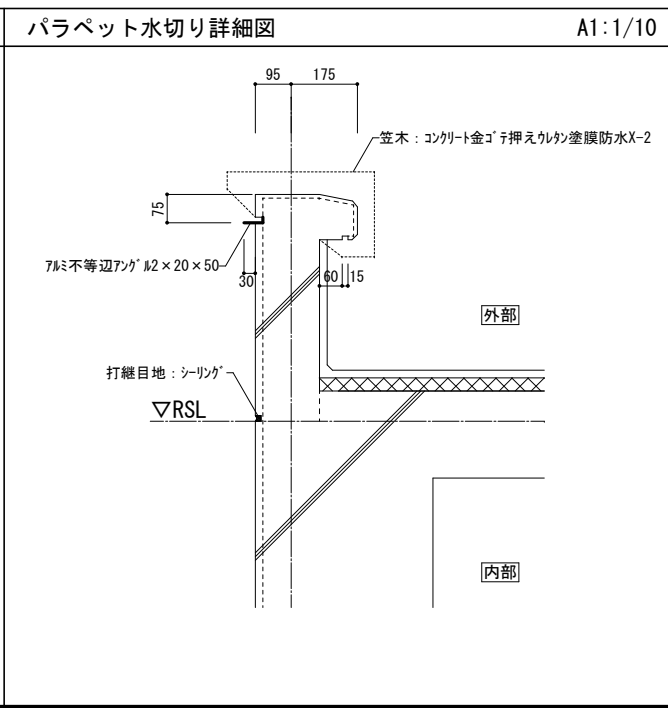
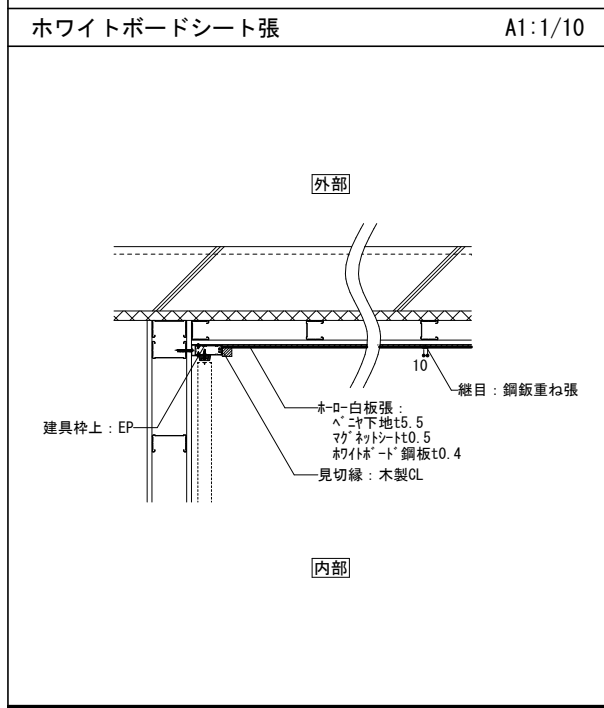
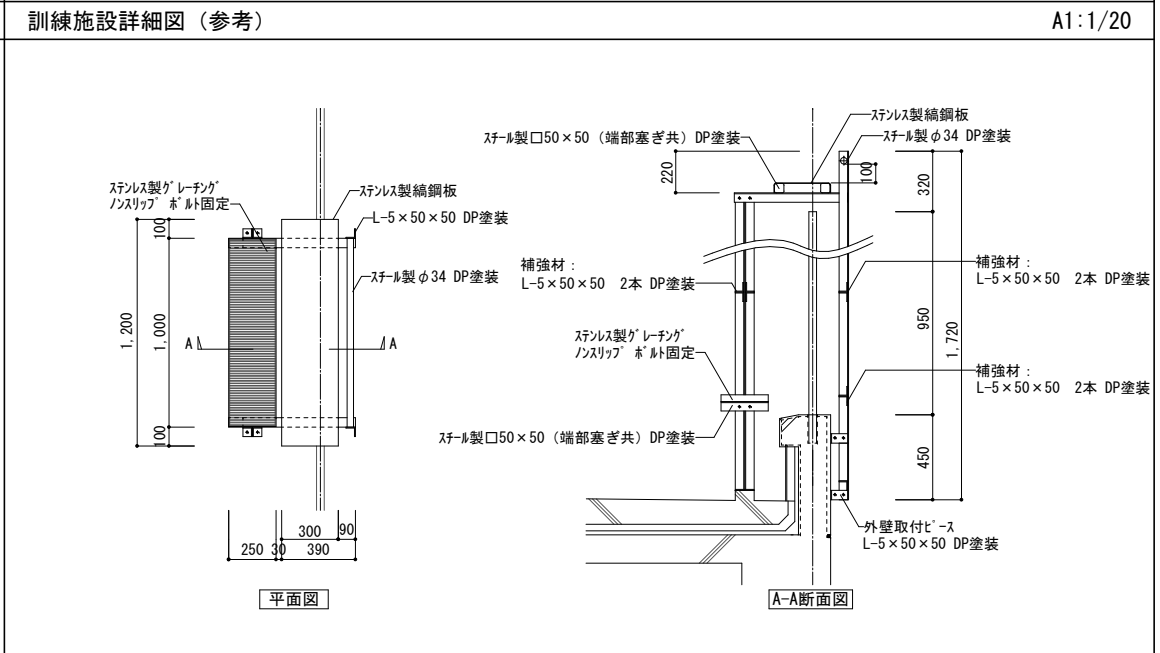
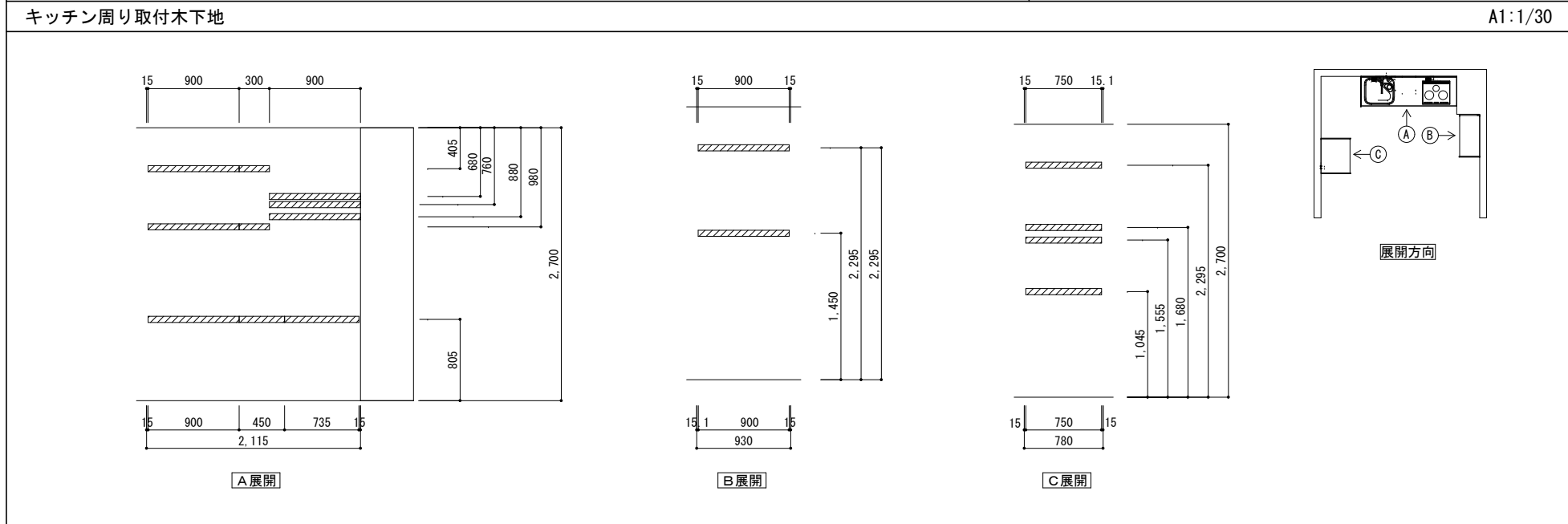
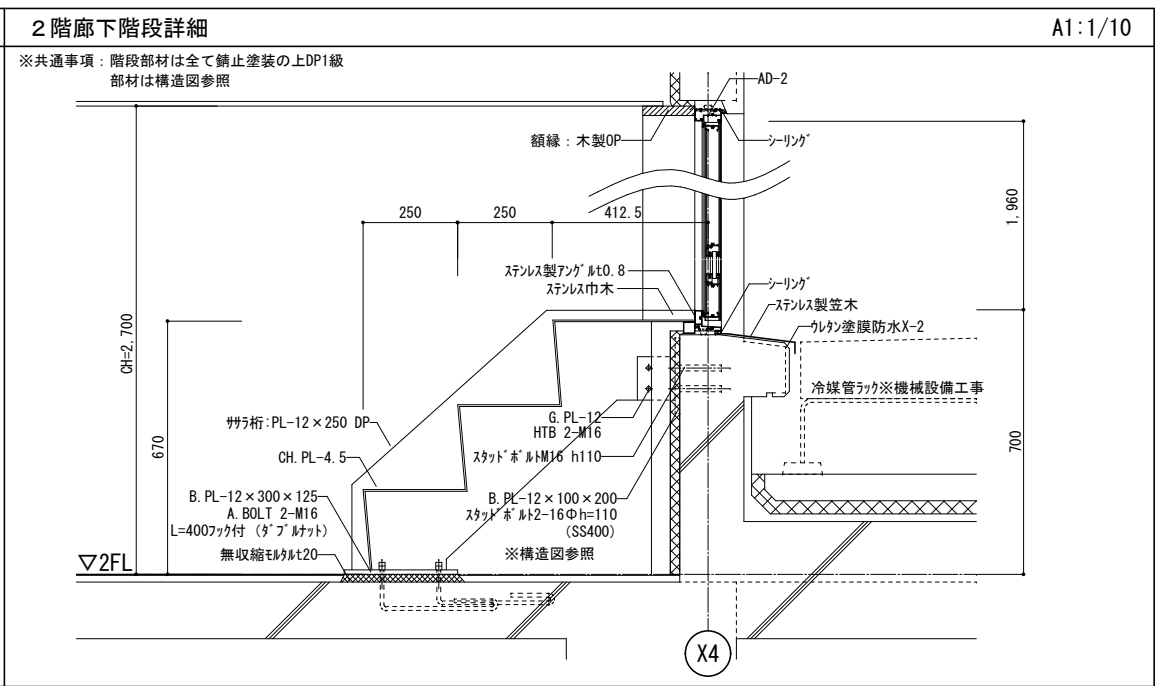
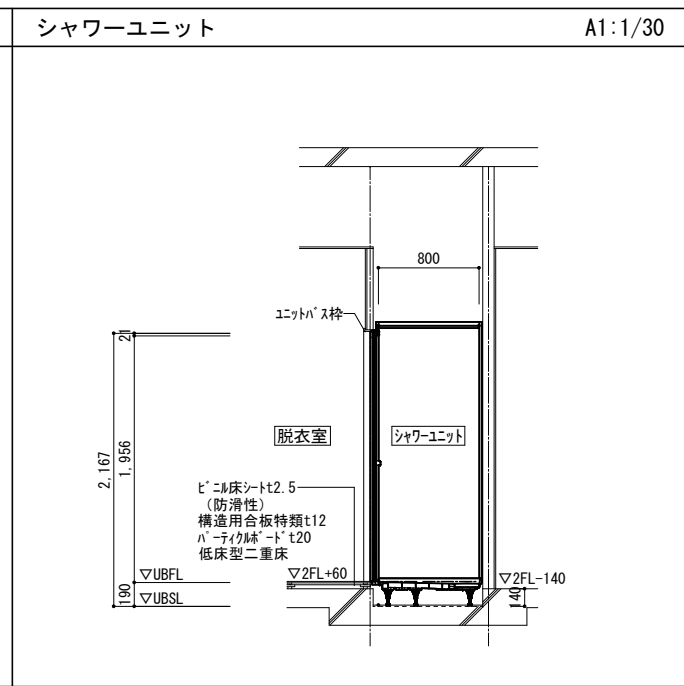
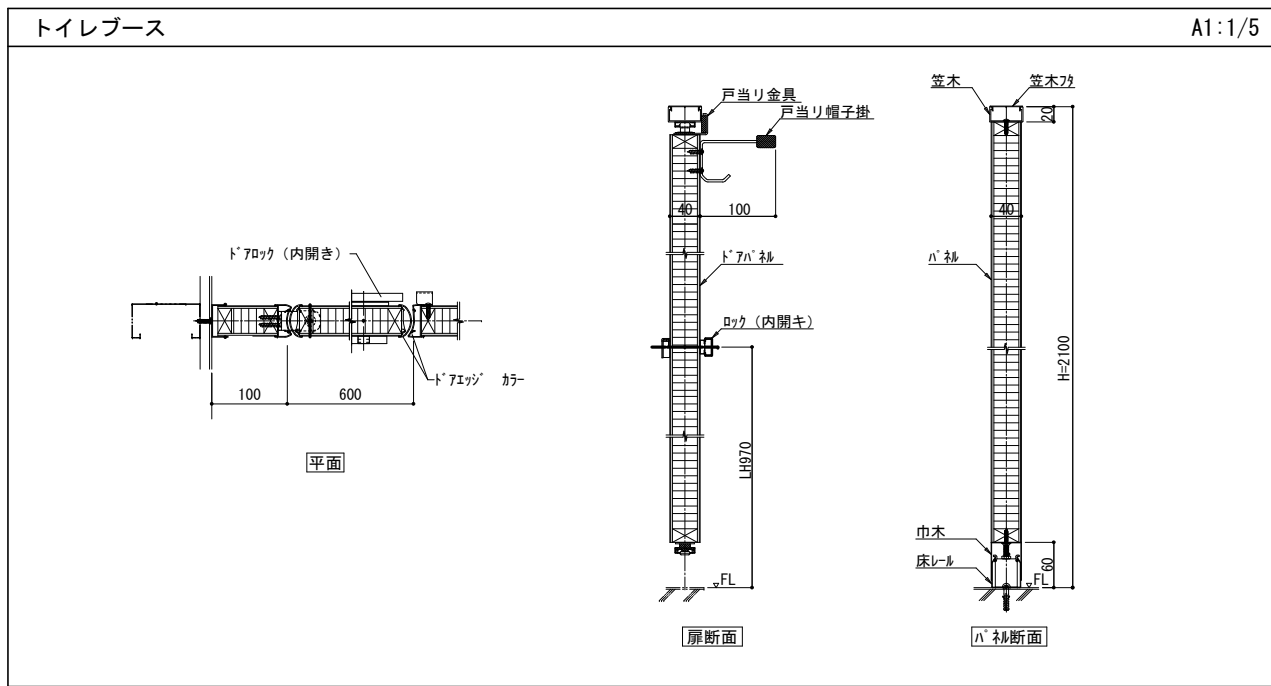


ユニット枠	表面材	溶融亜鉛めっき鋼板 (SGCC) t1.6mm (焼付塗装仕上)
ドアパネル (木目調)	表面材	溶融亜鉛めっき鋼板 (SGCC) t0.6mm (焼付塗装仕上)
	枠材	溶融亜鉛めっき鋼板 (SGCC) t1.0mm/t1.6mm
	芯材	アルミニウム合金押出形材 (A6063S-T5)
	窓縁	アルミニウム合金押出形材 (A6063S-T5) (アルマイトクリア仕上)
	戸当りゴム	塩化ビニル (グレー)
戸袋部補強	表面材	溶融亜鉛めっき鋼板 (SGCC) t1.2mm
点検パネル	表面材	溶融亜鉛めっき鋼板 (SGCC) t1.2mm
レール	表面材	アルミニウム合金押出形材 (A6063S-T5)
吊車	表面材	ポリアセタール樹脂 (ラジアルベアリング内蔵)
金物	ロック	ステンレス製
	振止ローラー	ウレタン樹脂 (ローラー式)
備考	自閉制動装置内蔵	

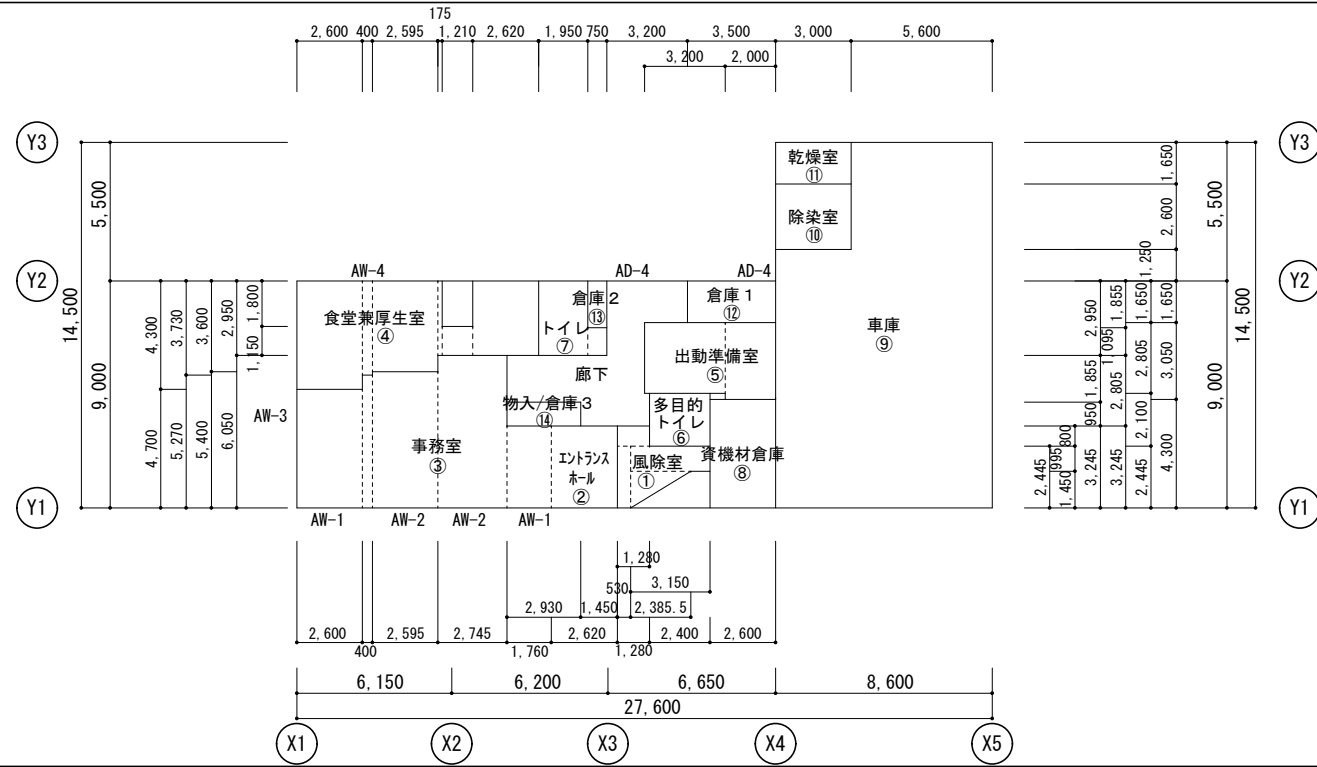
軽量スチールドア 片引き 特定防火設備



ドア枠	表面材	溶融亜鉛めっき鋼板 (SGCC) t1.6mm (焼付塗装仕上)
	補強	溶融亜鉛めっき鋼板 (SGCC) t2.3mm (焼付塗装仕上)
ドアパネル	表面材	溶融亜鉛めっき鋼板 (SGCC) t0.6mm (焼付塗装仕上)
	補強	溶融亜鉛めっき鋼板 (SGCC) t1.0mm
	芯材	ペーパーコア
	窓縁	アルミニウム合金押出形材 (A6063S-T5) (焼付塗装仕上)
エッジレスタイプ		
省槽	冷間圧延ステンレス鋼板 t1.5mm	
金物	ロック	
	丁番	ステンレス製



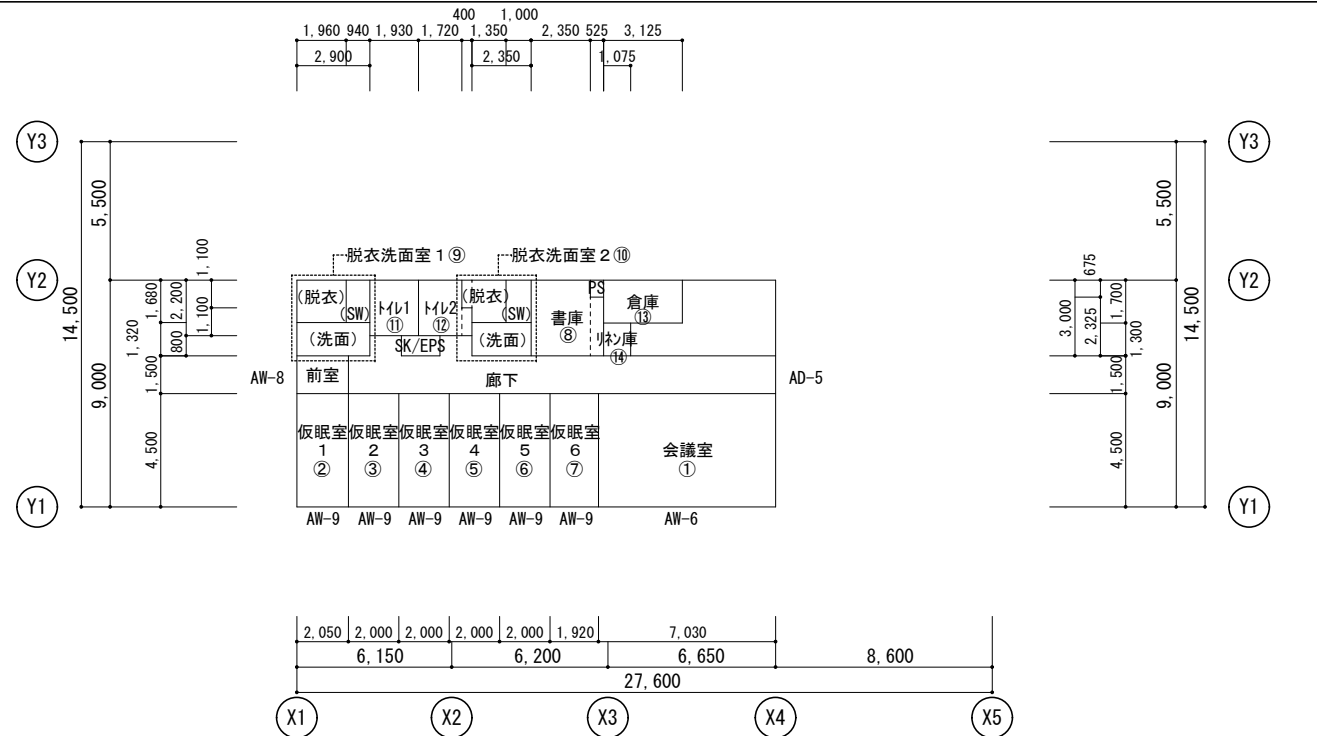
1階 室面積



番号	室名	室面積 S											
		ﾀ1	ｺ1	ﾀ2	ｺ2	ﾀ3	ｺ3	ﾀ4	ｺ4	ﾀ5	ｺ5	ﾀ6	ｺ6
①	風除室	$0.80 \times 1.28 + 2.45 \times 0.53 + 1.00 \times 3.15 + 1.45 \times 2.39 \div 2$											= 7.20525
②	エントランスホール	$3.25 \times 2.62$											= 8.51500
③	事務室	$4.70 \times 2.60 + 5.27 \times 0.40 + 5.40 \times 2.60 + 6.05 \times 2.75 + 3.25 \times 1.76$											= 50.72550
④	食堂兼厚生室	$4.30 \times 2.60 + 3.73 \times 0.40 + 3.60 \times 2.60 + 2.95 \times 0.18 + 1.15 \times 1.21 + 2.95 \times 2.62$											= 31.68350
⑤	出動準備室	$2.81 \times 3.20 + 3.05 \times 2.00$											= 15.09200
⑥	多目的トイレ	$2.10 \times 2.40$											= 5.04000
⑦	トイレ	$2.95 \times 1.95$											= 5.75250
⑧	資機材倉庫	$4.30 \times 2.60$											= 11.18000
⑨	車庫	$14.50 \times 8.60 - \text{⑩} - \text{⑪}$											= 111.95000
⑩	除染室	$2.60 \times 3.00$											= 7.80000
⑪	乾燥室	$1.65 \times 3.00$											= 4.95000
⑫	倉庫 1	$1.86 \times 3.50$											= 6.51000
⑬	倉庫 2	$1.86 \times 0.75$											= 1.39500
⑭	倉庫 3	$0.95 \times 2.93$											= 2.78350

- 採光チェック 室面積×1/20≦採光面積  
事務室+エントランスホール:  $59.23 \div 20 = 2.9615 \leq (AW-1+AW-2) \times 2$ か所=  $(0.46+2.43) \times 2 = 5.73$  ∴OK  
食堂兼厚生室:  $31.68 \div 20 = 1.584 \leq AW-4 = 4.071$  ∴OK
- 換気チェック 室面積×1/20≦換気面積  
事務室+エントランスホール:  $59.23 \div 20 = 2.9615 \leq (AW-1+AW-2) \times 2$ か所=  $(0.78+1.80) \times 2 = 5.16$  ∴OK  
食堂兼厚生室:  $31.68 \div 20 = 1.584 \leq AW-4 = 3.435$  ∴OK
- 排煙チェック 室面積×1/50≦排煙面積  
事務室+エントランスホール:  $59.23 \div 50 = 1.1846 \leq (AW-1+AW-2) \times 2$ か所=  $(0.42+0.85) \times 2 = 2.54$  ∴OK  
食堂兼厚生室:  $31.68 \div 50 = 0.6336 \leq AW-4 = 0.901$  ∴OK
- 無窓階チェック 床面積×1/30=304.78/30=10.16≦AW-2×2か所+AW-3×1か所+AW-4×1か所+AD-4×2か所=2.835×2+2.22×1+1.56+1.46×2=12.370 ∴OK

2階 室面積



番号	室名	室面積 S											
		ﾀ1	ｺ1	ﾀ2	ｺ2	ﾀ3	ｺ3	ﾀ4	ｺ4	ﾀ5	ｺ5	ﾀ6	ｺ6
①	会議室	$4.50 \times 7.03$											= 31.63500
②	仮眠室 1	$4.50 \times 2.05$											= 9.22500
③	仮眠室 2	$4.50 \times 2.00$											= 9.00000
④	仮眠室 3	$4.50 \times 2.00$											= 9.00000
⑤	仮眠室 4	$4.50 \times 2.00$											= 9.00000
⑥	仮眠室 5	$4.50 \times 2.00$											= 9.00000
⑦	仮眠室 6	$4.50 \times 1.92$											= 8.64000
⑧	書庫	$3.00 \times 2.35 + 2.33 \times 0.53$											= 8.28490
⑨	脱衣洗面室 1	$1.68 \times 1.96 + 1.32 \times 2.90 + 1.68 \times 0.94$											= 8.70000
⑩	脱衣洗面室 2	$1.10 \times 0.40 + 1.68 \times 1.35 + 1.32 \times 2.35 + 1.68 \times 1.00$											= 7.49000
⑪	トイレ 1	$2.20 \times 1.93$											= 4.24600
⑫	トイレ 2	$2.20 \times 1.72$											= 3.78400
⑬	倉庫	$1.70 \times 3.13$											= 5.32100
⑭	リネン庫	$1.30 \times 1.08$											= 1.40400

- 採光チェック 室面積×1/20≦採光面積  
仮眠室 1:  $9.225 \div 20 = 0.46125 \leq AW-9 = 0.55$  ∴OK  
仮眠室 2~6:  $9.000 \div 20 = 0.45 \leq AW-9 = 0.55$  ∴OK  
会議室:  $31.63 \div 20 = 1.5815 \leq AW-6 = 5.0885$  ∴OK
- 換気チェック 室面積×1/20≦換気面積  
仮眠室 1:  $9.225 \div 20 = 0.46125 \leq AW-9 = 0.78$  ∴OK  
仮眠室 2~6:  $9.000 \div 20 = 0.45 \leq AW-9 = 0.78$  ∴OK  
会議室:  $31.63 \div 20 = 1.5815 \leq AW-6 = 6.150$  ∴OK
- 排煙チェック 室面積×1/50≦排煙面積  
仮眠室 1:  $9.225 \div 50 = 0.1845 \leq AW-9 = 0.30$  ∴OK  
仮眠室 2~6:  $9.000 \div 50 = 0.1800 \leq AW-9 = 0.30$  ∴OK  
会議室:  $31.63 \div 50 = 0.6326 \leq AW-6 = 2.87$  ∴OK
- 無窓階チェック 床面積×1/30=171.00/30=5.70≦AW-6+AW-8=5.37+0.73=6.10 ∴OK

無窓居室確認用 開口部面積

符号	採光用	換気用	排煙用	無窓階判定用
AW-1	$0.40 \times 1.15 = 0.4600$	$0.60 \times 1.30 = 0.7800$	$0.60 \times 0.70 = 0.4200$	$0.5 \times 1.35 = 0.675$
AW-2	$0.40 \times 1.35 + 0.40 \times 1.35 + 1.00 \times 1.35 = 2.4300$	$0.60 \times 1.50 + 0.60 \times 1.50 = 1.8000$	$0.60 \times 0.70 + 0.60 \times 0.70 = 0.8400$	$0.5 \times 1.35 \times 2 + 1.1 \times 1.35 = 2.835$
AW-3				$1.65 \times 1.35 = 2.22$
AW-4	$0.80 \times 1.95 + 1.86 \times 1.35 = 4.071$	$0.90 \times 2.10 + 1.03 \times 1.50 = 3.435$	$0.90 \times 0.20 + 1.03 \times 0.70 = 0.901$	$0.80 \times 1.95 = 1.560$ (開き扉)
AW-6	$(0.98 \times 1.35 + 0.875 \times 1.35) \times 2 = 5.0085$	$(0.97 \times 1.50 + 1.08 \times 1.50) \times 2 = 6.150$	$(0.97 \times 0.70 + 1.08 \times 0.70) \times 2 = 2.870$	$(0.98 \times 1.45 + 0.87 \times 1.45) \times 2 = 5.365$
AW-8				$0.70 \times 1.05 = 0.735$
AW-9	$0.50 \times 1.1 = 0.55$	$0.60 \times 1.30 = 0.7800$	$0.60 \times 0.50 = 0.3000$	
AD-4				$0.75 \times 1.95 = 1.462$

建築物リスト

番号	用途
建築物①	消防署分署
建築物②	自転車駐車場
建築物③	倉庫 (ごみ集積所)
建築物④	倉庫 (少量危険物倉庫)
建築物⑤	倉庫 (水防倉庫)

凡例

記号	名称
◎◎	現況地盤レベル (KBMからの高さ)
◎*	計画地盤レベル (KBMからの高さ)
緑地	緑地

必要緑化面積  
敷地面積×0.25 = 2,528.81×0.25 = 632.20 m<sup>2</sup>

計画緑化面積  
672.74m<sup>2</sup>

必要接道部の緑化長さ  
L1 = (15.3 + 18.4 + 18.7) ÷ 2 = 26.2m  
L2 = (15.3 + 18.4 + 18.7) - (6.0 + 12.0) = 49.7m  
L1 ≤ L2 ∴ L1を採用

計画接道部の長さ  
28.4m

樹木リスト

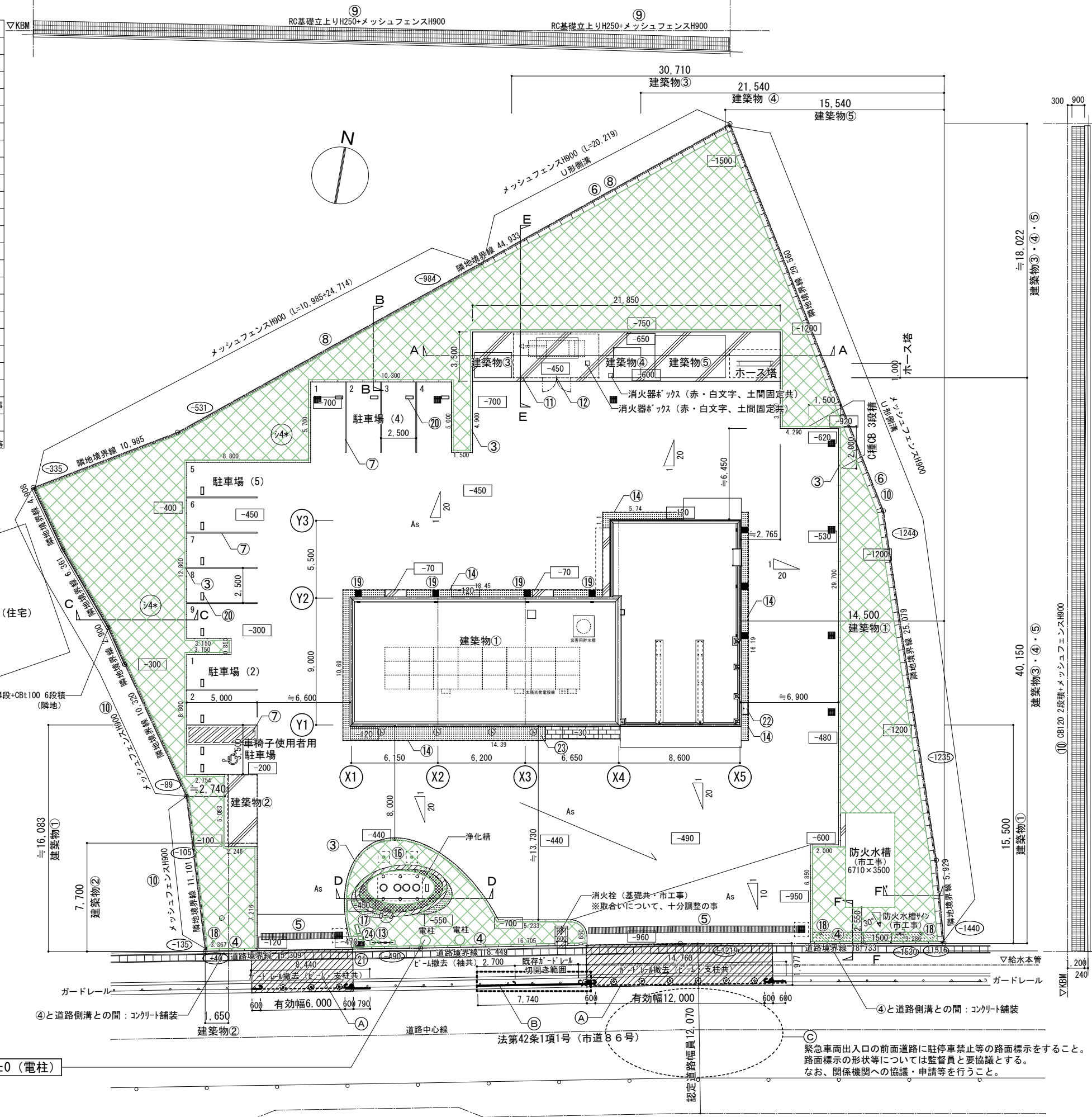
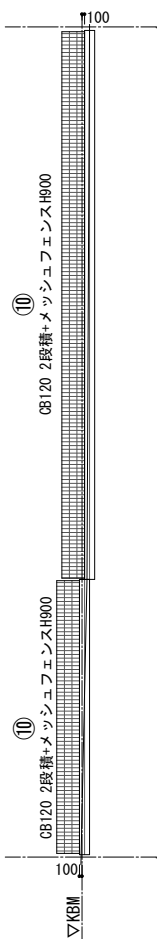
記号	樹種	本数	W	H	C	備考
◎4*	シラカシ株立 (5本立)	2	1.5	4.0		ハコ掛支柱
◎7*	ブラシノキ	1	1.0	3.0		二脚鳥居支柱
◎1*	ドトナアボックツツシ	4	0.3	1.2		添え柱支柱
芝 100%		芝串、目土 共 (土羽打ち)				
緑地A 5.0m <sup>2</sup>		アビ 50%/シムバ-ブ リハ 40%/グミギルト イヅジ 10%				
アビ (白花)		H=0.5	9本/m <sup>2</sup>	22本		
シムバ-ブ リハ		H=0.5	9本/m <sup>2</sup>	18本		
グミギルト イヅジ		H=0.5	9本/m <sup>2</sup>	5本		
緑地B 4.5m <sup>2</sup>		マホアコンフューサ50%/ハヒカキ10%/フィリフェラオーレ20%/カレックス10%				
マホアコンフューサ		H=0.3	16本/m <sup>2</sup>	36本		
ハヒカキ		H=0.3	16本/m <sup>2</sup>	14本		
フィリフェラオーレ		H=0.3	16本/m <sup>2</sup>	14本		
カレックス		15cmVP	25株/m <sup>2</sup>	11株		
緑地C 2.5m <sup>2</sup>		ハビ ヤクシン40%/ノランビ ヴァーナス40%/ヤブラン20%				
ハビ ヤクシン		15cmVP	25株/m <sup>2</sup>	25株		
ノランビ ヴァーナス		15cmVP	36株/m <sup>2</sup>	36株		
ヤブラン		10.5cmVP	49株/m <sup>2</sup>	25株		
緑地D 5.8m <sup>2</sup>		ニューサイラン (銅葉) H=0.8 3株 カレックス 15cmVP 5株 マルチング (火山砂利・赤) 5.8m <sup>2</sup> t50				
緑地E 33.79m <sup>2</sup> +7.42m <sup>2</sup> =41.21m <sup>2</sup>		白砕石砂利 4号砂利 41.21m <sup>2</sup> t50 防草シート敷共				

※施工前に道路法の手続きをおこなうこと。  
既存ガードレールは仮設計画図参照  
※関係機関への協議・申請等を行うこと。

道路改修工事	改修前	改修後
◎A	カッター入れ (As、U字側溝、ガードレール支柱) アスファルト舗装 (路盤共) 【撤去】 U字側溝 (蓋共) 【撤去】 As、ガードレール (支柱共) 【撤去】	アスファルト舗装 【新設】 ※舗装組成は部分詳細図参照 ライン引き 【新設】 ボックスカルバート520×500 【新設】 As、ガードレール (支柱共) 【新設】 ※端部は反射板設置
◎B	カッター入れ (撤去支柱、新設ガードレール) As、ガードレール (支柱共) 【撤去】 ※端部は反射板共	アスファルト舗装補修 As、ガードレール (支柱共) 【新設】 ※端部は反射板共
◎C		路面標示 【新設】

外構凡例

記号	名称	概要
◎1	透水性アスファルト舗装	耐重仕様
◎2	コンクリート舗装・基礎	基礎は別図参照
◎3	地先ブロックA	100×100二面仕上 標準図集9-11-5
◎4	境界ブロックB	100×120二面仕上 標準図集9-11-7
◎5	U字型側溝	W300/201
◎6	ステンレス製グレーチング	スリット 細目φ10以下
◎7	U字型側溝	W300
◎8	コンクリート製蓋	
◎9	メッシュフェンス	H900
◎10	メッシュフェンス	H900、CB基礎
◎11	メッシュフェンス	H1800
◎12	メッシュフェンス両開門扉	W2000×H1800、鍵付
◎13	ポスターケース	別図参照
◎14	アスファルト舗装見切材	ステンレス製
◎15	半ピッコ敷	
◎16	フラッグポール	別図参照
◎17	署名表示板	別図参照
◎18	旗竿受金物	
◎19	雨水集水枿	グレーチング 蓋共
◎20	車止め	
◎21	点状ブロック	2枚
◎22	外部水栓	水栓・配管接続は機械設備工事
◎23	ポスト	
◎24	インターホン	子機は電気設備工事 CFPR174表示灯付 (nansonic) 同梱



KBM±0 (電柱)

緊急車両出入口の前面道路に駐車禁止等の路面標示をすること。  
路面標示の形状等については監督員と要協議とする。  
なお、関係機関への協議・申請等を行うこと。

申請建物リスト

番号	用途
建築物①	消防署分署
建築物②	自転車駐車場
建築物③	倉庫 (ごみ集積所)
建築物④	倉庫 (少量危険物倉庫)
建築物⑤	倉庫 (水防倉庫)

凡例

記号	説明
⊙	現況地盤レベル (KBMからの高さ)
⊠	計画地盤レベル (KBMからの高さ)

緑化必要面積

敷地面積 × 0.25 = 2,528.81 × 0.25 = 632.20 m<sup>2</sup>

緑化を要する接道部の長さ

L1 = (15.3 + 18.4 + 18.7) ÷ 2 = 26.2m

L2 = (15.3 + 18.4 + 18.7) - (6.0 + 12.0) = 49.7m

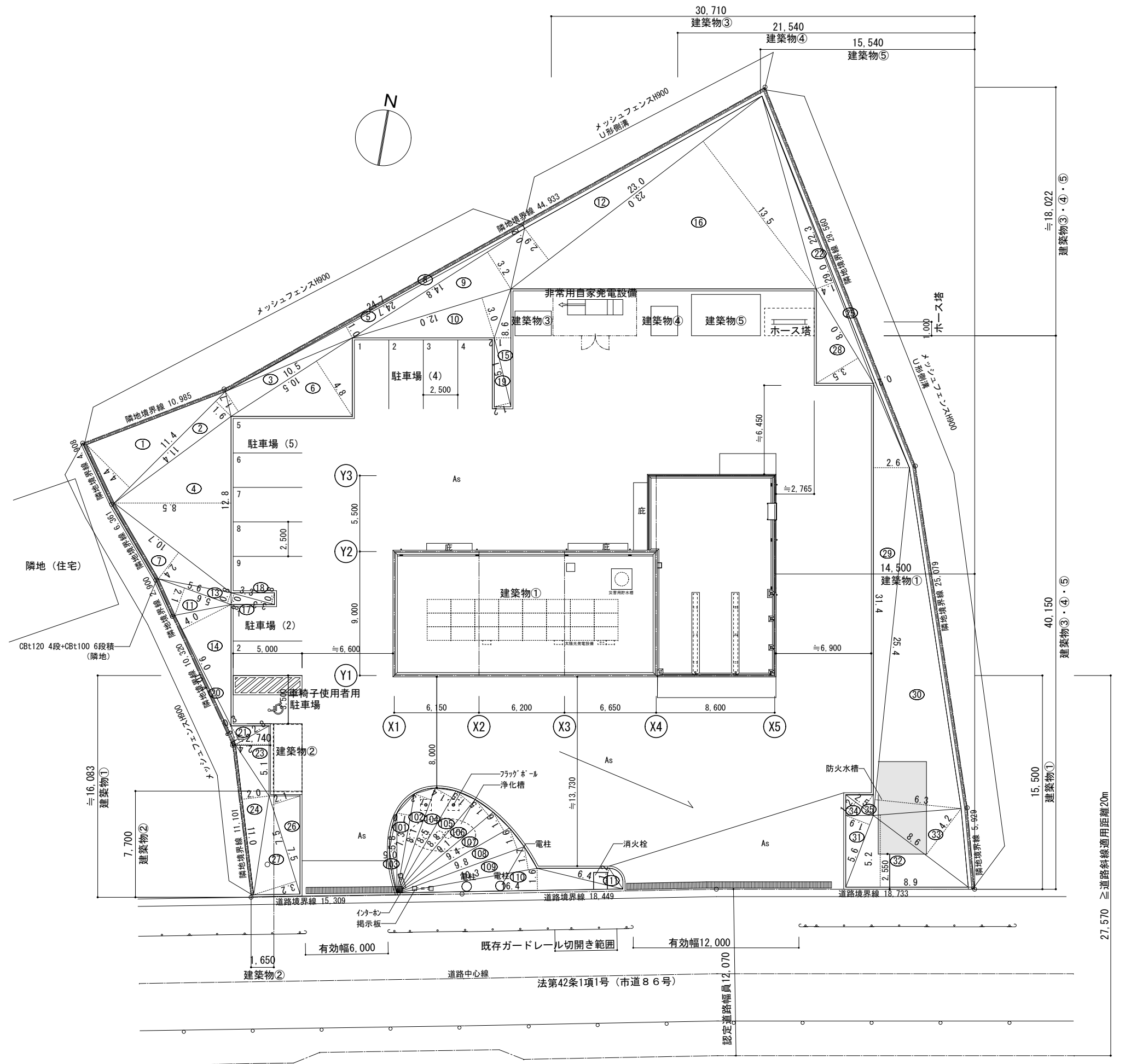
L1 ≤ L2 ∴ L1を採用

番号	底辺	高さ	倍面積	面積
1	11.4	4.4	50.16	25.080
2	11.4	1.6	18.24	9.120
3	10.5	1.7	17.85	8.925
4	12.8	8.5	108.80	54.400
5	24.7	1.0	24.70	12.350
6	10.5	4.8	50.40	25.200
7	10.7	2.4	25.68	12.840
8	24.7	0.2	4.94	2.470
9	14.8	3.2	47.36	23.680
10	12.0	3.0	36.00	18.000
11	5.6	2.1	11.76	5.880
12	23.0	2.9	66.70	33.350
13	5.6	0.8	4.48	2.240
14	9.0	4.0	36.00	18.000
15	8.6	1.2	10.32	5.160
16	23.0	13.5	310.50	155.250
17	3.3	0.8	2.64	1.320
18	3.3	0.8	2.64	1.320
19	5.1	1.2	6.12	3.060
20	10.4	0.3	3.12	1.560
21	2.8	1.3	3.64	1.820
22	22.3	1.4	31.22	15.610
23	5.1	2.4	12.24	6.120
24	11.0	2.0	22.00	11.000
25	29.0	0.2	5.80	2.900
26	7.5	2.1	15.75	7.875
27	7.5	3.2	24.00	12.000
28	8.0	3.5	28.00	14.000
29	31.4	2.6	81.64	40.820
30	25.4	6.3	160.02	80.010
31	5.6	1.9	10.64	5.320
32	8.9	5.2	46.28	23.140
33	8.6	4.2	36.12	18.060
34	2.5	1.2	3.00	1.500
35	2.5	1.2	3.00	1.500
合計				660.880
敷地面積				660.88 m <sup>2</sup>

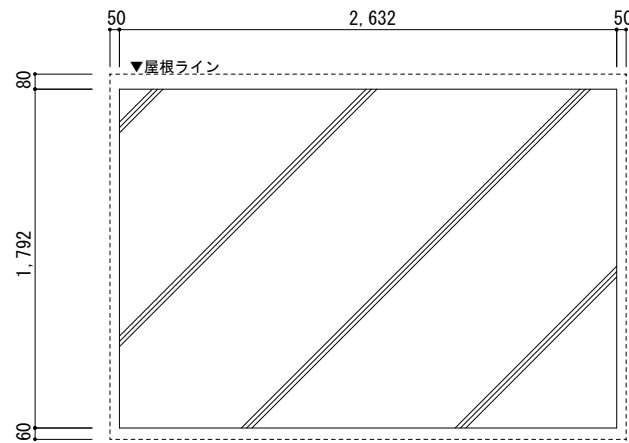
上記面積より除外  
 防火水槽=6.71×3.50  
 ∴緑地①面積 =660.88-23.485 =637.395m<sup>2</sup>

番号	底辺	高さ	倍面積	面積
101	7.3	1.0	7.30	3.650
102	8.1	1.3	10.53	5.265
103	5.8	0.5	2.90	1.450
104	8.5	1.4	11.90	5.950
105	8.8	1.5	13.20	6.600
106	9.1	1.5	13.65	6.825
107	9.4	1.6	15.04	7.520
108	9.8	1.6	15.68	7.840
109	10.3	1.7	17.51	8.755
110	16.4	1.6	26.24	13.120
111	6.4	1.2	7.68	3.840
合計				70.815
敷地面積				70.81 m <sup>2</sup>

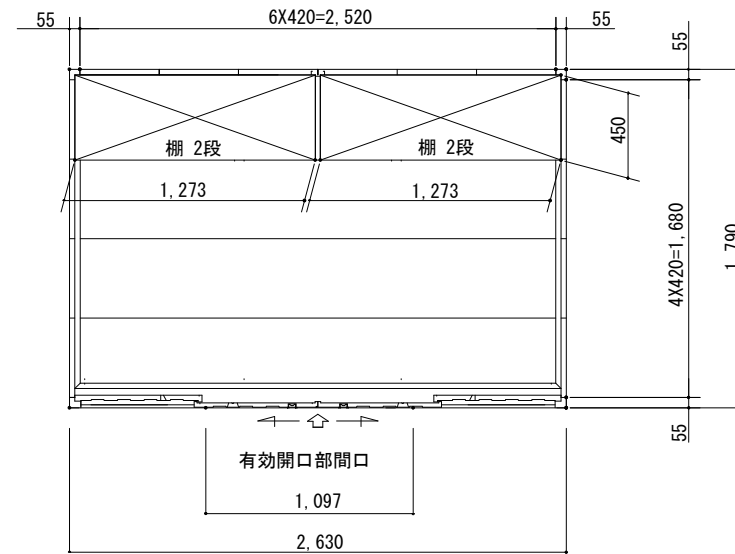
上記面積より除外 (CAD計測)  
 フラッグポール+浄化槽+インベ+掲示板+電柱  
 =0.07+11.52+0.33+0.09+0.76=12.77  
 ∴緑地②面積 =70.81-12.77 =58.04m<sup>2</sup>



配置図



基礎 平面図 A1 : 1/20

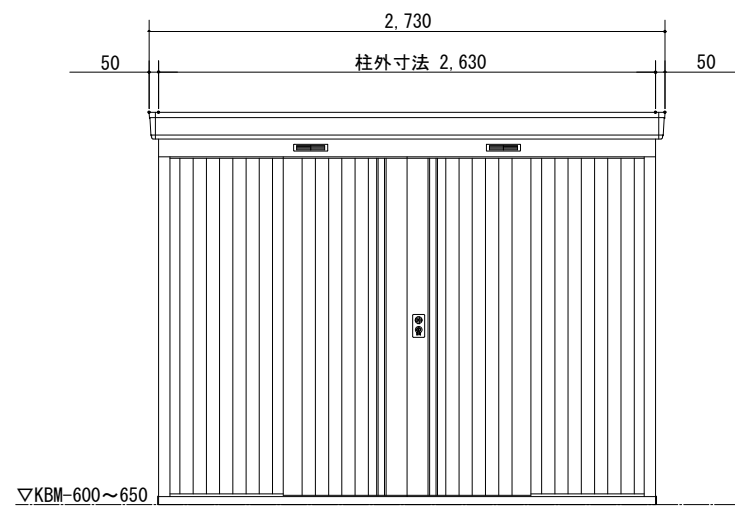


平面図 A1 : 1/20

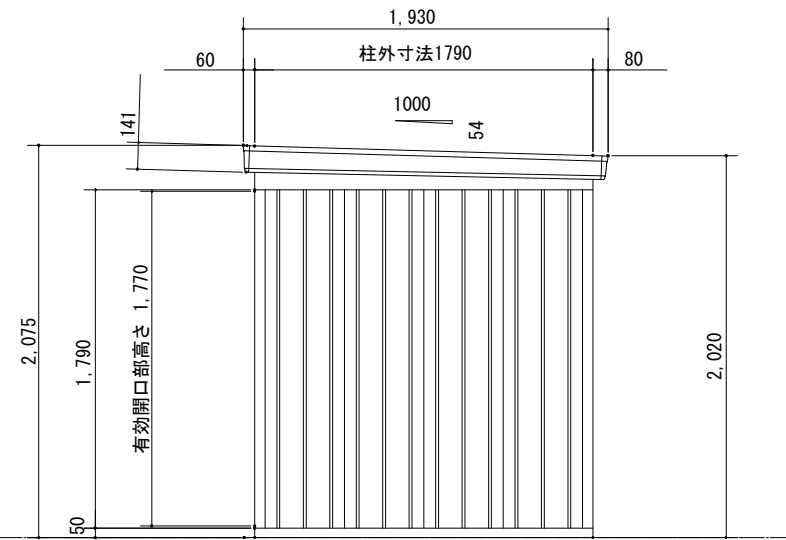
部品名	材料 (材質)	(mm)
① 土台枠	F12	1.2
② 根太	F12	1.2
③ 柱	F12	1.2
④ 床パネル	F12	1.2
⑤ 鴨居	Y10	1.0
⑥ 桁後	Y10	1.0
⑦ 妻板左右	Y10	0.7
⑧ 鼻隠シ前後	Y10	0.7
⑨ 屋根パネル	Y10	0.5
⑩ 母屋中	F12 (一般型1.2/多雪地型2.3)	
⑪ 壁パネル	F12	0.6
⑫ 正面パネル	F12	0.7
⑬ 扉	F12	0.8
⑭ 棚板	F12	0.6
⑮ アンカープレート	F12	2.3

F12→溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302)  
 Y10→溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317)

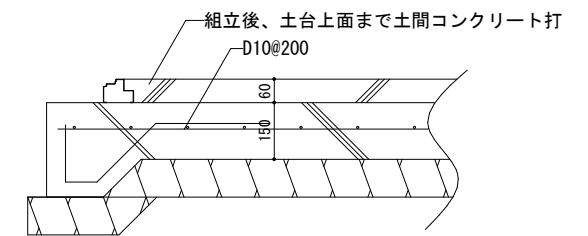
参考品番 : FS-2618S



正面図 A1 : 1/20



断面図 A1 : 1/20

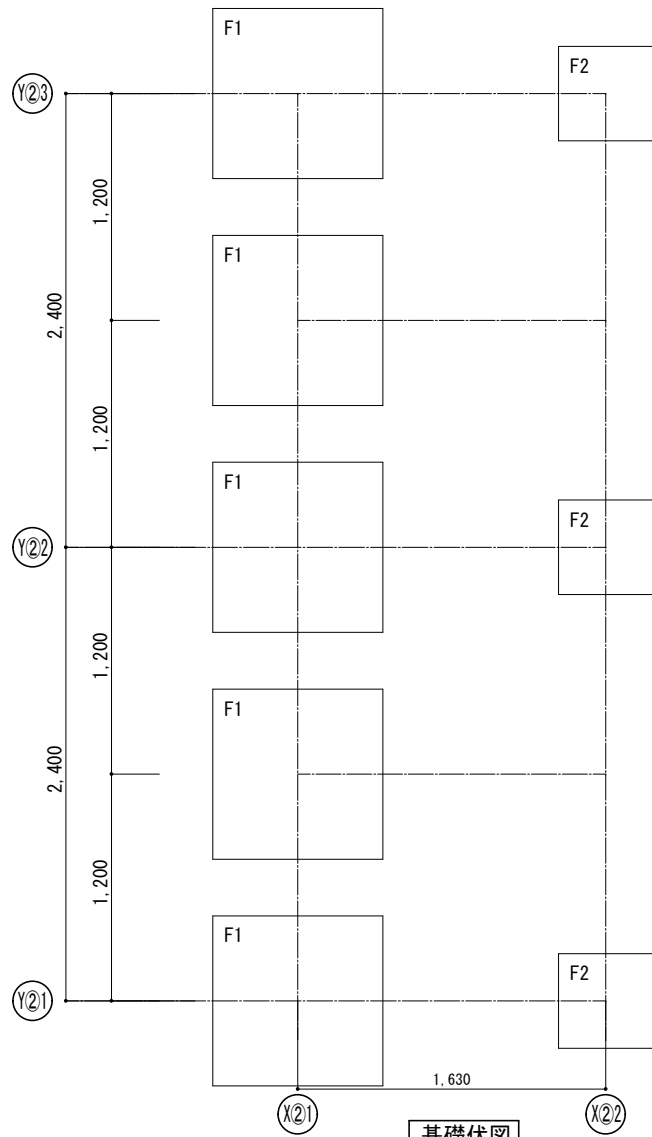


基礎 断面図 A1 : 1/10

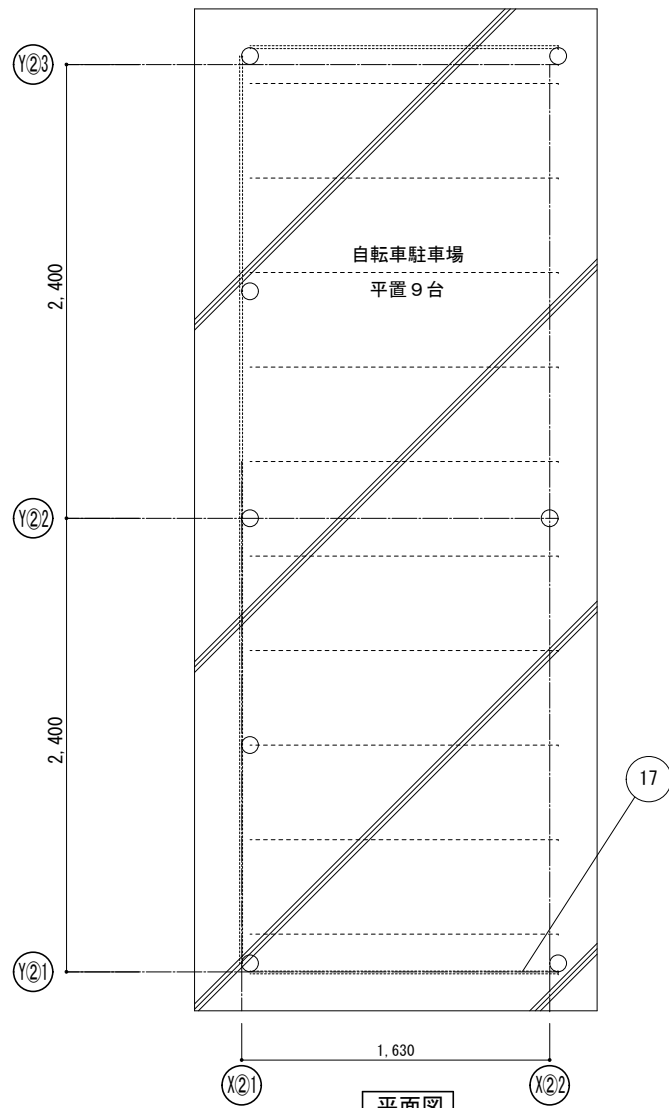
建物基礎固定 : 接着系アンカー M10 Wナット 埋込100 4本/基礎

長期許容支持力	qa=50kN/m <sup>2</sup>
使用材料	
1) コンクリート	設計基準強度F <sub>c</sub> : 21N/mm <sup>2</sup> スランプ : 18cm
2) 鉄筋	D16以下 : SD295 D16以上 : SD345

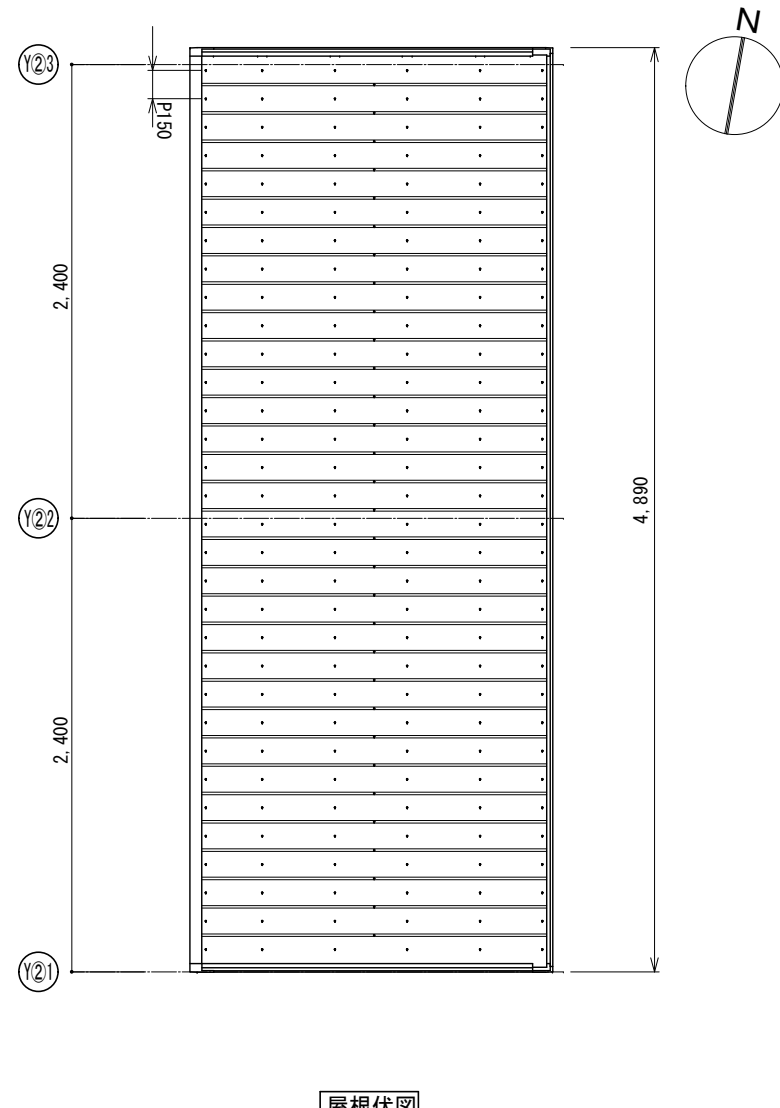
ごみ集積所の構造は建築基準法第20条4号イによる



基礎伏図

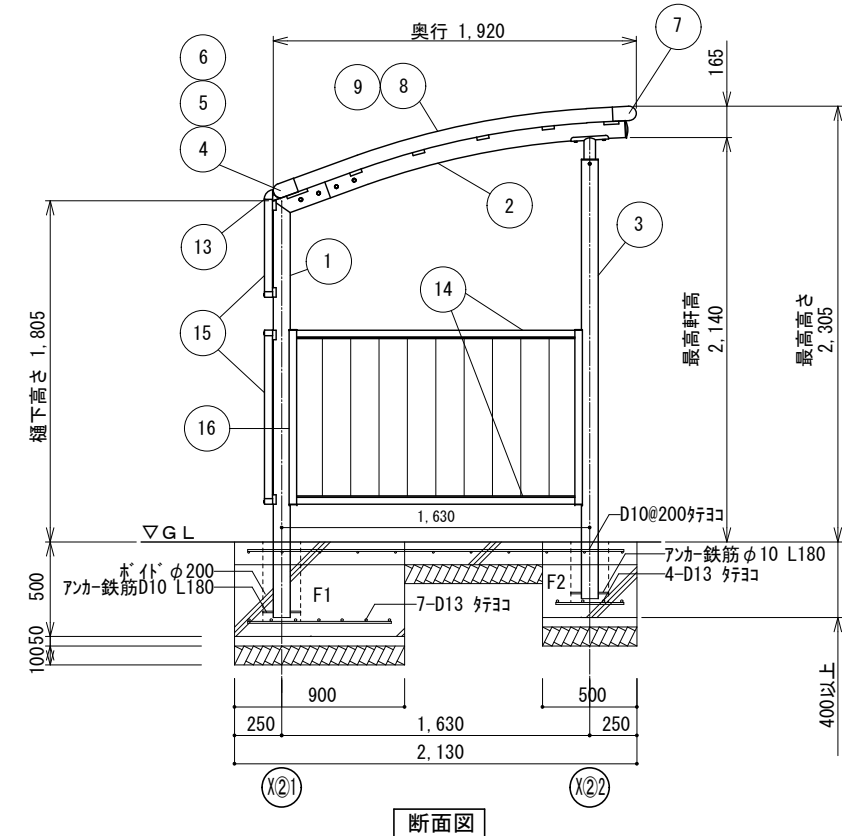


平面図

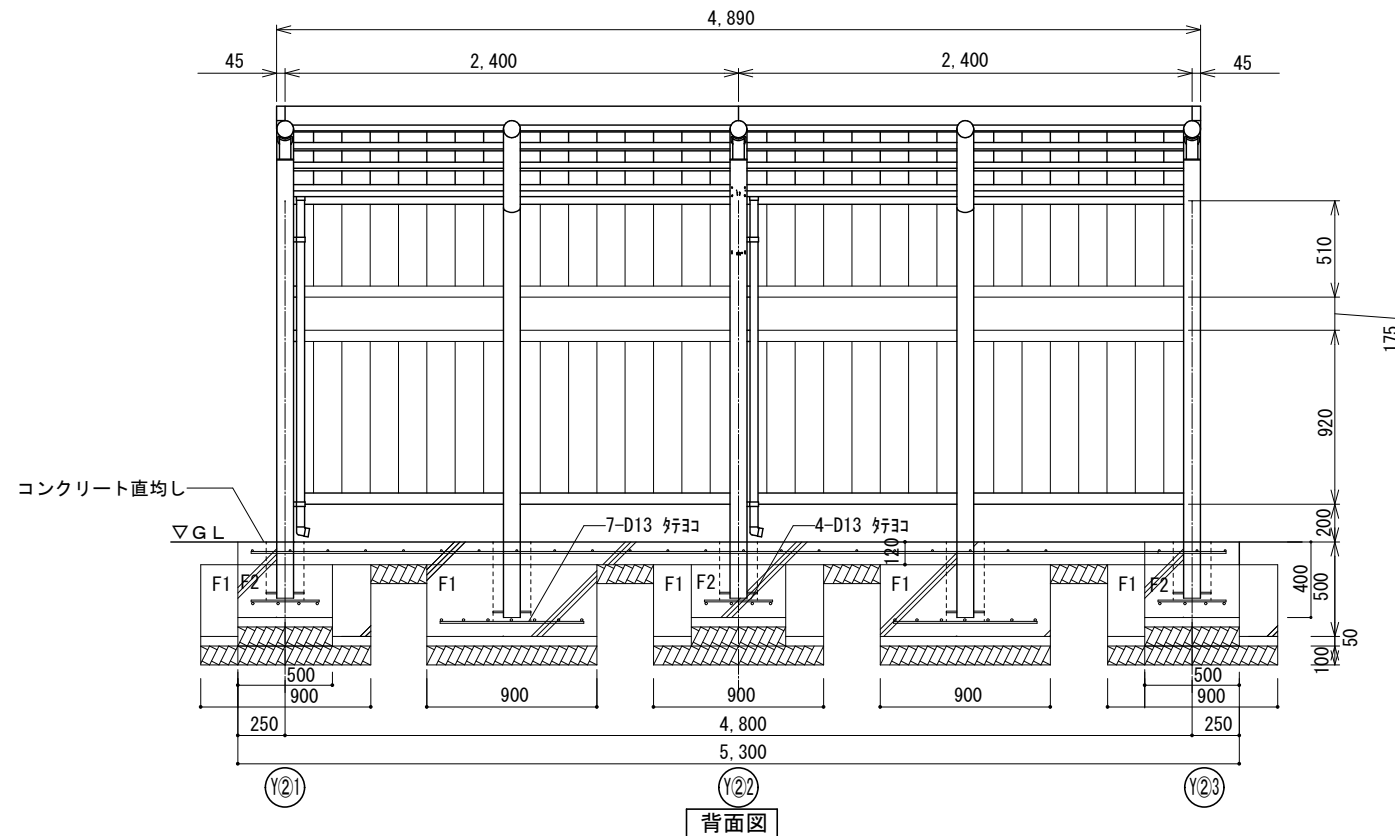


屋根伏図

① 支柱	電気亜鉛めっき・ポリエステル粉体塗装 一般構造用炭素鋼管
② 曲げ梁	電気亜鉛めっき・ポリエステル粉体塗装 一般構造用炭素鋼管
③ 補助支柱	電気亜鉛めっき・ポリエステル粉体塗装 一般構造用炭素鋼管
④ 樋	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
⑤ 樋カバー	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
⑥ 端部母屋	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
⑦ 正面水切	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
⑧ 側面水切	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
⑨ 側面水切カバー	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
⑩ 母屋	電気亜鉛めっき・ポリエステル粉体塗装 一般構造用角形鋼管
⑪ 屋根材	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
⑫ SP上棧	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
⑬ SP上棧カバー	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
⑭ SP横棧	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
⑮ SP縦棧	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
⑯ ショルダー縦棧	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
⑰ サイドパネル材	陽極酸化・塗装複合皮膜 アルミ押出形材
プレス部品類	電気亜鉛めっき・ポリエステル粉体塗装 冷間圧延鋼板
キャップ類	ASA
ボルト・ネジ類	ステンレス鋼線材



断面図

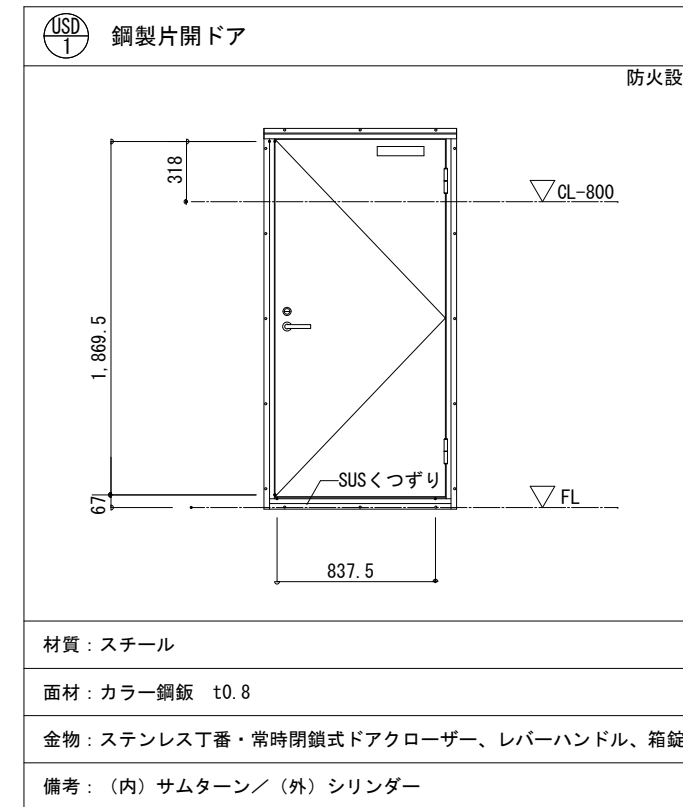
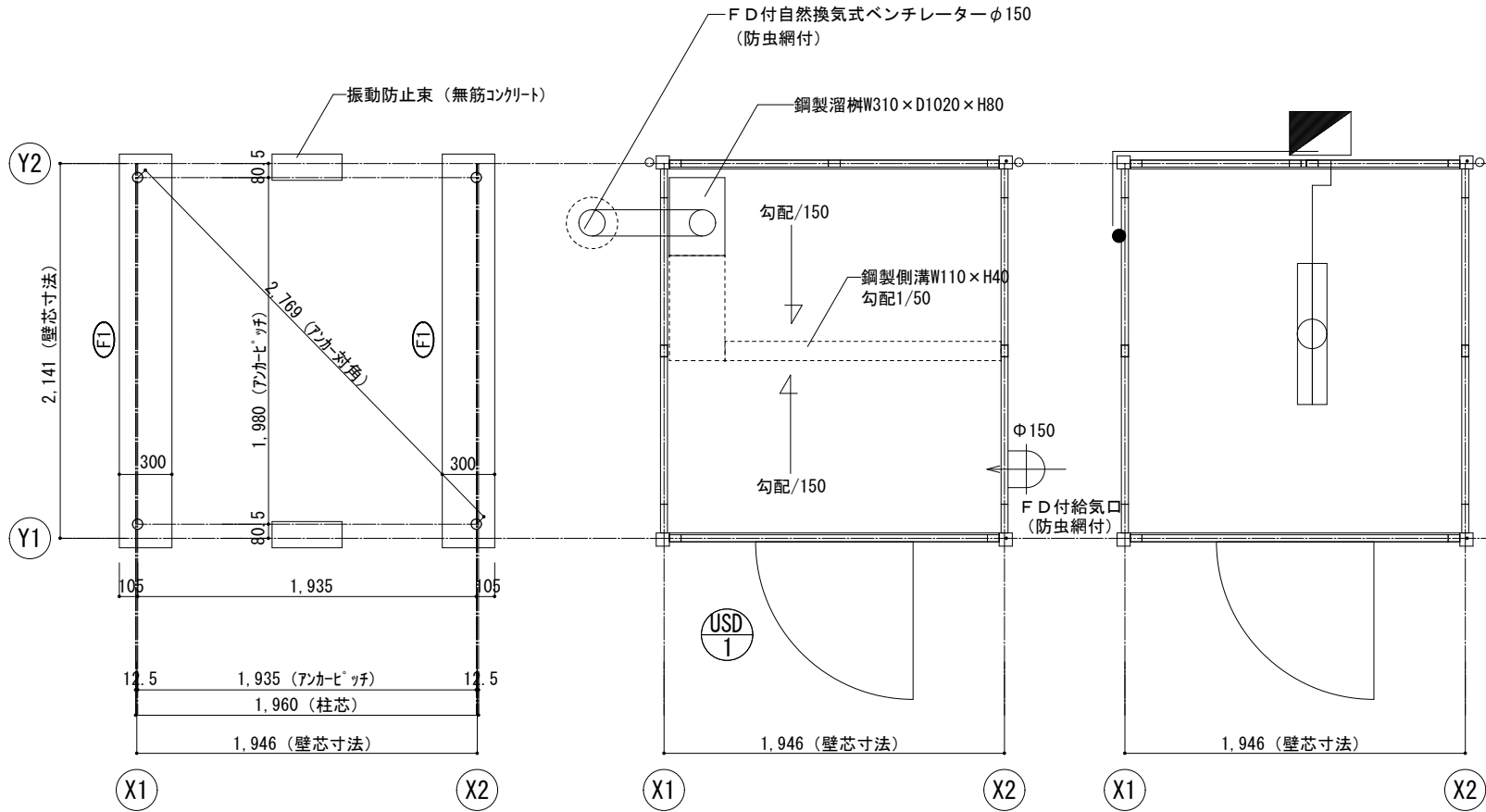


背面図

長期許容支持力  $q_a=50\text{kN/m}^2$   
 使用材料  
 1) コンクリート 設計基準強度  $F_c: 21\text{N/mm}^2$   
 スラブ: 18cm  
 2) 基礎鉄筋 D16以下: SD295  
 D16以上: SD345  
 3) 土間 D10@200



特記 塗装色：シルバー 3.8GY 6.4/0.7 (近似色)

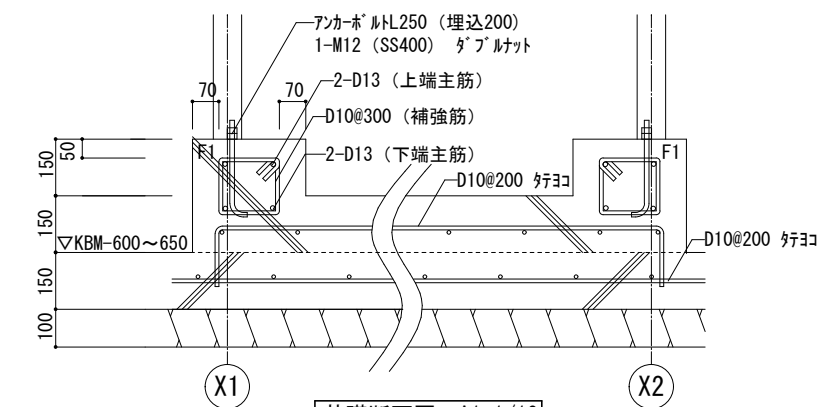
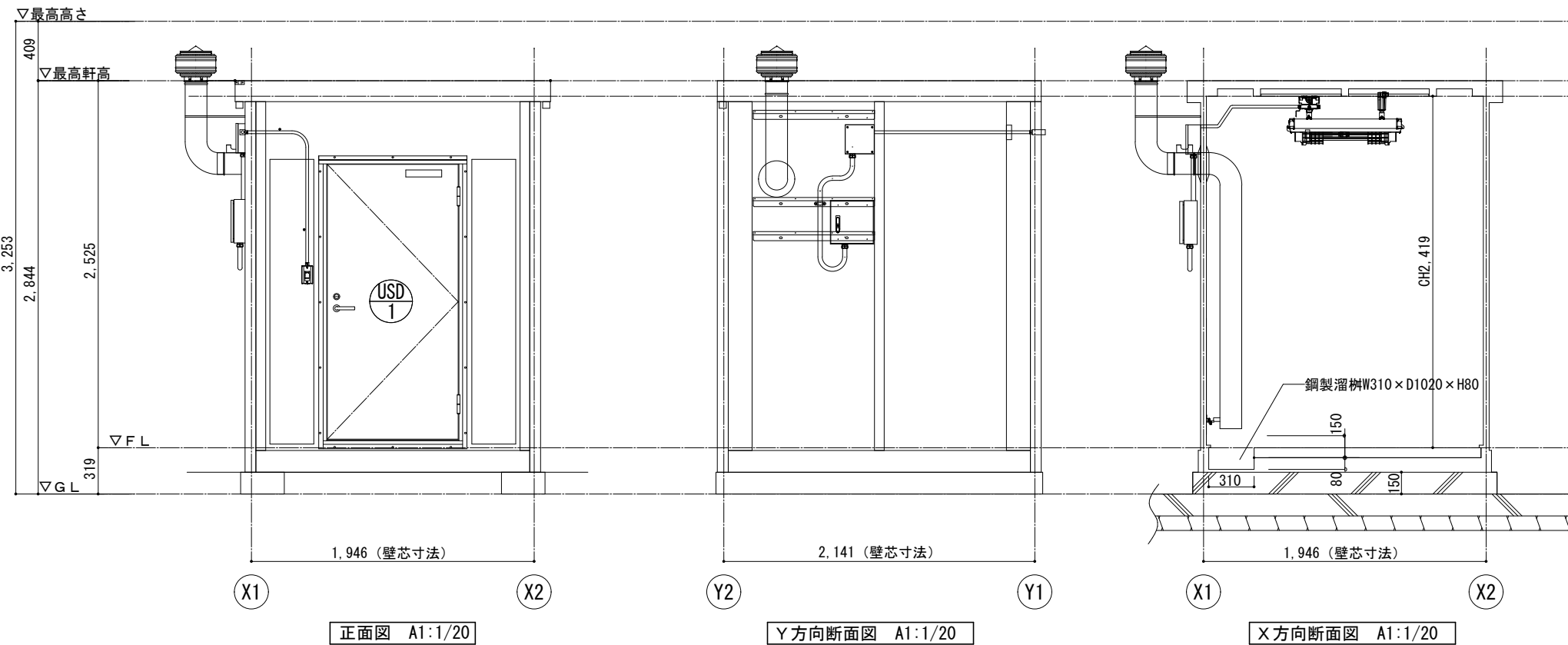
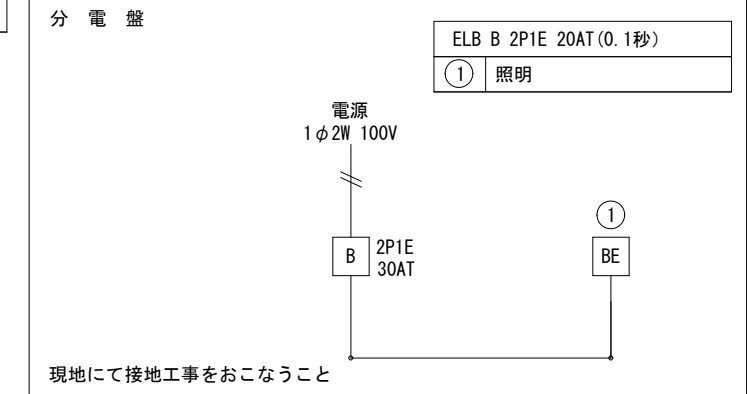


仕様		
構造	鉄骨造 (ユニット型)	
屋根	仕上：ガルバリウム鋼板葺き t0.5 断熱材：なし	NM-8697
外部建具	スチールサッシ 溶融亜鉛メッキ鋼板t0.8	H12建設省告示1369号
庇	なし	
床	鋼鋼板 t3.2 断熱材：なし	
外壁 (複合パネル)	外部仕上：カラー鋼板 t0.5 断熱材：フェノールフォーム t40 内部仕上：カラー鋼板 t0.5	NM-8697
天井	なし (小屋裏あらかし)	

参考品番：20MSL/三協フロンティア

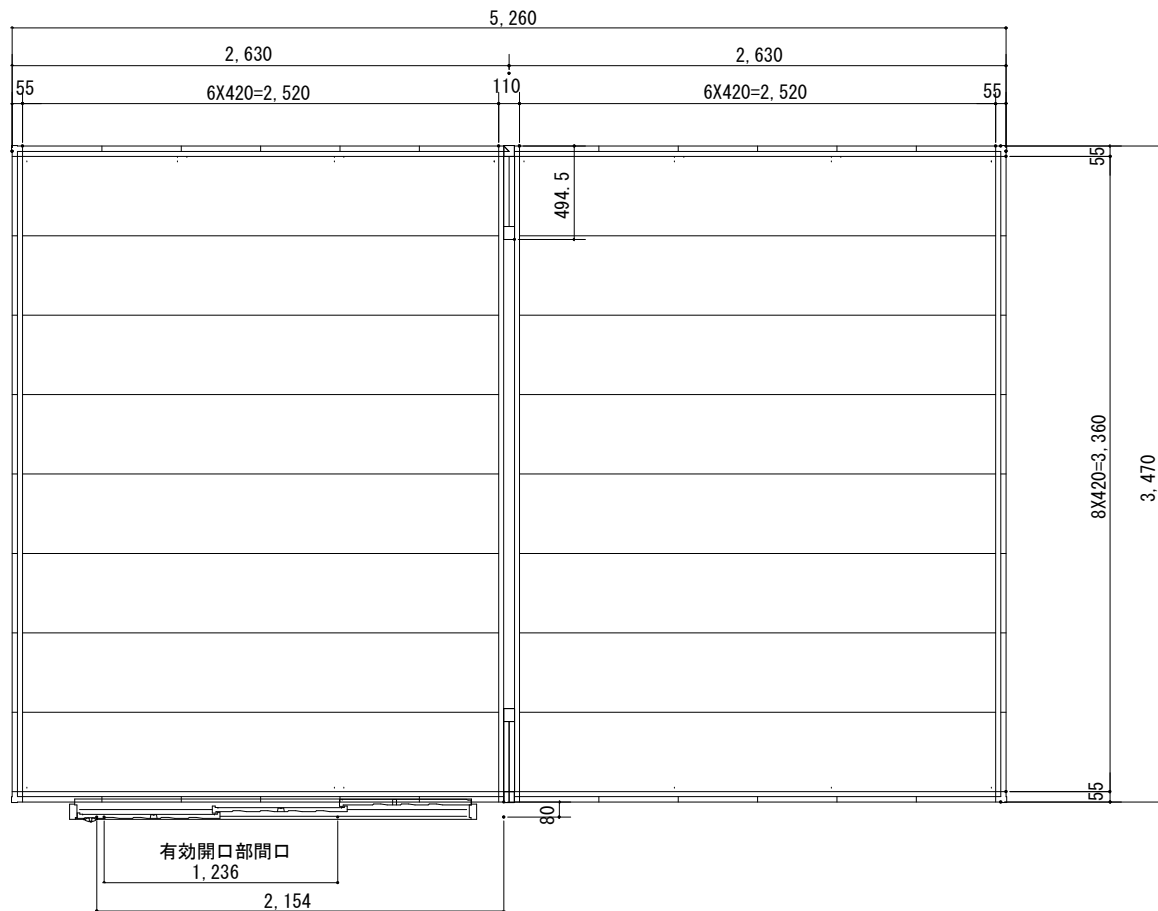
凡例

記号	名称
	防爆形LED灯具 1660lm
	分電盤
	防雨形スイッチ
	F.D.付給気口

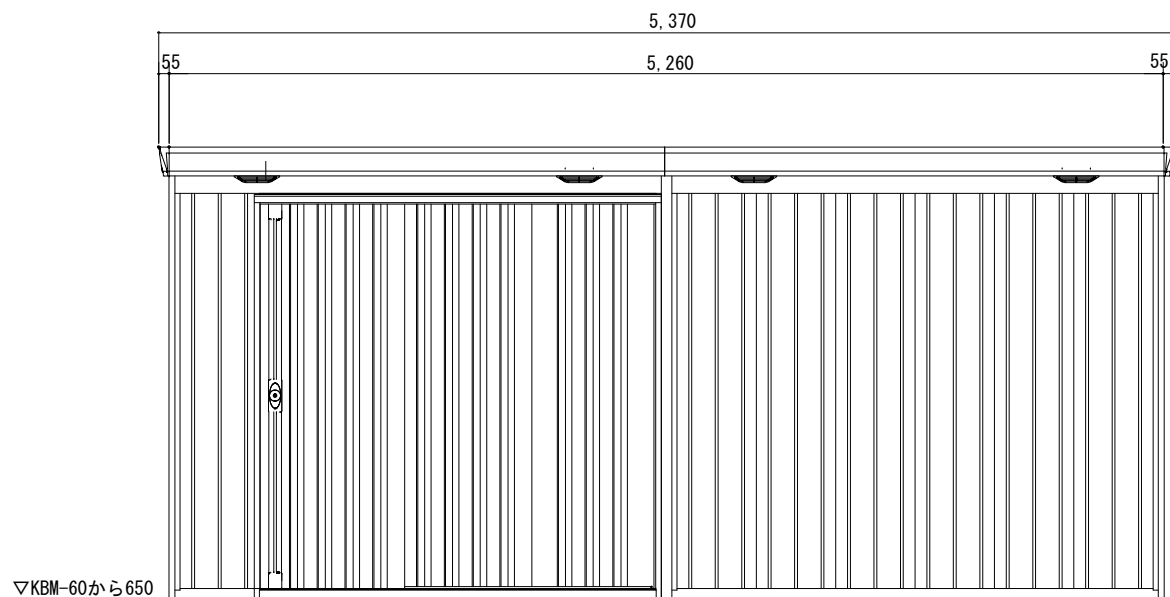


長期許容支持力	qa=50kN/m <sup>2</sup>
使用材料	設計基準強度F <sub>c</sub> : 21N/mm <sup>2</sup>
1) コンクリート	スラブ : 18cm
2) 基礎鉄筋	D16以下 : SD295
	D16以上 : SD345
3) 土間	D10@200

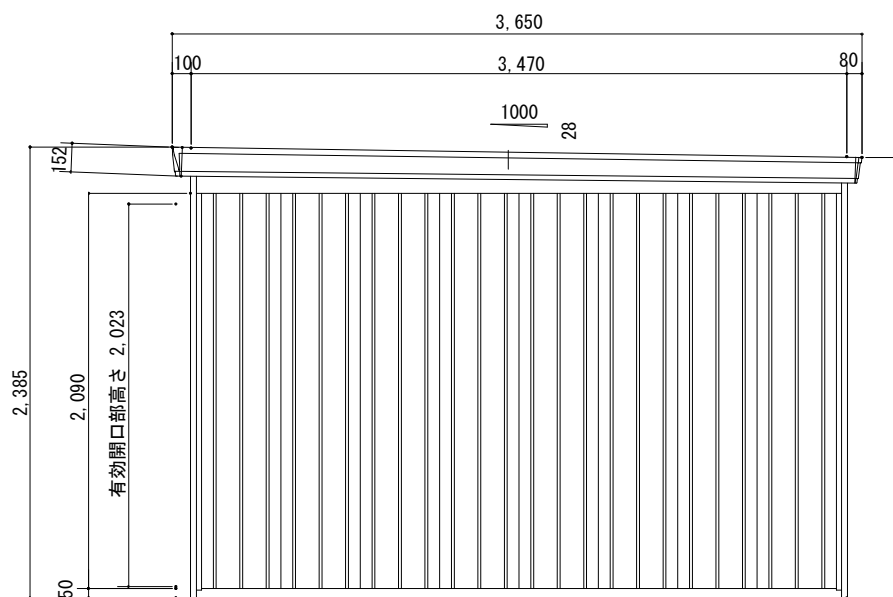
少量危険物倉庫の構造は建築基準法第20条4号イによる



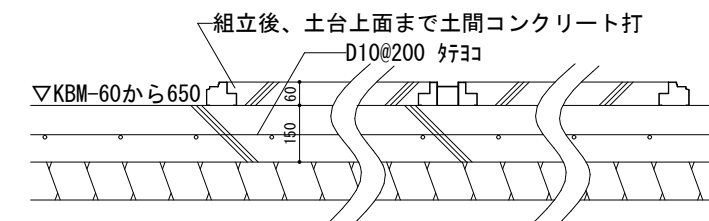
平面図 A1 : 1/10



正面図 A1 : 1/10



側面図 A1 : 1/10



基礎断面図 A1 : 1/10

長期許容支持力  $q_a=50\text{kN/m}^2$   
 使用材料  
 1) コンクリート 設計基準強度  $F_c : 21\text{N/mm}^2$   
 スラブ : 18cm  
 D16以下 : SD295  
 D16以上 : SD345  
 2) 鉄筋

水防倉庫の構造は建築基準法第20条4号イによる

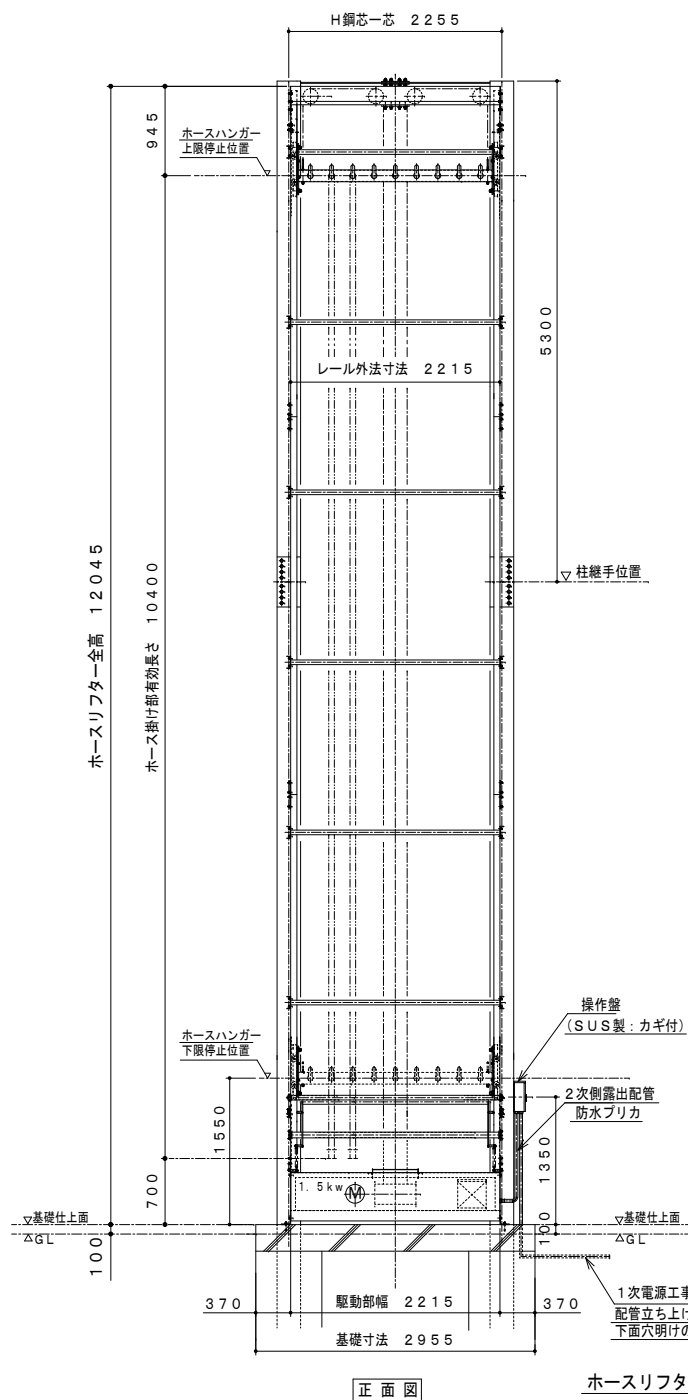
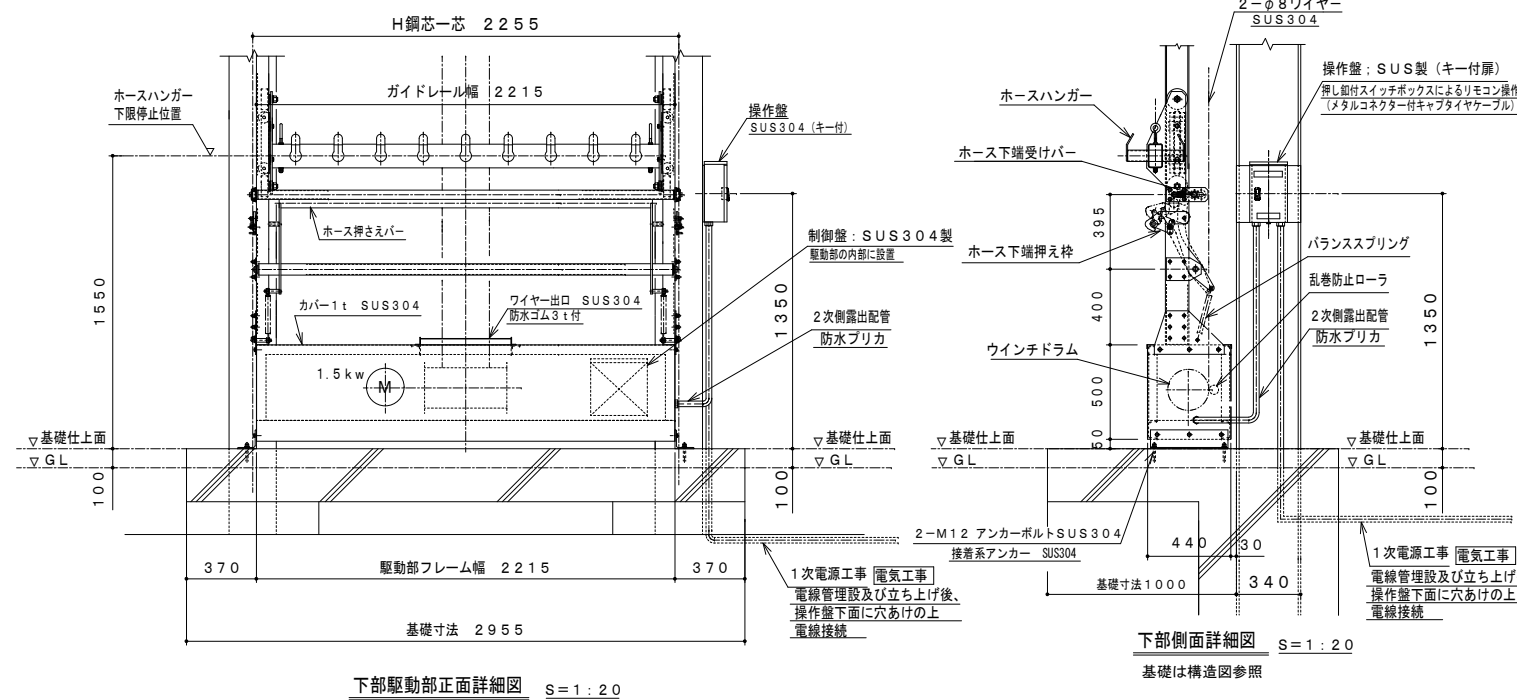
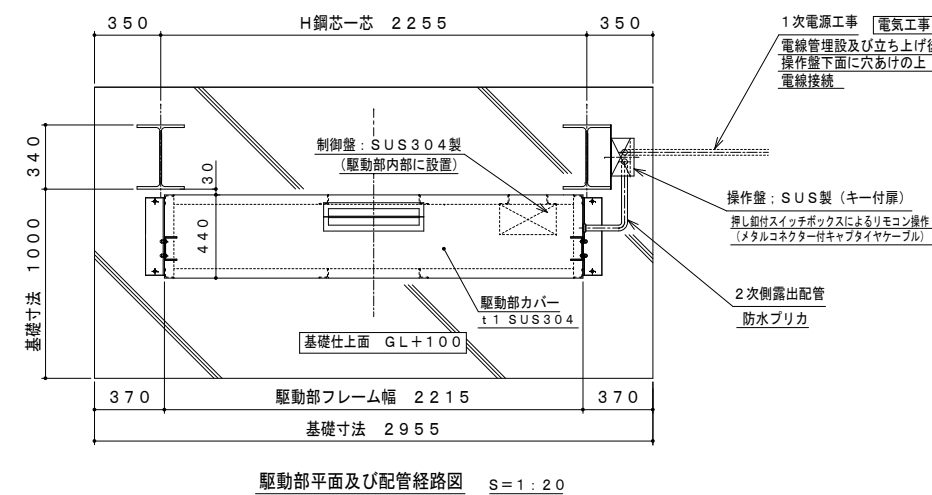
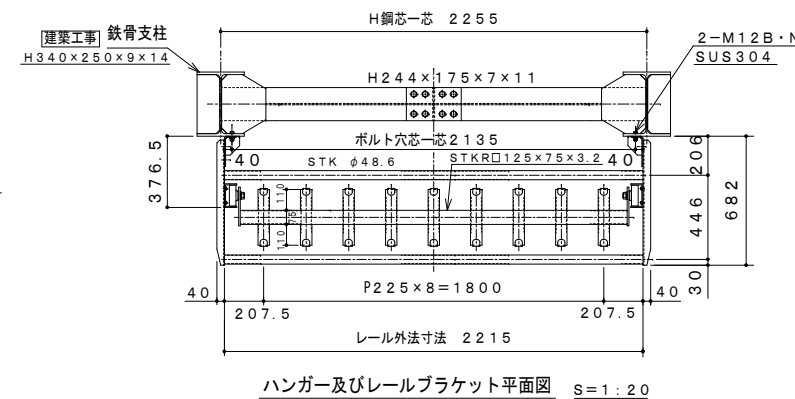
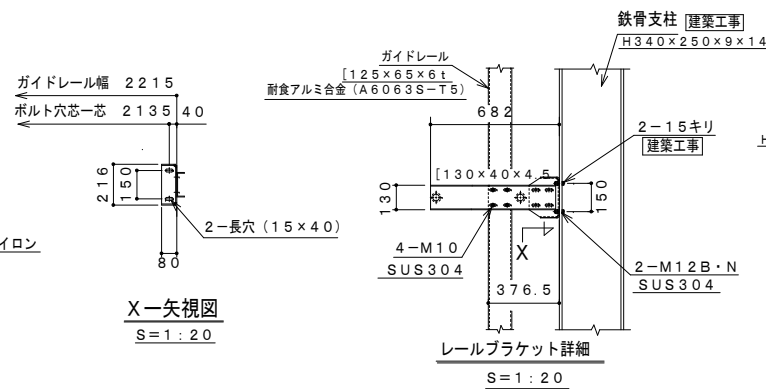
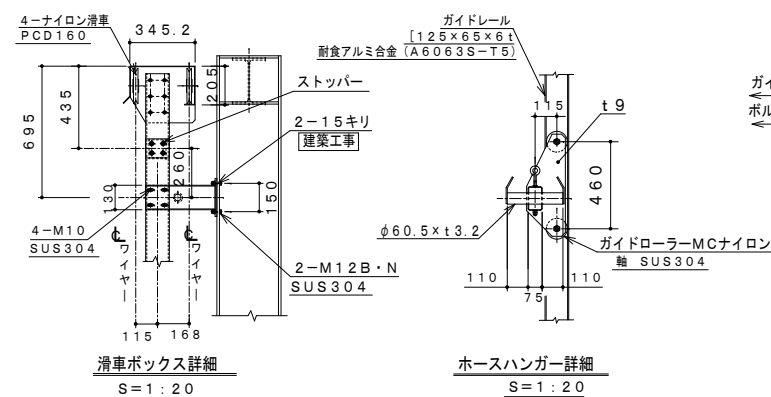
部品名	材料 (材質)	板厚
① 土台取付板	SGMH400 K27	2.3
② 土台	SGC400 F12	1.2
③ 根太	SGCC F12	1.2
④ 柱	SGC400 F12	1.2
⑤ 床パネル	SGCC F12	1.0
⑥ 桁前	SZAC400 Y10	1.0
⑦ 桁後	SZAC400 Y10	1.0
⑧ 妻板左右	SZAC400 Y10	0.7
⑨ 梁中 (奥行3470mm)	SZAC400 Y10 SGC400 F12 SGH400 F12	1.0 1.2 1.6
⑩ 鼻隠シ前後	SZACC Y10	0.7
⑪ 屋根パネル	SZAC400 Y10	0.5
⑫ 母屋中 (間口2630mm)	SGC400 F12	1.2
⑬ 壁パネル	SGC400 F12	0.7
⑭ 梁中補強パネル	SGC400 F12	1.0
⑮ コーナー金具	SGC400 F12	1.2
⑯ 火打ち	SGC400 F12	1.2
⑰ 壁面扉鴨居	SGC400 F12	0.7
⑱ 壁面扉敷居 参考品番 : NXN-50S	SGCC F12	1.0
⑲ 壁面扉枠左右	SGC400 F12	1.0
⑳ 正面パネル	SGC400 F12	0.7
㉑ 扉	SGCC F12	0.8

SGMH400 : 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (JIS G 3323)  
 SGC400, SGCC, SGH400 : 溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302)  
 SZAC400, SZACC : 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317)  
 参考品番 : FB-5235H

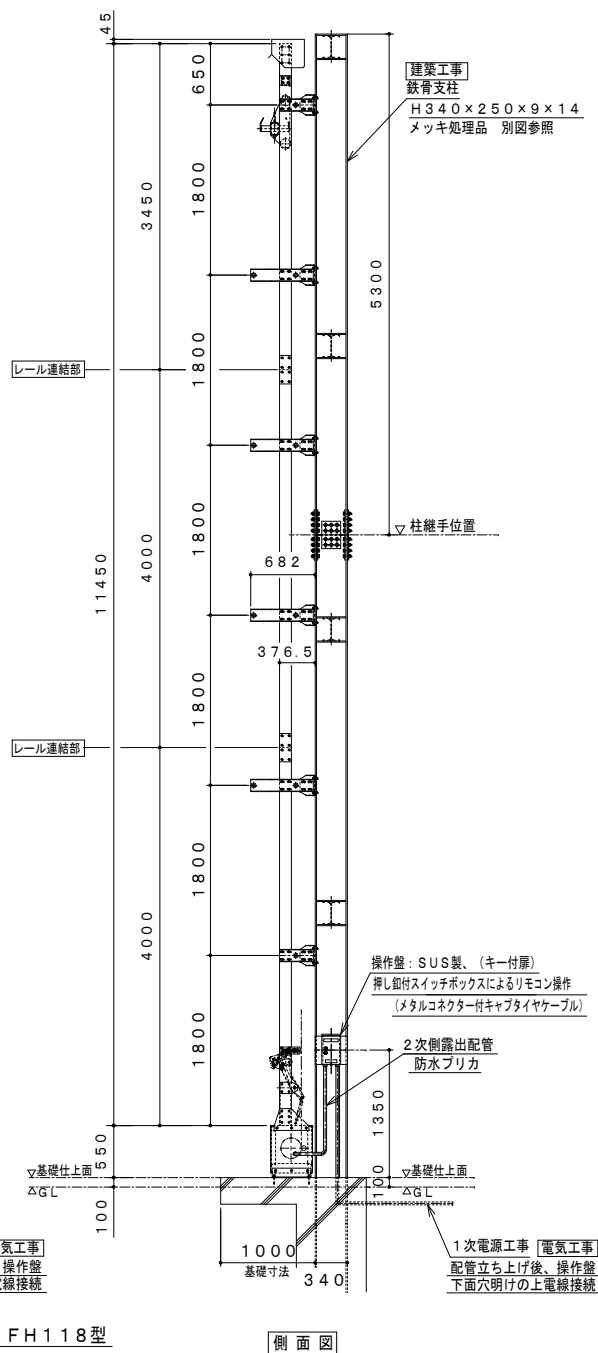
仕様概略

項目	仕様
型式	FH118
台数	1基
外法寸法	2215W×12045H
ホース収容本数	前後列各9本計18本
巻上能力	360kg (20kg×18本)
昇降速度	7.1m/min 50HZ
電動機	1.5KW特約減速機7レキ付
電源	200V 3相 50HZ
操作回路電源	AC24V
各部材質及び防錆処理	
ガイドレール	耐蝕アルミ合金 A6063S-T5
ガイドローラ	MCナイロン 軸 SUS304
レールブラケット	SS材 溶融亜鉛メッキ
ホースハンガー	SS材 溶融亜鉛メッキ
ウィンチボックス	骨格SS材溶融亜鉛メッキ、外板SUS
同上内部機器	生地のまま
吊りワイヤー	φ8 ステンレスワイヤー
ボルト類	全て SUS304

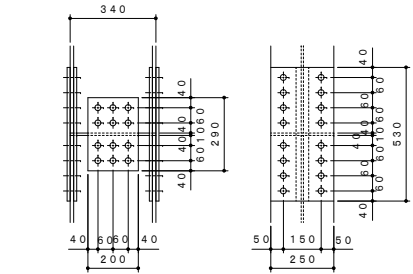
- 建築工事  
 1) 鉄骨工事  
 2) 基礎工事  
 電気工事  
 1) 一次電源工事



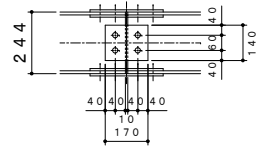
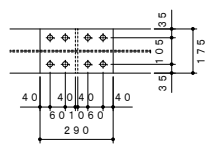
ホースリフター FH118型  
 組立図 S=1:40  
 基礎は構造図参照



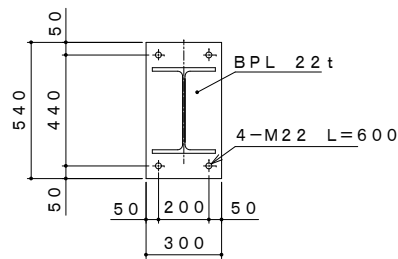
側面図



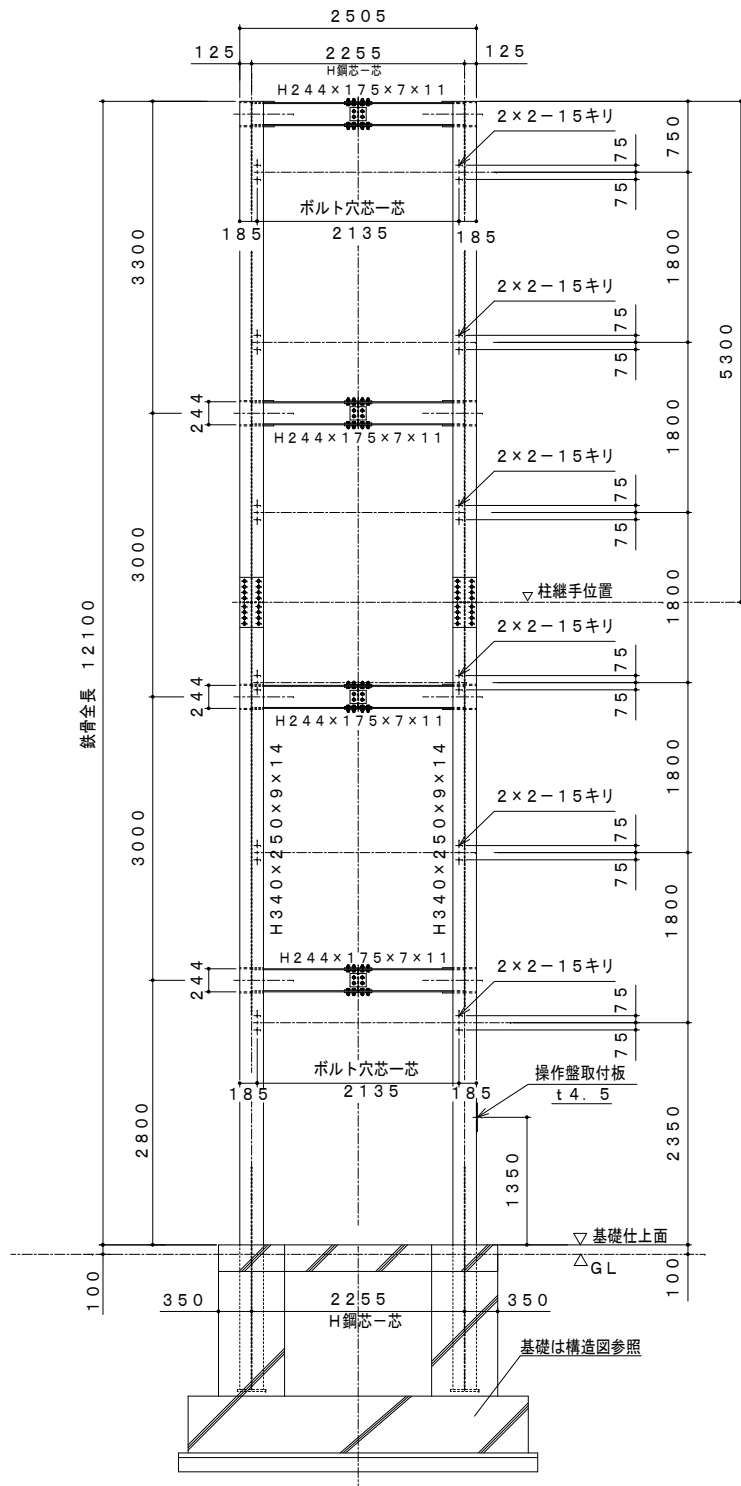
H340×250×9×14 (柱継手)	
フランジ	32-M20: L=70 2PL-12×250×530 4PL-12×100×530
ウェブ	12-M20: L=65 2PL-12×200×290



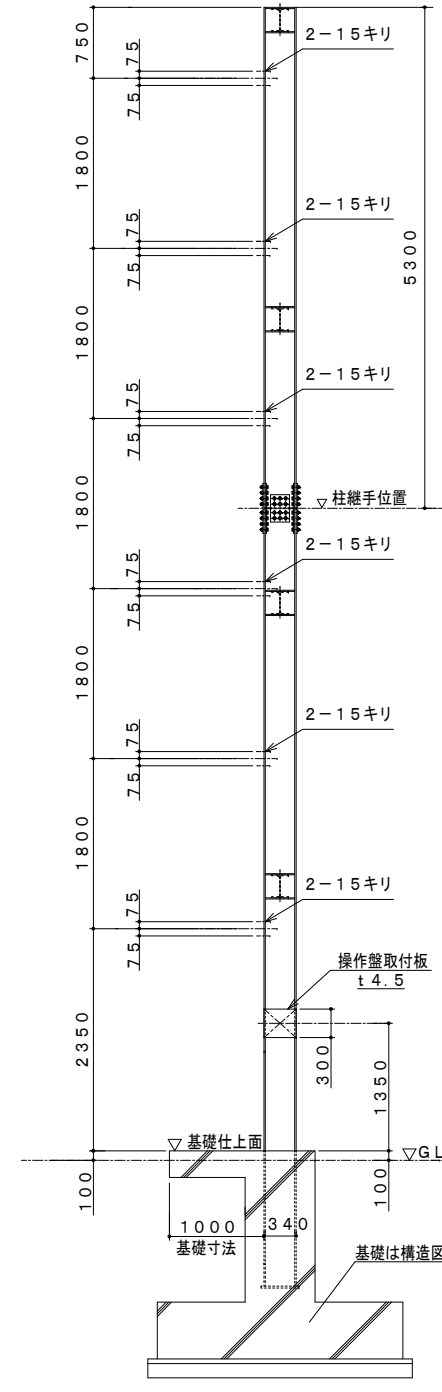
H244×175×7×11 (梁継手)	
フランジ	16-M20: L=60 2PL-9×175×290 4PL-9×70×290
ウェブ	4-M20: L=55 2PL-9×140×170



柱脚詳細図 S=1:15

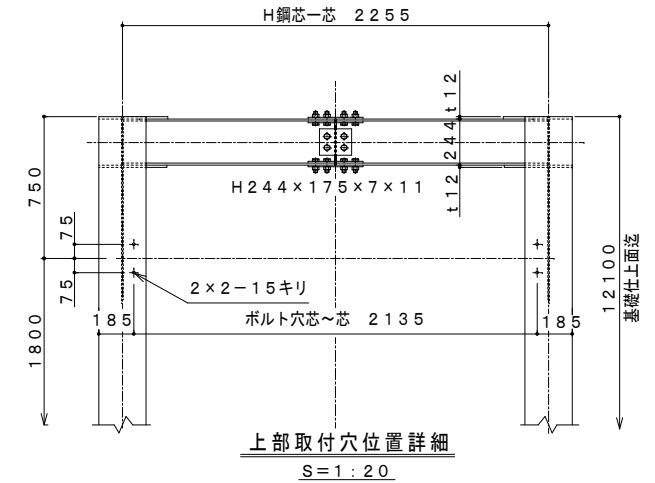
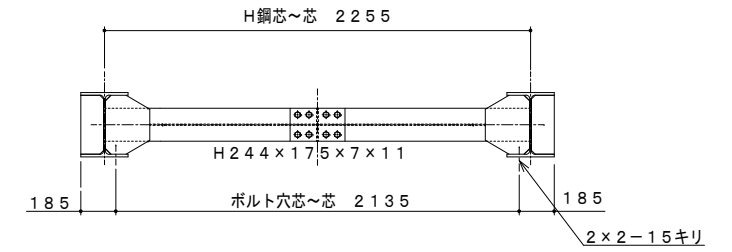


ホースリフター FH118 取付用  
鉄骨支柱穴あけ図 S=1:4.0  
※基礎は構造図参照

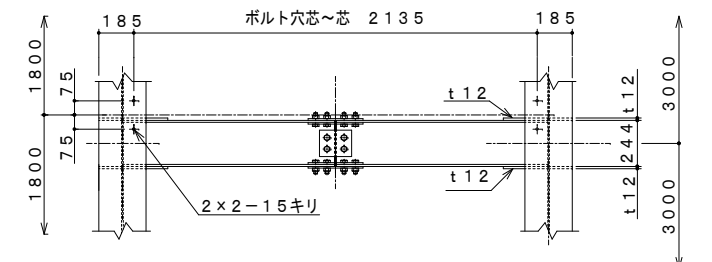


全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする  
(2種 HDZT77)

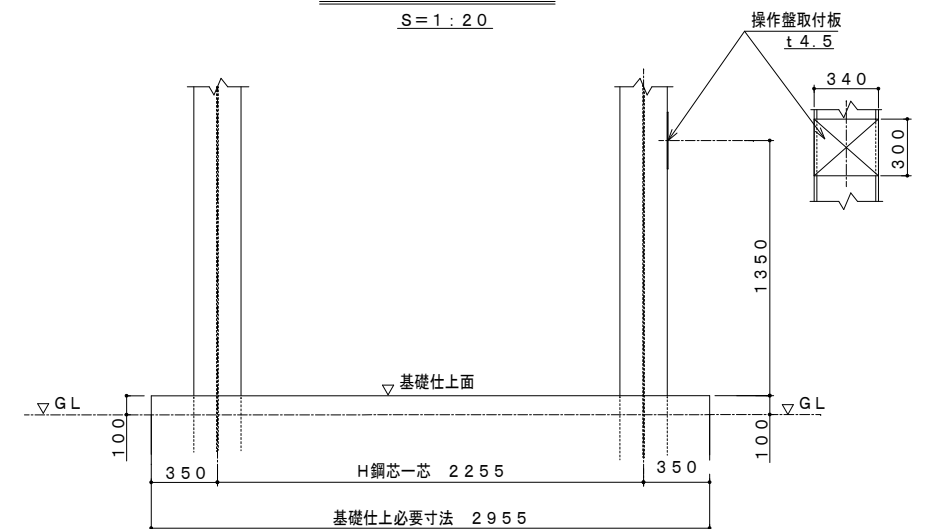
全て「建築工事」とする  
基礎は構造図参照



上部取付穴位置詳細  
S=1:20



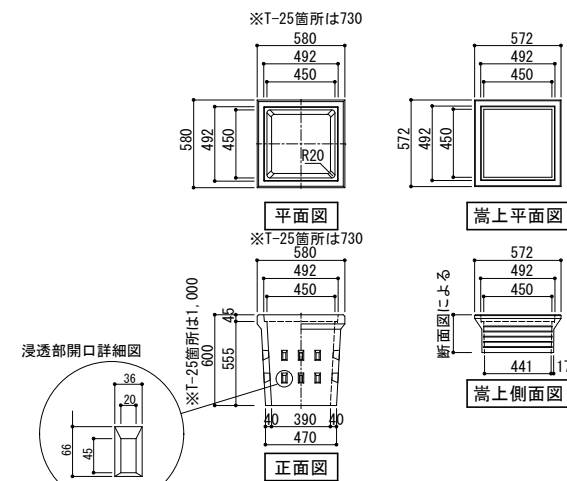
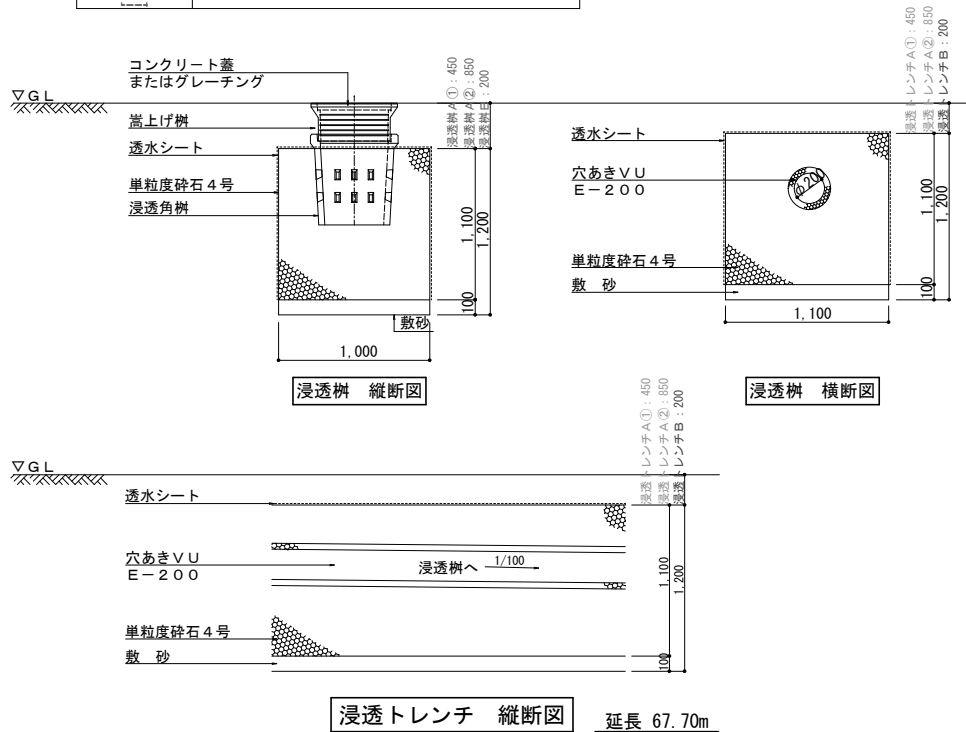
中間部取付穴位置詳細  
S=1:20



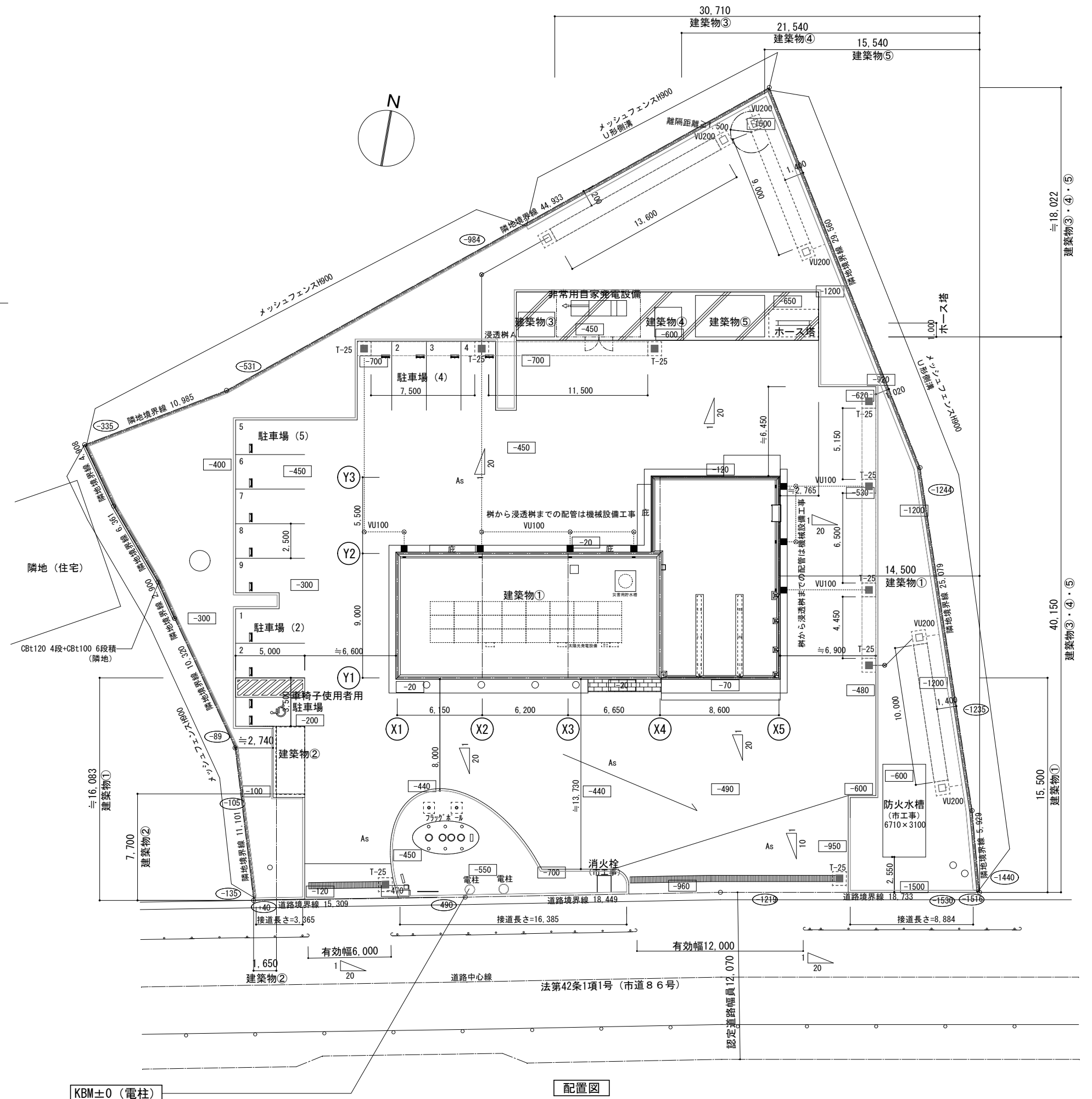
下部詳細 S=1:20

番号	用途
建築物①	消防署分署
建築物②	自転車駐り場
建築物③	倉庫 (ごみ集積所)
建築物④	倉庫 (少量危険物倉庫)
建築物⑤	倉庫 (水防倉庫)

記号		
○*	現況地盤レベル (KBMからの高さ)	
□*	計画地盤レベル (KBMからの高さ)	
■	グレーチング蓋・雨水浸透樹 (T-25は600)	9箇所
□	コンクリート蓋・雨水浸透樹 (歩行用450)	6箇所



- 1) 雨水について、宅内処理とすること
- 2) 浸透施設は、レベル施工とすること
- 3) 屋根の雨水は、雨樋から浸透施設につなげて処理するように施工すること
- 4) 浸透施設は、隣地境界から1m以上離すこと
- 5) 浸透施設は、施設間の相互干渉を防ぐため、有効距離1.5m以上離すこと
- 6) 透水シート(保護シート、不織布)は、透水係数 $1.0 \times 10^{-3}$ 以上とする。
- 7) 管口フィルターは、8メッシュ程度とする
- 8) 雨水浸透施設は、現況地盤以下に設置する
- 9) 原則として、盛土地盤へ雨水処理施設を設置してはならない  
やむを得ず設置する場合は、盛土地盤を良質土で締め固め、透水試験を行い土壌の飽和透水係数が $0.108\text{m/hr}$ 以上となるようにするものとする

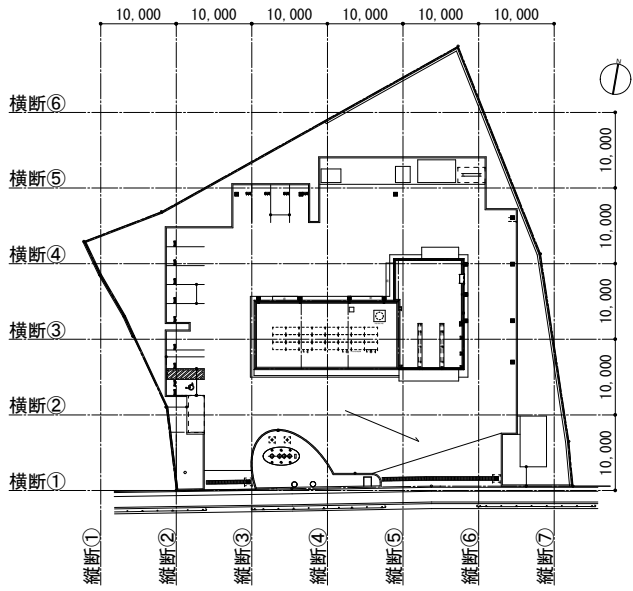


KBM±0 (電柱)

配置図

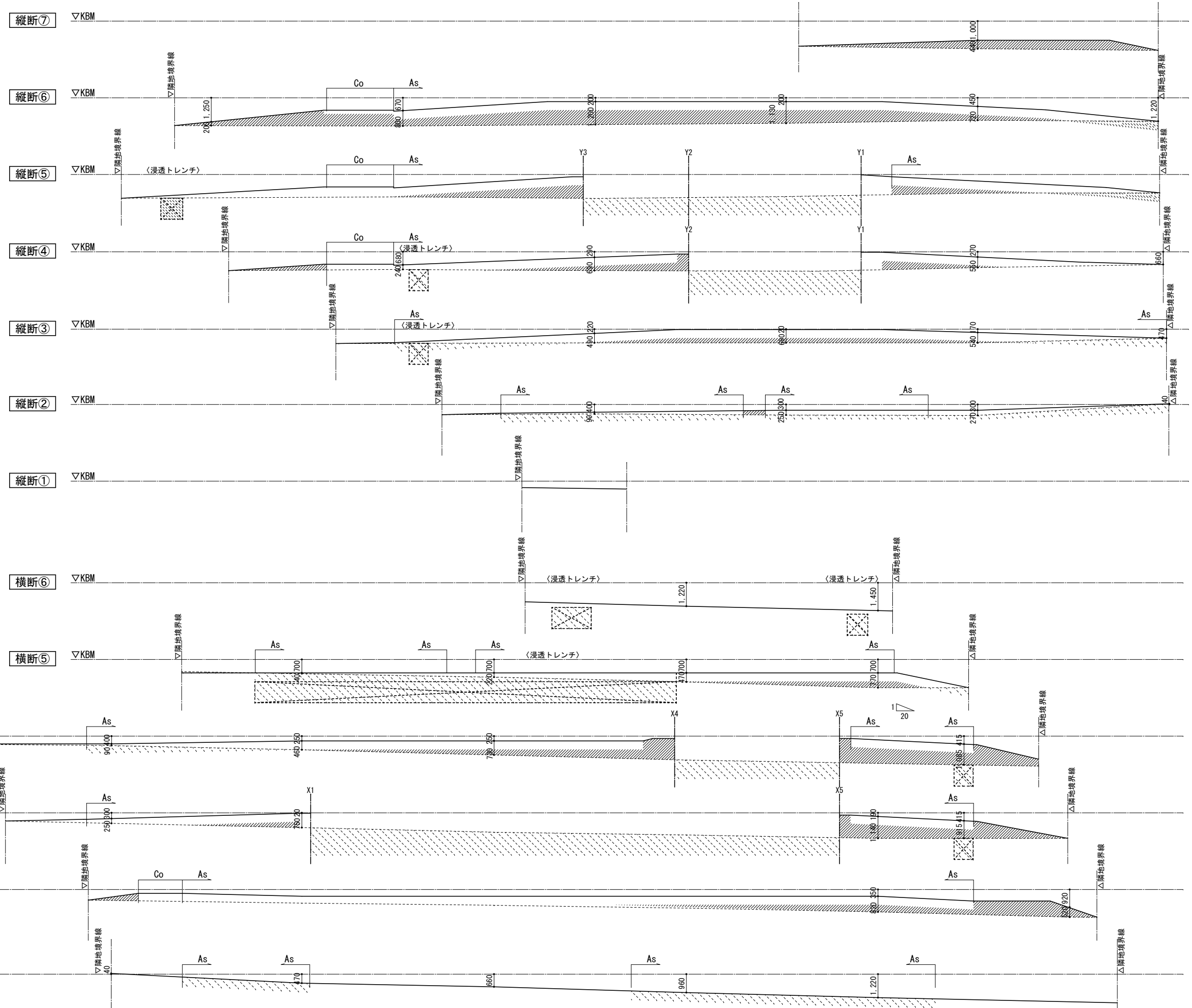
承認者	責任者	担当
杉原	倉田	

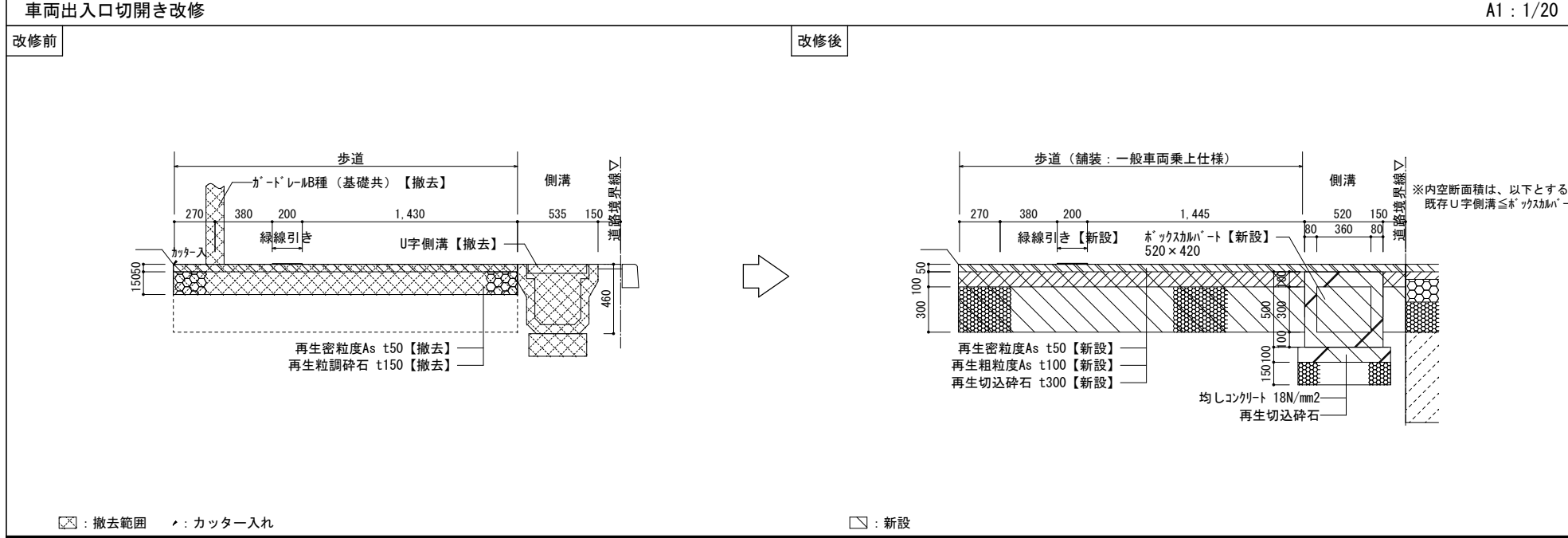
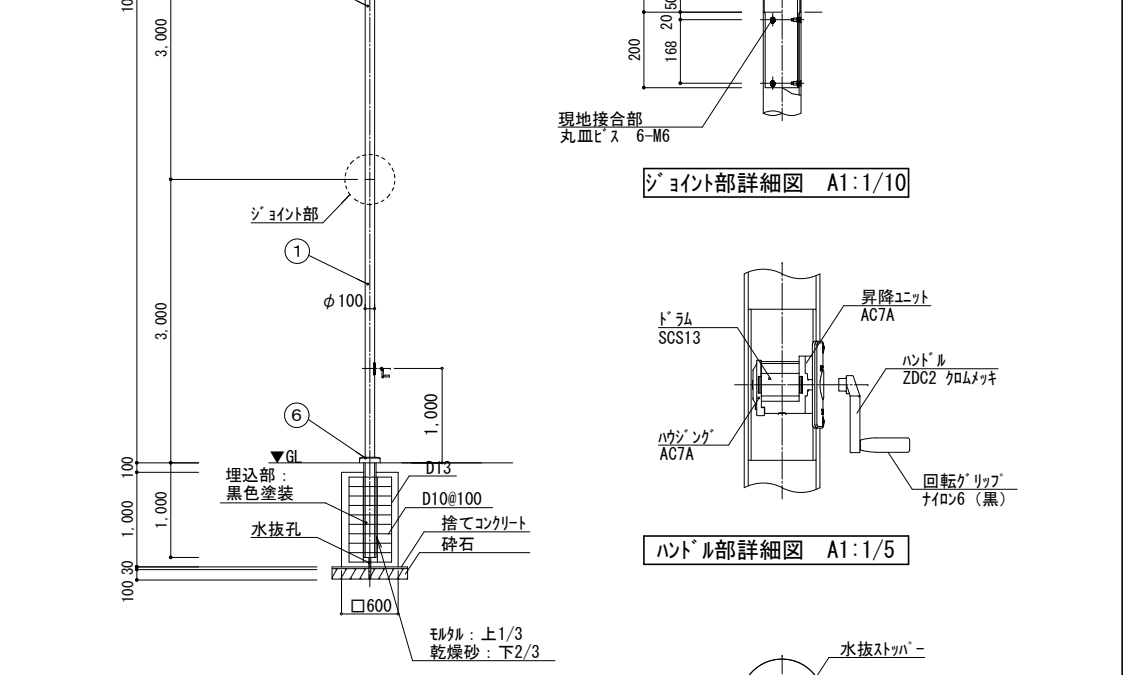
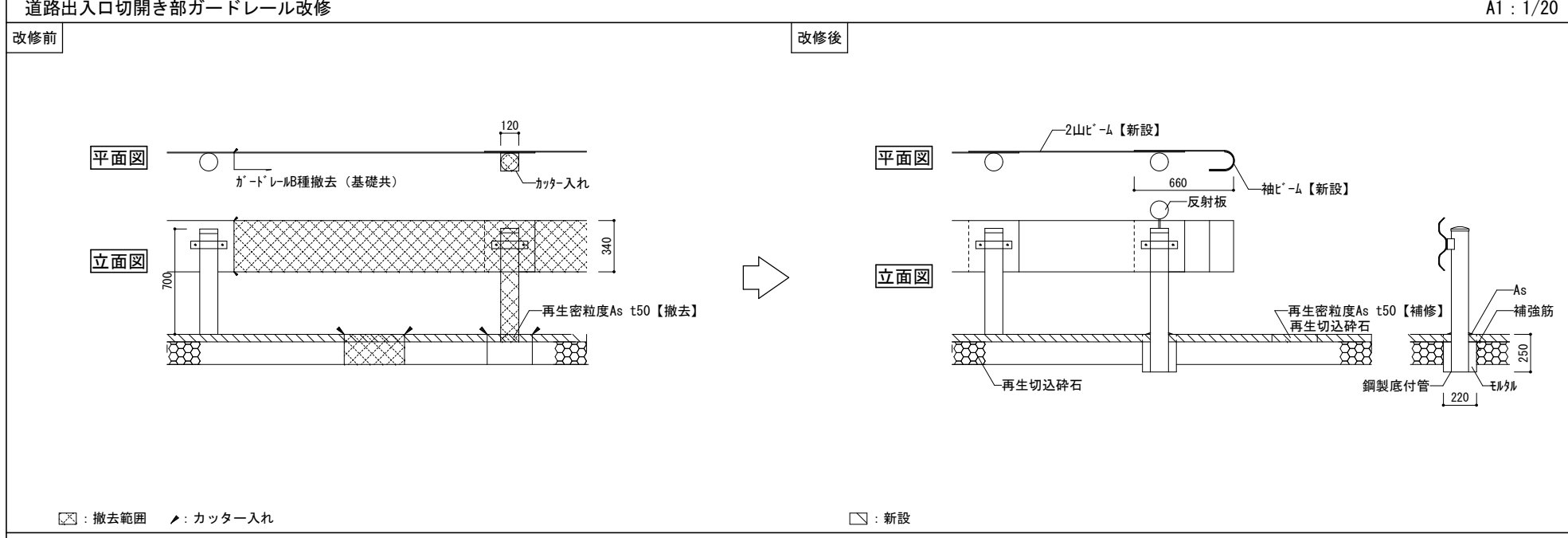
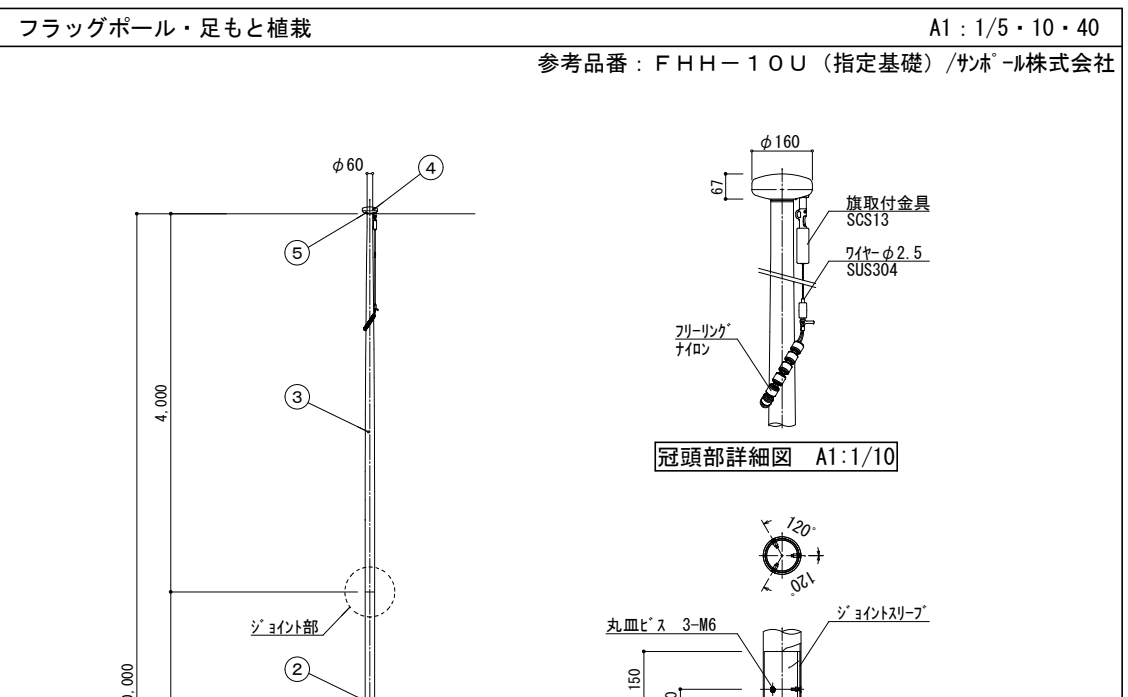
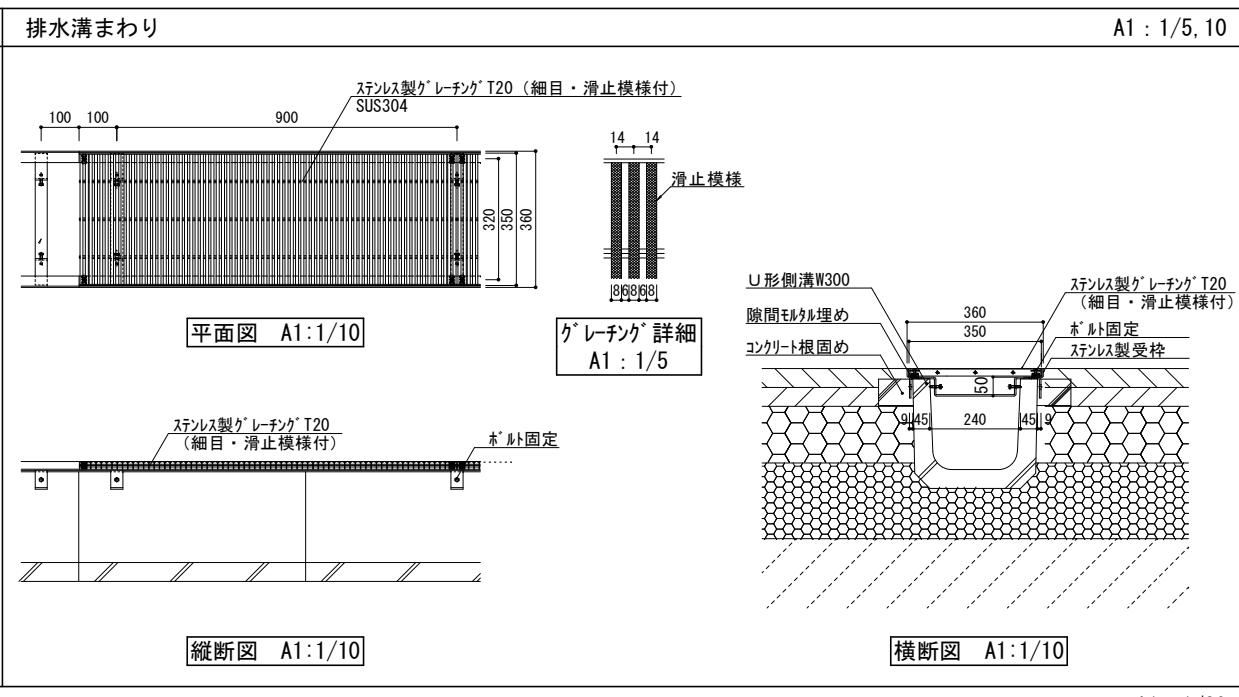
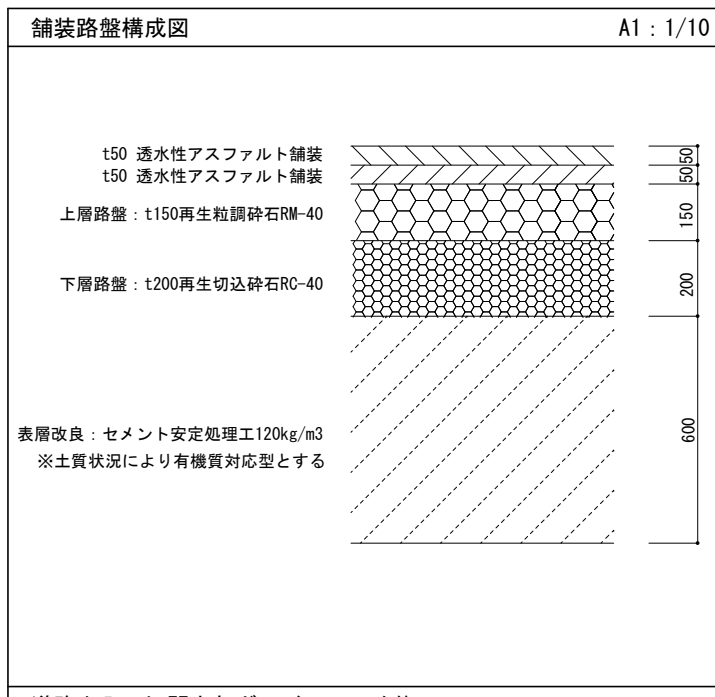
JOB CODE 202403002	工事名称 高坂分署庁舎新築工事 (建築)	図面番号 D - 51
年/月/日 2024/12/10 改訂	図面名称 雨水流出抑制施設図	縮尺 A1 1 : 25, 150 A3 1 : 50, 300



凡例

記号	説明
	盛土
	切土・掘削
	整地後 地盤レベル
	現況 地盤レベル





### 足もと植栽 A1:1/10

ポール廻り (基礎上): 芝貼  
基礎上: 客土

足もと植栽 A1:1/10

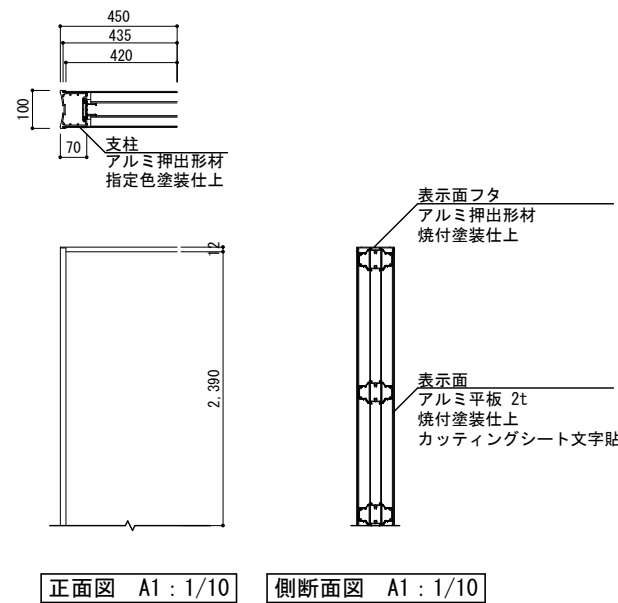
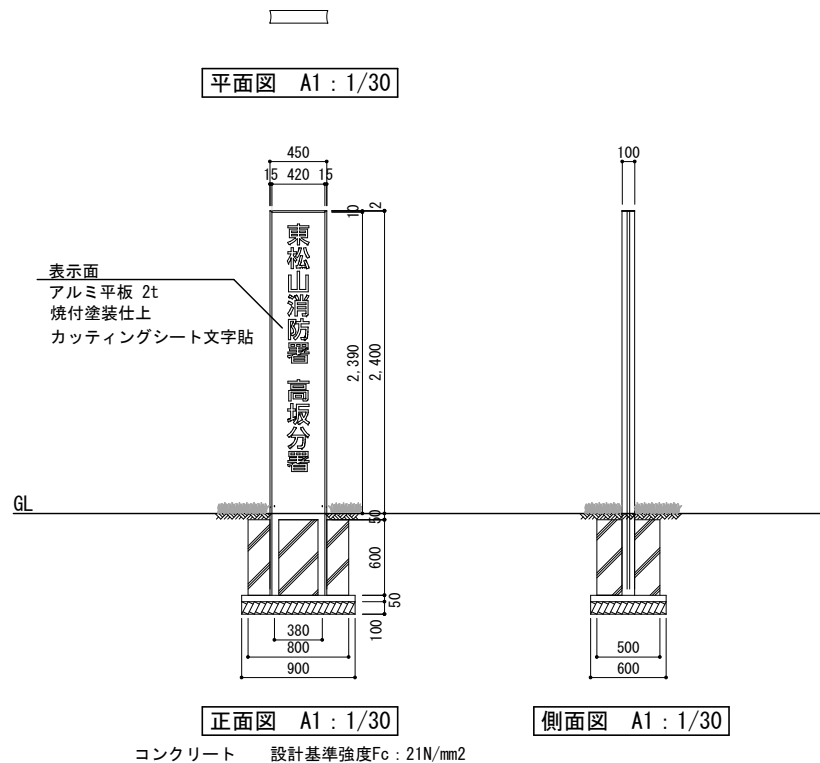
番号	品名	数量	材質	備考
1	ポール (下段)	1	アルミ合金継目無管 YBZTD-T8	φ100×t5.1 H.L. 後アルマイト処理クリアー電着塗装
2	ポール (中段)	1	アルミ合金継目無管 YBZTD-T8	φ100×t2.8 H.L. 後アルマイト処理クリアー電着塗装
3	ポール (上段)	1	アルミ合金継目無管 YBZTD-T8	φ100×t2.3 H.L. 後アルマイト処理クリアー電着塗装
4	キャップ	1	アルミ合金 A1050P	アルマイト処理
5	回転部	1	ポリプロピレン樹脂P	
6	グランドセット	1	アルミ合金ダイカスト ADC12	塗装仕上げ

[1]フォント・フォントサイズ

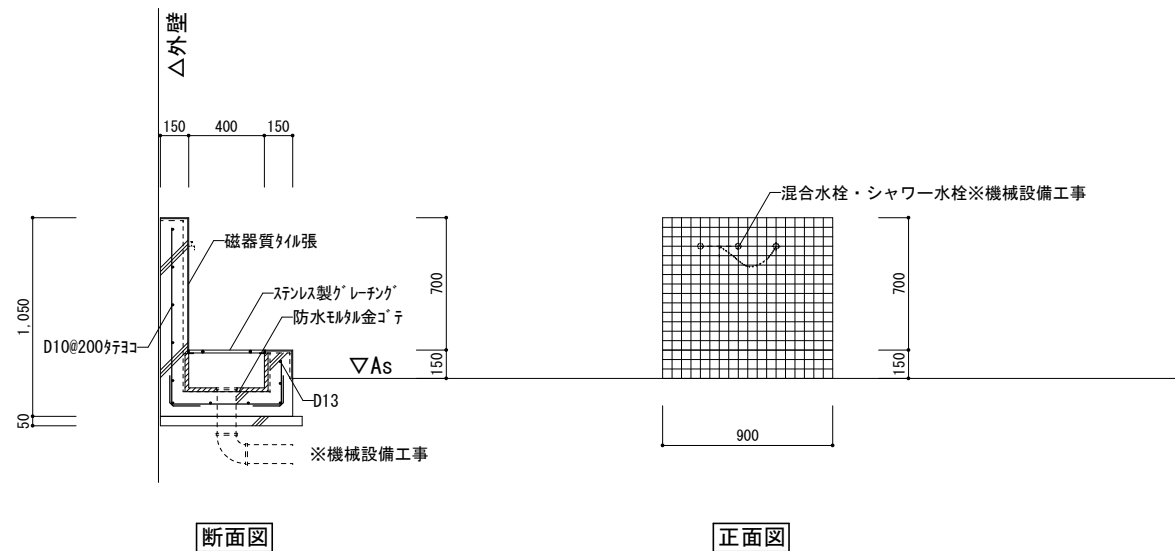
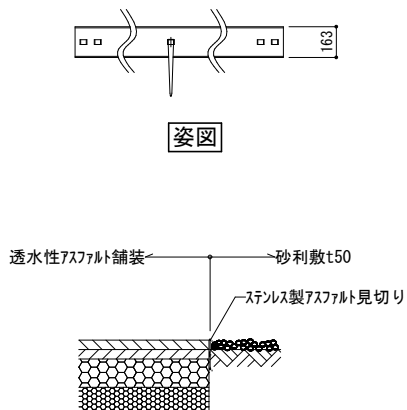
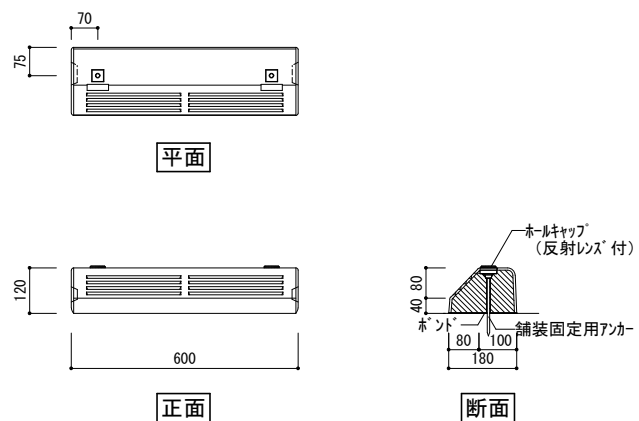
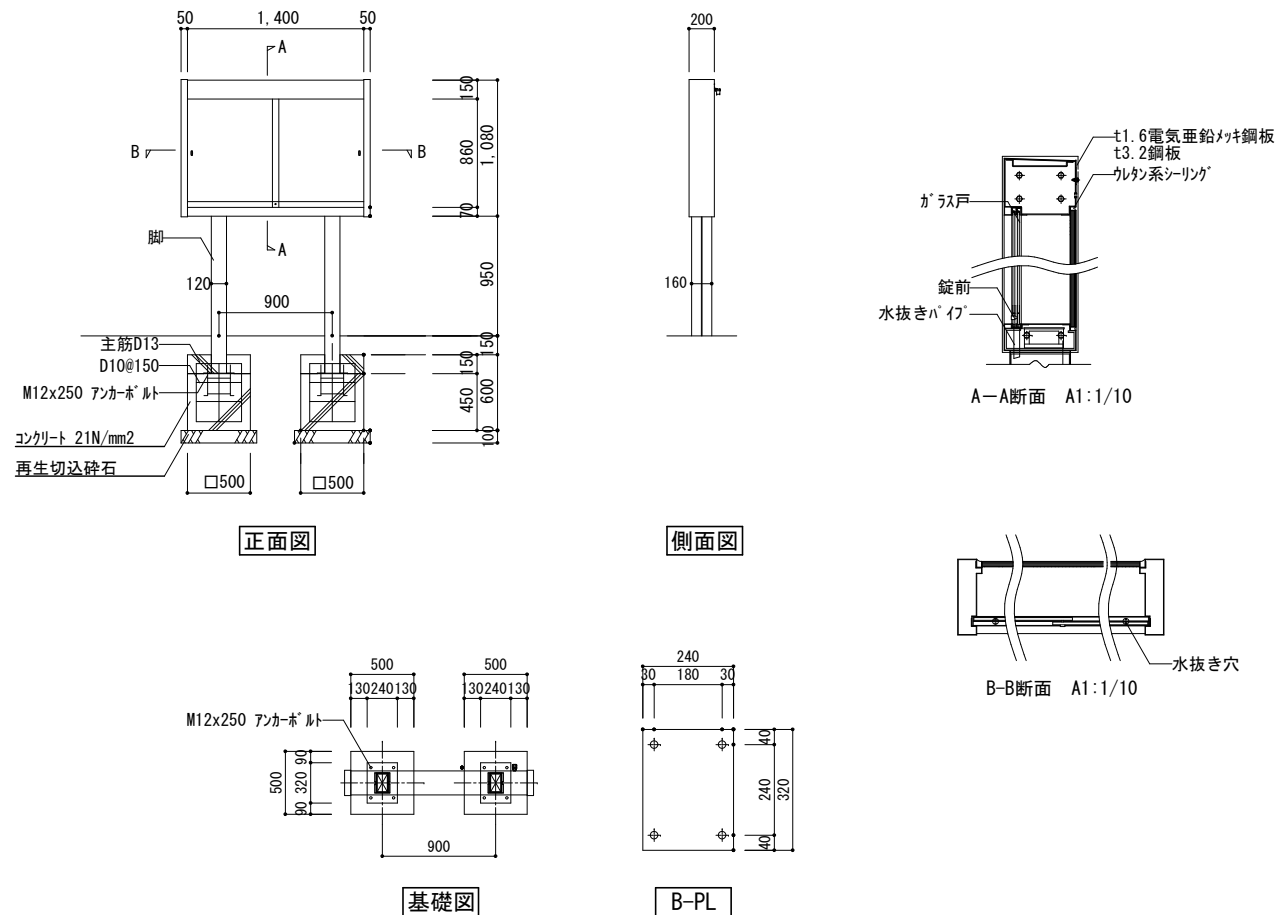
- a. 書体については、丸ゴシックは「スーラDB」、角ゴシックは「新ゴR」を基準とする。  
※ただし、監督員より特定の書体の指示があった場合にはこの限りではない。
- b. 文字サイズについて、簡易モックアップを作成（文字サイズが確認できるもの）し現地に  
監督員と確認・協議をおこなったうえで、決定とする

[2]取付位置・方法

- a. 取付位置については、視認性を考慮し監督員と協議の上決定する。

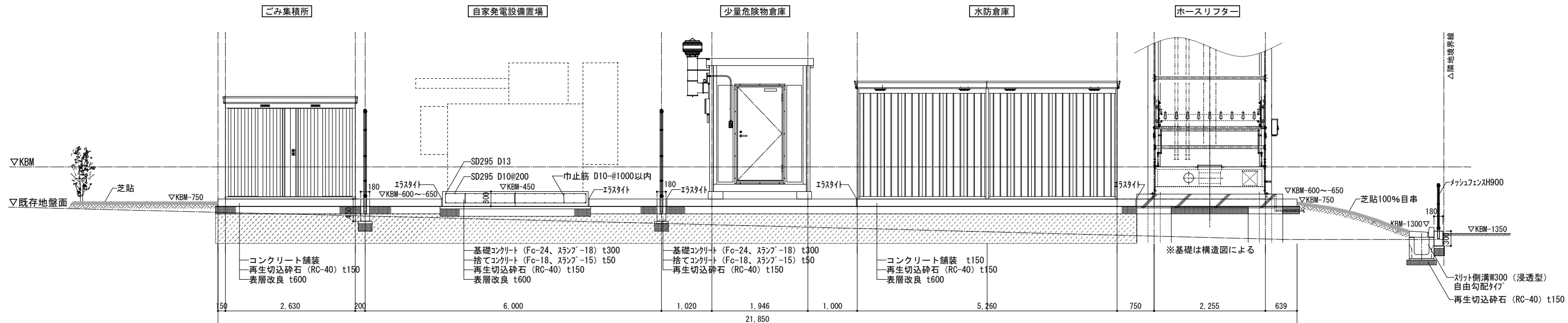


- 本体 : t1.2 ステンレス鋼板、ヘアライン仕上 ※照明無し
- 脚 : t1.2 ステンレス鋼板、ヘアライン仕上
- 掲示基板 : t12 耐水合板  
t1.0 マグネット・ピン両用タイプ 発泡樹脂シート (アイボリー)
- ガラス戸 : t5.0 磨き透明ガラス
- 錠前 : シリンダー錠 (ワンタッチ)
- ※ISO9001認証取得企業で品質管理された製品です。
- ※(一社)日本公園施設業協会の生産物賠償責任保険に加入した製品です。

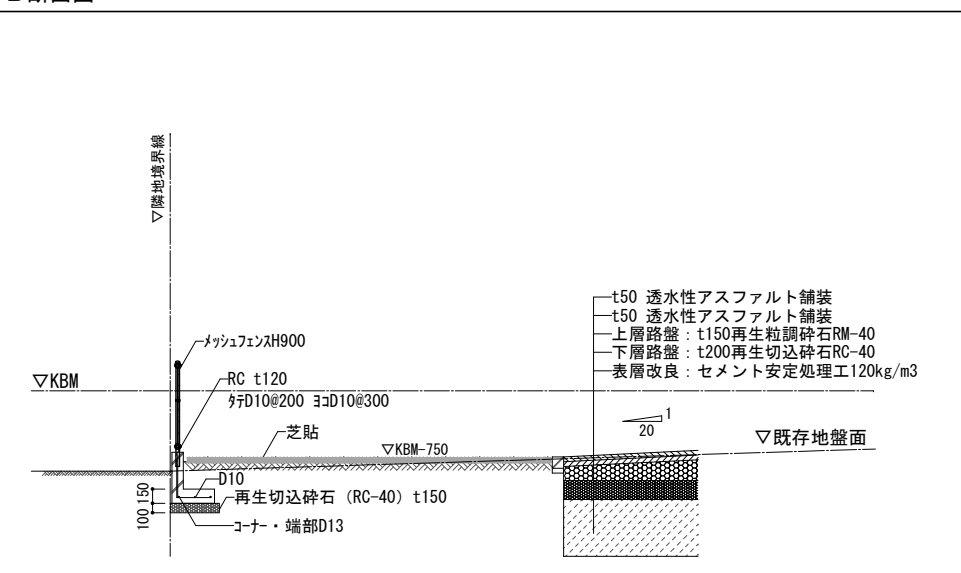




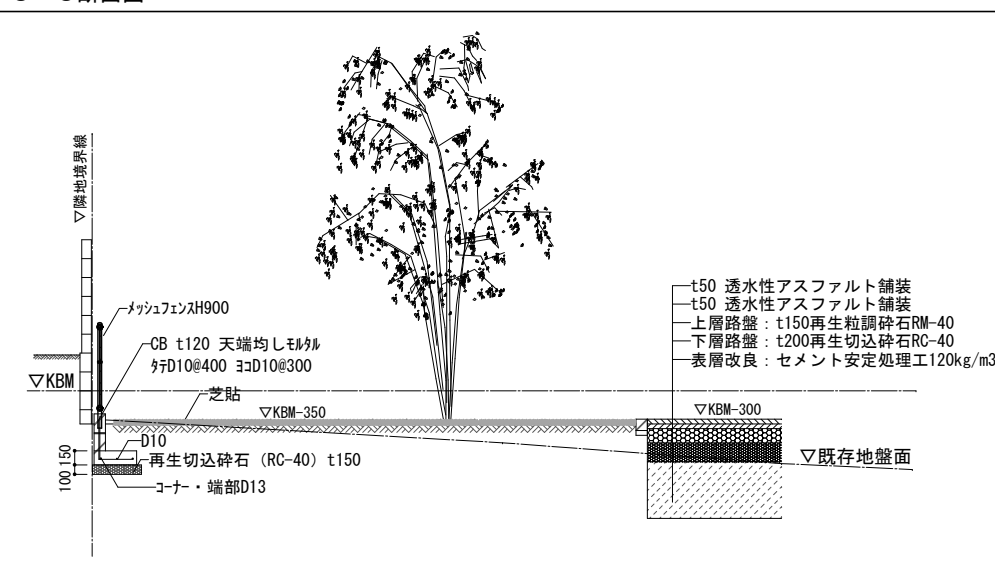
※表層改良はセメント安定処理工120kg/m<sup>3</sup>、土質状況により有機質対応型とする



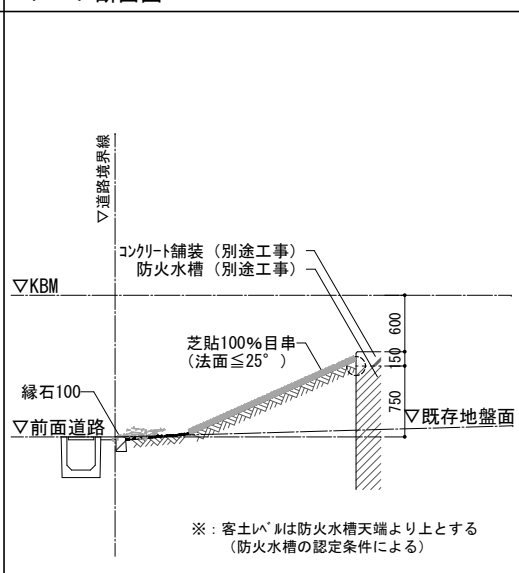
B-B断面図



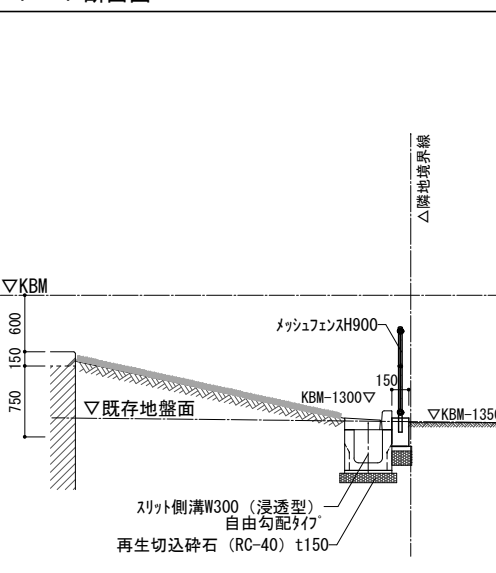
C-C断面図



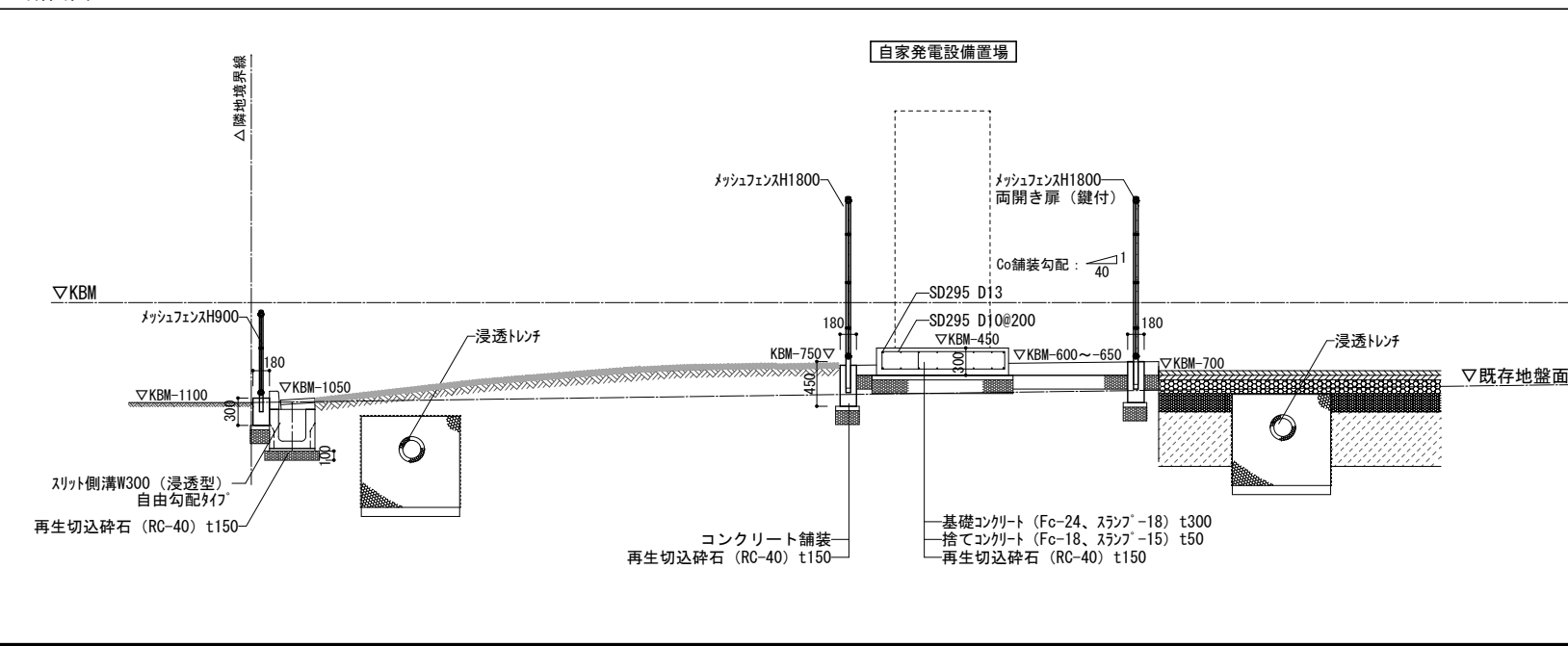
F-F断面図



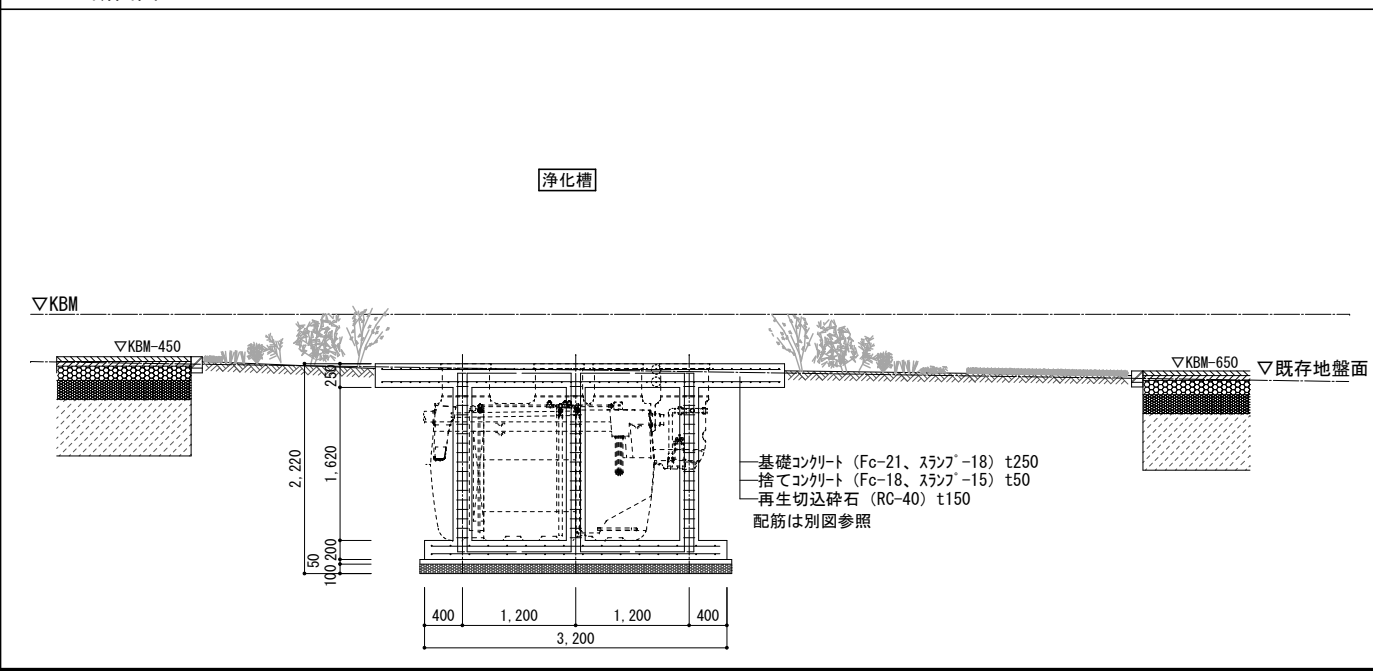
F-F断面図

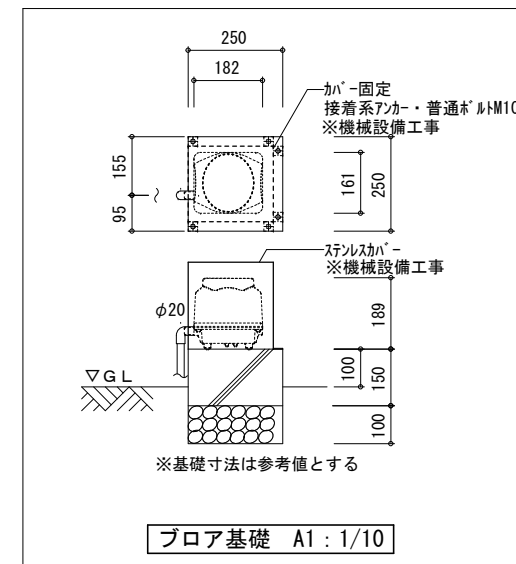
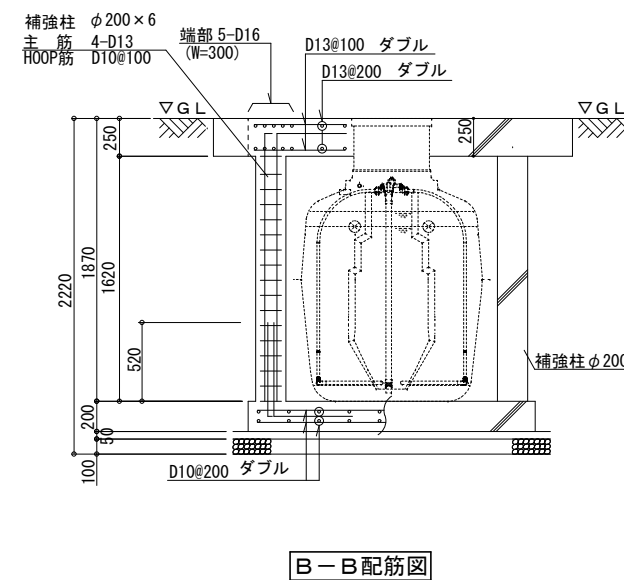
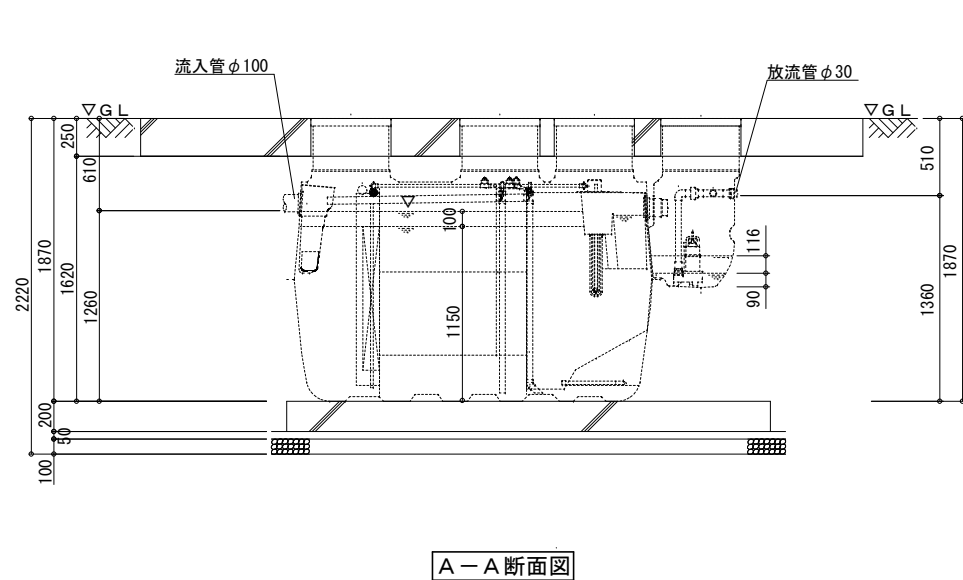
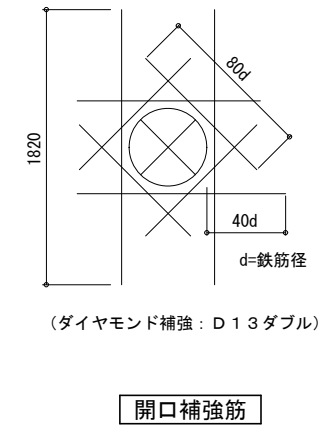
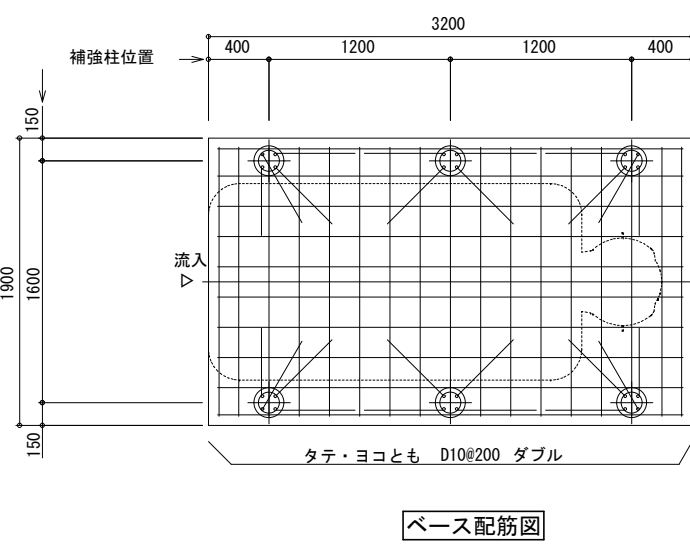
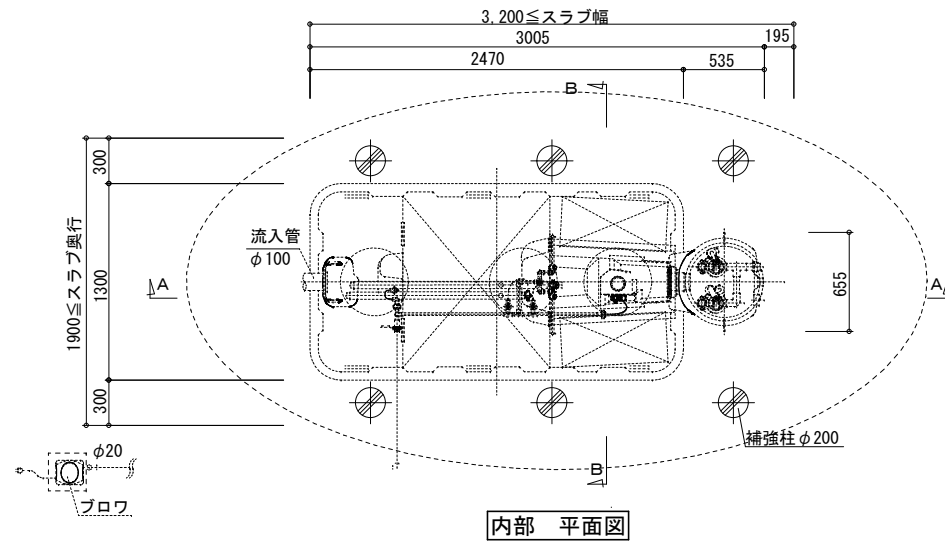
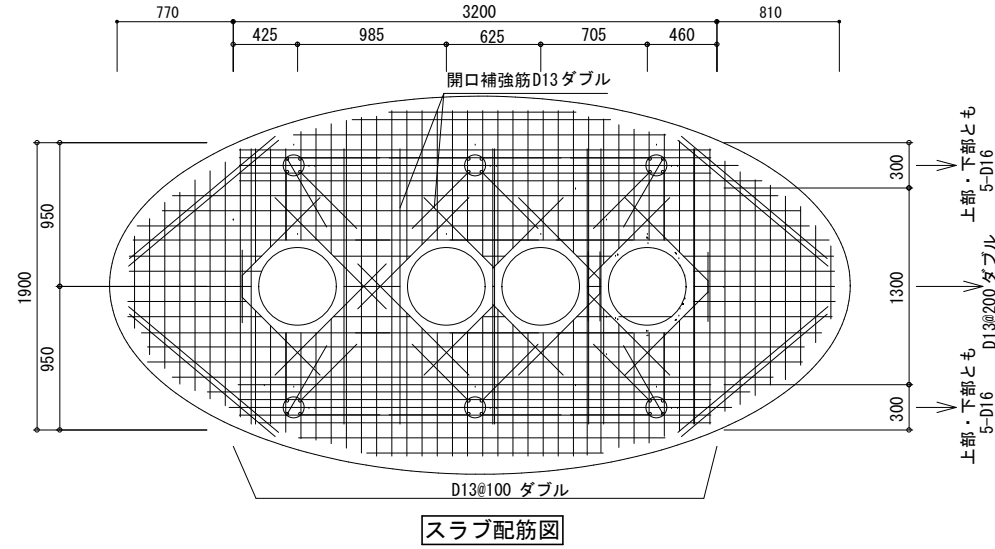
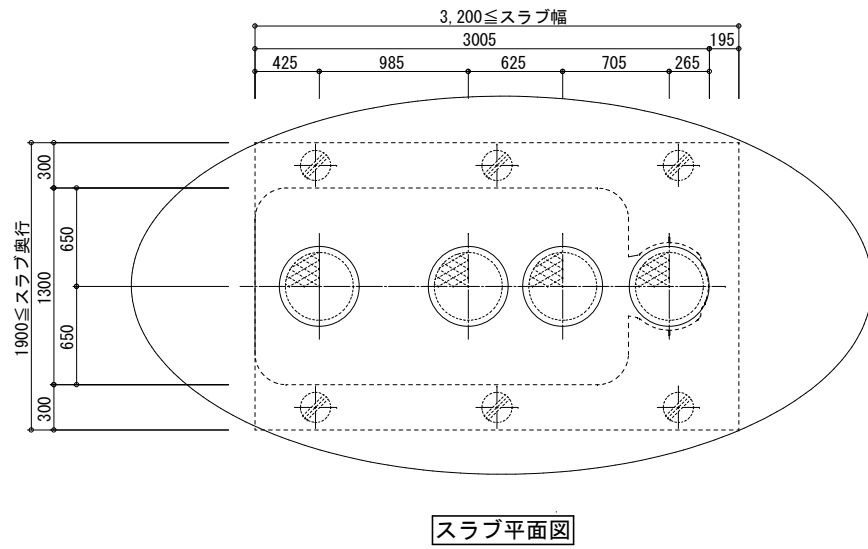


E-E断面図



D-D断面図

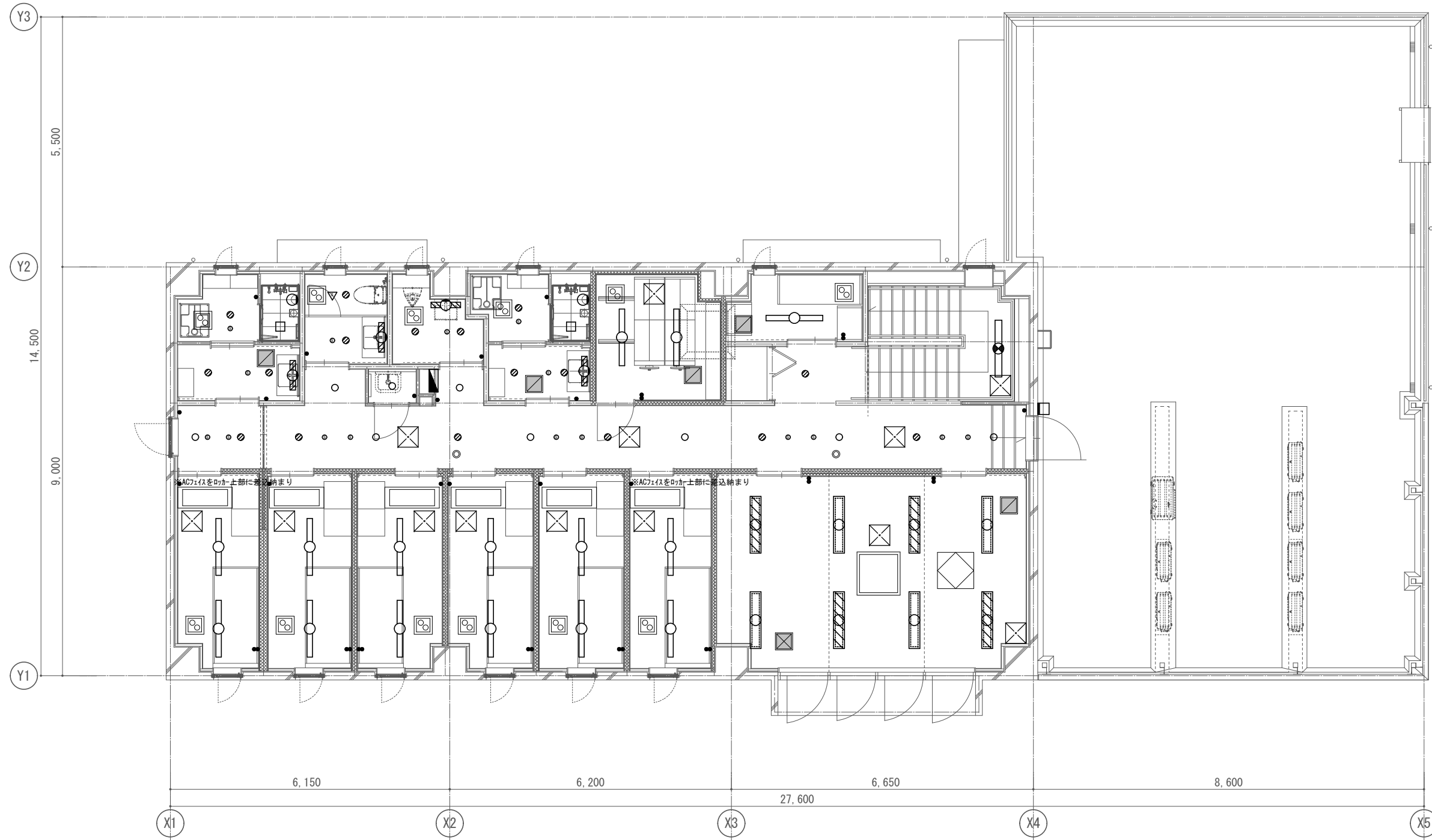




長期許容支持力  $q_a=50\text{kN/m}^2$   
 使用材料  
 1) コンクリート 設計基準強度  $F_c: 21\text{N/mm}^2$   
 スラブ: 18cm  
 D16以下: SD295  
 D16以上: SD345  
 2) 鉄筋 定着および継手: 40d  
 開口補強筋: D13ダブル



記号	建築工事	記号	電気設備工事	記号	機械設備工事
☒	天井点検口 (目地タイプ) □450	○	LED照明器具 露出型	□	天井カセット形空調機
—P—	ピクチャーレール	○	LED照明器具 埋込型	□	天井カセット形空調機
		○	LEDライト	◇	全熱交換機
		○	人感センサー	☒	暖房乾燥機
		—	照明用吊下げケーブル	☒	吹出口
				☒	吸込口
				☒	換気扇
				○	天井給気口

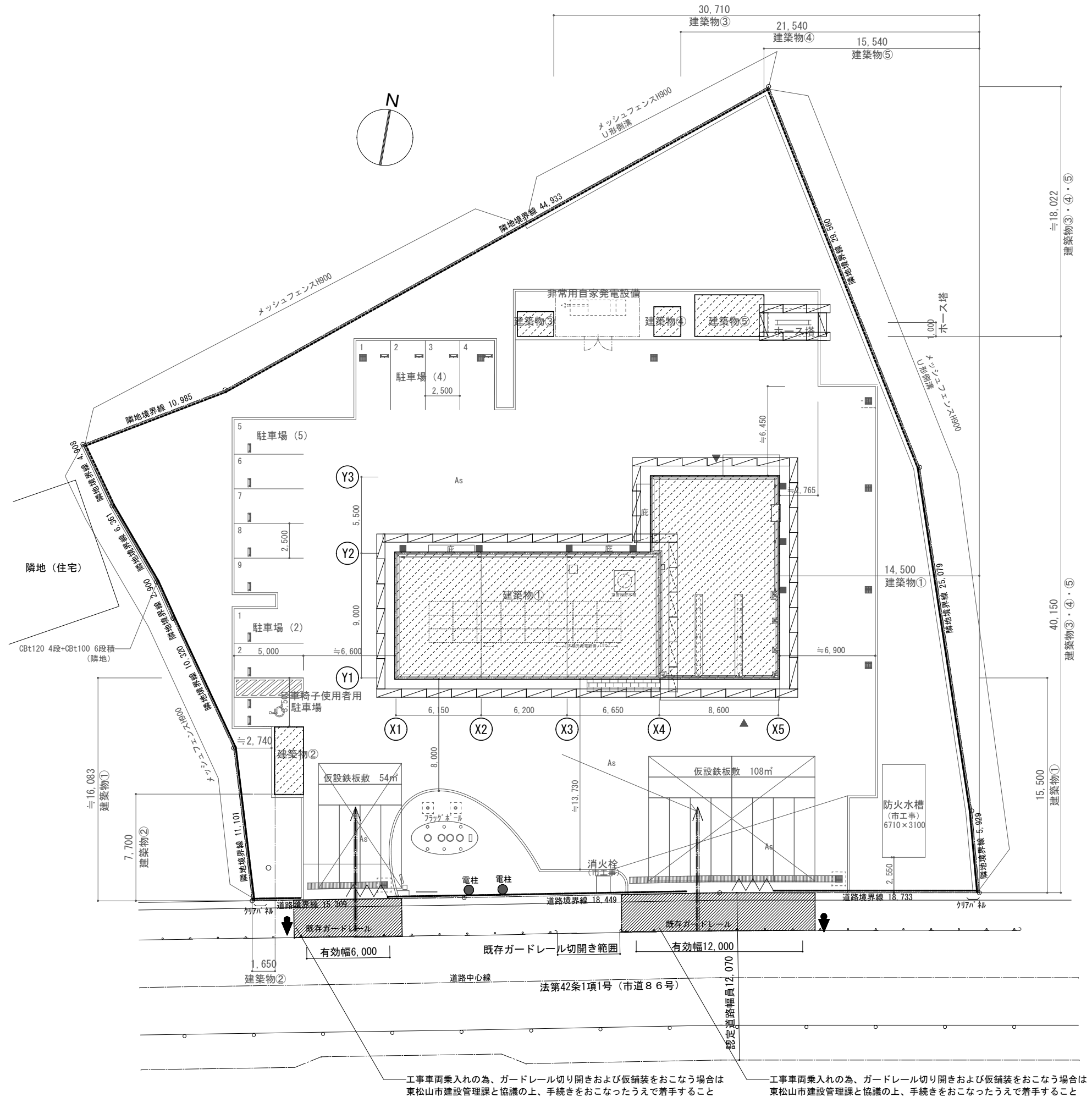


建築物リスト	
番号	用途
建築物①	消防署分署
建築物②	自転車駐車場
建築物③	倉庫 (ごみ集積所)
建築物④	倉庫 (少量危険物倉庫)
建築物⑤	倉庫 (水防倉庫)

凡例	
記号	
⊛	現況地盤レベル (KBMからの高さ)
□	計画地盤レベル (KBMからの高さ)

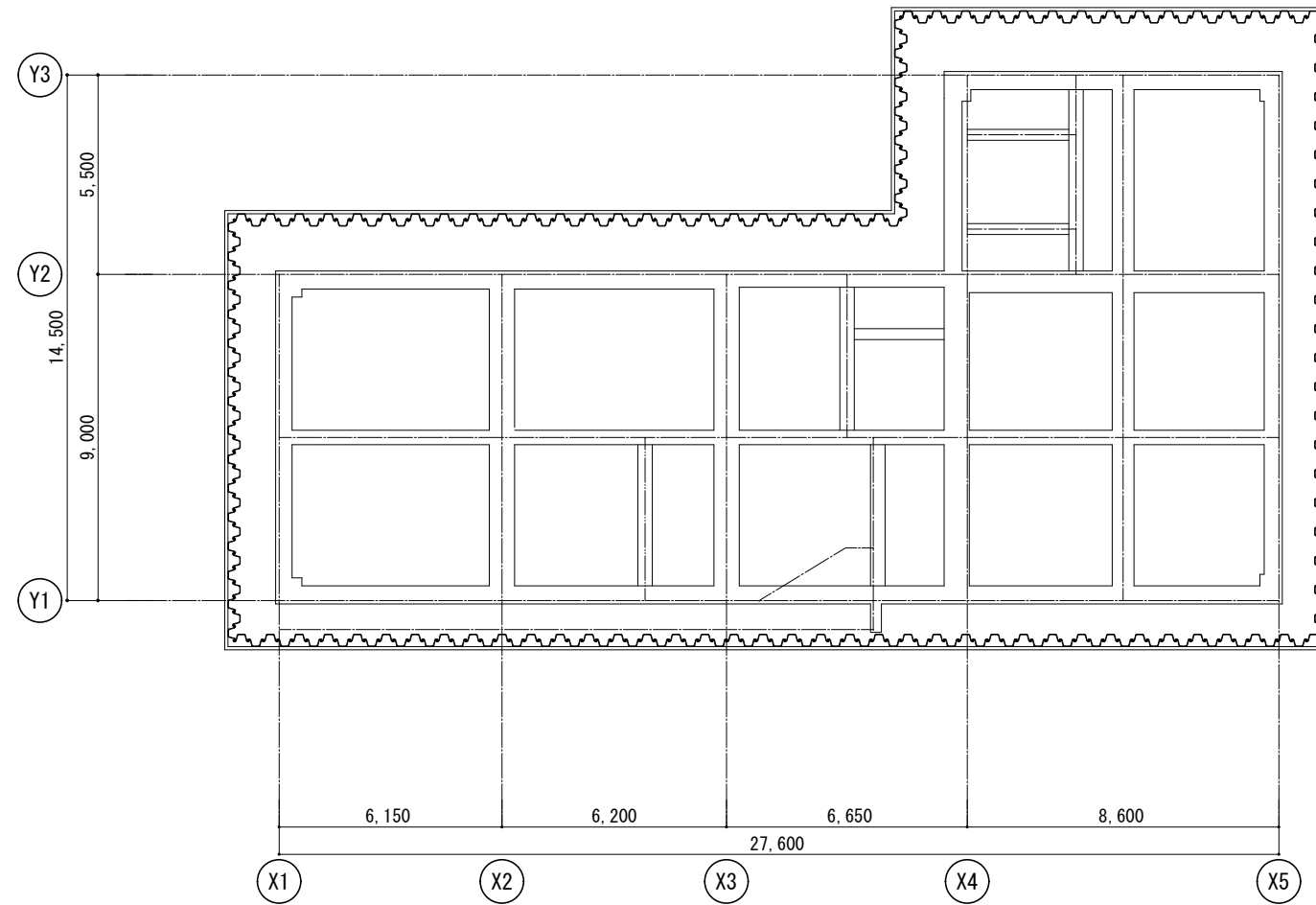
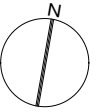
- 1) 近隣に住宅が近接しているため、作業時間等の制約の有無についてよく協議を行い、協力施工に反映させること。
- 2) 工事計画は近隣に十分配慮した計画とすること。  
施工により近隣への利便性を損ねることがあるので、施工内容の組み合わせ・時間等に対して充分配慮した施工とすること。
- 3) 工事着手前、各工事の進行前には、必ず協議をおこなうこと。
- 4) 適宜仮囲いや足場周囲に問題が生じていないかの巡回確認をおこなうこと。
- 5) 交通・安全誘導員 (警備員) を重機・資材搬出入時等には必ず配置し、近隣に対し交通安全に配慮すること。  
また仮囲い面の安全対策を充分行うこと。
- 6) 工事関係車両は事前に台数・位置について把握し、必ず指定場所に駐車すること。
- 7) 作業員の新規入場教育は徹底し、名簿は常備すること。休憩場所、トイレなどの他風紀にも充分注意し、また快適トイレの設置等現場の環境づくりにも配慮すること。
- 9) 基本的な搬入計画・施工工程・車両の進入方法等について、施工前に必ず施設管理者と協議して監督員の承諾を得ること。また、工事状況により安全・保安仮設材を必要に応じて設置すること。
- 10) 重機等の乗り入れにより既存舗装等に支障が生じた場合は現況復旧とすること。
- 11) コンプレッサー等の騒音の生じる機器の置き場所には注意を払い、騒音対策を必要に応じて実施すること。
- 12) 工事状況により、監督員または施設管理者が工事の中断を指示する場合は速やかに対処すること。
- 13) その他特記仕様書、図示記載事項、現場説明書を良く熟知し施工にあたること。
- 14) 足場組立・解体等の大きな音が発生する恐れのある作業については、必要に応じて近隣への説明をおこなうこと。
- 15) その他特記仕様書、図示記載事項、現場説明書を良く熟知し施工にあたること。
- 16) 建築工事、電気設備工事、機械設備工事の取り扱いについては十分協議するとともに、調整を見込んだ工程計画とすること。
- 17) 工事車両乗り入れのためのガードレール切開き及び仮舗装について施工承認協議をおこなうこと。

凡例	
記号	名称・仕様
■	工事建物範囲
—	仮囲い (H=3,000) 一部クワパル 単管補強・シート張共
---	ガードフェンス H=1,800 単管補強・シート張共
□	外部足場 (枠組本足場W=600) +ネット状養生シート張り+安全手すり
□	外部足場 (枠組本足場W=900) +ネット状養生シート張り+安全手すり
□	単管抱足場
〰	パネルゲート W=6,300×H=4,500
〰	キャストゲート W=6,000×H=2,000, W3,600×2,000
□	仮設敷鉄板 ※撤去後、整地を行う 1500×6000×22
→	工事車両進入路、進入方向
↓	交通誘導員

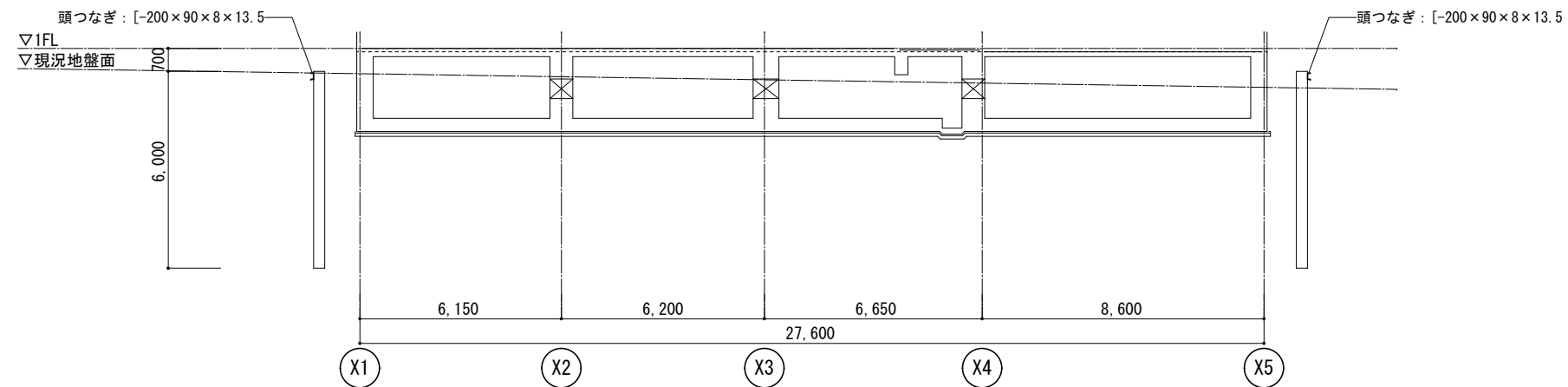


工事車両乗り入れの為、ガードレール切り開きおよび仮舗装をおこなう場合は東松山市建設管理課と協議の上、手続きをおこなったうえで着手すること

工事車両乗り入れの為、ガードレール切り開きおよび仮舗装をおこなう場合は東松山市建設管理課と協議の上、手続きをおこなったうえで着手すること

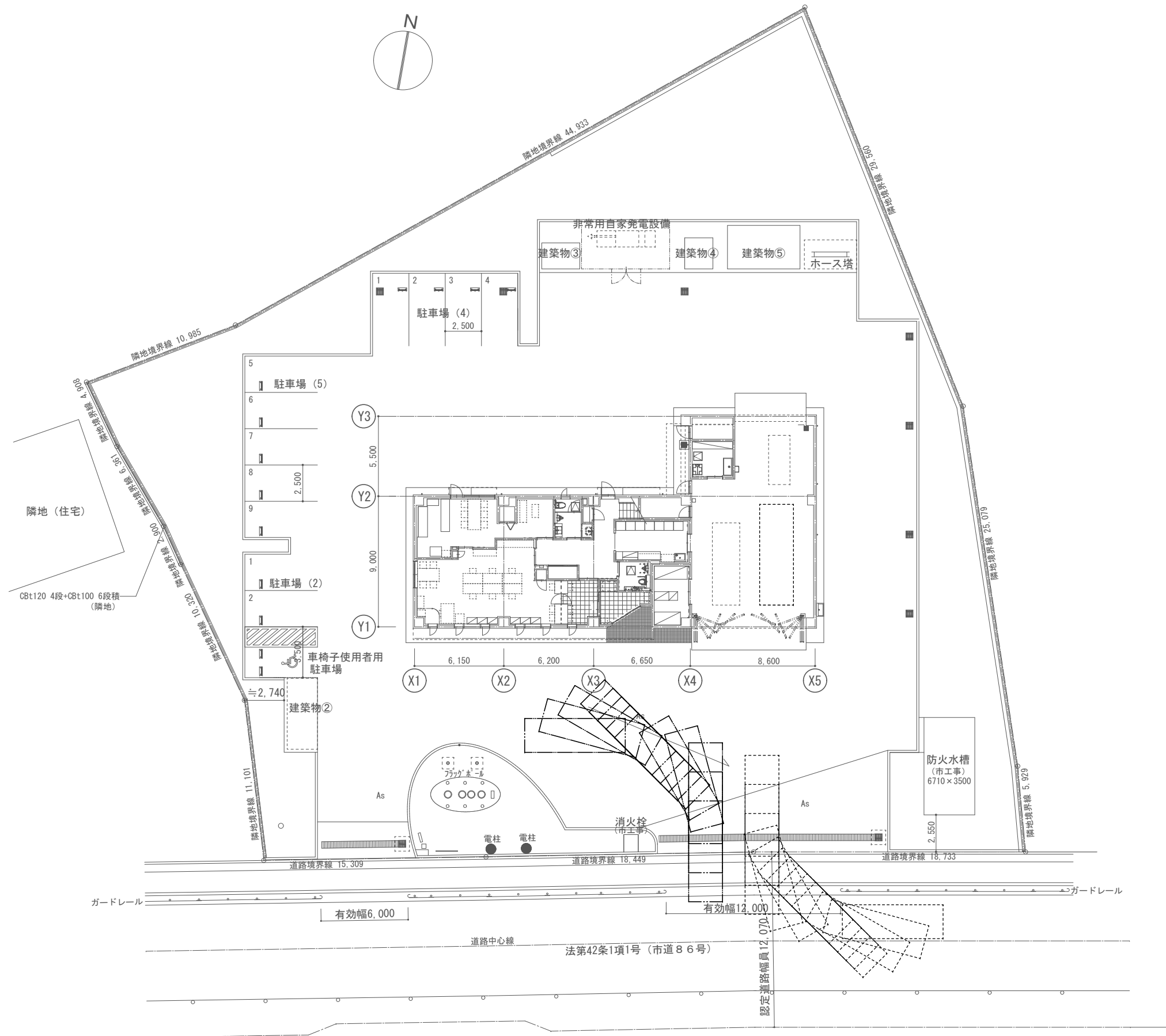


倉舎山留平面図



倉舎山留断面図

**山留工事 特記事項**  
1. 工法 打込み 圧入工法  
引抜き 油圧工法  
構造計算により所定の耐力を確保すること。  
※山留工事により、周辺の通路、工作物等にクラックその他の  
損傷を生じた場合は復旧すること。



工事名 高坂分署庁舎新築工事（建築）

特記仕様書（構造関係）

I 建物概要

1. 主要用途 消防署分署

2. 工事場所 埼玉県東松山市大字西本宿字下柳沢378番1、399番2

3. 棟名称及び構造・階数等

建築面積	299.77 m <sup>2</sup>
延べ面積	475.77 m <sup>2</sup>
床面積	1階 304.77 m <sup>2</sup>
	2階 171.00 m <sup>2</sup>

建物高さ 9.664 m 軒高さ 8.075 m

工事種別 ○新築 ・増築 ・改築 ・移転

増築計画 ・有り ○無し

構造種別 地上 RC 造 地下 RC 造

架橋形式 X方向 ラーメン構造

Y方向 ラーメン構造

耐震構造方式 ○耐震構造 ・免震構造 ・制振構造

耐震安全性の分類 ○Ⅰ類(=1.50) ・Ⅱ類(=1.25) ・Ⅲ類(=1.00)

4. 構造計算条件

a 耐震設計条件

地震荷重	建物一次固有周期 ( 0.160 ) 秒
地盤種別	第 ( 2 ) 種地盤
地域係数	Z= 1.0

計算ルート X方向 ※許容応力度計算（ルート 3）  
○保有水平耐力計算（ルート 3）

Y方向 ※許容応力度計算（ルート 3）  
○保有水平耐力計算（ルート 3）

設計層間変形角 X方向 一次設計 1/200  
二次設計 1/200

Y方向 一次設計 1/200  
二次設計 1/200

b 耐風設計条件

基準風速 (V <sub>0</sub> )	( 30 ) m/秒
地表面粗度区分	Ⅰ Ⅱ ○Ⅲ Ⅳ

c 耐積雪設計条件

建設地の標高	( 34 ) m
多雪区域の指定	有り ○無し
設計垂直積雪量	( 30 ) cm

5. 地盤調査資料

調査内容	・サウンディング (◎標準貫入試験)
	○土質試験 ・孔内水平耐力試験 ・平板載荷試験

調査位置 ボーリング柱状図 構造図 ( SG-07 図) による

液状化対策の検討 ・有り ○無し

II 建築工事仕様

(1) 質問回答書、本特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて「埼玉県建築工事特別共通仕様書」及び国土交通大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」（以下、「標準仕様書」という。）による。

(2) 標準仕様書で「特記がなければ、」以下に具体的な材料・工法・検査方法を明示している場合において、それらと関係法令等（条例を含む）と異なる場合には、具体的な対応策について監督員と協議すること。

(3) 特記仕様書の表記

1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。

○印と◎印の付いた場合は、共に適用する。○印と※印の付いた場合は、○のみを適用する。

3) 特記事項に記載の { . . . } 内の表示番号は、埼玉県建築工事特別共通仕様書の当該項目、当該図表を示す。

4) 特記事項に記載の ( . . . ) 内の表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図表を示す。

5) 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また ( ) 内は製品名を示す。

6) ◎は「特定調達品等」を表す。

7) 注は標準仕様書記載事項で、注意すべきものを示す。

特記事項

4 ① 支持地盤等

杭基礎  
支持地盤の位置及び種類(基礎ぐいの先端の位置含む)  
○指示による ( )

○直接基礎  
支持地盤の位置及び種類(基礎底部の位置含む)  
○指示による ( SG-07 )  
試験掘り(根切り底の状態の確認等)  
・行う(位置等) ・指示による ( )

長期設計支持力  $\phi$  ( 100 ) kN/m<sup>2</sup>

○地盤の載荷試験 ( 2 ) 箇所  
載荷試験の方法  
・地盤工学会基準JGS 1521による ○平板載荷試験  
試験の位置、載荷荷重  
※指示による ( 意匠図D-09 )

・液状化対策  
工法、施工範囲、仕様及び計測、試験等 ※指示

2 既製コンクリート杭地盤

種類  
・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭 (PHC杭)  
・プレストレスト鉄筋コンクリート杭 (PRC杭)  
・外殻鋼管付きコンクリート杭 (SC杭)  
SC杭の鋼管材料 ・SKK400 ・SKK490

寸法、継手、性能等 (種別:種類、性能及び曲げ強度区分) (4.2.2)(4.3.3)

種類	コンクリート強度(N/mm <sup>2</sup> )	厚さ(mm)	杭径(mm)	杭長(m)	継手数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭							
上杭							
中杭							
下杭							
本杭							
上杭							
中杭							
下杭							

杭先端部形状 (4.3.3)  
・開放形 ・半開放形 ・閉そく形

施工方法 (4.2.2)(4.3.1.4)  
・セメントミルク工法  
試験杭の位置 ・指示による ( )  
掘削深さ ・指示による ( )  
杭の支持層への根入れ長さ  
・指示による ( )

杭の精度  
水平方向の位置ずれ寸法 ・杭径の1/4かつ100mm以下  
杭の傾斜 ・1/100以内  
杭の傾斜  
機固め液及び杭周固定液の管理試験  
※標準仕様書4.3.4(6)(a)による

特定埋込杭工法 (4.2.2)(4.3.1.5)  
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力方式の内 $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ が下記の値を採用できる工法  
 $\alpha = ( )$ 、 $\beta = ( )$ 、 $\gamma = ( )$

工法  
・プレボリング拡大根固め工法  
・中掘り拡大根固め工法

杭周固定液 使用する ・使用しない  
試験杭の位置 ・指示による ( )  
杭の支持層への根入れ長さ  
・評定等の評価内容による

杭の精度  
水平方向の位置ずれ寸法  
※評定等の評価内容による ・杭径の1/4かつ100mm以下  
杭の傾斜  
※評定等の評価内容による ・1/100以内

杭の継手の工法 (4.3.3.6)(7.2.5)  
・アーク溶接継手  
溶接材料  
・標準仕様書7.2.5(1)、(2)による ・指示による ( )

・機械式継手(継手に接続金具を用いた方式のもの)  
工法 ※評定等を受けた工法  
検査 ※評定等により定められた項目  
施工 ※評定等をされた施工管理基準による

3 鋼杭地盤

種類、板厚、杭径、杭長、継手数、長期設計支持力、備考

種類	板厚(mm)	杭径(mm)	杭長(m)	継手数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭						
上杭						
中杭						
下杭						
本杭						
上杭						
中杭						
下杭						

特定埋込杭工法 (4.2.2)(4.3.1.5)  
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力方式の内 $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ が下記の値を採用できる工法  
 $\alpha = ( )$ 、 $\beta = ( )$ 、 $\gamma = ( )$

工法  
・中掘り拡大根固め工法

試験杭の位置 ・指示による ( )

杭の精度  
水平方向の位置ずれ寸法  
※評定等の評価内容による ・杭径の1/4かつ100mm以下  
杭の傾斜  
※評定等の評価内容による ・1/100以内

杭の継手の工法 (4.4.3.5)(7.2.5)  
・アーク溶接継手  
形状  
・JIS A 5525による  
溶接材料  
・標準仕様書7.2.5(1)、(2)による ・指示による ( )

4 場所打ちコンクリート杭地盤

杭頭の処理 (4.3.8)(4.4.6)  
・処理する  
処理方法(切断ともなう補強方法含む)  
・指示による ( )

杭頭の中詰め材料 (4.3.8)  
・基礎のコンクリートと同調合のもの

工法 (4.5.1、4~6)  
・アースドリル工法 (安定液 ・使用する ・使用しない)  
・リバース工法  
・オールケーシング工法 (孔内の水張り ・行う ・行わない)

場所打ち鋼管コンクリート杭工法  
鋼管巻き材料 ・SKK400 ・SKK490  
鋼管径・板厚・長さ ※指示による ( )

併用する工法  
・掘削工法 (安定液 ・使用する ・使用しない)

材料その他 (4.2.2)(4.5.4)  
寸法等

試験杭	本杭	種類	記号	呼び径(mm)	備考

鉄筋の種類 (5.2.1)  
種類、記号、呼び径(mm)、備考

種類	記号	呼び径(mm)	備考

帯筋の加工及び組立 (5.2.1)(6.2.2)(6.2.3)  
・指示による (構造関係共通図(配筋標準図)6.2帯筋(2)⑥(ロ))

鉄筋の最小かぶり厚さ  
・100mm  
鉄筋かごの補強  
組立てた鉄筋の節ごとの継手  
※重ね継手(重ね継手の長さ:標準仕様書表5.3.2)による

主筋の定着長さへの定着長さ  
・指示による ( )  
セメントの種類  
※高炉セメントB種 ◎  
コンクリートの設計基準強度 ( ) N/mm<sup>2</sup>  
コンクリートの種別  
・A種 ・B種 ・評定等の評価内容による

スランブ  
・18cm ・21cm  
構造体強度補正值  
・3N/mm<sup>2</sup> ・評定等の評価内容による

試験杭の位置 ・指示による ( )  
杭の支持層への根入れ長さ  
・指示による ( )

杭の精度  
水平方向の位置ずれ  
・評定等の評価内容による ・杭径の1/4かつ100mm以下  
杭の傾斜  
・評定等の評価内容による ・1/100以内

孔壁の保持状況(孔壁測定)  
測定箇所 ・試験杭 ( )箇所及び本杭 ( )箇所  
測定方法 ・超音波測定器

5 ① 鉄筋

鉄筋の種類 (5.2.1)  
種類、記号、呼び径(mm)、備考

種類	記号	呼び径(mm)	備考

2 溶接金網 (5.2.2)  
形状等  
種類、種類、記号、鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径(mm)、使用部位

種類	種類	記号	鉄線の形状	網目寸法	鉄線の径(mm)	使用部位

③ 鉄筋の継手 (5.3.4)  
鉄筋の継手方法等

部位	継手方法	呼び径(mm)
柱、梁の主筋	○ガス圧接 ・機械式継手 ◎溶接継手 ・重ね継手	※D19以上
耐力壁の鉄筋	◎重ね継手	
基礎、耐力スラブ、土圧壁	◎重ね継手 ・ガス圧接	
その他の鉄筋( )	◎重ね継手	

継手位置  
○指示による (構造関係共通図(配筋標準図)5.1、6.1、7.1、7.3、8.1)  
基礎梁主筋の継手位置 ・図5.2 ・図5.3 ・図5.4  
・指示による ( )  
柱及び梁の重ね継手の長さ  
・指示による ( )  
耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ  
※指示による (構造関係共通図(配筋標準図)3(1)(イ))  
・指示による ( )  
柱及び梁の主筋で隣り合う継手を同一箇所に行ける部分の位置及び施工方法等  
・指示による ( )

④ 鉄筋の定着

鉄筋の定着長さ (5.3.4)  
○指示による ( SG-03 )

機械式定着工法  
適用場所  
種類  
・摩擦圧接接合 ・継合グラウト固定  
・嵌合グラウト固定

工法  
※第三者機関の評定等を取得している工法とする  
必要定着長さ  
※評定等の評価内容による  
補強筋形状  
※評定等の評価内容による  
かぶり厚さ  
※評定等の評価内容による  
品質確認  
※評定等の評価内容による  
検査  
※評定等の評価内容による

鉄筋の余長の長さ  
構造関係共通図(配筋標準図)による。これによらない箇所は図示による。

⑤ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網含む) (5.3.5)  
最小かぶり厚さ(目地底から算出を行う)  
※指示による (構造関係共通図(配筋標準図)4(1)表4.1)  
・指示による ( )

柱及び梁の主筋にD29以上の使用  
・あり 適用箇所 ( )  
主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する  
耐久性上不利な部分(塩害等を受けるおそれのある部分等)  
・あり 適用箇所 ( )  
・最小かぶり厚さに加える厚さ ( )mm

6 各部配筋 (5.3.7)  
※指示による

7 圧接完了後の圧接部の試験 (5.4.10)  
圧接完了後の圧接部の試験  
・外観試験  
※行う(全ての圧接部)  
採取試験  
※超音波探傷試験(試験方法 標準仕様書5.4.10(イ)(a)による)  
・引張試験  
試験方法 ※標準仕様書5.4.10(イ)(b)による

8 機械式継手 (5.5.3.5)  
適用箇所  
・指示による ( )  
H12建告第1463号に適合する性能  
・A級

種類  
・ねじ式鉄筋継手  
充填方式  
・無機グラウト方式 ・有機グラウト方式  
・端部ねじ加工継手  
・モルタル充填式継手

工法  
※第三者機関の評定等を取得している工法

鉄筋相互のあき  
※評定等の評価内容による  
品質の確認  
※評定等の評価内容による  
検査  
※評定等の評価内容による  
施工完了後の継手部の試験  
・外観試験  
試験対象 ※全数  
試験項目  
・評定等の評価内容による  
試験方法  
・評定等の評価内容による  
・超音波測定試験  
試験対象  
・採取  
・1ロットに対して ( )箇所

9 溶接継手 (5.5.3.5)  
適用箇所  
・指示による ( )  
H12建告第1463号に適合する性能  
・A級

溶接継手の工法  
・指示による ( )  
鉄筋相互のあき  
・標準仕様書5.3.5(4)による  
・評定等の評価内容による  
・指示による ( )

施工完了後の溶接部の試験  
・外観試験  
試験対象 ※全数  
試験項目  
・評定等の評価内容による  
試験方法  
・評定等の評価内容による  
・超音波測定試験  
試験対象  
・採取  
・1ロットに対して ( )箇所

試験項目  
・全数 ※内部欠陥の検出  
試験方法  
※JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波測定方法及び判定基準)による  
判定基準)による  
不合格となった場合の措置



6 コンクリート工事

① コンクリートの種類等 (6.2.1)

種類 ※Ⅰ類 (JIS A 5308 への適合を認証されたコンクリート) ・Ⅱ類 (JIS A 5308 に適合したコンクリート)

普通コンクリート (6.2.1~6.2.4)

設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	気乾単位容積質量 (t/m <sup>3</sup> )	スラップ	適用箇所
24	2.3程度	15又は18・18	

構造体強度補正值(S) (6.3.2)

※標準仕様書 表6.3.2による

補正值 S = 3 (月日~月日、月日~月日)

S = 6 (月日~月日、月日~月日)

② セメント (6.3.1)

種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種

適用箇所 (※下記以外全て)

普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で 352 J/g以下、かつ28日目で 402 J/g以下のものとする。

・高炉セメントB種 ( )

適用箇所 (IFLより下部(立上り部含む))

・フライアッシュセメントB種 ( )

適用箇所 ( )

③ 骨材 (6.3.1)

アルカリシリカ反応性による区分 ※A・B (コンクリート中のアルカリ総量が 3.0 kg/m<sup>3</sup> 以下)

④ 混和材料 (6.3.1)

・混和剤

混和剤の種類 ※標準仕様書6.3.1(4)(a)による

・混和材の種類

混和材の種類 ※標準仕様書6.3.1(4)(b)による

⑤ 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継ぎ目地 (6.6.4)

打継ぎの位置

梁及びスラップ

※スパンの中央又は端から1/4の付近

・図示による ( )

柱及び壁

※スラップ、壁梁又は基礎の上端

・図示による ( )

目地の寸法 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)

・標準仕様書 9.7.3(1)(7)による

※ひび割れ誘発目地、打継ぎ目地の深さ寸法は、躯体外側の打増し部で処理する

・図示による ( )

ひび割れ誘発目地の位置、形状、寸法 (6.8.1)

・図示による ( )

⑥ 湿潤養生 (6.7.2)

湿潤養生の期間

・セメントの種類が普通エコセメントの場合 ( ) 日

⑦ 構造体コンクリートの仕上り (6.2.5)(6.8.2)

合板せき板を用いるコンクリートの打直し仕上げ

種別	適用箇所
A種	※図示による ( )
B種	※図示による ( )
C種	※図示による ( )

コンクリートの仕上りの平たんさ

種別	適用箇所
a種	※図示による ( )
b種	※図示による ( )
c種	※図示による ( )

⑧ 打増し厚さ (打直し仕上げ部) (6.8.1)

打増し厚さ

○打直し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)

○20mm

○打直し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)

○10mm ・20mm

・外装タイル後張り面の打増し処理

・20mm

打増し範囲

・図示による ( )

⑨ 型枠 (6.8.2)

せき板の材料及び厚さ

○合板 (※2mm) ( )

コンクリート打設時の充填性の確認のため、型枠の一部に透明型枠等を使用する場合は、強度、変形等について、事前に監督員と協議する。

・断熱材を兼用した型枠の使用

適用箇所 ・図示による ( )

・MCR工法用シートの使用

適用箇所 ・図示による ( )

打増し厚さ ・20mm

打増し範囲 ・図示による ( )

スリートの材質・規格等

・図示による ( )

⑩ 存置期間及び取外し (6.8.4)

※標準仕様書6.8.4による

・普通エコセメントの場合 (※図示による ( ) )

10 軽量コンクリート (6.10.1、2)

適用箇所

・図示による ( )

種類

・1種 ・2種

気乾単位容積質量

・標準仕様書 表6.10.1による

スラップ

※21cm

11 寒中コンクリート (6.11.1、2)

適用期間 (月日~月日)

構造体強度補正值(S)を積算温度を基に定める場合

・図示による ( )

・S = ( )

12 暑中コンクリート (6.12.2)

適用期間 (月日~月日)

構造体強度補正值(S)

※6N/mm<sup>2</sup> ・図示による ( )

・S = ( )

13 マスコンクリート (6.13.1、2)

適用箇所

・図示による ( )

セメントの種類

・普通<sup>高炉</sup>ポルトランドセメント ・中熱<sup>高炉</sup>ポルトランドセメント ・低熱<sup>高炉</sup>ポルトランドセメント

・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 ・シリカセメント

混和材料の適用

・あり (標準仕様書6.13.2(2)(7)による) ・標準仕様書6.13.2(2)(4)による

スラップ

※15cm

構造体強度補正值(S)

※標準仕様書表6.13.1による

14 無筋コンクリート (6.14.1)

コンクリートの種類

※普通コンクリート

セメントの種類

※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種

・高炉セメントB種 ( )

・フライアッシュセメントB種 ( )

設計基準強度 ※18 (N/mm<sup>2</sup>)

スラップ ※15cm又は18cm

適用箇所

※標準仕様書6.14.1(4)による箇所 ・図示による ( )

⑮ コンクリートの単位水量測定 (6.6.5)

実施要領

(1)単位水量の測定は、150m<sup>3</sup>に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。

(2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4)(g)による。

(3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。

1)測定した単位水量が、計画調査書の設計値(以下、「設計値」という。)±15kg/m<sup>3</sup>の範囲にある場合はそのまま施工する。

2)測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/m<sup>3</sup>の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打捨てる。その後、設計値±15kg/m<sup>3</sup>以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。

3)設計値±20kg/m<sup>3</sup>を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m<sup>3</sup>以内であることを確認する。更に、設計値±15kg以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。

4)3)の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。

(4)単位水量管理についての記録を蓄音(計画調査書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。

(5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、ITメソッド又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。

⑯ 締固め (6.6.5)

○締固めは、コンクリートが隔々まで充填され、密実になるように、型枠取付振動機を使用すること

⑰ 鉄骨製作工場 (7.1.3)

鉄骨製作工場の加工能力

建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨製鉄センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鉄骨工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」により評価を受け、国土交通大臣から認定を受けた工場、又は同等以上の能力のある工場

評価の区分

※(R) グレード ・指定しない

・監督員の承諾する工場 (標準仕様書7.1.1以外の適用範囲に限る)

⑱ 施工管理技術者 (7.1.3、4)

配置する

種類等 (7.2.1)

種類の記号	適用箇所(主要な部分)	規格
SS400	ルーパーフェンス	○JIS規格による
STKR400	m	○JIS規格による
		・JIS規格による

溶接亜鉛めっき工法の適用箇所

○ルーパーフェンス

⑳ 高力ボルト (7.2.2)

ボルトの種類

・トルシア形高力ボルト ・JIS形高力ボルト

○溶融亜鉛めっき高力ボルト

ボルトのねじの呼び

○図示による ( )

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)

○図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-1 縁端距離及びボルト間隔)

① 摩損面の処理方法等 (7.4.2)(7.12.5)

溶融亜鉛めっき以外

※標準仕様書7.4.2(1)による

溶融亜鉛めっき面

○プラスト処理(表面粗度50μm Rz以上)

・プラスト処理以外の特別な処理方法

・図示による ( )

すべり試験

・行う(※すべり係数試験 ・すべり耐力試験)

試験の方法等 ・図示による ( )

㉑ 普通ボルト (7.2.3)(7.5.2)

ボルト及びナットの材料

○標準仕様書 表7.2.3(JIS附属書品)又は次による

ボルトの規格は JIS B 1180 とする。

(ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの輪径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。ナットの規格は、JIS B 1181 とする。ナットの種類は、六角ナット-Cとし、材料は鋼とする。)

ボルトのねじの呼び

・図示による ( )

座金

※ JIS B 1256 による

戻り止め

※二重ナット

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)

○図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-1 縁端距離及びボルト間隔)

㉒ アンカーボルト (7.2.4)(7.10.3)

・構造用アンカーボルト (JIS B 1220)

種類 ・ABR400 ・ABR490

○建方用アンカーボルト (JIS G 3101)

種類 ○SS400

アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度

※標準仕様書 表7.2.3による

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)

・図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-1 縁端距離及びボルト間隔)

7 溶接材料 (7.2.5)

溶接材料

・標準仕様書7.2.5(1)、(2)による

・標準仕様書7.2.5(1)、(2)以外の溶接材料

材料及び適用箇所 ・図示による ( )

8 ターンバックル (7.2.6)

種類

建築用ターンバックル

※羽子板ボルト

建築用ターンバックル鋼

※割棒式

ねじの呼び

・図示による ( )

9 床構造用のデッキプレート (7.2.7)(7.7.8)

材質、形状及び寸法

適用箇所	材質・形状・寸法	備考
・デッキプレート		
・単独の構造		
・デッキプレートとコンクリートとの合成スラップとする構造		

開口部補強要領(補強筋の定着長さ等を含む)

・図示による ( )

鉄骨部材への溶接方法

・図示による ( )

耐火認定

・あり(耐火時間 ・図示による ( ) )

頭付きスタッド (JIS B 1198) の種類等 (7.2.8)(7.7.6)

呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所
-16		
-19		
-22		

スタッド溶接完了後、外観試験及び打撃曲げ試験を行う。

⑩ 柱底均しモルタル (7.2.9)

無収縮モルタルとする場合の材料、割合等

※標準仕様書7.2.9(2)(7)から(4)による

12 製作精度 (7.3.3)

鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則6「鉄骨精度検査基準」に加えて、次による。

通しダイヤフラムの突合せ継手の食い違いの寸法

※H12建造物第1464号第二号イ(2)による

アンダーカットの寸法

※H12建造物第1464号第二号イ(3)による

食い違い、仕口のずれの検査方法及び補強方法

・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による

13 溶接技能者の技量付加試験 (7.6.3)

試験の要領

・図示による ( )

14 溶接接合 (7.6.4)

開先の形状

・図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-2 溶接継手の種類別開先標準)

鋼製エンドタブの切断する部分 (7.6.7)

切断する場所 ・図示による ( )

切断範囲

・鋼製エンドタブ、表当て金等は、梁フランジ等の端から5mm以上残して直線上に切断する。なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。

切断面の仕上げ

・標準仕様書7.6.7(1)(a)(b)による

完全溶込み溶接

板厚が異なる場合の突合せ継手

低応力高サイクル疲労を受ける部位

・図示による ( )

スカラップの形状

・図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-4(4)改良型スカラップ)

15 入熱、バス間温度の管理 ( )

適用箇所

・図示による ( )

・柱、梁、プレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部

16 溶接部の試験 (7.6.12)

H12建造物第1464号第二号に関する外観試験方法等

・図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)3.5.2 受入検査による

※抜き取り検査②

・抜き取り検査①

JASS 6 付則6「鉄骨精度検査基準」の付表3「溶接」に関する確認方法等

・JASS 6 10.4「受入検査」e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の採取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験

・工場溶接の場合

AOQL(%)	※4.0	・2.5
節	・全て	・
検査水準	※第6水準	・
全数	・	・
工事現場溶接の場合	※全数	・

17 錆止め塗装 (7.8.2)

塗装の範囲

耐火被覆材の接着する面

・図示による ( )

耐火被覆材の接着する面以外

※標準仕様書7.8.2(1)(7)~(4)以外の範囲

・図示による ( )

塗料の種類 (7.8.4)

・鉄鋼面の錆止め塗料

屋外

・標準仕様書 表18.3.1 A種

屋内

・標準仕様書 表18.3.1 ( ) 種

・亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料

・標準仕様書 表18.3.2 ( ) 種

・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面(鉄骨に溶接されたものに限る)

・標準仕様書 表18.3.1 A種

・耐火被覆材の接着する面へ塗装する場合の錆止め塗料

・標準仕様書 表18.3.1 ( ) 種 ・標準仕様書 表18.3.2 ( ) 種

種類、材料、工法等 (7.9.2~8)

種類	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックール		
	・湿式ロックウール		
	・半乾式吹付けロックール		
・耐火板張り	・繊維混入付い酸カルシウム板		
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール		
・ラス張りモルタル塗り			
・耐火塗料			

材料及び工法は、建築基準法に基づき定められたもの又は認定を受けたものとする

※JASS6 付則6「鉄骨精度検査基準」付表5「工事現場」による (7.10.2)

⑲ 建方精度 (7.10.3)

構造用アンカーボルトの形状及び寸法

・図示による ( )

構造用アンカーフレームの形状及び寸法

・図示による ( )

建方(及び付属鉄骨)用アンカーボルトの保持及び埋込み工法(標準仕様書 表7.10.1)

種別 ○A種 ・B種

柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種類(標準仕様書 表7.10.2)

厚さ

種別 ○A種 ・B種

⑳ 溶融亜鉛めっき (基礎、主要構造部及びその他の構造耐力上主要な部分に限る。)

種類等 (7.12.4)(表14.2.2)

亜鉛めっきの種類	材料	適用部位
○A種	最小板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板	
○B種	最小板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板	
○C種	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚2.3mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板	

外観検査 ※行う ・行わない

補強形式

・図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-6)

適用箇所

・図示による ( )

⑳ 梁貫通孔の補強

○建築設備の構造および構造体への緊結部分は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。

○建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防錆のための有効な措置を講ずること。

○建築物に設ける屋上からの突出する水櫃、煙突、その他これらに類するものは、風圧・地震力に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。

○煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造とすること。

○設備配管は、地震時等の建物変形に追随できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。

○設備機器の架台および基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。

○エレベーター・エスカレーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。

また、地震時の層間変形に追随できること。

○特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。

○床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。

令第129条の2の3の事項

建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

○建築設備(昇降機を除く)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐食のおそれがないものとする。

○屋上から突出する水櫃、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。

○煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支柱を設けたものを除き、9.0cm以下とすること。

○煙突で厚みのある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが2.5cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

○建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、

○風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

○建築物の部分を通って配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

○管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可換継手を設ける等、有効な損傷防止のための措置を講ずること。

○管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

○法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水櫃、煙突その他これらに類するものについては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

○満水時の質量が15kgを超えるガス、石油、電気式の給油設備を設ける場合の転倒防止対策について

平12建告1388号(改正1447号)の以下のいずれかに適合すること。

・固定部位、設置場所、質量等に応じて規定されたアンカーボルト等の種類及び本数とする。

・給油設備の建築物の部位等への取付部分が荷重及び地震力によって生ずる力に対して安全上支障の無いことを構造計算によって確認する。

一級建築士 第312200号  
構造設計一級建築士 第 7798号 有川 貴志

### 構造関係共通図（配筋標準図）

#### 総則

- 適用範囲
  - 本構造関係共通図は鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立の一般的な標準図とする。
  - 本構造関係共通図以外については、設計図及び監督員の指示による。

#### 用語の定義

- 設計図とは、建築構造のうち特記仕様書（構造関係）、構造関係共通図以外の図面をいう。
- 異形鉄筋の径（本文、図、表において「d」で示す。）は、呼び名に用いた数値とする。
- 長さ、厚さの単位は、特記なき限りmmとする。

#### 優先順位

- 設計図書の図面のうち配筋方法に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
  - 特記仕様書（構造関係）
  - 図面
    - 2-1 設計図
    - 2-2 構造関係共通図（配筋標準図）
  - 国土交通省大臣官房官庁事務部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」

- 図面
  - 図面中使用する記号等は、表A～Dを標準とする。

表A 異形鉄筋の断面表示記号

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築		●	×	◇	○	◎	⊙	⊗	⊕

表B 各階伏図における記号

記号	説明	記号	説明
S <sup>#</sup>	スラブの配筋種別	⊕	杭の位置
◇	スラブ厚さ	+	試験杭の位置
○	階段の配筋種別	▨	打増しの範囲
DO	土間コンクリート	⊠	スラブ開口
□	コンクリートブロック壁（CB壁）	⊕	ポーリング位置
▨	梁・スラブの上がり下がり範囲	(±)	FLからの上がり下がり
EW○○	耐力壁の種類	W○○	一般壁の種類
EKW○○	片持ちスラブ形階段を受け、かつ耐力壁の種類	KW○○	片持ちスラブ形階段を受け、かつ一般壁の種類
ERW○○	土圧を受け、かつ耐力壁の種類		

表C 梁貫通孔記号

区分	径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400
建築		○	×	+	◇	○	◎	⊙	⊗	⊕	⊖	⊗	⊕	⊖	⊗	⊕

表D スリプ材質の凡例

管名	鋼管	溶融亜鉛めっき鋼板	硬質塩化ビニル管（薄肉管）	つば付き鋼管（黒管）
記号（建築用）	SP（白管）	GA	VU	RS

※建築用以外のスリプ材質は各工事による。

#### 1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径は、表1.1を標準とする。

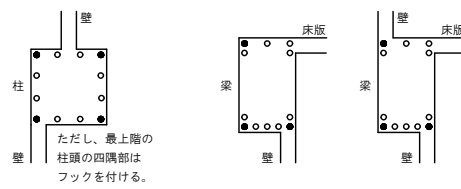
表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径

折曲げ角度	折曲げ図（余長）	折曲げ内法直径(D)		
		SD295A SD295B、SD345	D16以下	D19～D38 D19～D38
180°		3d以上	4d以上	5d以上
135°		3d以上	4d以上	5d以上
90°		3d以上	4d以上	5d以上
135°及び90° （幅止め筋）		3d以上	4d以上	5d以上

- 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
- 90°未満の折曲げの内法直径は特記による。

#### 2 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。  
(1) 柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部



- 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
- 杭基礎のベース筋
- 帯筋、あば筋及び幅止め筋

#### 3 継手及び定着

(1) 鉄筋の重ね継手

- 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- 柱及び梁主筋並びに耐力壁を除く鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	L <sub>1</sub> (フックなし)		L <sub>1n</sub> (フックあり)	
		小梁	スラブ	小梁	スラブ
SD295	18	45d	35d	35d	35d
	21	40d	30d	30d	30d
	24, 27	35d	25d	25d	25d
	30, 33, 36	35d	25d	25d	25d
SD345	18	50d	35d	35d	35d
	21	45d	30d	30d	30d
	24, 27	40d	30d	30d	30d
	30, 33, 36	35d	25d	25d	25d
SD390	21	50d	35d	35d	35d
	24, 27	45d	35d	35d	35d
	30, 33, 36	40d	30d	30d	30d

- L<sub>1</sub>、L<sub>1n</sub>：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
- フックありの場合のL<sub>1n</sub>は、図3.1に示すようにフック部分 Q を含まない。
- 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

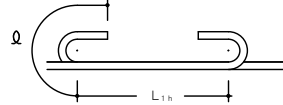


図3.1 フックありの場合の重ね継手の長さ

- 耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず40d以上（軽量コンクリートの場合は50d以上）と表3.1の重ね継手の長さのうちいずれか大きい値とする。
- 隣り合う継手の位置は、表3.2による。ただし、スラブ筋で D16 以下の場合及び壁筋の場合は除く。

表3.2 隣り合う継手の位置

重ね継手の場合	L <sub>1n</sub>	
	フックあり	フックなし
ガス圧接継手・溶接継手	a ≥ 400mm	a ≥ 400mm
機械式継手	a ≥ 400mm, かつ、a ≥ (b+40)mm	a ≥ 400mm, かつ、a ≥ (b+40)mm

(2) 鉄筋の定着

- 鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	直線定着の長さ				フックあり定着の長さ			
		L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>3</sub>		L <sub>1n</sub>	L <sub>2n</sub>	L <sub>3n</sub>	
SD295	18	45d	40d	小梁	35d	30d	小梁	35d	30d
	21	40d	35d	スラブ	30d	25d	スラブ	30d	25d
	24, 27	35d	30d		25d	20d		25d	20d
	30, 33, 36	35d	30d		25d	20d		25d	20d
SD345	18	50d	40d	20d	35d	30d	10d	35d	30d
	21	45d	35d	かつ	30d	25d	かつ	30d	25d
	24, 27	40d	35d	150mm	30d	25d	以上	30d	25d
	30, 33, 36	35d	30d		25d	20d		25d	20d
SD390	21	50d	40d	(25d以上)	35d	30d		35d	30d
	24, 27	45d	40d		35d	30d		35d	30d
	30, 33, 36	40d	35d		30d	25d		30d	25d

- L<sub>1</sub>、L<sub>1n</sub>：2、4から4、4まで以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
- L<sub>2</sub>、L<sub>2n</sub>：割製破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
- L<sub>3</sub>：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐力スラブ及びこれを受ける小梁を除く。なお、( ) は片持ち小梁及び片持ちスラブの場合を示す。
- L<sub>3n</sub>：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
- フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分 Q を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
- 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

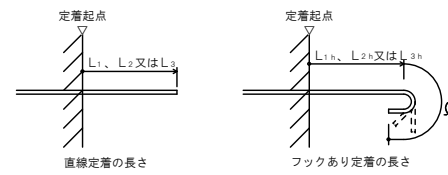


図3.2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

- 梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3による。次の(a)、(b)及び(c)をすべて満足するものとする。
  - 全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上
  - 余長は 8d 以上
  - 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さ L<sub>a</sub>及び L<sub>b</sub>は表3.4に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

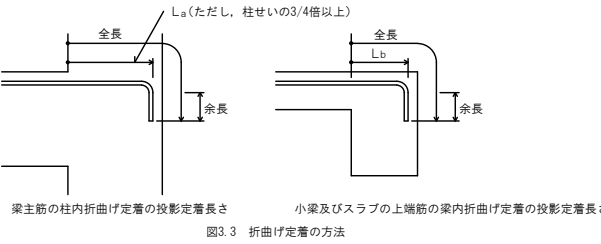


図3.3 折曲げ定着の方法

表3.4 鉄筋の投影定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	L <sub>a</sub>	L <sub>b</sub>
SD295	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

- L<sub>a</sub>：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
- L<sub>b</sub>：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
- 軽量コンクリートの場合は、表の値に 5d を加えたものとする。

- 溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。なお、L<sub>1</sub>は表3.1に、L<sub>2</sub>及びL<sub>3</sub>は表3.3による。

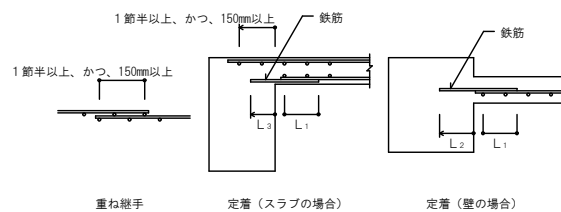


図3.4 溶接金網の継手及び定着

- スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による

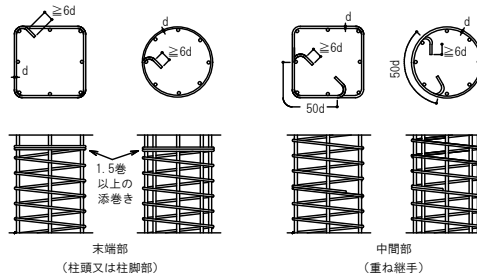


図3.5 スパイラル筋の継手及び定着

#### 4 鉄筋の最小かぶり厚さ及び間隔

- 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。ただし、柱及び梁の主筋に D29 以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ

構造部分の種類		最小かぶり厚さ (mm)	
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり	20
		仕上げなし	30
	柱、梁、耐力壁	屋内 仕上げあり	30
		屋外 仕上げあり	30
擁壁、耐力スラブ		40	
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁	*40	
	基礎、擁壁、耐力スラブ	*60	
煙突等高温を受ける部分		60	

- この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。また、塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
- 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（土塗材、塗装等）のものを除く。
- スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含めない。
- 杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは、杭先端からとする。

- 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
- 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
- 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のものを以上とする。
  - 粗骨材の最大寸法の1.25倍
  - 25mm
  - 隣り合う鉄筋の径（呼び名の数値）の平均の1.5倍

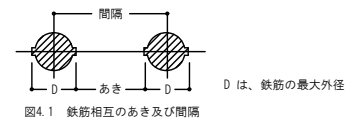


図4.1 鉄筋相互のあき及び間隔

- 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(4)による。
- 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

#### 5.1 基礎梁

(1) 一般事項

- 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。
- 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(2)(イ)による。

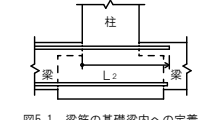
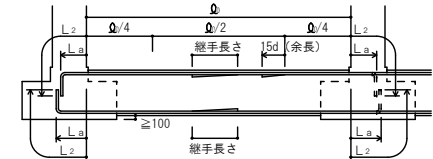


図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

- 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。



- 図示のない事項は、7.1による。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
- 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

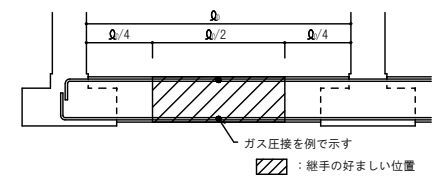
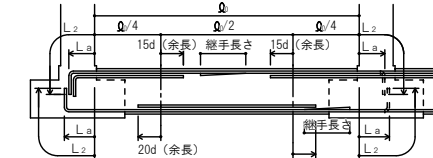


図5.2 主筋の継手、定着及び余長（その1）

- 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。ただし、耐力スラブが付く場合は、(4)による。



- 図示のない事項は、7.1による。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
- 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

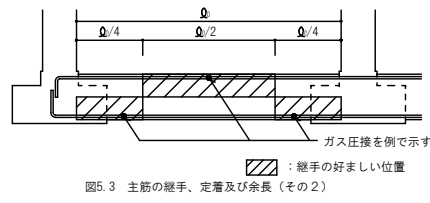
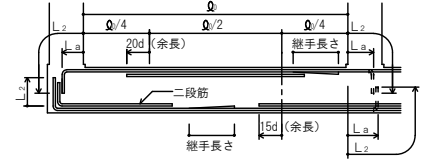


図5.3 主筋の継手、定着及び余長(その2)

(4) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。(耐圧スラブがつく場合を含む)



(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。  
2. 印は、継手及び余長位置を示す。  
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。  
4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)

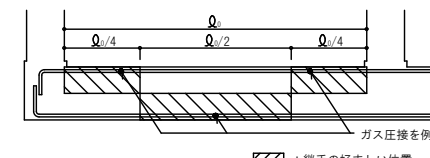


図5.4 主筋の継手、定着及び余長(その3)

## 5.2 基礎梁のあばら筋等

(1) 一般事項  
(ア) あばら筋の径および間隔は、設計図による。  
(イ) あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(2)による。また、副あばら筋組立の形及びフックの位置は7.2(3)による。ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。

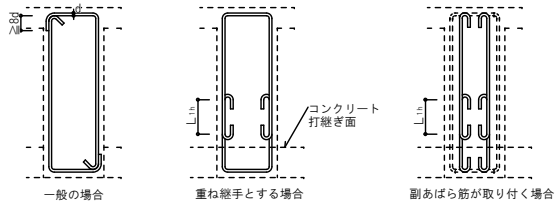
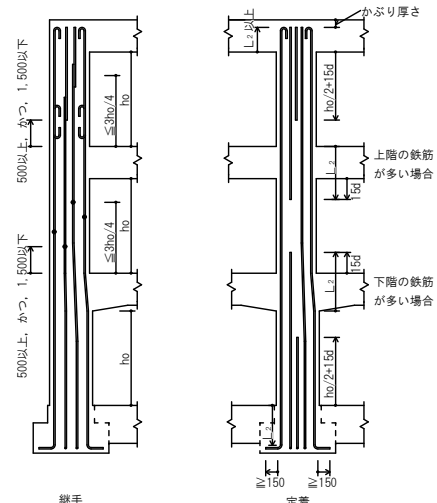


図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置

(2) 腹筋及び幅止め筋は、7.2による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は設計図による。  
(3) あばら筋の割付けは、7.2(4)による。

## 6.1 柱

(1) 一般事項  
(ア) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、 $3h_o/4$  ( $h_o$ は柱の内法高さ)以下とする。  
(イ) 継手、定着及び余長は、図6.1による。ただし、柱頭定着長さ $L_2$ が確保できない場合は、設計図による。



(注) 1. 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上層の柱頭にある場合には、フックを付ける。  
2. 隣り合う継手の位置は、表3.2【隣り合う継手の位置】による。  
3. 継手及び定着は、すべての層に適用できる。

図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長

## (2) 柱打増し部

(ア) 打増し部分に、壁、梁及びスラブ等がつりつく場合は、壁、梁及びスラブ筋等の定着長さには、打増し部分を含めない。  
(イ) 土に接する柱周囲の打増しは図6.2による。

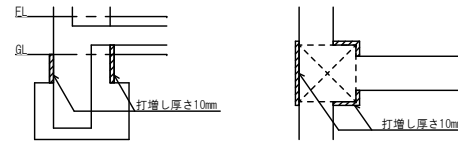


図6.2 柱打増し部

## 6.2 帯筋

(1) 帯筋の種類及び間隔は、設計図による。  
(2) 帯筋組立の形は図6.3により、適用は構造図に記載がなければ次による。  
(ア) 形は、図6.3①とする。  
ただし、H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。  
(イ) 溶接する場合の溶接長さ $L_1$ は、両面重ねアーク溶接の場合は $5d$ 以上、片面重ねアーク溶接の場合は $10d$ 以上とする。  
(ウ) S P形において、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻きを行う。

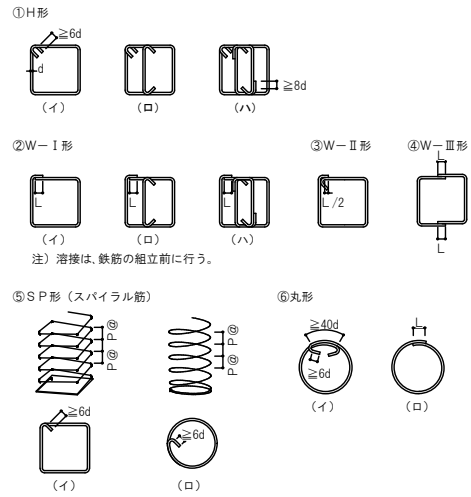


図6.3 帯筋組立の形

(3) フック及び継手の位置は交互とする。  
(4) 帯筋の割付けは図6.4とし、それ以外の場合は設計図による。

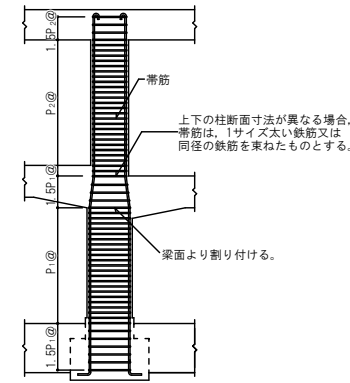


図6.4 帯筋の割付け

## 7.1 大梁

(1) 一般事項  
(ア) 梁の上がり下がりには $L_1$ を基準とした寸法値とする。  
(イ) 地中梁下の砂利地床厚及び捨てコンクリート地床厚は設計図による。  
(ウ) 打増し部分に、スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合は、スラブ、壁、梁筋等の定着長さには、打増し部分を含めない。

(2) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項  
(ア) 継手中心位置は、次による。  
上端筋：中央  $Q/2$ 以内  
下端筋：柱面より梁せい(D)以上とし、 $Q/4$ を加えた範囲以内  
(イ) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は図7.3及び図7.4による。  
(ウ) 梁筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が、同数の時は柱をまわって引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。

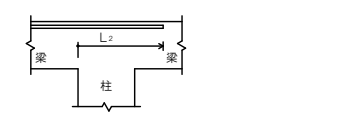


図7.1 大梁主筋の案内定着

(エ) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。  
なお、定着の方法は3(2)(イ)による。  
上端筋：曲げ降ろす  
下端筋(一般)：原則、曲げ上げる。  
下端筋(ハンチ付き)：原則、曲げ上げる。  
(オ) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は設計図による。  
(カ) 段違い梁は、図7.2による。

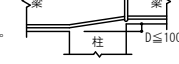
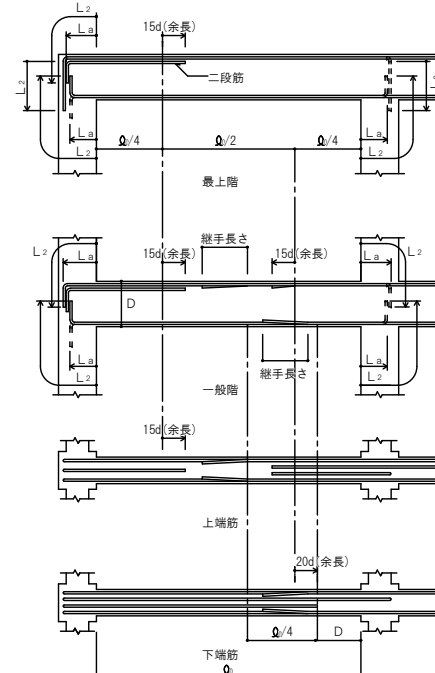


図7.2 段違い梁

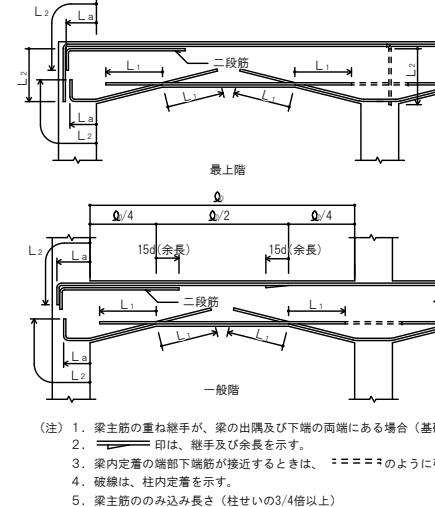
(3) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。



(注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合(基礎梁を除く)には、フックを付ける。  
2. 印は、継手及び余長を示す。  
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。  
4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)

図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

(4) ハンチのある場合の定着及び余長は、図7.4による。



(注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合(基礎梁を除く)には、フックを付ける。  
2. 印は、継手及び余長を示す。  
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、====のように引き通すことができる。  
4. 破線は、柱内定着を示す。  
5. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)

図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

## 7.2 あばら筋等

(1) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項  
(ア) あばら筋の種類、径及び間隔は、設計図による。  
(イ) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7.6による。ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ、定着長さは設計図による。  
(ウ) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。  
(2) あばら筋組立の形及びフックの位置  
(ア) 形は、図7.5.1 ①とする。  
ただし、L形梁の場合は、②または③、T形梁の場合は②~④とすることができる。

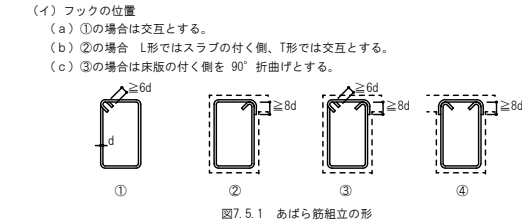


図7.5.1 あばら筋組立の形

(3) 副あばら筋組立の形及びフックの位置  
(ア) 形は、図7.5.2 ⑤または⑥とする。ただし、L形梁またはT形梁の場合は⑦とすることができる。

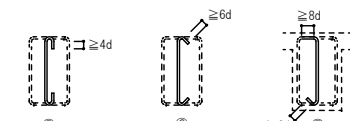


図7.5.2 副あばら筋組立の形

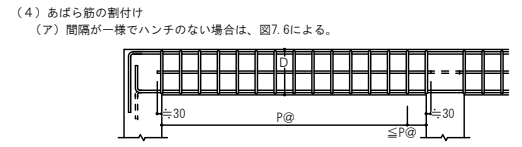


図7.6 あばら筋の割付け(その1)

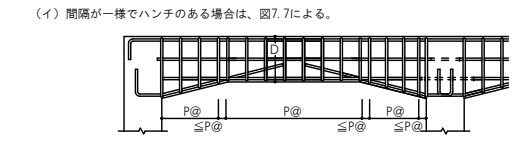


図7.7 あばら筋の割付け(その2)

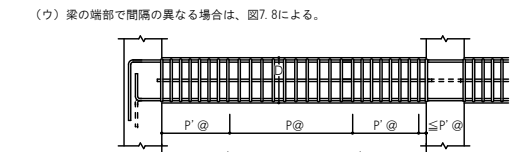


図7.8 あばら筋の割付け(その3)

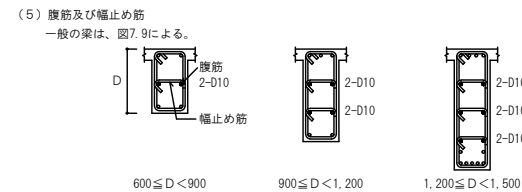


図7.9 腹筋および幅止め筋

## 7.3 小梁

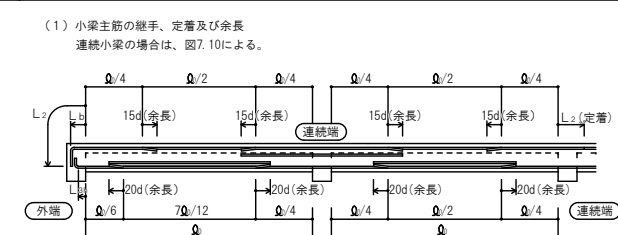
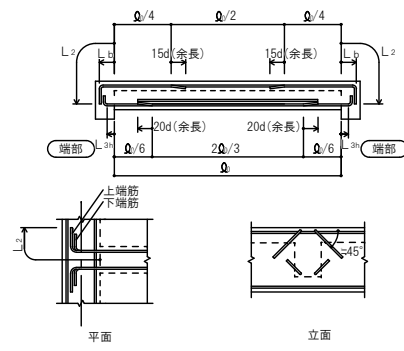


図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)



図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)

(2) 単独小梁の場合は、図7.11による。



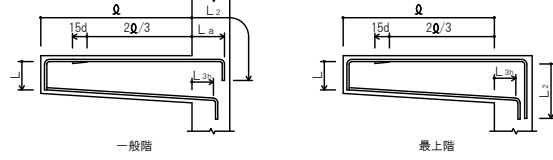
直交する梁へ斜めに定着する場合  
(注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.11に準ずる。  
2. 印は、余長位置を示す。  
図7.11 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)

(3) あばら筋は、7.2による。

#### 7.4 片持梁

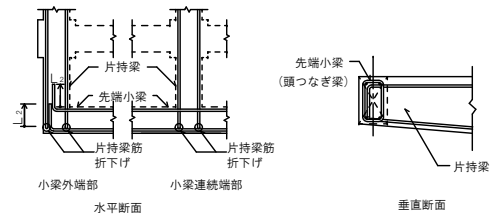
(1) 片持梁主筋の定着及び余長

(ア) 先端に小梁のない場合は、図7.12による。



(注) 1. 図示のない事項は、7.11による。  
2. 印は、余長位置を示す。  
3. 先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。  
図7.12 片持梁主筋の定着及び余長

(イ) 先端に小梁がある場合は、図7.13による。



(注) 1. 図示のない場合は、(ア)による。  
2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。  
3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。  
図7.13 片持梁主筋の定着

(2) あばら筋は、7.2による。

#### 8.1 壁

(1) 一般事項

(ア) 一般壁筋の重ね継手の長さはL<sub>1</sub>とし、耐力壁筋の重ね継手長さは特記による。また定着の長さはL<sub>2</sub>とし、鉄筋の根手位置は、柱・梁部以外とする。

(イ) 幅止め筋は、縦横ともD10-1,000程度とする。

(ウ) 打増し部分に、壁及びスラブ等が取り付く場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さは打増し部分には含まない。

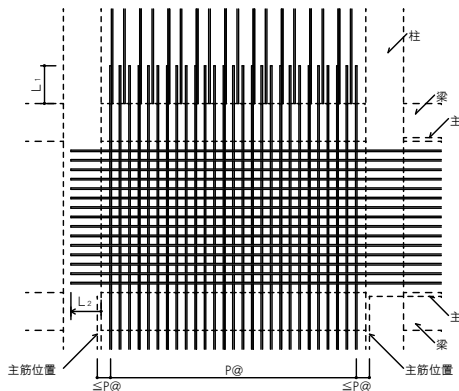


図8.1 壁の配筋 (注) 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。

(2) 壁の配筋は表8.1により、種別は設計図による。

表8.1 壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W12	D10-200#シングル	120
W15A	D10-150#シングル	150
W15B	D10-100#シングル	150
W18A	D10-200#ダブル	180
W18B	D10-150#ダブル	180
W20A	D10-200#ダブル	200
W20B	D10-150#ダブル	200

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

(3) 片持スラブ階段を受ける壁の配筋は表8.2により、種別は設計図による。

表8.2 片持スラブ階段を受ける壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種別(表10.1)
KW1	縦筋	D13-200#ダブル	KA1
	横筋	D10-200#ダブル	
KW2	縦筋	D13-150#ダブル	KA2
	横筋	D10-200#ダブル	

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

(4) 土圧を受ける壁の配筋は、設計図による。

(5) 壁の交差部及び端部の配筋は、図8.2による。

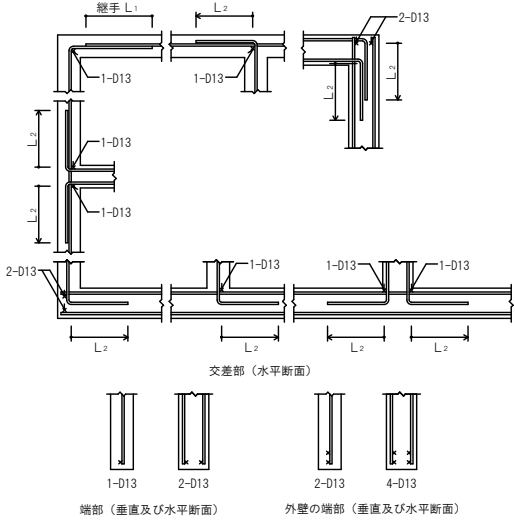


図8.2 壁の交差部及び端部の配筋

#### 8.2 一般壁の補強

(1) 壁開口部の補強

(ア) 耐力壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は構造図による。なお、耐力壁の補強筋は、構造図による。

表8.3 壁開口部補強筋(A形)

壁の種別	補強筋	
	縦横	斜め
W12, W15	1-D13	1-D13
W18, W20	2-D13	2-D13

表8.4 壁開口部補強筋(B形)

壁の種別	補強筋	
	縦横	斜め
W12, W15	2-D13	1-D13
W18, W20	4-D13	2-D13

(イ) 壁開口部補強の定着長さは、図8.3による。

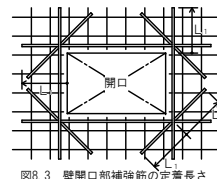


図8.3 壁開口部補強筋の定着長さ

(2) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、設計図による。

#### 9.1 スラブ

- スラブ及び土間コンクリートの上り下りは、FLを基準とした寸法値とする。
- 土間スラブ下の砂利地床厚及び捨てコンクリート厚は設計図による。
- 土間コンクリート補強筋(D0)の配筋及びコンクリート厚さは設計図による。
- スラブの配筋(S形配筋)は表9.1及び図9.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、設計図による。

表9.1 S形配筋

配筋種別	短辺方向(主筋) 全域		長辺方向(配力筋) 全域	
	短辺方向(主筋) 全域	長辺方向(配力筋) 全域	短辺方向(主筋) 全域	長辺方向(配力筋) 全域
S 1	D13-100#	D13-100#	S 8	D10, D13-150#
S 2	同上	D13-150#	S 9	同上
S 3	同上	D10, D13-150#	S10	D10, D13-200#
S 4	D13-150#	D13-150#	S11	同上
S 5	同上	D10, D13-150#	S12	同上
S 6	同上	D10-150#	S13	D10-200#
S 7	D10, D13-150#	D10, D13-150#	S14	同上

(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

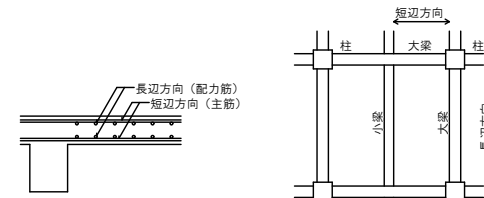


図9.1 スラブの配筋

- 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
- 原則として引き渡し、鉄筋の重ね継手長さはL<sub>1</sub>とする。
- 定着長さ及び受け筋は、図9.2による。ただし、引き通すことができない場合は、図9.3により案内に定着する。

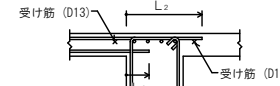


図9.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1)

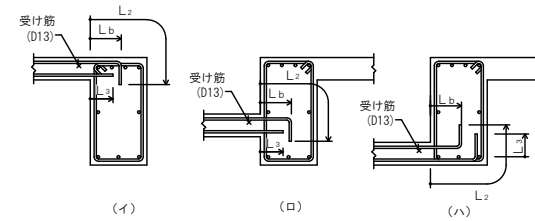


図9.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その2)

#### 9.2 片持スラブ

片持スラブは、プレキャストコンクリート部材又は現場打ちコンクリート部材とする。プレキャストコンクリート部材とする場合は躯体への接続方法は、設計図による。

片持スラブの配筋は、次による。

(1) 片持スラブの配筋(CS形配筋)は、表9.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、設計図による。

表9.2 CS形配筋

配筋種別	主筋		配筋種別	主筋	
	上	下		上	下
CS1	D13-100#	D13-200#	CS5	D10-200#	D10-400#
	D13-150#	D13-300#		CS6	D10, D13-200#
CS2	D10, D13-150#	D10, D13-300#	CS7		D10-200#
	D10, D13-200#	D10-200#			

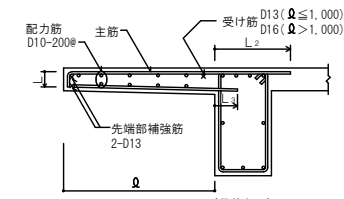


図9.4 片持スラブの配筋 (CS11からCS15)

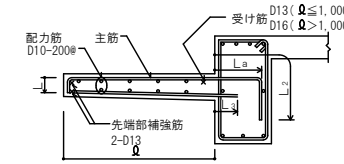


図9.5 片持スラブの配筋 (CS16及びCS17)

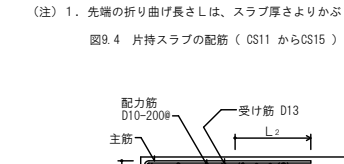


図9.6 先端に壁が付く場合の配筋

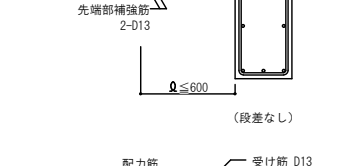


図9.7 片持ちスラブ出隅部の補強配筋

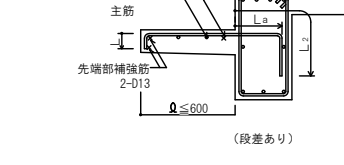


図9.8 出隅部の補強配筋

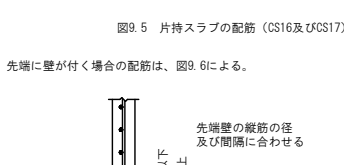


図9.9 出隅部分の補強配筋

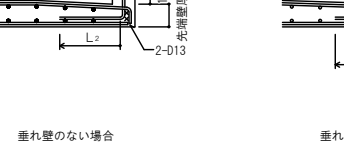


図9.10 出隅部分の補強配筋

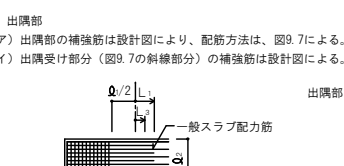


図9.11 出隅部分の補強配筋

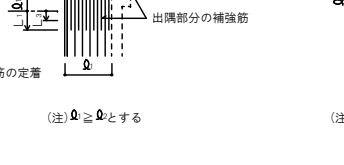


図9.12 出隅部分の補強配筋

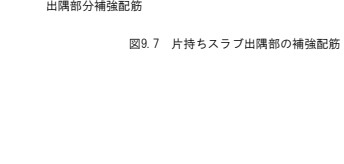


図9.13 出隅部分の補強配筋

9.3 スラブ等の補強

- (1) スラブ開口部の補強  
スラブ開口部の補強方法は、設計図による。設計図になければ、(ア)イによる。  
(ア) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、図9.8により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 (  $\Omega = 2L_1$  ) シングルを上下筋の内側に配筋する。

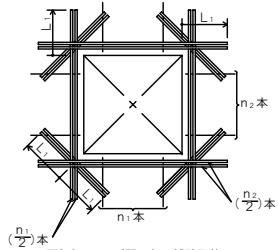
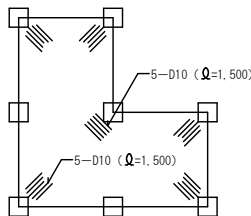


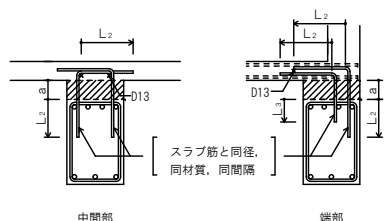
図9.8 スラブ開口部の補強配筋

- (イ) スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることで、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

- (2) 屋根スラブの補強  
屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図9.9により、補強筋を上端筋の下側に配置する。



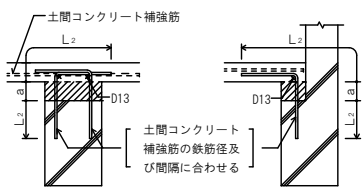
- (3) 土間スラブの打継ぎ補強  
基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は図9.10による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。



(注) a ≤ 300の場合

図9.10 打継ぎ補強配筋

- (4) 土間コンクリートの補強  
土間コンクリートの補強筋は、設計図による。なお、基礎梁との接合部は、図9.11による。



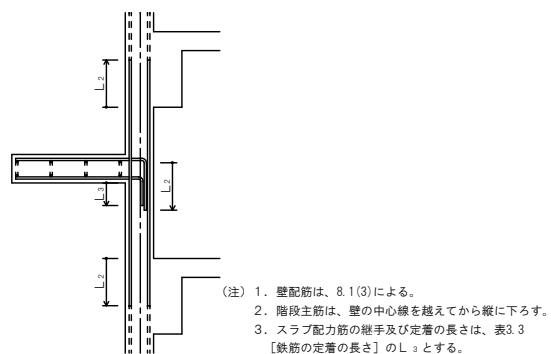
(注) a ≤ 300の場合

図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

10.1 片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の配筋は、表10.1及び図10.11により、寸法及び配筋種別は、設計図による。

配筋種別	KA1	KA2	KA3	KA4
配筋図				
配筋種別				
配筋図				



- (注) 1. 壁配筋は、8.1(3)による。  
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから壁に下ろす。  
3. スラブ配筋の継手及び定着の長さは、表3.3「鉄筋の定着の長さ」のL<sub>2</sub>とする。

図10.1 片持スラブ形階段配筋の定着

10.2 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段は、プレキャストコンクリート部材又は現場打ちコンクリート部材とする。プレキャストコンクリート部材とする場合の躯体への接続方法は設計図による。

二辺固定スラブ形階段の配筋は表10.2並びに図10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は、設計図による。

表10.2 二辺固定スラブ形階段

配筋種別	上端筋、下端筋とも(全域)
KB1	D13-200#
KB2	D13-150#
KB3	D13-100#
KB4	D13, D16-150#
KB5	D16-150#
KB6	D16-125#
KB7	D16-100#

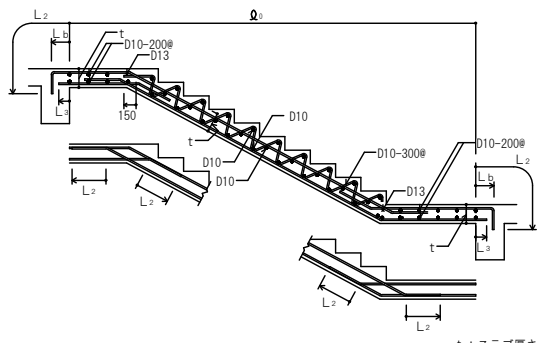
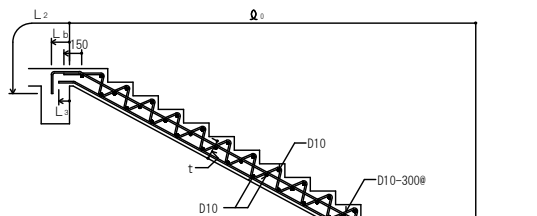


図10.2 二辺固定スラブ形階段配筋(その1)



- (注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

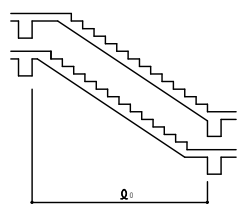


図10.3 二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

11.1 梁貫通孔

- (1) 梁貫通孔は、次による。  
(ア) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図11.1による。  
(イ) 孔の径は、梁せいの1/3以下とする。  
(ウ) 孔の上下方向の位置は、梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい)の範囲には設けない。  
(エ) 孔は、柱面から原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁を除く。  
(オ) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。  
(カ) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。  
(キ) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。  
(ク) 溶接金網の余長は、1倍子以上とし、突出しは10mm以上とする。  
(ケ) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋 1-13φのリング筋を取り付ける。  
なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。  
(コ) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。  
(サ) 他の開孔を設けない範囲は、図11.3による。

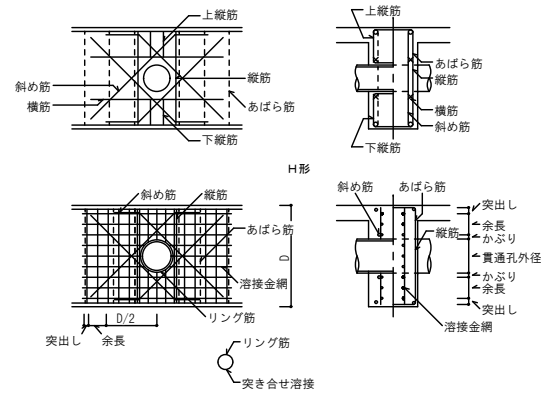


図11.1 梁貫通孔補強筋の名称等

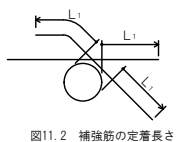


図11.2 補強筋の定着長さ

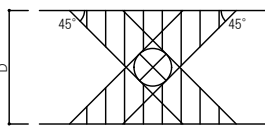


図11.3 他の開孔を設けない範囲

- (2) 梁貫通孔の補強形式は表11.1～表11.2により、配筋種別は設計図による。

表11.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1		なし			
H2	2-2-D13	なし			
H3	4-2-D13	2-2-D13			
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13		
H5	4-2-D16			2-2-D13	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22				

- (注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

13 スリット

柱取合部分スリット	梁取合部分スリット	壁取合部分スリット	取合いに防水層がある場合	スリット部補強筋
<p>一般の場合</p>	<p>一般の場合</p>	<p>一般の場合</p>	<p>取合いに防水層がある場合</p>	<p>スリット部補強筋</p> <p>※1 取合いの形状に関係なくスリット壁部は2-D13で補強する事。 ※1 2-D13, D10@400</p>

- スリット共通事項  
記事(特記無き限り)  
1. 全貫通型スリットは既製品を使用する。  
2. スリット配筋は伏図・軸組図参照のこと。  
3. スリット鉄筋は防錆処理を施す。  
4. スリット部は耐火構造用目地材とする。

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1		なし	なし	
MH2	2-2-D13	なし		
MH3	2-2-D13			
MH4	4-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100#	
MH5	4-2-D16			
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100#	
MH7	4-2-D19			

- (注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

11.2 コンクリートブロック積壁との取合い

- (1) 控壁は、次による。  
(ア) 控壁の配置は、設計図による。  
(イ) 配筋は、図11.4による。

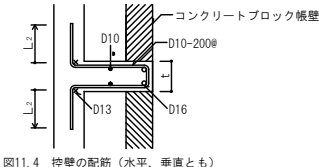


図11.4 控壁の配筋(水平、垂直とも)

- (2) 積壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11.5による。

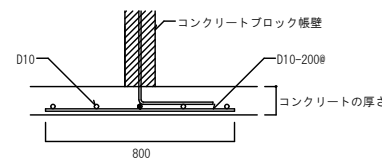


図11.5 壁付き土間コンクリートの補強配筋

11.3 パラペット

パラペットの先端補強筋は図11.6により、コンクリート厚さ及び配筋は構造図による。

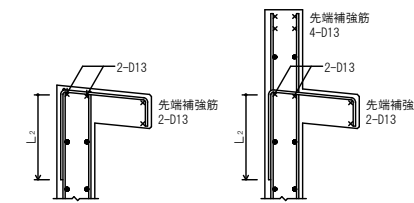


図11.6 パラペットの先端補強筋

12 擁壁

宅地造成等規制区域外での高さ2m以下の擁壁の鉄筋の定着長さは図12により、コンクリートの厚さ及び配筋は構造図による。

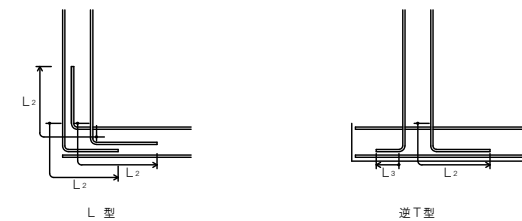
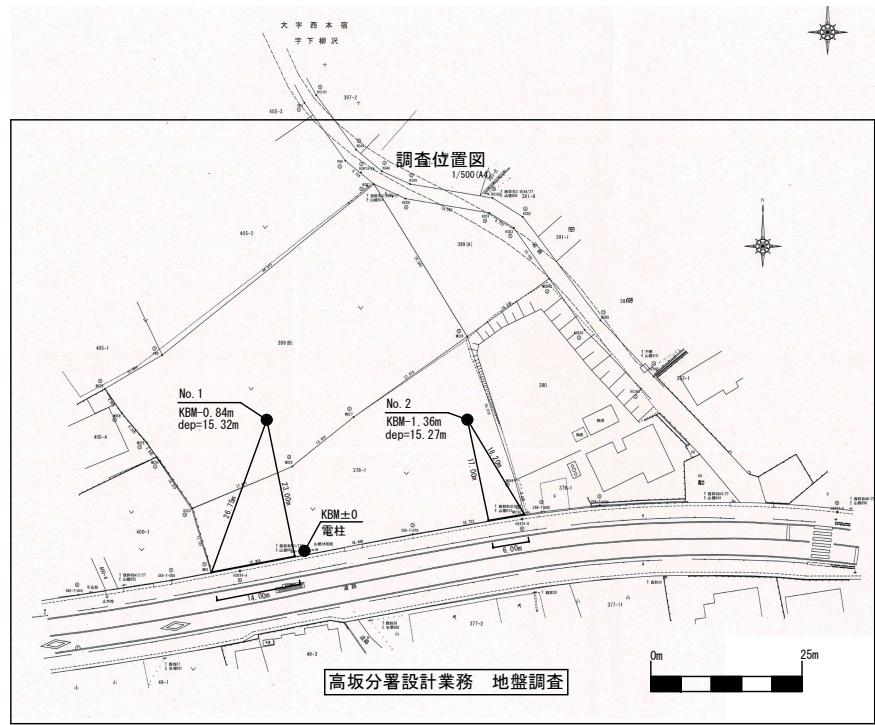
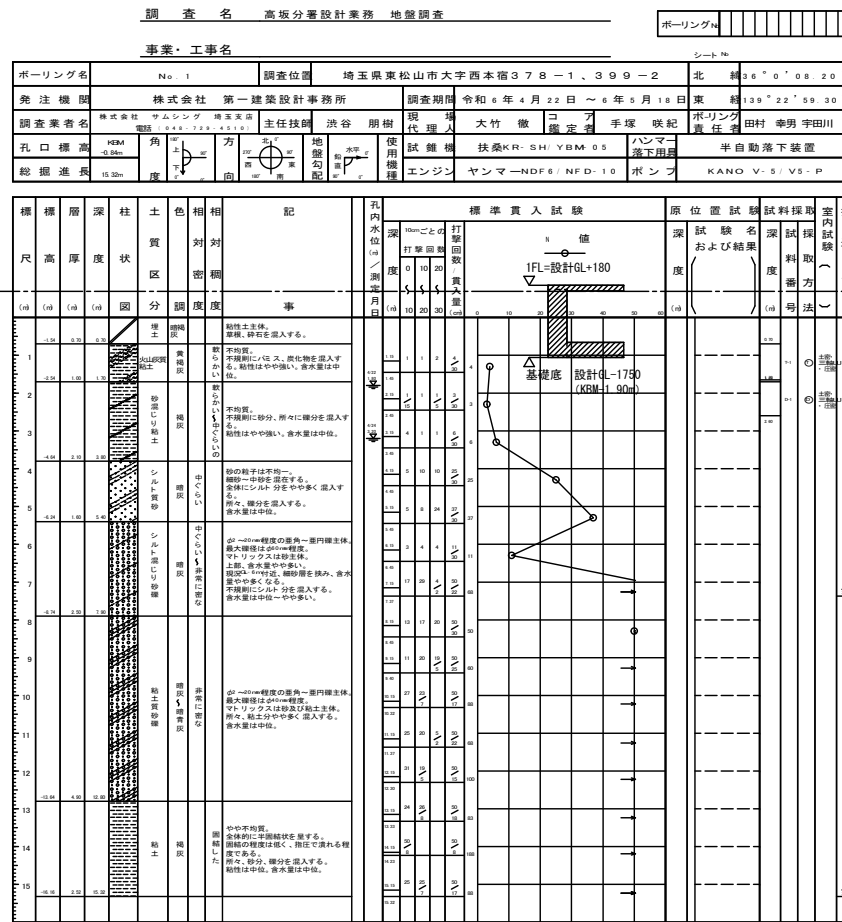


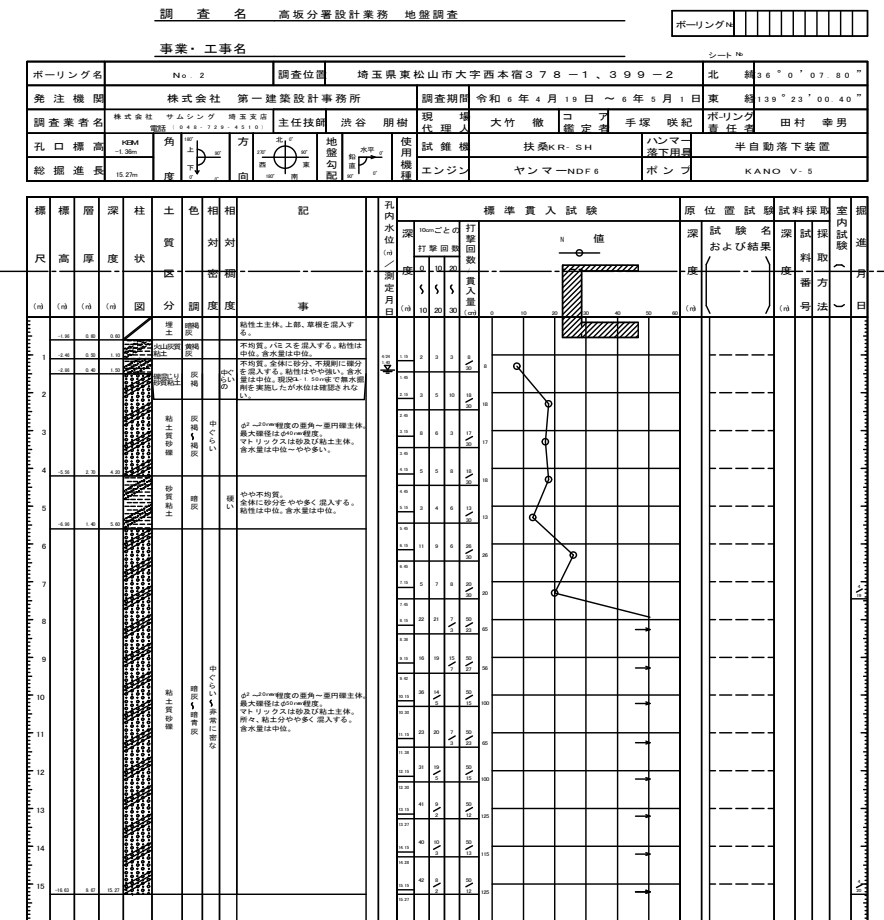
図12 擁壁の鉄筋の定着長さ



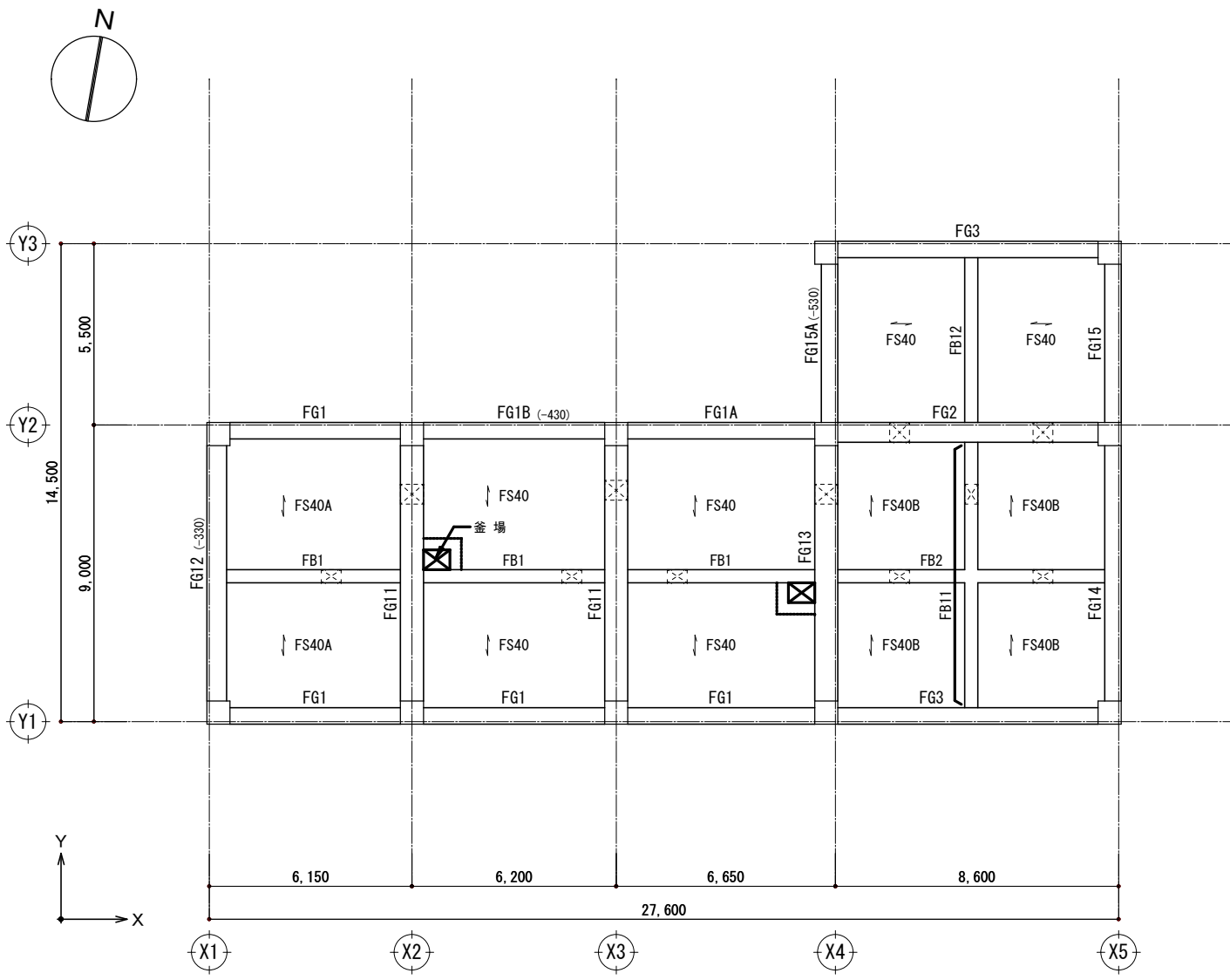
ボーリング柱状図



ボーリング柱状図

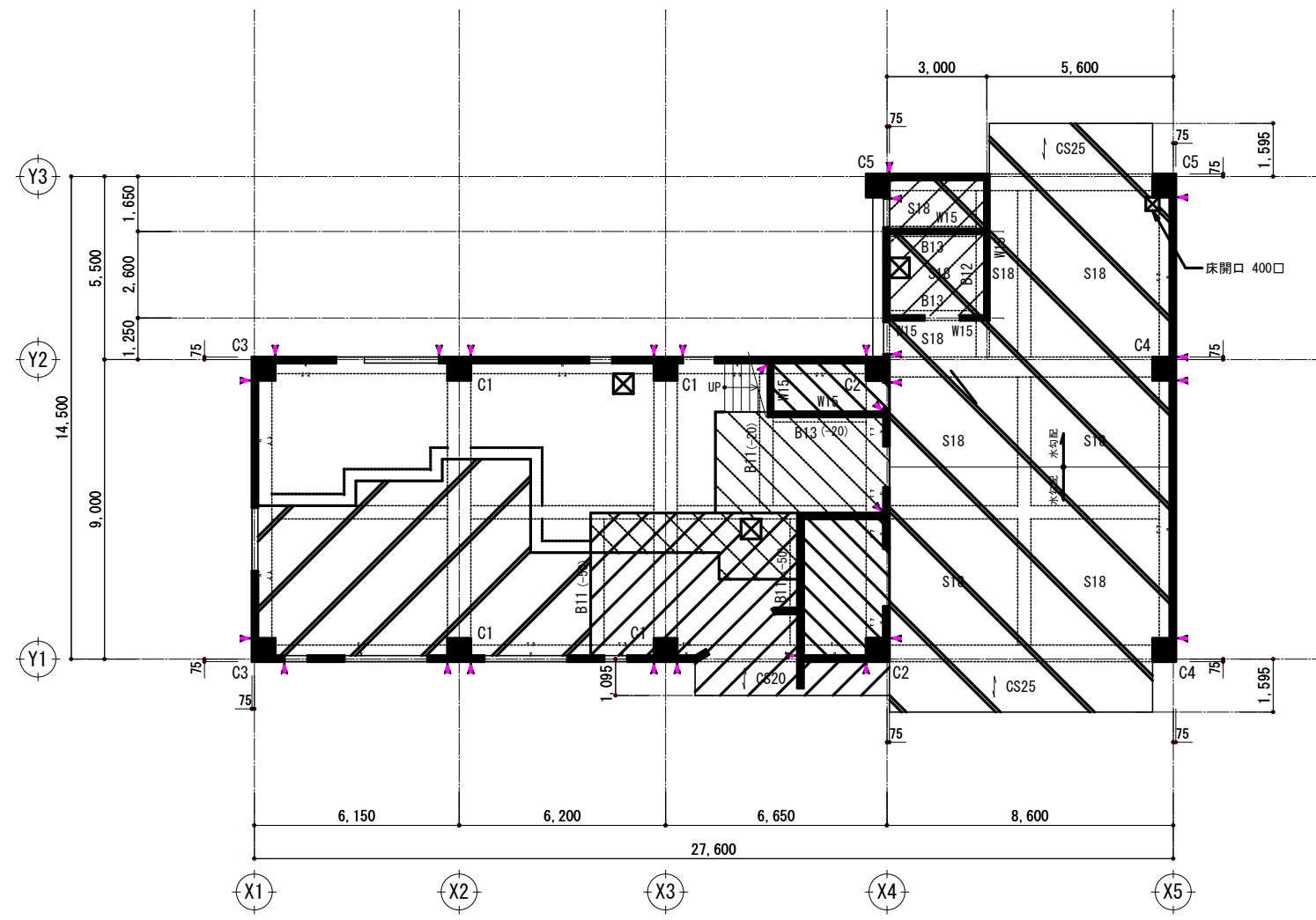


一級建築士 第312200号  
構造設計一級建築士 第7798号 有川 貴志



基礎伏図

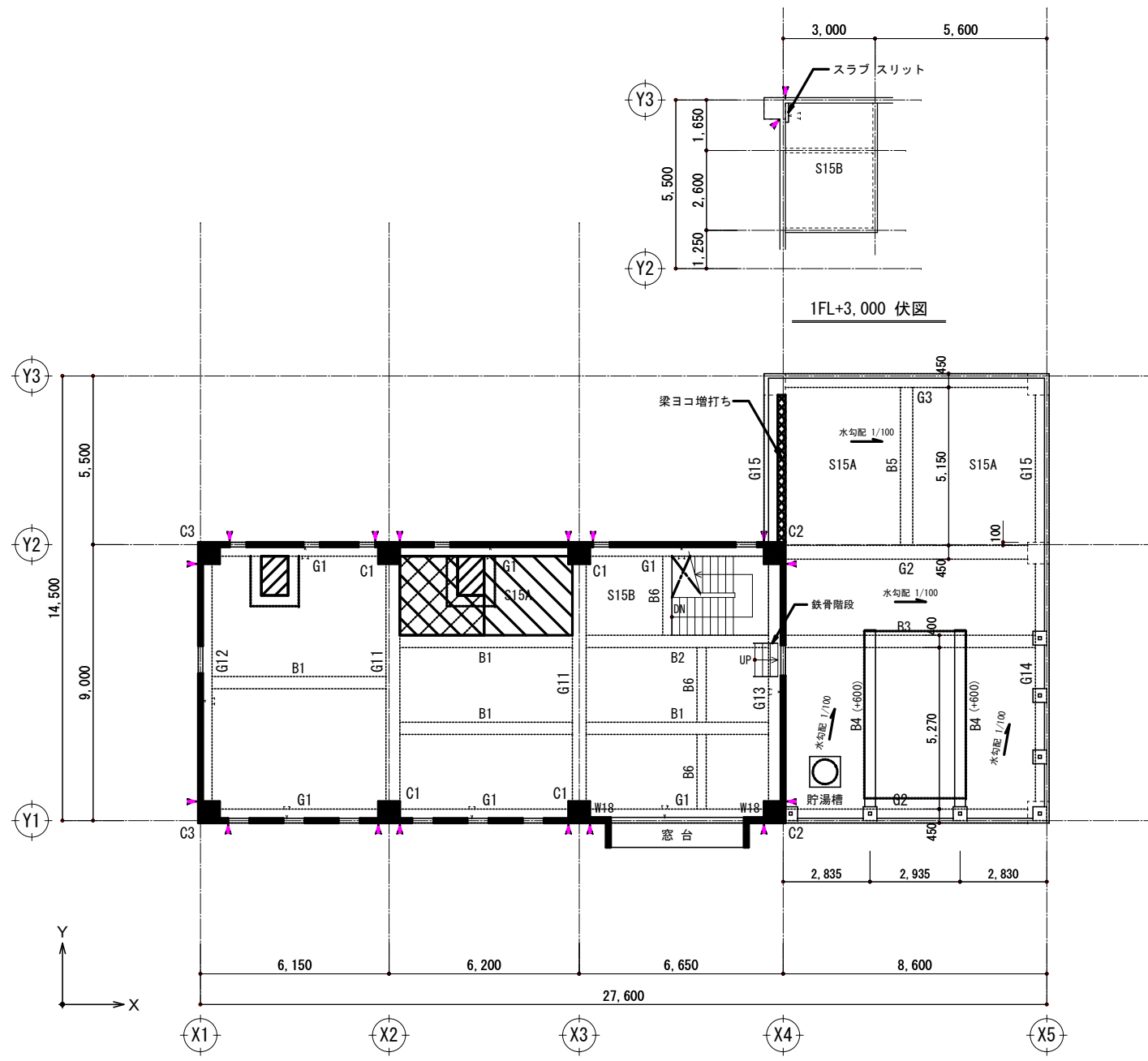
- 共通事項 (特記なき限り下記とする)
1. 本図は、見下げ図とする
  2. 1FL = 設計GL+180
  3. 基礎梁天端レベルは、1FL-130 とする
  4. ( ) 内寸法は、1FL からの基礎梁天端レベルを示す
  5. 梁上端は、各スラブ天端まで 増打ち とする
  6. 基礎下端レベルは、設計GL-1,750 とする
  7. 耐圧盤天端レベルは、下記とする
    - □ □ □ 1FL-1,530
  8. ← 印は、スラブ主筋方向を示し、
  9. ⊗ は、増打ち を示す
  10. ⊠ 印は、人通り 600φ を示す
  11. ⊞ 印は、釜場 を示す (600×800×600)



1階伏図

- 共通事項 (特記なき限り下記とする)
1. 本図は、見下げ図とする
  2. 1FL = 設計GL+180
  3. 壁は、■ W18 を示す
  4. (B)小梁天端レベルは、1FL-130 とする  
( ) 内寸法は、1FL からの梁天端レベルを示す
  5. 梁上端は、スラブ天端まで 増打ち とする
  6. スラブは、S15 とする
  7. ← 印は、CSスラブ主筋方向 を示し、  
特記なきは、短辺方向を主筋方向 とする
  8. ▼ 印は鉛直スリット、∴ 印は水平スリットを示す
  9. スラブ天端レベルは、下記とする
    - □ □ □ 1FL-20
    - ▨ 1FL-20 (上端増打ち 10mm)
    - ▩ 1FL-50
    - ▧ 1FL-50 (上端増打ち 30mm)
    - ▦ 1FL-60
    - ▥ 1FL-100
    - ▤ 1FL-130
    - ▣ 1FL-130 (上端増打ち 70mm)
  10. ⊗ は、増打ち を示す
  11. ⊞ 印は、床点検口 を示す

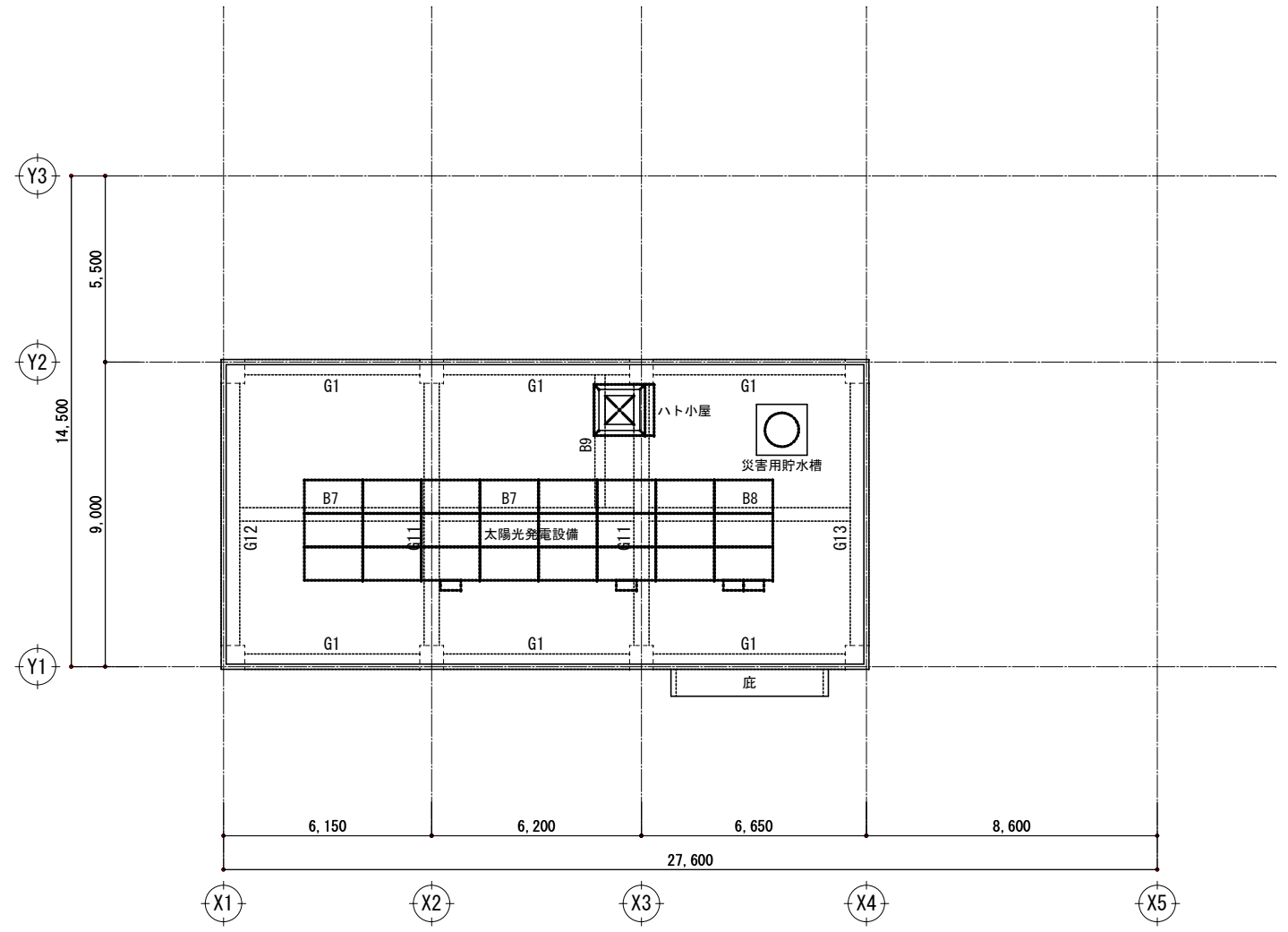
一級建築士 第312200号  
構造設計一級建築士 第 7798号 有川 貴志



2階伏図

共通事項 (特記なき限り下記とする)

1. 本図は、見下げ図とする
2. 壁は、**■** W15 を示す
3. 梁天端レベルは、2FL-20 とする
4. ( ) 内寸法は、2FL からの梁天端レベルを示す
5. スラブは、S15 とする
6. スラブ天端レベルは、下記とする
  - □ □ □ ・・・ 2FL-20
  - ▨ ▨ ▨ ▨ ・・・ 2FL-35
  - ▩ ▩ ▩ ▩ ・・・ 1FL-35 (上端増打ち 15mm)
  - ▧ ▧ ▧ ▧ ・・・ 2FL-140
7. 屋根勾配は、増打ち とする
8. ♡ 印は鉛直スリット、∩ 印は水平スリットを示す
9. ▩ ▩ は、増打ち を示す

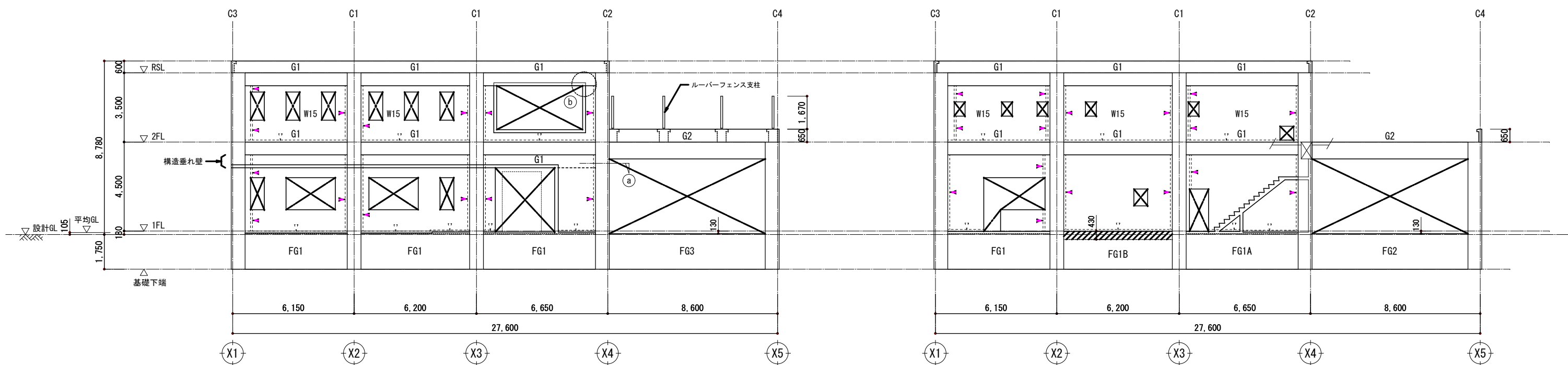


R階伏図

共通事項 (特記なき限り下記とする)

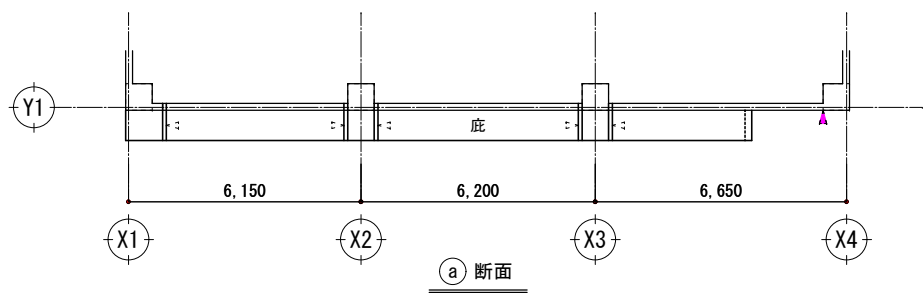
1. 本図は、見下げ図 とする
2. 梁天端レベルは、RSL±0 とする
3. スラブは、S15 とする
4. スラブ天端レベルは、RSL±0 とし 勾配は増打ち とする
5. ▩ ▩ は、増打ち を示す
6. ← 印は、CSスラブ主筋方向 を示し、  
特記なきは、短辺方向を主筋方向 とする





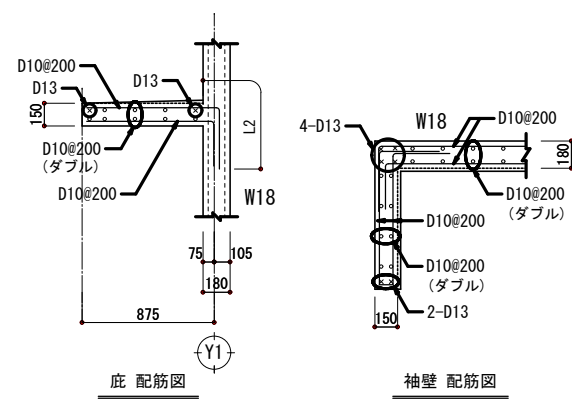
Y1通り 軸組図

Y2通り 軸組図



a 断面

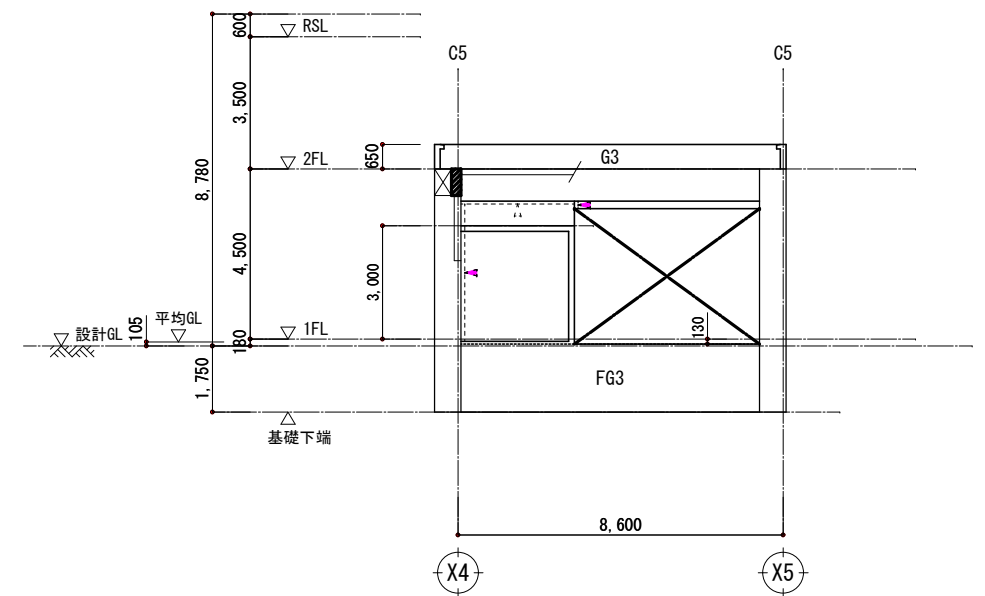
b部 配筋詳細図 S=1/50



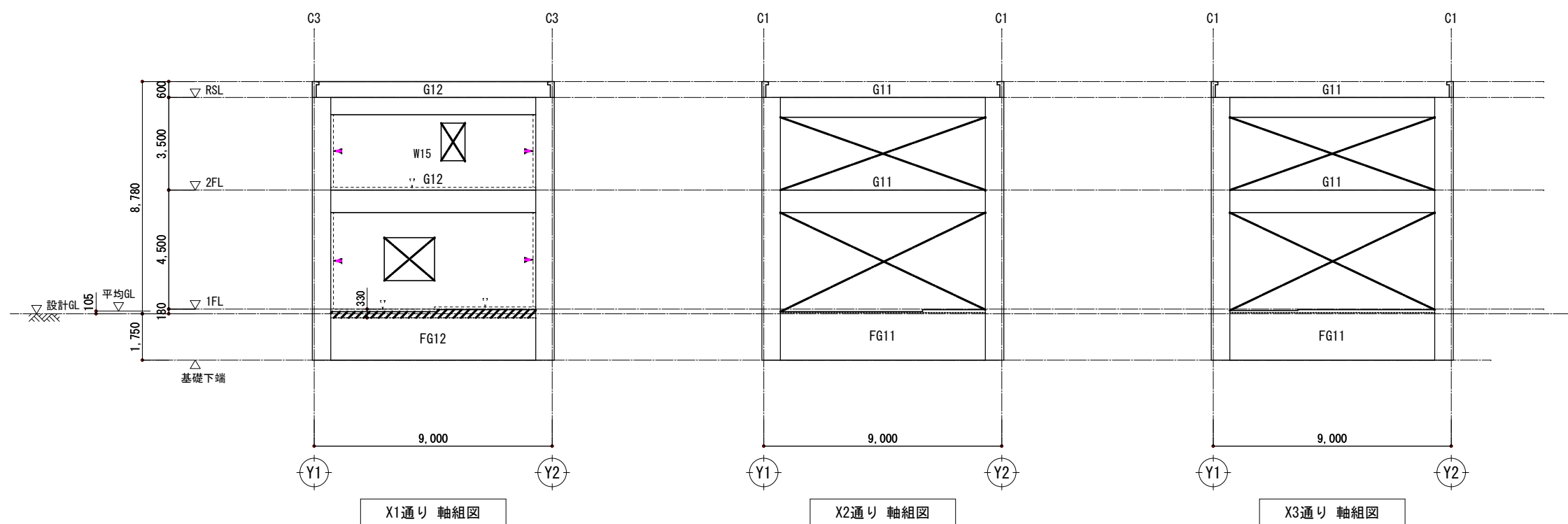
底配筋図

袖壁配筋図

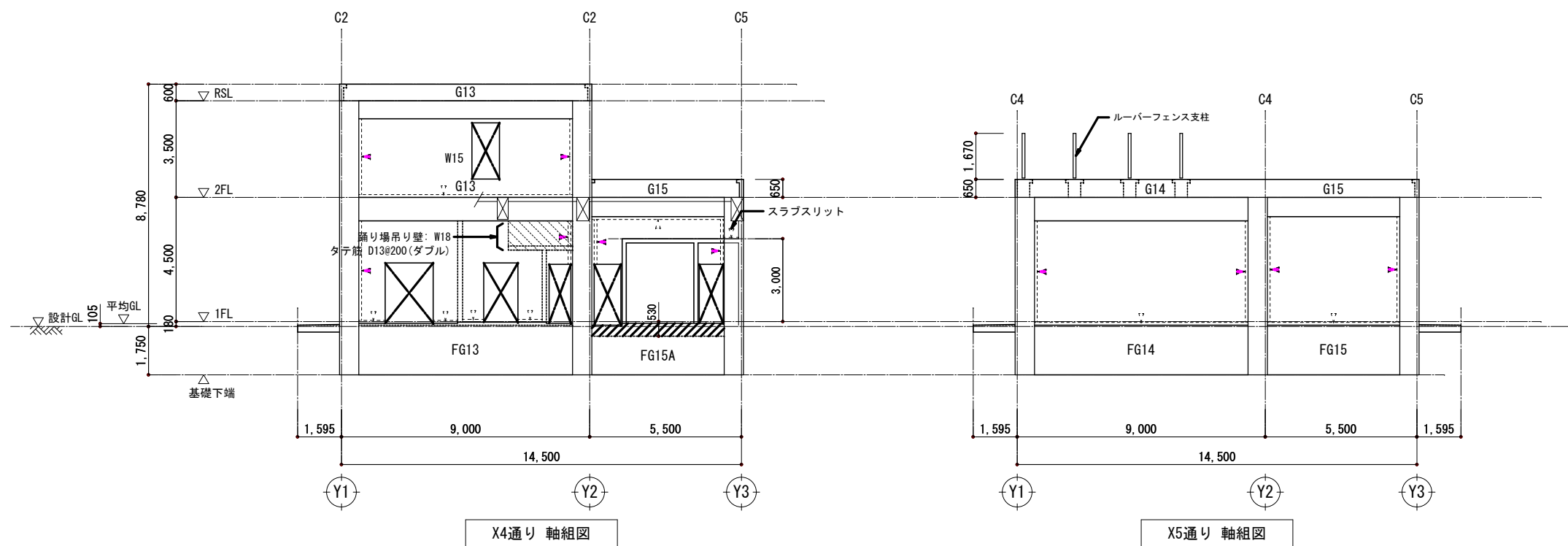
- 共通事項 (特記なき限り下記とする)
1. 壁は、W18 とする
  2. R階梁天端レベルは、RSL±0 とする
  3. 2階梁天端レベルは、2FL-20 とする
  4. 基礎梁天端レベルは、1FL-130 とする
  5. ♡印は鉛直スリット、∩印は水平スリットを示す
  6. 斜線は、増打ちを示す



Y3通り 軸組図



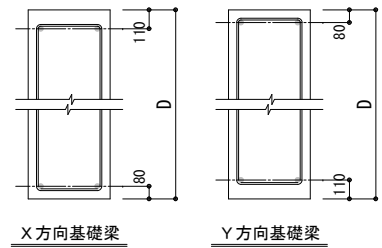
- 共通事項 (特記なき限り下記とする)
1. 壁は、W18 とする
  2. R階梁天端レベルは、RSL±0 とする
  3. 2階梁天端レベルは、2FL-20 とする
  4. 基礎梁天端レベルは、1FL-130 とする
  5. ▼ 印は鉛直スリット、∴ 印は水平スリットを示す
  6. 斜線は、増打ちを示す



一級建築士 第312200号  
 構造設計一級建築士 第 7798号 有川 貴志

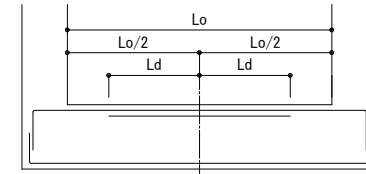
基礎梁リスト		共通事項 特記なき限り下記とする。									
S=1/80		1) 使用材料 鉄筋 ---D10~D16:SD295					2) 腹筋 2x4-D13 とする。				
		D19~D25:SD345					3) 巾止メ筋 D10@1,000 以内とする。				
符号	FG1	FG1A			FG1B	FG2			FG3		
位置	全断面	X3 端	中央	X4 端	全断面	X4 端	中央	X5 端	全断面		
断面											
Fc24											
上端筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	7-D25	10-D25	7-D25	5-D25		
下端筋	5-D25	5-D25	5-D25	7-D25	5-D25	8-D25	5-D25	5-D25	5-D25		
スターラップ	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200			2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200			2 □ -D13 @ 200		
腹筋		2x3-D13									
符号	FG11		FG12		FG13		FG14	FG15	FG15A		
位置	端部	中央	端部	中央	端部	中央	全断面	全断面	Y2 端	中央, Y3 端	
断面											
Fc24											
上端筋	8-D25	12-D25	5-D25	8-D25	8-D25	12-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	
下端筋	6-D25	6-D25	5-D25	5-D25	6-D25	6-D25	5-D25	5-D25	6-D25	5-D25	
スターラップ	2 □ -D13 @ 150		2 □ -D13 @ 200		2 □ -D13 @ 150		2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200		
腹筋			2x3-D13						2x3-D13		
符号	FB1			FB2			FB11		FB12		
位置	X1 端	中央	X2, X3, X4 端	X4 端	中央	X5 端	端部	中央	全断面		
断面											
Fc24											
上端筋	4-D25	6-D25	4-D25	4-D25	6-D25	4-D25	4-D25	6-D25	4-D25		
下端筋	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25		
スターラップ	2 □ -D13 @ 200			2 □ -D13 @ 200			2 □ -D13 @ 200		2 □ -D13 @ 200		
腹筋											

基礎梁主筋標準位置



X方向とY方向で梁せいが異なる場合、または梁天端レベルが異なる場合は、直交する梁主筋と干渉しない位置に主筋を配置する。

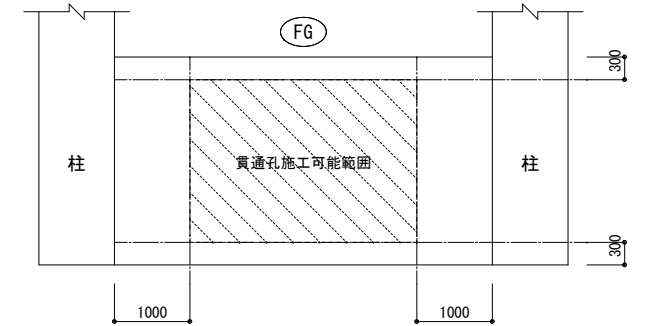
カットオフ長さ (中央上端筋)



FG2 : Ld=3,050  
FG11, FG12, FG13 : Ld=3,450

基礎梁貫通孔施工可能範囲図

※通気管(100φ)は補強不要とする。  
スターラップは、貫通孔からのかぶり厚を確保し配筋する。  
スターラップの割付け方法を監理者に確認すること。

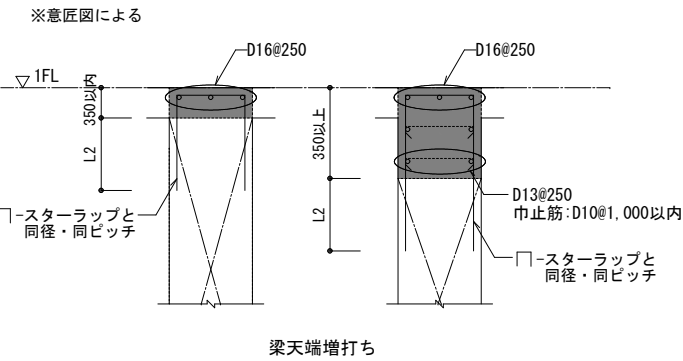


(FB) の場合は、上下、端部共に端から300mmの範囲は、原則梁貫通は不可能とする。

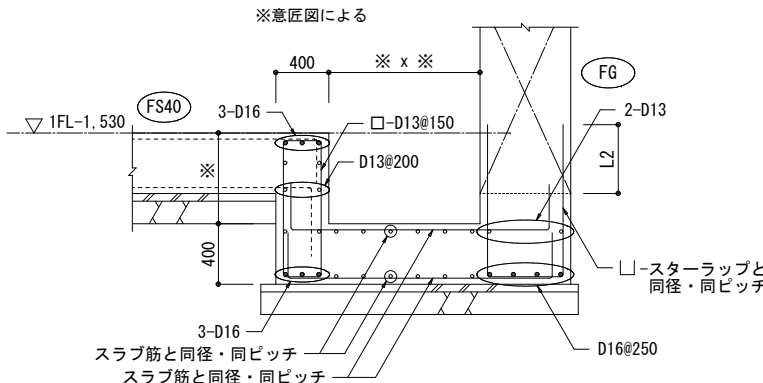
人通孔補強リスト

符号	スターラップ (A)	スターラップ (B)	水平補強筋 (上下共)	斜め補強筋 (1箇所あたり)
FG2	2-D13@200	2-D13@200	2-D19	2-D16
FG11	2-D13@150	2-D13@150	2-D19	2-D16
FG13	2-D13@150	2-D13@150	2-D19	2-D16
FB1	2-D13@200	2-D13@200	2-D19	2-D16
FB2	2-D13@200	2-D13@200	2-D19	2-D16
FB11	2-D13@200	2-D13@200	2-D19	2-D16

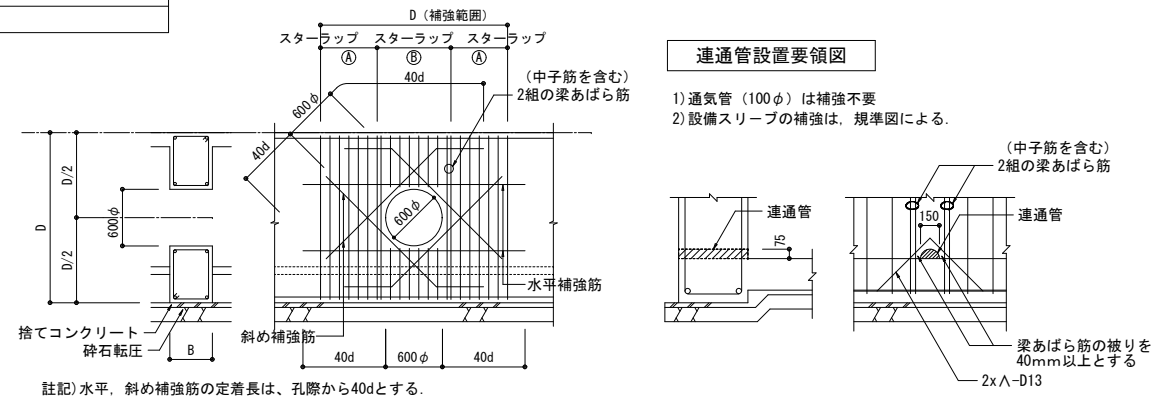
増打ち配筋要領図



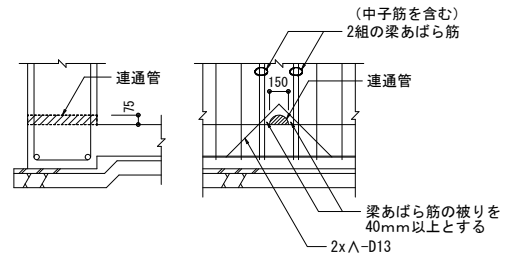
釜場配筋要領図



連通管設置要領図



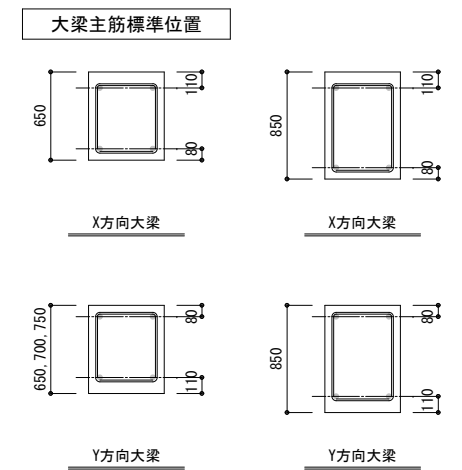
1) 通気管(100φ)は補強不要  
2) 設備スリーブの補強は、規準図による。



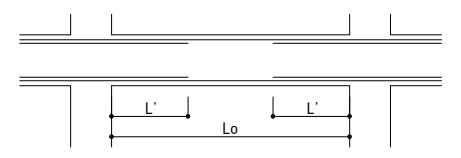
(中子筋を含む) 2組の梁あばら筋  
梁あばら筋の被りを40mm以上とする  
2x4-D13

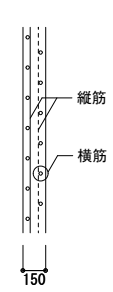
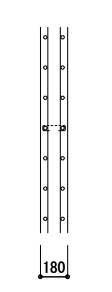
柱 リスト S=1/80		特記なき限り下記とする。				
		1) 使用材料 鉄筋 --- D10~D16:SD295 D19~D25:SD345		2) フープは、溶接閉鎖型 とする。 3) 柱梁仕口内フープは、□-D13ダブル@100 とする。		
符号	C1	C2	C3	C4	C5	
2階				/		
主筋	16-D25	16-D25	16-D25			
フープ	2 □ -D13 @ 100	2 □ -D13 @ 100	2 □ -D13 @ 100			
1階						
主筋	16-D25	16-D25	16-D25	20-D25	12-D25	
フープ	2 □ -D13 @ 100	2 □ -D13 @ 100	2 □ -D13 @ 100	2 □ -D13 @ 100	2 □ -D13 @ 100	

大梁リスト S=1/80		特記なき限り下記とする。											
		1) 使用材料 鉄筋 --- D10~D16:SD295 D19~D25:SD345					2) 巾止め筋は、D10@1,000以内とする。						
符号	G1		G2			G3		G14			G15		
位置	端部	中央	X4端	中央	X5端	端部	中央	Y1端	中央	Y2端	Y2端	中央	Y3端
▽RSL			/					/					
R階													
主筋	4-D25	4-D25	6-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25	5-D25	6-D25	4-D25	4-D25
フープ	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200
▽2FL-20			/					/					
2階													
主筋	5-D25	4-D25	6-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	7-D25	5-D25	8-D25	6-D25	4-D25	4-D25
フープ	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	3 □ -D13 @ 150	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200	2 □ -D13 @ 200



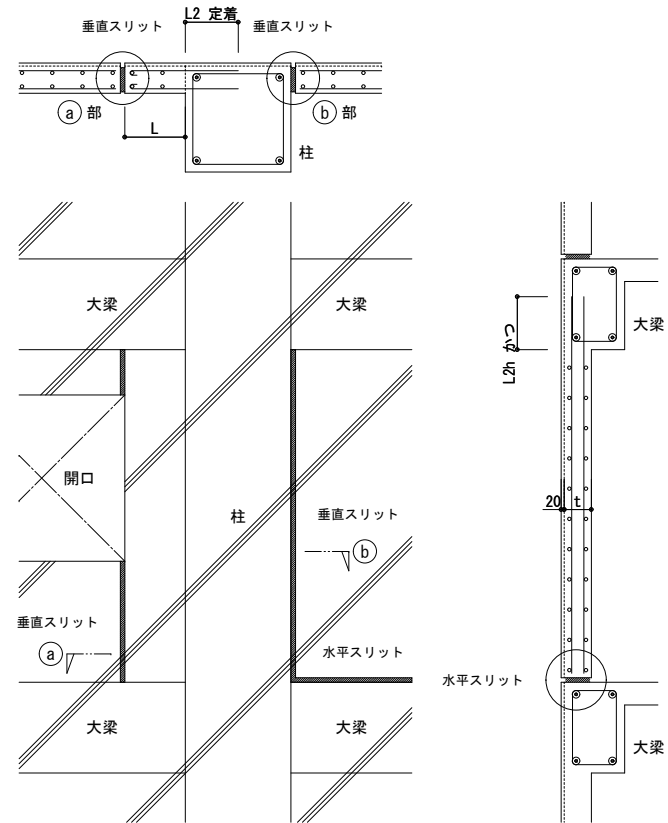
主筋の梁内定着 大梁主筋の梁内での定着長 (L') は、下式による。  
 $L' \geq \text{Max}(L_d, L_o/4+15d)$   
 $L'$  が  $L_o/2$  以上となる場合は、通し配筋とする。  
 一方の端部が中央と同配筋となる場合は、  
 $L'$  を  $3 \times L_o/4+15d$  とする。



壁リスト	S=1/50	共通事項 特記なき限り下記とする。	
		1) 使用材料 鉄筋 ---D10~D16:SD295 , D19~D25:SD345 2) 巾止メ筋 D10@1,000 以内とする。	
符号	W15	W18	
断面			
壁筋	縦筋 D10@200(チドリダブル) 横筋 D10@200(チドリダブル)	D10@200(ダブル) D10@200(ダブル)	
開口補強筋	縦筋 2-D13 横筋 2-D13	2-D13 2-D13	
	斜め筋 1-D13	1-D13	
備考			

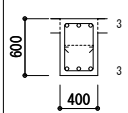
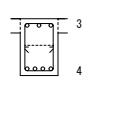
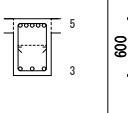
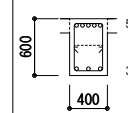
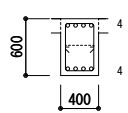
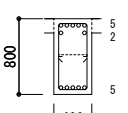
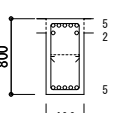
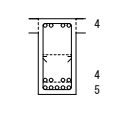
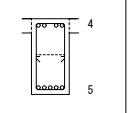
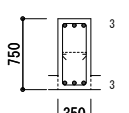
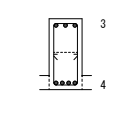
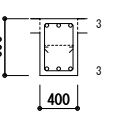
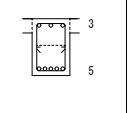
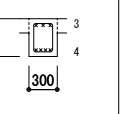
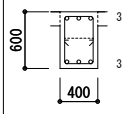
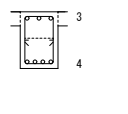
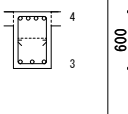
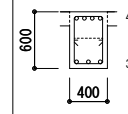
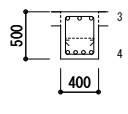
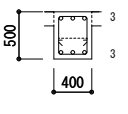
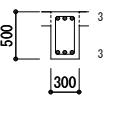
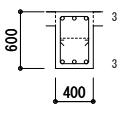
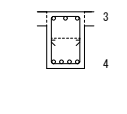
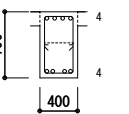
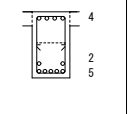
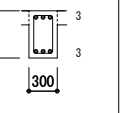
構造スリット詳細図

特記外 構造スリットの詳細な位置は仕上タイルや石が構造スリットを跨がないように仕上材割付図に基づき決定すること。



要求性能		
層間変位追従性能	層間変形角	1/200で損傷なし(シールを除く) 1/100で補修により初期性能回復
耐火性能	耐火時間	1時間以上
水密性能	漏水限界圧力差	980Pa 以上かつ、 水漏れしないこと。
遮音性能	音響透過損失	30db

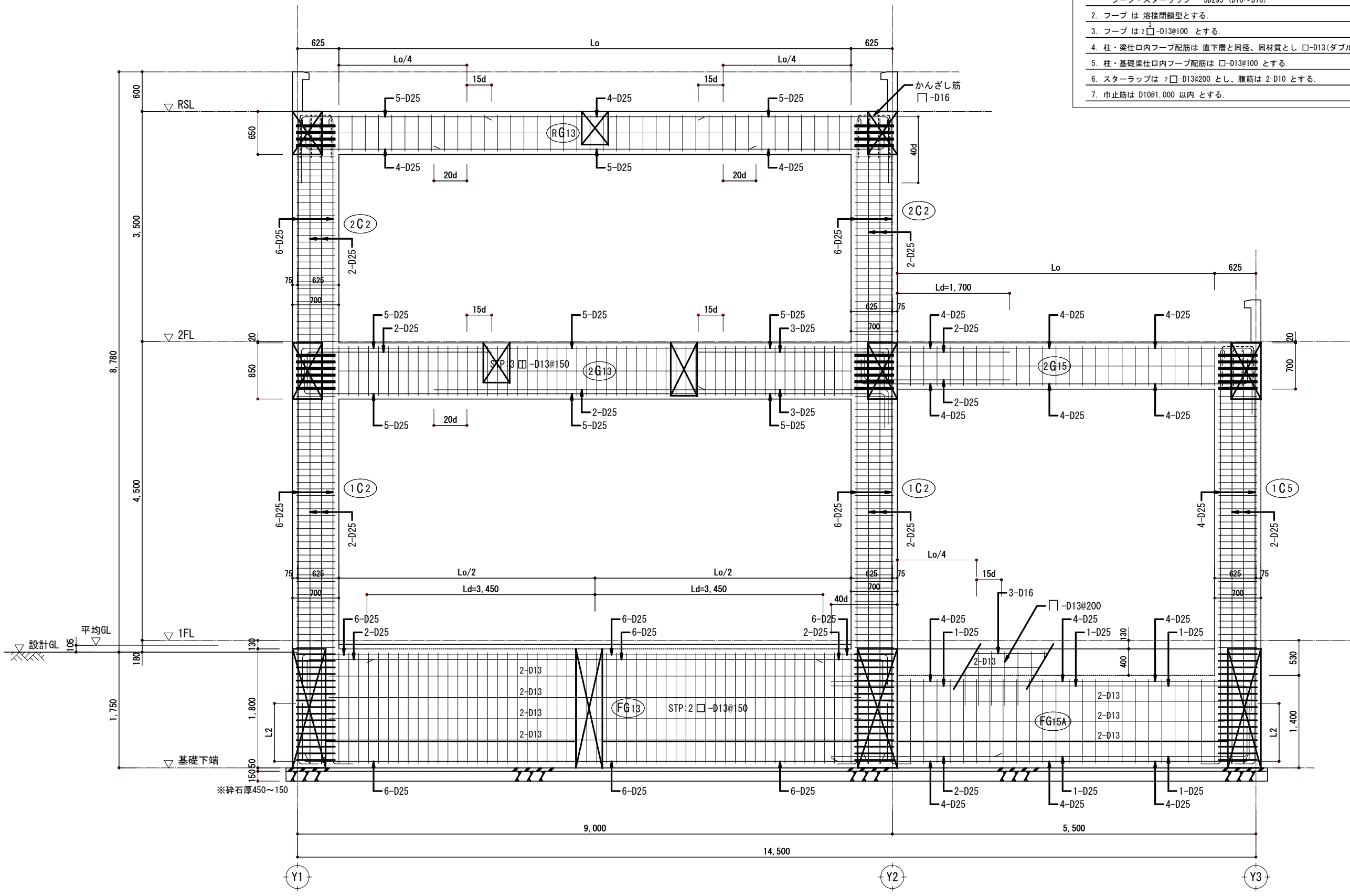
- 注)
- 構造スリットは、既製品を使用する。
  - 構造スリットは、上記の要求性能を満足させるため第三者機関の性能試験に合格したものを使用する。
  - 垂直スリットは、上図 L寸法 が300を超える場合は a部 に設け、300以下の場合は、b部 に設ける。

小梁リスト	S=1/80	共通事項 特記なき限り下記とする。													
		1) 使用材料 鉄筋 ---D10~D16:SD295 , D19~D25:SD345 2) 巾止メ筋 D10@1,000 以内とする。													
符号	B1			B2			B3			B4		B5		B6	
位置	端部	中央	連続端	X3 端	中央	X4 端	X4 端	中央	X5 端	端部	中央	端部	中央	全断面	
断面															
上端筋	3-D22	3-D22	5-D22	5-D22	4-D22	7-D22	7-D22	4-D22	4-D22	3-D19	3-D19	3-D22	3-D22	3-D16	
下端筋	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	4-D22	5-D22	5-D22	9-D22	5-D22	3-D19	4-D19	3-D22	5-D22	4-D16	
スターラップ	2 □-D13 @ 200			2 □-D13 @ 200			2 □-D13 @ 200			2 □-D10 @ 200		2 □-D13 @ 200		2 □-D10 @ 200	
腹筋	2-D10			2-D10			2-D10			2-D10		2-D10		—	
符号	B7			B8			B9	B11		B12		B13			
位置	端部	中央	連続端	X3 端	中央	X4 端	全断面	端部	中央	端部	中央	全断面			
断面															
上端筋	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D19	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22	3-D19			
下端筋	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22	3-D19	3-D22	4-D22	4-D22	7-D22	3-D19			
スターラップ	2 □-D13 @ 200			2 □-D13 @ 200			2 □-D10 @ 200	2 □-D13 @ 200		2 □-D13 @ 200		2 □-D10 @ 200			
腹筋	2-D10			2-D10			—	2-D10		2-D10		—			

一級建築士 第312200号  
構造設計一級建築士 第 7798号 有川 貴志

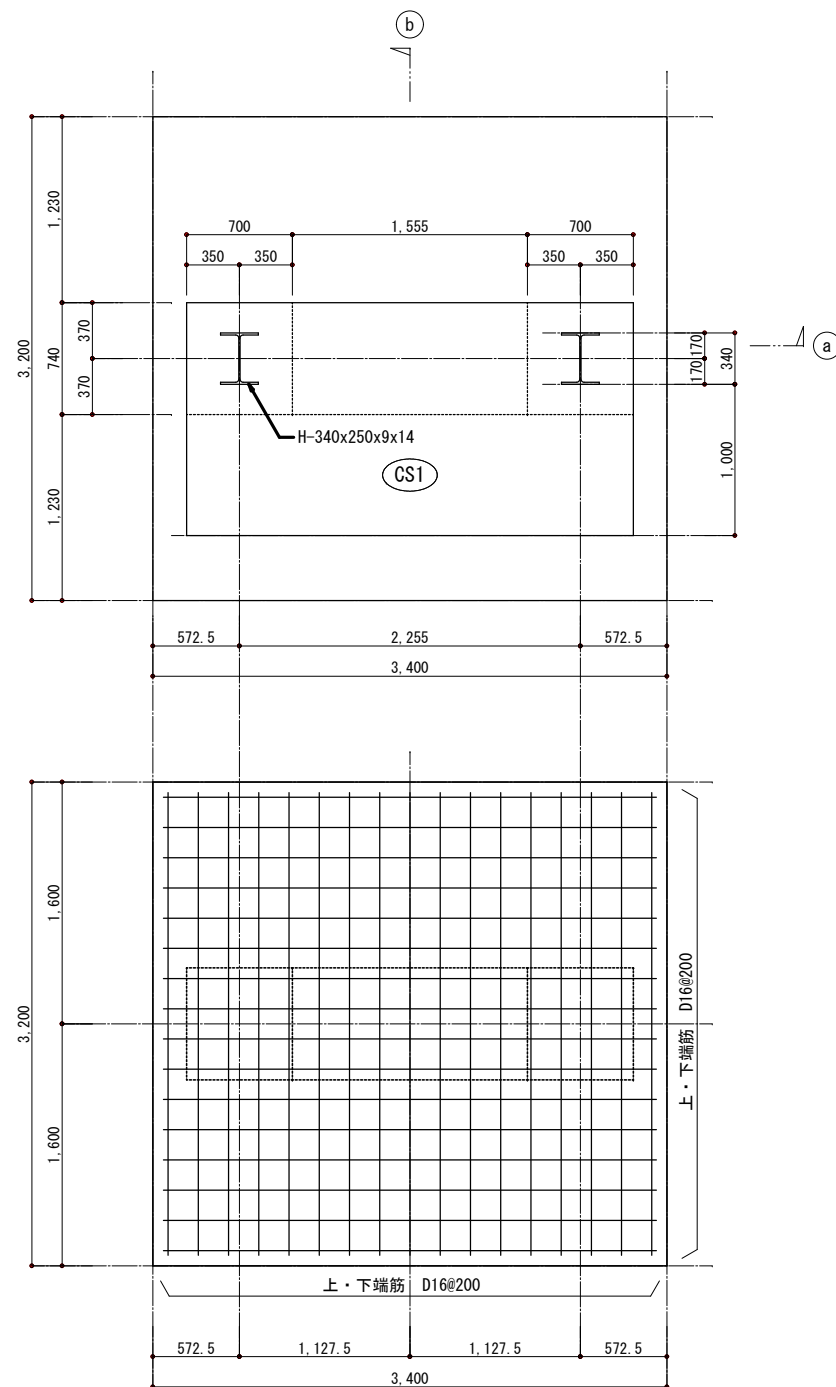


- 特記なき限り下記とする。
1. 使用材料 主筋 SD345 (D19~D25)  
フープ・スターラップ SD295 (D10~D16)
  2. フープは溶接閉鎖型とする。
  3. フープは $2\text{ } \square\text{-D13@100}$ とする。
  4. 柱・梁仕口内フープ配筋は直下層と同径、同材質とし $\square\text{-D13(ダブル)@100}$ とする。
  5. 柱・基礎梁仕口内フープ配筋は $\square\text{-D13@100}$ とする。
  6. スターラップは $2\text{ } \square\text{-D13@200}$ とし、腹筋は2-D10とする。
  7. 巾止筋はD10@1,000以内とする。

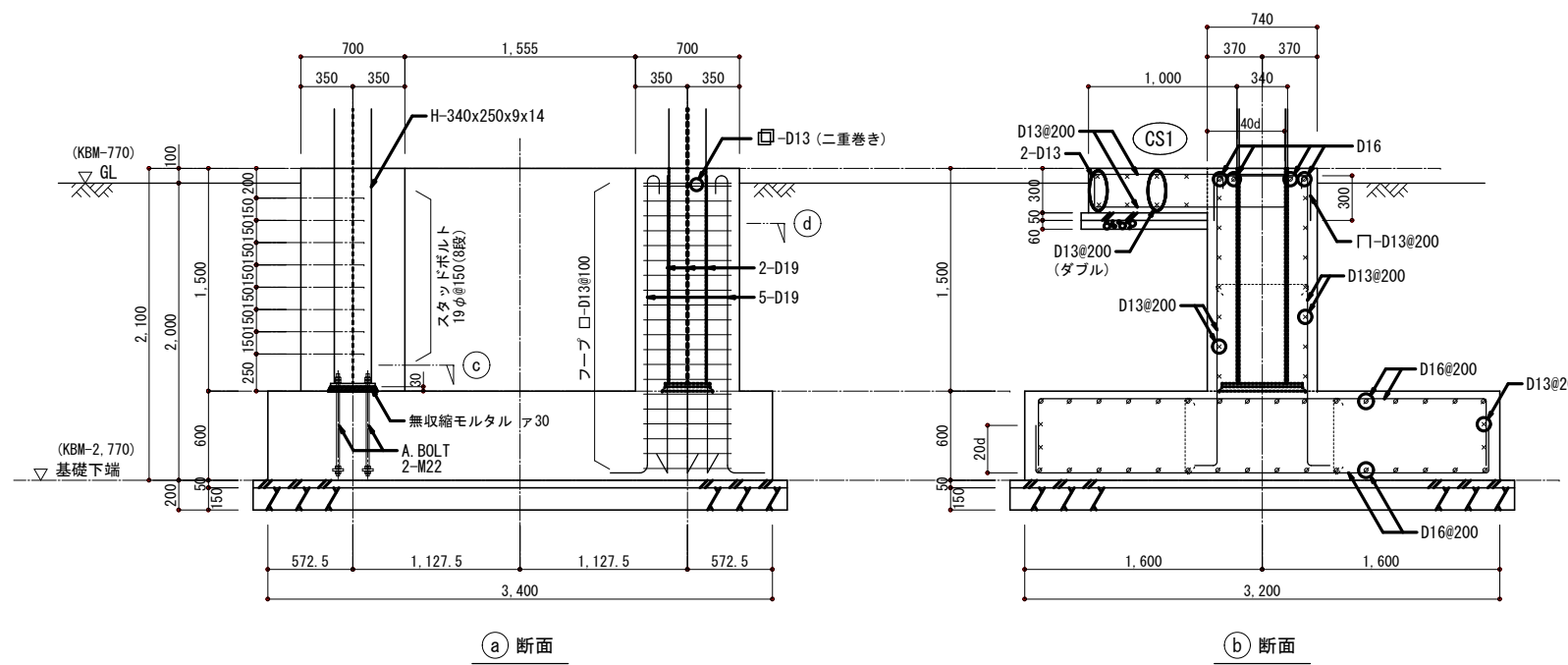


X4通り 架構配筋詳細図 S=1/60

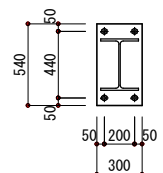
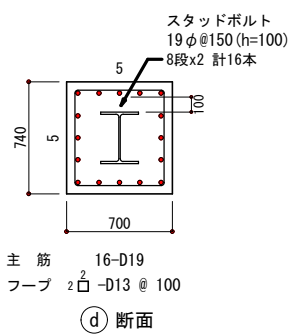
一級建築士 第312200号  
構造設計一級建築士 第 7798号 有川 貴志



- 特記なき限り
1. コンクリート設計強度  $F_c=24N/mm^2$
  2. 使用材料 鉄筋 : D10~D16:SD295  
D19以上 :SD345
  3. 巾止筋 D10@1,000以内とする。
  4. 地耐力 :  $100kN/m^2$  とする。



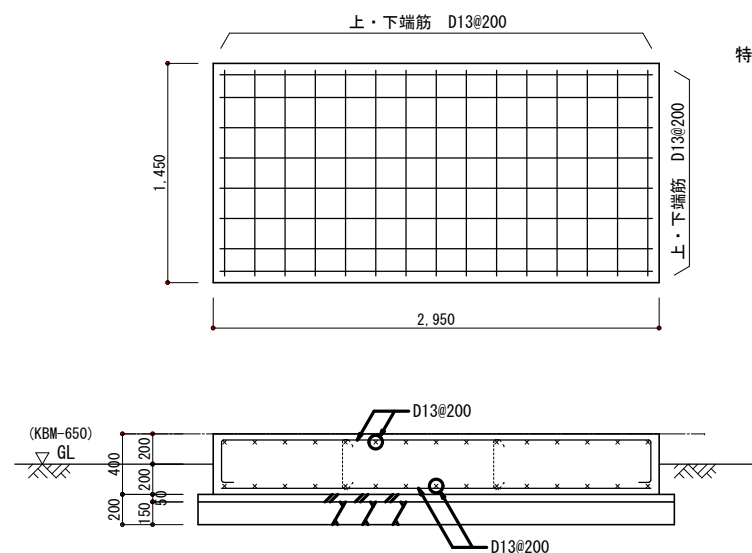
ホースリフター 柱型・柱脚



B. PL-22x300x540  
A. BOLT 4-M22 (SS400)  
L=600 (ダブルナット締め)

発電機基礎 配筋図

S=1/50



- 特記なき限り
1. コンクリート設計強度  $F_c=24N/mm^2$
  2. 使用材料 鉄筋 : D10~D16:SD295
  3. 巾止筋 D10@1,000以内とする。
  4. 地盤の長期許容応力度は、 $qa=30kN/m^2$  とする。